

4 地域資源の全リスト

～地区からの情報発信～

(2) 地域資源一覧

1 城東地区

●アンビック株式会社 (旧日本フェルト)

大正6年に「帽体会社」として創立され、後に日本毛織の北隣に移転し、フェルト工場としては東洋一の規模を誇った。姫路における重要産業の一つであった。

●アンビックの桜

アンビックの工場内は、花壇や温室を造り、公園のように美しく、春には桜見が楽しめる。

●内京口門

内京口門は、京都に向かって開かれていることから名付けられた。山陽道が東に向かって延び、その先に外京口門がある。

●エドウィン・ペーカーの碑

1853年マサチューセッツ州の農家に生まれ、キリスト教(プロテスタント)伝道のため来日。1889年旧制姫路中に英語教師として赴任。1891年頃より妻(岡トリ子)と共に子供達を預かる。自費を投じて五国橋修復も行った。

●円光寺

文明6年本乗院全日によって、刀出に創建された日蓮宗寺院。慶長7年池田輝政の築城による町割で当地に移転。高さ32m余の東史蹟名勝天然記念物のヒヤクサンが自生していたが、昭和20年の空襲により本堂・庫裡等と共に焼失。

●延命地蔵

城東町毘沙門にある。昭和20年の戦災で焼失した屋敷堂の破損した石造鳥居や玉垣の一部を地元の信者が集め、その傍らのお堂の中に延命地蔵を祀っている。

●河合惣兵衛氏の碑 (外濠公園)

姫路藩で尊王攘夷派のリーダー格として知られた河合惣兵衛元は、中級藩士。元治元年(1864)12月尊王攘夷派の弾圧事件「甲子の獄」で自害。もとは、旧河合邸跡(現在地北200m)に建立されていた。昭和43年外濠公園に再建。

●河合惣兵衛邸跡の碑

親水公園内にあり、旧河合邸は、この前の道を隔てた土地に建っていた。

●河合橋

外堀川に架かる橋。勤王派の志士河合惣兵衛邸へ通ずる橋として、その名がつけられたと思われる。

●久長橋

五軒邸の一部となった旧久長町にあった久長門跡前の内堀に架かる橋。外曲輪の東の門になる。外京口門と竹の門に通じる。

●旧町名記念碑 (城東地区)

姫路復興土地画整理事業の完了(第2工区昭和56年2月、第3工区昭和52年1月)により、町界町名を統廃合したことにより廃止された由緒ある町名を永久に記念するために建立した碑。

●京口交番 (姫路警察署跡)

姫路で最初に置かれた警察署跡で、現在も京口交番が建ち、地域の安全を見守っている。

●京口橋

外堀川に架かる橋。もと外京口門付近にあるので、その名がつけられたと思われる。

●銀の馬車道

「生野銀山馬車道」とも呼ばれ、生野より節磨津(港)まで12里15丁(約45km)の官道で、明治6年工部省の朝倉盛明がフランス人、レオン・シスロイを技術長として起工、同9年に竣工。日本初の高速道路とされている。

●空爆の碑

川西航空機姫路製作所跡。姫路は、昭和20年6月22日午前10時半頃の空襲、7月3日深夜の焼夷弾による空襲により焦土と化した。犠牲者の霊を慰め、人命の尊厳と平和を希求し戦争が無くなる事を念じ、平成8年城東地区連合自治会建立。

●好竹神社

棟札、絵馬等から徳川中期創立と記されているが正確な年代は不明。御祭神は、好竹稲荷大明神で商売繁盛の神として地域の人々に崇められている。

●光蓮寺

天正8年に「道悦」により開基された寺。延宝9年に「光蓮寺」の称号を名乗ることが許された。開基以来、寺院は、西紺屋町にあったが、大正15年の御幸通り開通に伴い、現在の土地に移転した。平成5年に本堂を再建し、今日に至る。

●国府寺町観音堂 (十一面観音菩薩像)

雲城山桜谷寺(現東光中、姫路高女建設に伴い廃寺)観音堂に祀られていた。姫路城主本多家に縁がある。明治41年大修理(4回目)後に町民が観音講を結成し祀る。昭和4年心光寺に引継がれる際、町民懇願により尊像を譲り受けた。

●五国橋

外堀川に架かる橋。五軒邸と国府寺町の五と国をとって、その名がつけられたと思われる。

●五社稲荷社

創立年代は不詳。古くより旧飾東郡国府寺村字京口に鎮座されているが、もとは道祖神を祀っていたところに明治元年11月15日に当地の有志が伏見より稲荷神を勧請したことから稲荷社と呼ばれるようになったと伝承されている。

●JR京口駅 (播但線)

播但線開通当時は、姫路駅につぎ流通の要であった。当時の駅前には、運送業者が数多くあり、「山陽道」、「銀の馬車道」に隣接していたため、周辺に京口銀座(商店街)ができ、賑わった。駅施設内に「天神町」の地名が残る。

●城東公民館

平成12年創立。教養講座月に1回、地域講座月に1回(4講座有り)、文化講座月に2回(18教室有り)その他会議室の貸し出しを行っている。

●城東小学校

明治9年、中魚町、五軒邸、河間町、天神町、市之郷等にあった8小学校を合併し、今の東光中学校の敷地に開設された。

●正明寺

康治2年に正覺坊道達和尚の開基。姫道山稱名寺(姫路寺)といひ姫山にあって、興国7年赤松貞範の築城時に山下に移る。戦国期、黒田職隆築城時に再び青見川(総社辺り)に移り、池田輝政築城時に現在地に移り、姫路山正明寺となる。

●正明寺の板碑

板碑(県指定文化財)がある。これは、姫山の土中に埋もれていたものを明治9年に掘り出し、ここに移したことが記されている。この板碑は赤松貞範が最初に姫山へ城を建てたとする貞和2年説の元となっている。

●真宗寺

明和6年播磨国飾東郡国府寺村字屋総道場、真宗寺と寺号許可され木佛一体を本願寺より下附(大正元年城東町と改名)。大正7年に日本毛織(株)建設のため、堀を埋めて現在地に移る。境内に大正15年建立の国府遺蹟碑がある。

●外京口門跡

外曲輪の5つの門の一つ。京都への道筋にあるので「京口」となり、中曲輪の内京口門に対し「外」と付けた。鉤型特殊な樹形をした門。明治に撤去され跡地には東光中学校が建ち、体育館地下には石垣の一部が保存されている。

●外堀川

城を囲む三重の堀のうち、外堀沿いの一番外側の区画を外曲輪という。外堀は、中堀に続いて野里門から清水門に至り、船場川を利用し、南は山陽本線の北を東へ。東は外京口門を北上し、竹之門を経て野里で終わる。堀の終点を堀留という。

●外堀川緑道 (親水公園)

外堀川に下りることができるようになっており、水辺でくつろげる公園になっている。

●大法寺

宝徳元年に赤松則房の創立で、一心院日就上人が開山。慶長6年姫路城主池田輝政の命により現在地に移転。昭和20年の空襲により全堂伽藍が灰尽墟に

帰した。平成元年、檀信徒の協力により本堂・庫裡・客殿が再建され、今日に至る。

●竹之門跡

外堀の東北にあり鬼門に当たるので、これを嫌い木の門(鬼門)から竹の門(他家の門)といった。南から北に向かう堀がここでき大きく西に折れ、いわゆる堀留へと続く。

●寺町すじ

姫路城の東側には多くの寺院が集まっている。池田輝政が姫路城の縄張り際に際し、この地域に寺院を集めた。東からの攻撃には寺院に兵を入れ外京口門の備えとし、西からの攻撃にはここを最後の砦とするためであったと言われる。

●東光中学校

昭和22年に第1回入学式が行われた。当時は現姫路動物園辺りに校舎があり、昭和28年頃現在地に移る。外京口門跡地は、姫路警察、教育習習所、姫路中学校、県立姫路高等女学校と移りかわり、その後、東光中学校が建つ。

●白山神社

元文元年(1736)に城東町宇屋に創立、文政12年(1829)に社殿を再建、明治7年に村社に列せられる。大正7年に現在地に移転、平成2年から再建し、平成9年完成。姫路で唯一の白山信仰の白山姫命を祭神とする神社。

●白山神社 (秋祭り)

氏子地域は、城東町だけでなく陸田、神屋町四丁目等の新しい氏子地域が増えている。祭禮の時には、各氏子代表をはじめ子供等の代表が参拜に来る。そして城東は屋台を、陸田は御輿をかつぎ楽しむ。

●屋着堂跡

奈良末期に稚日女尊を本祀とし、大歳神と宇迦之御魂神を合祀し、ヒルツキ(日月社)と称する国内神名帳の古社。天正9年秀吉が屋九つに到着したことから屋着社と改めた。秀吉が腰掛けた「太閤石」は城東小南の五社稲荷神社に残る。

●ペイカ保育園

明治23年アメリカ人エドウィン・ペイカー氏が創設。彼は旧制姫路中学の英語教師を勤めると共に、キリスト教(プロテスタント)伝道と幼児の撫育につくした。彼の子もたちへの愛を永久に伝え、今も0~5歳児を預かっている。

●豊永稲荷神社

御神祭は、正一位豊永稲荷大明神で商売繁盛、火災・災難除けとして古くから地域の人々に崇められている。建立時期は、不詳だが古老の楊柳文によると、「大正九年七月に社殿改築、立派に竣工し盛大な祭典執行」とある。

●法華寺

慶長5年池田輝政の築城で五軒邸寺町に移転、法華宗播磨国触頭を命ぜられ重要な位置を占める。享保年間に再建した諸堂宇が明治初期の失火により焼失。城内千姫堂を移して本堂としたが、昭和20年空襲で焼失。後に千姫堂を復元。

●本領寺

光栄山本領寺と称し、開山は大本山中山法華経寺の寺僧により妙法広宣の命をうけ、各地を巡歴して播州姫路にて今の坂田町妙円寺の南西に建立。深草元政上人の略本尊、天保4年のころの百度石が現存する。

●妙國寺

天文20年本講院日受上人が開山、開基は置塩城主赤松則房。元は置塩村にありしを木下右衛門大夫領主の時、河間町に移し、慶長年間に輝政の命で現在地に移転。置塩古城下には永祿年間等の礎石が残り、今も妙國寺屋敷と呼ばれる。

●妙立寺

顕本法華宗妙満寺派。慶長9年に日円上人により開基。遠州吉美郷より招かれ現在地に移築。戦災によりほとんどが焼失したが山門は免れ、格式ある構えを見せている。境内に、古い一石五輪塔(高さ95cm)がある。

●その他

城東幼稚園、城東保育所、北五軒邸公園、南五軒邸公園、京口公園、下寺公園、外濠公園、南神屋公園、北神屋公園、京口団地公園、城東中央公園、鉄筋住宅公園、城東公園、五軒橋、竹之門橋、城東橋、天神橋、下寺橋、外濠橋、東橋、北の橋、神北橋、外堀橋、高倉神社、善休寺、地藏尊、妙善寺、城東小学校門柱、日本キリスト教団姫路五軒邸教会、城東町総合セ

2 東地区

●市川団地の桜

西側道路に面し植えてある桜がつつく。樹齢も長く、歩道に覆いかぶさるような大樹になっている。桜の花が咲く頃には、歩道を歩くとき散ってくる花びらが舞い非常に綺麗である。

●市川堤防の桜

昭和59年に姫路中央ライオンズクラブが設立20周年を記念して市川右岸道路東側にソメイヨシノ(100本)を植樹。平成6年に西側にも80本余りのソメイヨシノを植樹。今ではいずれも大樹に育ち地域の名所になっている。

●市川の渡し

江戸時代には、橋はなく大名や庶民が利用する渡し舟があり、渡し場には姫路藩御伝馬船が1艘、渡し守が12人いた。湯水期には、渡し場上手に板の橋を架けて渡った。明治8年に橋が架かるまで渡しは続いた。

●市川橋

明治8年初めて橋が架けられた。幅が狭く欄干も申し訳程度であったが、当時、県下一の長さ(490m)だった。明治22年の洪水で一部が流失。明治41年に鉄橋が架けられ、昭和16年に今の橋が完成するまで使われた。

●市川美化センター

24時間稼働で330t/日の家庭ゴミ処理が可能。1,200kWの蒸気タービン発電機で焼却時のエネルギーを電力に変え、当センターや市川ふれあい緑地で再利用する。ボイラーからの蒸気も市川ふれあい緑地の温室で再利用する。

●市川ふれあい緑地

平成7年開園。広さ約7,000㎡の緑地内には、熱帯植物園、滝やせせらぎ、芝生広場、イベント広場などがある。隣接の市川美化センターのゴミ焼却で発生した余熱発電による電気、ボイラーで発生した蒸気を施設で有効利用する。

●市之郷遺跡

東小学校南の線路一帯の発掘調査で、弥生時代(紀元前3世紀頃から紀元後3世紀頃まで)から鎌倉時代にわたる遺跡が発掘された。JR姫路駅の東800mを中心に直径400～500mの範囲で「市之郷遺跡」と名づけられた。

●市之郷の薬師堂(市之郷薬師塔心礎)

播磨鑑に「下市之郷村の薬師は、今ここを築地」とあり、周辺は白鳳期創建寺院跡で、昭和25年頃までは布目瓦が出土した。廃寺の塔心礎は昭和33年山陽本線電化の際、現在の薬師堂に移される。「大門」という字名が残る。

●大縄場

江戸時代に、刑場が市川の渡し場の北の川原の中にあったそうである。

●小川墓地の六地藏

道祖神の役割を果たしていたと思われる。

●お地藏さん(楠町)

昔は、現在地より北にある池の横に祀られていた(姫路合同貨物付近)。その池の埋立てに伴い、東郷公園西側に移された。後に国道312号ができて、現在地に移る。「覆地藏」と呼ばれる。

●桂米朝【人間国宝：重要無形文化財】

大正14年生まれ。昭和22年四代目・桂米団治に入門。昭和62年紫綬褒章を受章。平成8年重要無形文化財保持者【人間国宝】に認定。上方落語の数多くのネタを復活させ、ホール落語会を日本全国に展開し、根付かせた。

●株式会社山陽(旧山陽皮革)

明治38年軍の紹介でロシア兵を招き「ロシア式からなめし革」の製造を始めた(姫路製革所)。明治44年山陽皮革株式会社を設立。昭和52年株式会社山陽に社名変更。先進技術と研究で日本をリードする皮革産業のバイオニア。

●九所御霊天神社(神屋天神)

[九所御霊]の名は、天正の頃、五座の神霊を祀っていたが、近世に小名彦命を主神とし、他の大物主命・菅原道真ら九所(九柱の神)の御霊を祀ったからと伝わる。玉垣に江戸期の木綿商人や明治期の企業名がある。通称「神屋天神」。

●九所御霊天神社(春季祭礼)

江戸時代以前は、4月8日に花祭りとして行われていたが、明治以降5月8日となり、現在は5月4・5日に行われる。氏子により神輿をかつぎ賑わう。巫女神楽なども行われる。夜には舞台上奉納演芸が行われ地域の人々で賑わう。

●県立皮革工業技術支援センター

県内皮革産業、特に中小企業の技術振興のための技術支援を行う。皮革産業の生産技術の向上、皮革素材の高級化・高機能化、ファッション文化をクリエイトする新製品開発など、業界ニーズを十分に把握して時代に即した事業を行う。

●西国街道(旧山陽道)

市川の渡しから城内に入る外京口門へとつづく道が西国街道(旧山陽道)。今なお、当時をしのぶ細く曲がった道がつづく。今は、道中が神和町で日街道が途切れているが、ここでは昔の町並みの風情がまだ少し残っている。

●市交通局日出車庫

姫路市交通局の市営バスの車庫であった。昭和34年車庫および事務所建設工事着工。昭和36年完成。敷地内には、桜が多く春になると非常に綺麗である。

●地藏院

1656年創建。地藏の立姿が刻まれている石棺仏は、長持型石棺を利用している(室町期)。こうした例は少なく、長側石を用いたものは、市内唯一。仁寿山校の白鹿堂碑が移されているが、故あって碑文は換えられている。

●地藏尊(大善町)

建立時期は不詳。向かって左が「子安地藏」。子どもが健やかに育つように、子どもが授かるようにとお参りする方が多い。右が「不動明王」。人々を救済する役目を持っている仏さまで、地域の人々がお参りしている。

●すこやかセンター

平成14年に開設した複合福祉施設。健康づくり施設(温水プール、トレーニングジムなど)、老人福祉センター(多目的ホール、いざいさグラウンドなど)、子育て支援施設(子育て情報相談センター、子育て学習センターなど)がある。

●第一東郷橋

昭和6年に東郷町耕地整理事業が行なわれ、大善川を渡る橋を設けた。北に架かる橋を第一東郷橋と名づける。

●大善川

市川の小川橋の南から取水し、用水路として地域の田畑へと通っている。下は阿保地区まで続いている。

●大日墓地の六地藏と石仏

大日墓地には、六地藏と石仏(享保十七年七月吉日と明記)がある。ここを通る人々の安全を願う道祖神の役割を果たしていたと思われる。

●第二東郷橋

昭和6年に東郷町耕地整理事業が行なわれ、大善川を渡る橋を設けた。南に架かる橋を第二東郷橋と名づける。

●立江地藏尊

創立不詳。地域の人々が拾って来たお地藏さんを町内の他の場所で祀っていたが、道路拡張や宅地造成などに伴い現在地に移動。8月の地藏盆には、読経の後、日出公園で盆踊大会が催される(以前は、お地藏さんの前で行われていた)。

●天神社公園

九所御霊天神社の南にある。以前は、姫路市立東幼稚園があり、地域の子供達が健やかに育つ学び場であった。

●東光児童センター(旧町名記念碑：東地区)

東光児童センターの入口には、昭和52年の姫路市復興土地地区画整理事業による町の統廃合に伴い、無くなった由来ある旧町名を記した記念碑がある。

●東郷町耕地整理記念碑

東郷町・丸尾町・楠町・双葉町・宮上町等にまたがる地域で121名の地主が組合を作り、大正15年より耕地整理事業がおこなわれ、昭和6年に完成した。そのときに作られた道路は、約6,900mにも及んだ。

●旅籠「龍萬」跡

神谷(旧橋元町・橋元神町・南神屋町・天神町など)には旅籠屋が10軒あり、そのひとつ「龍萬」は江戸期からの宿屋で明治初期に建替えられ姫路で最も古くその面影を留めていた(平成12年取壊し)。

●東小学校の桜

植樹時期は不明。校庭には30本の桜の木があり、毎年入学式の頃には満開になり、入学した生徒と保護者が記念写真を撮っていた。

●日出公園

公園の周りには、多くの桜が植わっており、4月になると多くの地域住民が桜見を楽しんでいる。

●日出墓地の六地藏

道祖神の役割を果たしていたと思われる。

●姫路市愛犬協会

会の目的は、犬を愛護する精神を基盤とし、関係法令の趣旨に即し、犬を正しく飼育運動を推進し、明るい社会の建設に寄与すること。シロヒシア公園で子犬譲渡会や家庭犬しつけ教室、名古屋霊苑内生類慰霊碑前で生類慰霊祭を行う。

●姫路東福音ルーテル教会

1950年ノルウェー・ルーテル伝道会の伝道により姫路福音ルーテル教会が誕生。教会は増位本町に移転し、みどり園が残る。1975年に姫路東福音ルーテル教会が誕生。みどり園は1993年閉園まで保育園として親しまれた。

●姫路東ルーテル教会牧師館

1975年に姫路東福音ルーテル教会が誕生、教会の牧師が居住する建物。これまでノルウェー・ルーテル伝道会の宣教師が住んでいたが、2004年7月から邦人牧師が住んでいる。

●宝積寺

黄檗宗寺院で本尊は地藏菩薩。1771年に檀溪神師が建立。芭蕉の門人の推然坊が首だけの像を持ち諸国行脚していたところ同門の人がその像の全体を完成させた。明治期にその像を宝積寺住職が預かり、観音堂を建てて祀った。

●宝蔵院

慶長年間に創立された真言宗の寺院と伝えられる。本堂の棟鬼瓦には、深志野の瓦師で嘉永3年と記されており、この時期に建て直しが行われた。太平洋戦争以前は、毎年7月に「祇園さん」という夏祭りが行われていたようである。

●保健所動物管理センター

姫路市畜犬センターとして、昭和50年開所。平成11年中央保健所動物管理課を保健所動物管理センターに改称。犬の登録・狂犬病予防・動物愛護思想の普及啓発活動・野犬等の捕獲や抑留・放し飼いの犬の収容および管理などを行う。

●道辻の社

元は、市川の渡しの西北にあり道辻の塚という石の塚があった言われる。「初めてこの道を通るものは必ずこの塚を廻りて後男女のふるまいの真似をして言った」とあり、縁結び、出産の神として崇められた言い伝えがある。

●明泉寺

慶長年間、尼寺として今の古二階町に建立。明治4年郵便局建設で、市之郷の現在地に移築。当時、赤珊瑚や白珊瑚で鶏や虎の絵が描かれた豪華な襖や屏風があったが、昭和20年の空襲で一部を除き、焼失。昭和26年に本堂を再建。

●村田精一郎(ムラタ写真室)

身体障害者のハンデを乗り越え写真撮影に50年間従事。工夫や改良で移動可能な三脚の考案とソフトな光源のより深みのある肖像写真を作り出す。現代の名工150人に選出。技能グランプリの写真部門で優勝。

●山田義高(能楽師)

昭和20年生まれ。昭和25年に仕舞「狸々」で初舞台を踏む。昭和33年東小中学校を卒業後、故・上田照也師に内弟子として入門。昭和42年大阪能楽養成会を卒業後独立。昭和61年、重要無形文化財「総

1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～
2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～
3 地域夢プランのとなえ方
～検証と未来へのアプローチ～
4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
1) 地域資源を活用したまちづくりと展望
2) 地域資源の活用
3) 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
4) 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
1) 地域資源の活用
2) 地域資源の活用

●その他

市川台保育所、東幼稚園、東公民館、姫路市立図書館東光分館、東郷台第一公園、東郷台第二公園、東郷公園、丸尾町公園、市川台公園。

3 城巽地区

●赤鹿神社

姫路八代の御茶屋屋敷に祀られていた稻荷神社(土地の赤鹿氏にちなんで赤鹿神社と称した)が、池田家転封の時に城内に移され、明治維新の時に現在地に転移。戦前は米穀取引所も近く、有力者の信仰を集め、玉垣に名残が見られる。

●射楯兵主神社(播磨国総社)

飾磨郡伊和里に祭られた兵主大神(大國主命)を、天平8年(736)水尾山に崇祠。延暦6年(787)国衛荘小野江の榎本(国立病院付近)に遷座。のち、飾磨郡因達里に祀られた射楯大神(五十猛命)を遷し合祀、射楯兵主神社と号す。

●内京口門

東南方の虎の口で外京口門とともに京都方面の出入口だったので、この名あり。堀は食い違いになり、その間に内外両門を構えて柵形とした、両門とも南向きになり、外門は掖門附高麗門、内門は掖門附櫓門、外門の内に番所があった。

●圓證寺

真宗大谷派の寺院。350年前に現在地に移ってきた。家老本多家の菩提寺。現在の門は昭和28年生野西宝寺から移築したもの。最後の仇討ちで知られる、本多家の身内の山の墓は景福寺の山にある。

●切手・木綿会所跡

江戸末期、酒井家の家老河合道臣(寸翁)は、藩の財政改革のため、文政3年(1820)、切手会所を設け銀札・銭札を発行し、翌年国産木綿会所を併設して、木綿切手を発行した。

●久長門

久長町にあって堀の門の通路を扼し、内外両門を以て柵形をなし、両門とも東向きになっていた。外門は掖戸附高麗門、内門は掖門附櫓門、外門内に番所があった。門から中は待屋敷であった。

●霜月祭

播磨国総社の大祭。約820年前、安徳天皇の養和元年(1181)11月15日に播磨国16郡の大小明神百七十四座の神々を播磨国総社に合わせ祀り、播磨国総社となった日を祝して執り行われている。

●淳心会本部

淳心会本部は、第10師団師団長官舎として建てられた平屋建の洋館。大正13年の地図にあることから、この頃に建てられたと思われる。内部は幾何学模様を駆使した意匠が施され、暖炉回りや、額縁なども趣のある装飾が施されている。

●正法寺

天正9年(1581)別所町佐土より総社西門あたりに移り、輝政の町割りで現在地に移る。境内には慶長18年(1693)正月24日云々と刻まれた池田輝政の供養塔や、縄かけ突起のある珍しい石棺蓋石、日本回國塔がある。

●神明神社

摂津国玉造から、天正期(1573~92)に移して祀られた。祭神は天照大神。戦前は、大阪の堂島天神祭に準じて、7月25日に例祭が行われたが、これは近隣の姫路米穀取引所の意向によるものであった。

●善導寺

寛仁2年(1017)誓忍阿闍梨の開基で、もとは榎本にあった。輝政の町割りで現在地に移る。勤王派の志士、河合惣兵衛と伝十郎親子の菩提寺で、没後140年にあたる平成16年に新しい顕彰碑を建立。およしギツネの伝説が伝わる。

●総社門

総社西門筋の虎の口にあったのでこの名がある。御番所心得の1つに、御門は暮れ六つ(午後6時)に止め、くぐり戸あけおき、五つ(午後8時)くぐりともしめ、明け六打候はば、ただちに番所の戸を開くべく候とある。

●血乃池跡碑

大永元年(1521)7月赤松義村によって行われた修羅踊りで負傷者が多く出て、この池の水で洗えば血がとまったとか。また、戦いの後、この池で武器の血を洗い、修羅踊りで戦勝を祝ったなどと伝わる。

●茶町の町名碑

茶町は江戸初期からの地名。付近には高尾荷があり、家数40ばかりで料理屋があった。地名もこれに因んでいる。昭和56年、区画整理事業により廃止、古二階町、北条口4丁目などに分割されたが、田緒を尊ぶ有志により記念碑を建立。

●烏居先門

総社表門烏居前にあったのでその名がある。橋があり橋の外に外門、内に本門があった。池田利隆時代に閉鎖し、本多氏時代に一時開いたが、奥平姓松平氏時代に再び閉鎖し、以来多く閉鎖したので不開門(アケズノモン)とも言った。

●幡念寺(慢年寺)

三河国吉田(現豊橋市)にあった悟真寺の海牛(寒牛)和尚の開基といわれ、法然上人系の弘願説もある。浄土宗。輝政の町割りにより現在地に建立。境内に延命地藏があり、飢饉の時に人々に餅を与えたので、餅売り地藏と尊崇された。

●北條門(北条口門)

姫路城の外堀にかかる櫓門形式の門で、南方に番所があった。北条方面からの出入口になっていたのでこの門の名が付けられた。

●本町遺跡

姫路郵便局周辺では、昭和56年の発掘調査により、古代の播磨国府系の瓦、建物、埴などの遺構が発見された。播磨国府跡と見られている。

●妙圓寺

開基は池田輝政室督姫。督姫の母は徳川家康側室西ノ郡殿であり、伏見城で本禅寺9世智門院日邵に帰依。督姫も母の意を継ぎ法華経を信仰、慶長6年(1601)生善院日能を招請して祈祷させ、慶長18年、師を開山に迎えて建立。

●妙行寺

本覚院日正の開基で慶長11年の創建。日蓮宗。慶長の頃の凝灰岩の五輪塔や花崗岩製の道祖神が祀られている。

●元運信省姫路電信局

市内に電話が開通したのは明治40年ごろ。当初の加入者は381件で、磁石式交換機が用いられていた。共電式交換方式に変わったのが昭和5年で、建物はそのころ建設されたと考えられている。市の都市景観重要建築物等に指定。

●熊川舎跡

熊川舎(ゆうせんしゃ)は、江戸時代末期、姫路藩によって設けられた郷学。現在の元塩町にあり、上層町人の子弟を対象に教えた。民俗学者柳田國男、歌人井上通泰などいづれゆる松岡家五兄弟の父である松岡操が舎監を務めたことでも知られる。

4 城南地区

●市之橋門

材木町にあって、西の船場川に架した市之橋により、門名を市之橋門と称した。堀の間に通路があり、これを掘って柵形を構え、外門は西向き、内門は北向きになっていた。外門は、掖門附高麗門、内門は掖門附櫓門になっている。

●稻荷社

榊原忠次(1649~1655)の頃、直養稻荷・白川稻荷・城内御供所稻荷の内、城内の稻荷を坂元町に移した。祭神は倉稲魂大神(うかのみたま)で、伊山大神と称した。戦後、坂元町山陽座に祀られていた稻荷社を合祀。

●ウイントピア

[光あふれるまち・姫路]をコンセプトに、市街中心地をさまざまな光のオブジェでライトアップするとともにコンサートなどのイベントを行う。場所/御幸通り、大手前通り、西二階町商店街ほか、開催期間/11月中旬~翌2月ごろ。

●埋門(うずみもん)

中堀の南西隅の隅櫓の傍らにあった。普通の往来は主に福中町筋に出て備前門から出入りしていた。柵形の石垣の間に内外両門があった。内外両門とも南向きで、外門は高麗門、内門は櫓門掖門附。隅櫓は門名により埋門櫓といった。

●大手門

現在の手門は、明治に入って陸軍が三の丸を利用するため取り潰した城門を昭和13年に復元したものだ。江戸時代、この場所は奥から桐一門・桐二門・桜門と三つの門によって守られていた。位置は桐二門の場所にあたる。

●お菊神社

十二所神社の境内にある。小寺則職の奥女中として仕えていたお菊は、若くして病床に伏した則職の病全快を祈願するために十二所神社に参拝していたが21歳で命を落とす。お菊の忠節に心を打たれた則職は、神社を建て霊を慰めた。

●お菊まつり

播州皿屋敷で知られるお菊さんの命日(5月8日)にちなみ、十二所前町のお菊神社で毎年開かれている。地域住民でつくる「お菊奉会」主催の手書き絵画コンテストなどユニークな催しが行われる。

●長壁神社

長壁大神は光仁帝の継嗣刑部親王と娘富姫の二神で、姫山の地主神として歴代城主は祭祀を重んじた。代々の守護職、国司から厚い保護を受け、一般の人々からも尊敬を受けた。長源寺に日供所が設けられていたが、大正末に分離した。

●お城おどり

大永元年(1521)城主赤松義村の下知のもとに、氏子397人が刀、鎌、槍などを持って、兵主社神踊りを7日間踊りつづけたのが「修羅踊り」の始まりとされている。この修羅踊りの復活を目指して、「お城おどり」を創作した。

●鵬門(くまたかもん)

本町と坂元町との間にあり、内外両門とも南向きになっていた。外門は掖門附高麗門、内門は掖門附櫓門、外門を入ったところに番所があった。

●車門

龍野町1丁目の国道筋からやや南に下った所にある。船場川に面して外門があり、中門・内門と続く。この構造は、船が出入りし、荷物を積み降ろすためであった。城郭の防備上、南の外門から出入りした。

●光源寺

浄土真宗本願寺派、古くは播磨六坊の一つであった。蓮如の弟子浄覚が延徳3年(1491)飾磨区細江に創建したとされる。慶安3年下白銀町に移る。戦災で灰塵と化し、大手前道路建設のため現在地に移った。

●光明寺・西福寺

光明寺は、慶長5年(1600)池田輝政の町割りで、飾磨津より移転した浄土宗の名刹。明治18年から2年間、姫路町・飾東部の西区役所が置かれた。西福寺は、姫路城の裏鬼門に当たるので厄除け寺といわれた。

●国道2号建設碑

姫路城中堀南部は、大正元年から2年にかけて、39連隊南側から総社門まで、大正14年総社門から内京口門までを埋め立て、宅地、道路とした。昭和7年埋門から39連隊南側までを埋め立て、国道を改修し、昭和8年国道2号が開通した。

●札の辻

江戸時代、法度・人相書きなどの触書を記した高札場が、中門筋と西国道の交差する、城下町で最も多くの人々が往来する此の辻の南西角に建てられていた。平成11年、城南連合自治会により、文化財サインがこの辻に設置された。

●飭萬津門(飾磨門)

飭萬津(飾磨港)に通ずる道路を扼したのでこの門名を稱した。東西より合する堀は、互いに鉤の字形に互い相対し、北向きに門を構え、道は南から来て門の西方で東に曲がり、更に南に折れて門を入り、再び東に曲がり、北に向かっていた。

●志士の碑

江戸末期、姫路藩は動乱の渦に巻き込まれ、佐幕派と勤皇派が激しく対立。元治元年(1864)尊皇攘夷派の志士、河合宗元ら同志8名は捕えられ処刑された。世に「甲子の獄」といふ。大正5年、獄舎、処刑場の

跡に記念碑を建立。

●清水門

西側北方の虎の口、近辺の鶯の清水によりその名があった。船場川内側の北から来た堀と南の三角形の堀りととの間に枳形を取り内外両門を構えた。外門は橋の内にあって西向きになり、内門は南向きになっていた。

●十二所神社

十二所神社の祭神は少彦名神。延長6年(928)一夜で葦草十二本が林立し、神の御告げと大將軍の地に社を建て、十二所権現として尊崇した。安元元年(1175)姫路城の裏鬼門として現在地に移る。

●大將軍神社

南畝町の西北端にあり、十二所神社のお旅所となつて居る。陰陽思想の方位の大將軍を祀った地とされる。坂上田村麻呂の寄進による將軍田という説もある。

●但馬屋跡

「お夏清十郎物語」のお夏の生家「但馬屋」は、米問屋で、現藤森病院の南向かいにあったと伝えられている。

●俵町の町名標

池田輝政の町割りから本多時代まで、大和出身の人々が居住したことから、大和町と名付けられた。慶安元年(1648)松平大和守直基が姫路城主になったので、その官職を憚って、俵町と改名した。

●長源寺

男山山麓から輝政の町割りで現在地に移る。榊原政邦の頃、姫山の守護神、刑部大神の分霊を堅町の長源寺境内に祀り日御供所とした。この長源寺の祭りが、のちのゆかた祭りにつながった。大正末に長壁神社と境内を折半して分離した。

●中島地蔵

大正末期に諸願成就の地蔵尊を地元の有志が祀ったもので、それまではオミヤサマを祀っていたという。船場川と外堀の間にあったので中島地蔵と名付けられ、昭和39年現在地に移った。

●中之門

本町にあり、中曲輪正面五門の中央を占めたので中之門と称した。内外両門を以て枳形を成し、外門は南向き、内門は東向き。外門は掖門附高麗門で、内門は掖門附櫓門、外門の外には大番所があった。内門の南側に櫓があった。

●白鷺小学校(旧城南小学校)

明治6年船場本徳寺内に創立の則地小学校が前身。明治9年福中内新町に校舎を建て城南小学校と命名。生徒数は県下最大。平成21年旧城巽小学校と統合され白鷺小学校となり、白鷺中学校とともに市最初の小中一貫校となった。

●馬車道(南畝町)

生野銀山の輸送道として、明治9年幅6mの道路が新設され、朝日町から南畝町を経て飾磨街道に接続、飾磨港へ達した。

●備前門(福中門)

門名は、門が備前の國に向かっていることに由来。文政3年隠居酒井忠道が備前守に改め、この地の町名により、福中門と改めた。此の門は西国街道を扼する最も重要な門である。

●姫路市役所開庁地

明治22年4月に市制が施行され、8月に下白銀町の旧生田医院跡を借り上げ市役所が開庁した。明治30年北条口の新庁舎に移るまでは、周辺に裁判所などが置かれ、市の中心部であった。

●ふるさとやかた跡(南畝町)

市民博士高橋秀吉氏が永年収集された図書・資料を収容する高橋文庫を本拠として、昭和46年に開館した。現在は閉館し、資料は県立博物館に寄贈されている。

●ゆかたまつり

江戸・吉原の高尾太夫を落籍した榊原政岑が始めたといわれるが、姫路城の守り神である刑部大神を祀る長源寺の祭りに後世になって伝承が加えられたものである。全国の夏祭りの中でもトップをきっておこなわれる。

5 船場地区

●荒川村耕地整理記念碑

昭和2年に荒川村の大字「土山」で耕地整理が行われた。昭和11年に姫路の大字となり、姫路市土山と呼ばれた。その後、昭和55年に土山の一部、花影、定元、神田町の一部が土山東の町となった。

●亀の甲堰

博労町の亀の甲橋にあった。外堀と並行させて二重堀にするために、割石で亀の甲形の堰を築き、直角に流れを変えた。増水した分は直流する。

●旧制姫路商業学校跡

明治44年北条口で開校の姫路市立商業学校は、大正3年にここに新校舎を建設し、後に兵庫県立商業学校となり、戦後まで存続した。以降、姫路市立琴陵中学校となる。その中学校も薬師山に移転し市地地化された。

●耕地整理記念碑

地域一帯は「福沢町」と呼ばれ、博労町・船場本徳寺から西はほとんどが田畑だった。大正11年に耕地整理する計画が立てられ、同13年起工、同15年竣工、同年船橋・東雲・花影・神田・定元の町が生まれたことを記した碑。

●琴平神社

創立は不詳だが、江戸中期頃との説がある。船入川の船着き場が近くにあるため、琴平からの分霊をお祀りし、海上を守る神様、琴平大物主大神が祀られている。明治32年に元町の町内有志により、神殿・拝殿が修復された。

●常夜灯

慶応4年(1868)につくられた。下の台に「あばしむろつみち」と刻まれている。もとは、室街道の出口にあったものを千代田公園内に移した。

●浄蓮寺

船場本徳寺と同じ東本願寺(真宗大谷派)のお寺で、江戸初期に船場本徳寺の門前寺として建てられた。船場本徳寺には門前寺町として栄えたが、昭和20年の戦災により焼失した。

●船場本徳寺

通称「御坊さん」。東本願寺の別院。江戸初期、藩主本多忠政の時に創設。本堂・表門・鐘樓・大玄閣等は、市指定文化財。明治天皇の訪姫の行在所が現存。境内に薬師山から移した明治維新の勤王志士12名の墓石や西南の役記念碑がある。

●立江地蔵尊

四国八十八ヶ所第19番目霊場であり四国総開所高野山真言宗別格本山立江寺がもと。霊驗あらたかなことで有名で、古くから「子安の地蔵尊」あるいは「立江の地蔵さん」の俗称で知られている。

●千代田遺跡

大正5年、この地に日出紡績会社を建設した時、弥生式の土器・貝殻・石器などが発見された。今は三菱電機(姫路製作所)の構内になり、当時の面影はない。

●千代田町の道標

兼田たばこ店の家の角に立っている古い道標。「あばしむち」と刻まれている。この南北の道が綱干・室津へ通じる道であった。いつ頃のものははっきりしないが、昔の街道を思い起こさせる。

●白鷺橋

昭和初めに姫路城の中堀を埋めて国道2号を造った時に、船場川に架けられた。姫路大空襲で被災したが、昭和49年からの国道2号拡幅工事ででも焦げ跡の残る欄干をそのまま使用し、橋を拡幅して平成3年に竣工した。

●芳順寺

船場本徳寺と同じ東本願寺(真宗大谷派)のお寺。一見お寺と感じられないモダンなつくりは、戦後に鉄筋で建替えられた。船場本徳寺には門前寺町があったが、昭和20年の戦災により焼失した。

●岬地蔵尊

もとは船場川のすぐ西の低い岬の端にあり、江戸時代より川を上り下りする船を見送っていた。それを昭和の初め、今の高い位置に移し、それ以来、子供達が元気に遊ぶ様子を見守り続けている。

●レンガ造りの工場

明治34年の地図に「燐石(まっち)製造所」とあり、その頃の建物の見られる。姫路ではレンガ造りの建物はほとんど見られなくなり、貴重である。現在、山陽色素(株)第二工場となっている。

6 城西地区

●市之橋

材木町や小利木町あたりの船着き場に、市が開かれて栄えていた。この市から橋の名前がつけられた。

●市之橋の道標

大正14年に設置されたみちしるべ。「東へは石の宝殿・高砂へ、西へは書写山・宍粟郡へ、南へは飾磨町・室津港へ、北へは仏峰山・増位へ」と印されている。

●男山八幡宮

興国6年(1345)、京都の石清水八幡宮より勧請鎮座された。正徳6年(1711)には城主榊原政邦によって新社殿が建立された。石鳥居には武運長久と家の繁栄を願った政邦の長文が刻まれ、現在も残っている。

●景福寺

瑞松山と号し、禪宗(曹洞宗)の寺院。藩主酒井家の菩提寺で、境内に幕末藩主の正室三代の墓石が並ぶ。飾磨県の仮庁舎にもなった。北側の山は景福寺山で、「播磨国風土記」の十四丘伝説の一つである「船丘」と推定される。

●見星寺

禅宗(臨済宗)の尼院。裏の墓地には鉄牛和尚(塙四右衛門)の卵塔や城主本多忠政、政朝の五輪塔がある。境内の菩提碑は、寛延2年(1749)船場川の洪水被害の23回忌法要(安永2年(1773))で造られた。

●光寿寺

真宗大谷派で、船場本徳寺に準じる寺で、映雲山光寿寺という。明暦元年(1655)に建てられ、現在、17代続く。奥から姫路城下へ出て来るための立ち寄り寺として栄えた。

●西国街道

西国街道は京・大阪より姫路城下を通り、西国・九州方面に通じていた主要街道で、福中門から北上し、龍野町を通っていた。往時は、姫路一の繁華な街道筋であった。町家が点在し、姫路初の商店街の面影が残る。

●歳徳神社(城西)

古くより岡大歳・歳徳社として鎮座。姫路城築城の時、男山にその神を移したが、氏人等が惜しんで祠を建てて祀った。水尾神社の御旅所として、秋祭りには渡御をしている。市之橋交差点拡幅工事に伴い、平成5年現在地に移転。

●船場川改修記念碑

長い間川底に埋もれていたので文字はまったく読めないが、元禄8年(1695)材木町材木屋共口上書に「末世の御印として清水門の外、河向二御立石仰せつけなされ・・・」と記されており、改修記念碑と断定してよいだろう。

●千姫天満宮

千姫天満宮は、姫路城を一望する男山の中腹にある小さな社で、本多忠刻と再婚した千姫が元禄9年(1623)に、本多家の繁栄を願って建立。城内から進出できるよう、東向きに造営、西の丸長局の廊下から朝夕進出たと伝わる。

●千姫の小径

船場川と姫路城の堀の間の遊歩道で、清水橋から白鷺橋の間をつないでいる。桜の木が植えられており、春には桜の花が咲き誇っている。

●ノコギリ型町並み

家屋が道路に対し、斜めに向かって建てられ、隣家の間に三角形の小さな空地を生じている。そのため、町並みはノコギリの歯のようになっていて、形成の理由は、軍事説、地割説あるいは方位説などがあるが、はっきりしない。

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
取組の類型化

3 地域夢プランのつらえ方
検証と未来へのアプローチ
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのつらえ方
検証と未来へのアプローチ
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(2) 地域資源の概要

●八丈岩山

「播磨国風土記」の十四丘伝説では、大汝命（おおむちのみこと）が、その子、火明命（ほあかりのみこと）を棄てて逃げようとして船を着けたのが、「因達神山（いだてのかみやま）」で現在の八丈岩山であったと言われている。

●初井家

姫路を代表する文化人、歌人初井しづ枝の家。北原白秋に師事した初井しづ枝の作品は、姫路文学館に収蔵されている。当家は屋号を「英賀屋」といい、主屋は弘化元年（1844）に建てられ、その姿は西国街道の風情を今に伝える。

●船入川

江戸初期より、船場川には高瀬舟が上下していた。炭屋橋の下を通って船場川と合流する船入川は、荷物の積み下ろし場や船溜まりであった。今は小さな公園になっている。

●船繋ぎ石

龍野町一丁目には江戸時代、「せんざき屋」という豪商があった。今、その跡地の久保氏宅に、船場川の堤にあって船を繋いだという巨石が、庭石としておかれている。

●水尾神社

もともとは、伊和大明神を祀っていたが、これを総社へ移したことによって、総社の元宮と呼ばれている。江戸初期に大國主命を迎え、大年社歳徳大明神と称していたが、明治期の神仏分離の際に水尾神社と改称した。

●宮本百合子文学碑

終戦直後、宮本百合子は夫の宮本顕治のもとへ急ぐ途中、折からの風水害のため姫路で下車、景福寺山の麓にあった小さな商人宿「まつや」に二泊した。その宿において、小説「播州平野」執筆のきっかけをつかんだといわれている。

●森家住宅

この建物は棟札によって、明治19年に建築されたことが確認されている。全体として改造が少なく、当時の町屋の様子を良く留めている。平成2年、市の都市景観重要建築物等に指定。

7 野里地区

●あてまげ

城の防御のためにみちを三叉路にしたり、道の交差を少しずらしている所を示す。敵の侵攻をここで鈍らせ、挟み撃ちにする。また敵からの死角となるため、味方は死角に隠れた状態で敵の動きを的確に把握することができる。

●雲松寺

池田輝政がまちづくりの際、威徳寺町の曼陀羅寺を雲松寺と改名し現在地に移したのと考えられる。境内の山王堂は威徳寺の別当として将軍家光より朱印を買っている。竹楼は、姫路藩の名家老河合寸翁道臣の書斎を移築したもの。

●小笠原神社

楠木正成の家来の小笠原氏を祀っている。学問の神様で、特に受験の神様として、地域の守り神として大事にされている。

●慶雲寺

嘉吉3年（1443）創建、天正5年南室和尚が中興して妙心寺派となる。後に池田輝政が寄進した姫路城築城の木材で本堂等を再建した。観音堂の如意輪観音像は、輝政正室の督姫（家康娘）が寄進したもの。境内に「お夏・清十郎比翼塚」がある。

●光正寺（現慶雲寺境外観音堂）

もとは慶雲寺の塔頭で、現在は境外の観音堂として南西に位置する。播磨西国三十三番札所の五番札所。井原西鶴、近松門左衛門以来「お夏・清十郎物語」は文芸史上名高い悲恋の代名詞となり、境内の階段玉垣には幕末の頃の歌舞伎・浄瑠璃関係者の名が残る。

●お夏・清十郎の比翼塚

姫路城主神原忠次の時代（1662年）に事件が起きた。但馬屋の娘と奉公人の清十郎との悲恋物語で、井原西鶴の小説の題材にもなった。比翼塚は、二人の霊を慰める為、但馬屋が建立したものとされている。

●お夏・清十郎まつり

寛文2年、但馬屋の娘お夏と手代の清十郎の相思相愛物語。当時は身分制度が厳格で、許されない二人の愛は、悲劇となった。この二人の霊を慰めるため、毎年8月9日に「お夏・清十郎まつり」が開催される。

●県立歴史博物館

郷土の歴史に関する県民の理解を深め、教育・学術及び文化の発展に寄与することを目的として、特別史跡・姫路城跡内の北東の位置に昭和58年4月に開館。

●固守倉（野里慶雲寺前町）

飢饉に備えた備蓄倉庫。1853年建立。備蓄は、米25俵、麦36俵、粉俵など、1,402人の30日分の食糧にあたる。刀出、東山、白浜、妻鹿の固守倉とともに市文化財に指定。弘化3年（1846）には藩内に288か所あった。

●シロトピア記念公園

平成元年に市制100周年を記念して開催された「姫路百祭シロトピア」のメインイベント「89 姫路シロトピア博」の会場跡地を記念行事の成功を後世に伝えるとともに、より多くの市民、観光客に親しまれる公園として整備。

●正願寺

開基は教念法師で天正9年（1581）創建、真宗大谷派。一説には、天正8年（1580）秀吉により三木城が落城、避難してきた人々により威徳寺跡に建立されたという。

●誓光寺

天正5年（1577）創建といわれる。浄土宗。地蔵堂の前に、小型のくりぬき石椁仏が安置されている。中央部を光背形に彫りくぼめた中に、左手に宝珠、右手に鐺杖をもつ地藏立像。貞和2年（1363）造立。

●庚申堂

庚申堂は城の裏鬼門にあたる魚町の西福寺にあつたといわれているが、現在は誓光寺の境内に位置している。本尊は青面金剛童子。この堂は姫路城の表鬼門を守護しているものともいわれる。毎年8月1日に庚申祭が行われる。

●中堀

敵から城を守るために曲輪の周囲に地面を掘り下げたのが堀。姫路城は内、中、外の三つの堀に守られている。内堀の幅が一番広く、中堀、外堀の順に狭くなる。幅平均20m、深さ平均2.7m、総延長約12,450m。

●中堀沿いの桜並木

野里小学校南側の中堀沿いに、鶯の清水まで、ソメイヨシノの桜（約50本）が植えられており、4月になると美しさを競いあう。

●日本城郭研究センター

平成2年4月、市制100周年事業の一環として新設された施設で、国内外の城郭の総合的な調査研究を目的とする「城郭研究室」と中央図書館機能を持つ「城内図書館」からなるユニークな複合施設。

●ノコギリ型町並み（福本町、八木町）

家屋が道に斜めに建ち、隣家との間に小三角状の空き地を生じ、町並みがノコギリ状に斜向して形成された。形成の理由は軍事説、地割説、方位説があり、はっきりしない。

●野里小学校

明治12年城東小学校の分教場として開校。野里における初の近代小学校施設である。明治34年に野里尋常小学校として開校し、明治36年に現在地に移転。

●野里の町名

池田輝政の城下町町割の時に外曲輪に町人地が設けられ、随願寺、慶雲寺、雲松寺等の門前町として栄えた。多くの町名は当時の商いや職種などによりつけられたと言われており、現在も29の町名が残る。いづれを説明する看板が各町にある。

●野里門跡

池田輝政の姫路城築城が始まると野里村の西部を従来の城下町として野里とし、東部を野里村のままとした。その野里と姫路城の武家屋敷との間に設けられ出入口に当たるので「野里門」と名づけた。

●姫路城外濠跡碑

姫路城の外堀は延長5,232mという。大半は埋め立

てられている。竹の門から北の堀端までは幅約2mの水路を残して埋め立てられ、公道となっている。

●姫山の原始林

姫路城の防備となっている。築城以来一度も鋸をいれたことがないという原始林には約150種類の植物が見られ、姫路の気候に適した常緑広葉樹が多く生えている。中でもタラヨウという火事に強い木が最も多く植えられている。

●日吉神社（野里）

承和7年（840）随願寺に鎮守として比叡山の日吉大社から勧請されたといひ、山王権現とし称した。境内には、弘化3年（1846）の常夜灯一對、「右たしま（但馬）左ひろみ祢（広峯）」と印された道標がある。

●町裏浄水場

昭和4年、姫路市の上水道敷設時にできた町裏浄水場（水源地）。当初の姿がほぼ完全な形で残っている近代水道施設。

●町家（魚橋呉服店、大野家住宅など）

門前町や城下町として、また交通の要所として栄えた野里は、旧野里街道を中心に、多くの町家遺構、歴史的町並みが残る。中でも、魚橋呉服店、大野家住宅は市の都市景観重要建築物等に指定されている。

●明珍家・明珍火箸

平安時代から甲冑師として名高い明珍家。現代の当主は平安時代から800年以上続く明珍家の52代目。酒井家とともに前橋から姫路に移り、明治維新で禄を離れてから野里に居を構えた。火箸、風鈴、花器をはじめ、チタン製品の製作にも取り組んでいる。

●虫籠窓（ムシコマド）

町家の構造として採光、換気の為にあるのがムシコマドで、これが当地区の町家の特色の一つである。形や大きさは時代と町家により異なる。

●吉水地藏

大正期の建立。この辺りは清い伏流水に恵まれ、かつては洗濯場になっていたという。少し南には、戦国時代に赤松義村が定めたという播磨十水の一つ「鶯の清水」と推定される井戸が残る。

●歴史の道

堺町～橋之町～梅ヶ枝町に至る街道を旧生野街道及び旧野里街道と守る。この街道筋は、生野、但馬への交通の要所として、門前町や城下町として栄えた。また、野里小学校前の道は国の補助事業の「歴史的なみちすじの整備」が行われた。

8 城北地区

●赤鹿神社

応仁（1467～1469）頃、妻鹿城主貞祐の第三子定頼が伏見天皇行在所跡といわれる場所に赤鹿家を創始して、赤鹿神社を祭祀した。平成7年1月1日から赤鹿神社を赤鹿稲荷社に改名。

●井出村と記された燈籠

桑原神社境内の青木稲荷神社の前に石燈籠があり、播磨鈴鹿郡大野之江 井出村 享保三年（1718）と刻まれている。

●居屋敷地藏さん

身の丈98cm、右手に鐺杖、左手に宝珠を持つ地藏立像。元増位山にあったが、明治時代初期に現在地に運ばれてきた。移設するとき像の方から身をまかせ若者が背負って運んだとか。力士増位川が手車運んだとも言われている。

●恵便・行基菩薩の伝説

随願寺集記には高麗僧の恵便が開祖で、この土地に聖徳太子が堂塔を建て恵便を住ませたとある。後年行基が投宿した時、薬師如来の靈感が現れたために、薬師如来を刻み、薬師堂を建てた。そのため、行基は中興の祖となっている。

●鶴林山 円徳寺

真宗大谷派寺院。明応5年（1496）、智源が開基。慶安3年（1650）智願が本堂を再建した。その時から鶴林山円徳寺と称した。

●楠神社

伊伝居のお稲荷さん、若宮さんと親しまれている神

社。祭神は正一位 稲荷大明神。8軒の講で世話をしている。境内には数百年も経つであろう大きな樟の木がある。

●桑原神社

桑原神社は旧伊伝居村の氏神で明治7年(1874)に村に列せられた。御祭神は伊弉那美命(いざなのみこと)・中筒男命(なかつつおのみこと)の二柱。

●桑原神社 恒例の祭礼

桑原神社の祭礼。元旦祭-1月1日。節分祭-2月3日または4日(節分の日)。夏祭り-毎年7月15日迄の直近日曜日。秋祭り-10月の体育の日の直前の土・日曜日。

●桑原神社 盃穴のある手洗い石

「享保六年 播磨筋東郡 井出村」と刻まれ、上面に盃穴が30個近く刻まれている珍しい手洗い石。燈籠や手洗い石には「井出村」と刻まれており、伊伝居の古い村の名前が確かめられる。

●桑原神社の狛犬

桑原神社にある狛犬。台座に明和元年(1764)と刻まれており、「姫路市の参道狛犬の中では最も古い参道狛犬」として知られている。

●県立姫路工業高校・(定)白鷺工業高校

姫路工業高校は昭和11年に姫路工業学校として創立。白鷺工業高校は昭和19年に第二姫路工業学校として創立。ともに昭和25年に姫路工業大学附属となり、昭和40年に姫路工業高校と白鷺工業高校(平成18年に廃校)となる。

●県立姫路西高校・(定)城北高校

西高の前身は明治11年に景福寺で開校された姫路中学。明治42年に国府寺町から現在地に移転。城北高の前身は昭和4年開校の姫路夜間中学講習所。昭和23年の学制改革により、それぞれ西高と城北高となる(校舎は共用)。城北高は平成17年に廃校。

●酒飲橋

珍名の橋。もとは土橋であったこと以外は不明。江戸後期あたりからこのようにいわれていたと伝わる。

●紫竹稲荷神社

寛保3年(1743)には、八代の現在地に存在していたようだ。江戸時代は大将軍を祀っていた。古くから腫物を治すご利益の神様として、多くの参詣人で賑わったと伝わる。今は神官が祭を行い、東光寺境内の人々が世話をしている。

●伝伏見天皇離宮跡の碑

伝伏見天皇離宮跡の碑。この石碑は伏見天皇の離宮があったというので、昭和5年に郷土史家矢内氏が中心になって建設された。

●増位寺(随願寺の元の寺)のあった所

姫路市伊伝居字堂ノ元。井出村には昔「増位寺」という大きな寺があったようだ。「播磨鑑」や随願寺のご住職さんによると「増位寺(現在の随願寺)は井出村にあった」と言われている。

●八代大歳神社

八代には南八代村の大歳大明神と北八代村の大歳大明神があり、明治44年に二社を合祀し、現在の場所(芝崎山)に移り、大歳神社となった。昭和26年、不審火により全焼。昭和33年社殿竣工。

●八代大歳神社 恒例祭礼

1月1日-午前0時から歳旦祭。午前11時から元旦祭。1月15日-とんど祭。7月2日-日曜日-夏祭(湯立て 輪抜け)。

●八代大歳神社 子供屋台の祭り

10月第2月曜日の前々日と前日に行われる。前々日(宵宮)は、子供屋台(5台)が威勢よく練り合わせを行く。前日(本宮)は、9台の子供屋台と2台の樽神輿が順次宮入をし、一年間の氏子の無病息災の御祓いを受ける。

●八代大歳神社 松平直矩奇進の鳥居

八代大歳神社の境内に、延宝8年(1680)に松平直矩が奇進した鳥居がある。

●八代御茶屋跡

今の八代御茶屋町に江戸時代の初め、池田輝政が別荘(御茶屋)を造営。この場所は前から東光寺があり、伏見天皇(鎌倉時代)の離宮でもあったことから、寺を西に移してその後建てたと言われる。

●八代山古墳

昭和26年に広嶺中の生徒が友達と水晶をとりに行った時に発見した。場所は金山から西に伸びる稜線。その後、芝崎山二号墳、東光寺山古墳と発見され、昭和45年から翌年にかけて八代山古墳群の発掘調査が行われた。

●豊かな自然と蛭の里

船場川と大野川が流れている、これら地区の川筋に平成10年頃から蛭が飛び交うようになった。その中でも、軍人橋の下流の三角州では6月10日頃より蛭が見られるようになり、一度に数十匹の蛭が光を放つ様子は圧巻である。

●豊かな自然と野鳥の宝庫

船場川や大野川を始め、この地区の自然の豊かさを示すものとして野鳥を挙げることができる。かるがも、かわせみ、こさぎ、あおさぎ、せぐろせきい、ひよどり、むくどり等々の野鳥を観察することができる。

●吉田六郎大夫長利の出身地

吉田六郎大夫長利は黒田官兵衛が率いる黒田24騎の一人であり、八代村四百貫の領主である。武勇に優れ、備中高松城の水攻めでは、石を積んだ船底に穴を開けて船を沈める方法を考える等、知略にも優れている。

●臨濟宗東光寺

創建年は不詳であるが、永仁年間(1293~1299)に創建されたと伝わる。その後戦乱で荒廃したが、伏見天皇(鎌倉時代)の離宮とされた由緒ある場所のため、池田輝政が現地に移建、跡地に姫路藩の御茶屋を創設した。

●臨濟宗東光寺 境内施設

東光園-昭和20年、終戦の年の冬、戦災孤児に温かい正月を迎えさせたいと、大西道一住職が11名の孤児を養育したのが始まり。昭和23年に里親1号に登録された。り乳児院-昭和43年に開設し、0歳児・1歳児を養育。

●臨濟宗東光寺の文化財

仏定石:仏像彫刻が出来る前は釈迦の足跡を拝んだ。涅槃画像:釈迦が亡くなる時、動物達までも悲しんでいる絵。涅槃会:毎年3月に涅槃画像を供養。十八羅漢画像。釈迦文殊普賢画像。十王画像。誕生釈迦佛立像。

9 城乾地区

●愛宕神社

京都嵯峨野に鎮座する火難守護神愛宕山大権現の御神体を勧請し奉る不動院の鎮守堂。歴代藩主は領内火難防禦を念じ播磨廿四社の一社として信仰した。鳥居に享保6年(1721)12月祥日の記。

●石梁山不動院

高野山真言宗。神亀5年(728)行基の弟子徳道上人開基。本尊は十一面観世菩薩。元龜3年(1572)姫路城主小寺職隆により総社地内に移転。明治3年に白雲山長徳寺へ移転、不動院と改めた。境内には東山院の築跡も残る。

●大年神社(新在家本町)

建武年間に八代大歳神社より勧請。現在新在家6町の氏神として祭礼を行う。祭礼は10月第2土・日、ほかに元旦祭1月1日、節分祭2月3日、湯立祭7月13日、干干明祭9月10日または11日、除夜祭12月31日。

●大野川

古くは妹背川と呼ばれ、最近ホテルの姿が見られるようになった。また、住民の散歩コースでもあり、不動院前(八代本町一丁目)、宮跡橋付近(南八代町)の桜並木は、毎年春には素晴らしい桜花爛漫の姿を見せてくれる。

●男山

ふもとから山上まで石造の階段道(194段)を登ると、昭和2年に標高59mの山上を7m切り取って作った水道用配水池が、現在は公園になっている。姫路城主の足元の三角点が45.7mなので、天守群が同じ水準で見える。

●男山八幡宮

興国6年(1345)、赤松貞範が姫路城築城に際し、

山頂に創祀し、城の鎮守社としたと伝わる。延宝7年(1679)に松平直矩が、正徳6年(1716)に橋原政邦が社殿を改修。現在は男山の厄神さんとして親しまれている。

●観音寺(新在家本町)

浄土宗 現光山観音寺と号す。現在は廃寺。長保年間、書写山性空上人が開基し、始めは天台宗であったが寛永年間浄土宗になる。本堂は安永2年(1773)、撞鐘は享保2年(1717)に建立された。

●共同井戸

この地に新在家の里ができた数百年の昔から、生活用水として無くてはならぬ存在で、現在も澄み切った清水が湧いて出る。播磨50水に数えられている。

●西教寺(南新在家)

真宗大谷派。15世紀末英賀城下「柳道場」に始まる由緒ある寺。英賀城落城後、秀吉の命で姫路城内に移転したが、慶長6年(1601)池田輝政による築城のため白銀町に移る。大手前通り建設の後、昭和37年に南新在家へ移る。

●慈恩寺

臨濟宗妙心寺派。応永19年(1412)たつの市新宮町で開創。赤松家の滅亡で姫路城内に移るが、輝政築城で西魚町に移転。後に戦災で現在地に移転。山門は旧武徳殿の門。境内に勤皇の志士「秋原虎六」の墓がある。

●奈里制六ノ坪跡

奈良時代の遺跡、公地公民・班田収束の法による区画。六町四方の大区画を望し、それを36に分け、その小区画を坪と呼んだ。現在の姫路の道路・町並みが右に傾斜しているのは、この時代の区画によるものと考えられている。

●新在家大年神社秋祭り(獅子舞)

10月第2土曜・日曜に行なわれる大年神社の秋の祭礼。屋敷には、江戸時代前期に神崎部甘地より伝承したと伝えられる「獅子舞」が新在家公園で演じられ、秋祭りを華やかに彩る。

●新在家公園

高台の住宅地に有り、姫路城を臨む絶景の公園。広いグラウンドを持ち、スポーツ・イベント等も行なわれる周辺地区の中心的存在。

●真宗寺(新在家本町)

浄土真宗本願寺派 宝林山真宗寺と号す。天保3年(1832)3月、赤松の家臣の順慶(俗名林宗春)が開基し、現在22世林真が住職。現在の本堂は13世住職林了岸が再建したものの。

●千姫天満宮

男山千姫天満宮とも呼ばれ、姫路城の北西に位置し、城を一望する男山の中腹にある。元和9年(1623)本多忠刻と再婚した千姫が、本多家の繁栄を願って建立。平成14年に社殿が新築され、唐破風造りの流麗優美な姿になった。

●善養寺

浄土真宗本願寺派。江戸時代初期、天台宗より転宗と伝えられ、現在世襲18代住職として法燈を受け継ぐ。本堂は明治45年焼失、門信徒有縁の人々の懇念により、大正10年に現本堂再建。平成5年大修理工事が完了。

●道標(八代本町二丁目)

現在、八代公民館前に移設保存されている。八代本町一丁目と八代本町二丁目の境界道は、中世以後の山陽道のルートであったと考えられ、大正時代までは重要な道であった。

●西八代地藏尊

西八代のお地藏さんの全盛期は徳川時代(11代将軍家齊)のころだが、創建はそれより以前と伝わる。境内にある石灯籠には文化3年(1806)、石の花立てには天保6年(1835)とそれぞれ刻まれている。

●八丈岩山

標高172.9m、山上の八丈岩の上から眼下に市内を一望できる。[播磨国風土記]によれば14の丘の伝説が残る因達神山とされ、大汝命が、その子、火明命を棄てて逃げようとした船を着けた所。

●姫路文学館

市制100周年事業の一環として、平成3年開館。建築家安藤忠雄氏の設計によるデザインが古い町並みに新しい風景を添える。あらゆる文学活動の拠点として播磨ゆかりの文人たちの作品・遺品を展示、資料の

1 地域夢プランの歩み(はじまりからこれまで)

2 地域夢プランのかたち(取組の類型化)

3 地域夢プランのとりえ方(検証と未来へのアプローチ)

3 地域夢プランのとりえ方(検証と未来へのアプローチ)

4 地域資源の全リスト(地区からの情報発信)

4 地域資源の全リスト(地区からの情報発信)

収集や調査研究等を行う。

●深田遺跡

弥生時代の遺跡。姫路高等学校が辻井に移転し、城乾小・中学校建設の際、発掘調査が行われ、弥生土器をはじめ土師器や須恵器など多数が出土。城乾小学校正門前に記念碑がある。

●望景亭

現在は文学館の施設になっている望景亭は、紡績会社社長、浜本八治郎が、16年の歳月をかけ昭和4年に完成した大邸宅「男山荘」。邸内に大阪城残石、庭の手洗い石として見野麁寺の塔心礎が転用されている。

●紡績会社水路跡

明治8年ごろ開校した「白川学校」跡に、姫路木綿を再興しようと明治13年に設立された官営工場。イギリス製の紡績機を購入、水車と蒸気機関を動力源としたが、後に民間に払い下げられた。現在は船場川に水路跡だけが残る。

●水尾神社

創立不詳、伊和大神(大國主命)を祀っていたが、これを播磨国総社へ移した。後に元和5年(1619)本多忠政が社殿を造営、大年社歳徳大明神と称し、明治期に水尾神社と改称。境内には白晝戦提記念植樹の石碑と樹木がある。

●八代大蔵神社秋祭り

毎年10月第2土曜・日曜日。宵宮には電飾屋台が4・5台、本宮には八代地区9台の子供屋台が練りだす。

●八代大橋

東辻井から野里街道にわたる市道62号と交差する大野川に架かる。この橋からの眺めは、東岸に懐かしさを感じる日本家屋、西岸は近代建築の銀白色の円形マンション。水の流れる目移す彼方に姫路城天守閣の雄姿が見られる。

●山野井町水尾神社秋祭り

毎年11月第2土曜日子供屋台が練りだし、日曜日には、お旅所及び氏子町全域で神輿巡幸が行われる。

●ゆりの木会館(兵庫県立大学)

旧制姫路高等学校は大正13年に開校。木造の本館と大正15年に完成した講堂が残存する。下見板貼スティックスタイルによる文部省直轄学校建築の一事例である。本館(ゆりの木会館)は講堂と共に市の都市景観重要建物等に指定。

10 広峰地区

●上大野の常夜燈

姫路獨協大学の西方、上大野旧街道沿いに自然石の大きな常夜燈がある。正面半の部分に「天下泰平・国家安全」の文字が刻まれ、嘉永5年(1862)とある。江戸末期の諸外国との交渉に躍りになっていた当時の世相を示している。

●梅ヶ谷地藏

梅ヶ谷地藏尊は約千年前の古作とされ、座高2尺の小型の地藏尊である。延命地藏尊を中央に、右に子授地藏尊、左に知恵地藏尊を配し、悲願成就に多くの人々の参詣がある。地藏尊がある石段下に、いつも変わらぬ水位を保つ清水がある。

●梅ヶ谷の名水

梅ヶ谷地藏尊がある石段下に、日照りでも大雨でも変わらぬ水位を保つ清水があり、「播磨十水」の名水に数えられている。この為、多くの人々が水を汲みに来ている。

●大蔵神社

北平野4丁目にある。境内には沢山の関羽石(通称カ石)が集められている。その中には平野川義蔵の名と45貫目(170kg)の文字が記されている。拝殿には絵馬があり、入口には自然石燈籠に「天下泰平」の文字が彫られている。

●大蔵神社と石造物(上大野)

上大野の氏神様。境内には江戸期の年号を持つ石造物が多い。鳥居は御影石製で風化が激しく判読しにくい。天保4年(1833)の年号と石工毛野善之助・弥蔵の名がある。他手洗石、御神燈、住吉神社前の石燈籠等がある。

●大野川両岸の堤の桜並木

大野川の両岸の堤(北平野から八代本町までの間約3kmの間)には桜が植えられており、樹勢も良く、4月上旬の花見の頃は毎年素晴らしい桜花爛漫の姿を見ることができる。春の散策コースには最適のコース。

●大野の地藏さん

西大寿台にある。西の方を向いた珍しい地藏。

●御師の活躍と黒田家の目録

御師は廣峯神社の御札を信者に配布して歩く布教者。檀那衆や参拝者のために神前で祈禱を行い、守札・曆・目録等を配布していた。黒田家に伝わる目録が御師によって配布されている様子は「播磨雑物語」に描かれている。

●織居神社と常夜燈

大蔵神社の西方にある神社。南側端の常夜燈は天保3年(1832)の年号と印南郡神吉庄宮前村中の文字がある。

●北平野の7不思議

一つの集落の中に「天満神社」、「大蔵神社」、「織居神社」と三つの神社があることは珍しく、不思議なことだと言われている。北平野の7不思議の一つに数えられている。

●吉備社・荒神社(白幣山)

円融天皇の御代(972)に現在の地に社殿が大造営され、その跡地に吉備真備公を祀る吉備社が建てられた。また、吉備神社の横の荒神社は、廣峯神社にある十一棟の摂社、末社の中で最も古いものである。

●牛頭天王と蘇民将来の話(廣峯神社)

巨丹将来に宿を断られ、弟の蘇民将来に救われた牛頭天王が、巨丹将来を疫病で滅ぼし、弟に国を与えたという説話がある。このため「蘇民将来の子孫」というお札を玄関に貼ると疫病に罹らないと言いつた。

●行者堂

北平野奥垣内にある。上池西南隅の行者堂には中央の地藏像、側に一石五輪塔5個を祀っている。すぐ北の不動滝入口に不動堂があり、中に不動像(給)と役行者木造を祀っている。

●黒田官兵衛孝高の生涯(心光寺)

黒田官兵衛孝高は、秀吉を助け、天下人とさせた知将。信長、秀吉、家康と天下が移り変わる中、常に深く関わり、先見性・洞察力に富んだ確かな目で、59歳の生涯を全うした。筑前福岡藩52万石の藩祖。心光寺は、黒田家の姫路時代の菩提寺。

●コクゾウサンと境内の石造物

北平野5丁目にある。常称寺の西側にコクゾウサンと呼ぶお堂がある。室内に北の大池から上がったと伝えられる木造虚空蔵菩薩像を祀る。堂の左手には室町期のものとみられる石仏があり、「康安2年(1362)」の年号が読み取れる。

●後醍醐天皇の御幸

元弘元年(1331)後醍醐天皇が隠岐の島に流される途中、書写山へ参詣せられた時、梅ヶ谷に立ち寄られたと言われている。

●貞貫山心光寺

浄土宗智恩院派の寺院。黒田家の菩提寺で黒田官兵衛の母、心光寺殿長寿大姉の院号を取って「心光寺」としている。元は御着の佐土にあったが、秀吉の時代に市内坂田町に移され、平成になって今の北平野台に移転。黒田家三代の廟所もある。

●常称寺

北平野5丁目にある。浄土真宗本願寺派の寺院。

●素盞鳴尊と牛頭天王との関わり(廣峯神社)

牛頭天王は元来インドでの祇園精舎の守護神で、密教と共に伝来したと伝わる。その顔、形がいかにめいところから、疫病神・厄神とされ「荒ぶる神」の代表として素盞鳴尊と習合関係にあると考えられ、廣峯神社に祀られている。

●竹森新右衛門次貞の出身地

黒田官兵衛が率いる黒田24騎の一人で、大野村日岡八幡の宮司。武勇に優れ、上げた首級は21にも及んだ。竹森改姓の訳は、久しく帰っていなかった大野村の自分の屋敷跡が竹林になってしまっていた為と伝わる。

●長者屋敷伝説 石の枕はせぬものじゃ

「播磨鑑」には、保元元年(1156)平野村に住む小鷹は長者屋敷に住み、旅人を宿泊させ、石の枕をさせて石をかけて殺してしまふ。この人の血を、藍に混ぜると黒くて美しい「かちん染め」が出来ると、という伝説がある。

●長者屋敷伝説とかちん染め

かつて藍は播磨が先進地で、播磨から徳島へ技術が移ったと伝わる。飾磨の襦染(かちんぞめ)は古来から有名で、播州の特産品であった。その美しさは天下と言われ、あまりの美しさに、このような民話が生れたと考えられる。

●天満神社(北平野)

広嶺山の北平野登山口にある神社。石鳥居は文政7年(1824)の年号と材木町住石工 居村茂十郎の名がある。その他、弘化3年(1846)の石段泊石と文政6年(1823)の常夜灯がある。

●南北朝争乱と広峰氏の活躍

元弘の乱(1331)のとき、広峰社大別当の広峰長貞は赤松氏と共に後醍醐天皇に味方し、京都六波羅探題を攻め滅し、大活躍をした。

●姫路競馬場

姫路競馬場は地方競馬場である。主催者は兵庫県競馬組合。場の設立は前身の淡路競馬場が廃止になり、それに代わる形で昭和24年に陸軍の城ヶ崎兵隊跡に開設された(コースは1周1,200m)。

●姫路公園競馬場

姫路競馬場は姫路公園競馬場として市民一般に開放されている。幼稚園児達が散策を楽しんだり、サッカーの練習等中央の芝生広場を使用することもできる。

●姫路獨協大学

全国初の公私協力方式の大学。昭和62年に姫路の西北の地、上大野に設立された。外国語学部、法学部、経済情報学部、医療保健学部、薬学部があり、約2,200名の学生が学んでいる。

●平野鹿寺跡

常称寺の西側、コクゾウサンの西約150m辺りに奈良期創建の寺があったと伝えられている。かつて古瓦も出土、礎石もあったが、現在は寺跡は分からない。

●広嶺山からの夜景パノラマ

広嶺山からは、姫路市街地を中心とした雄大な夜景を楽しむことができる。

●廣峯神社

2千有余年前の太古、崇神天皇の御代に素盞鳴尊とその御子神で五十猛尊が白幣山に鎮座されたと伝わる。聖武天皇の御代、この地を訪れた吉備真備(きびのまさび)公が信託を受け、現在の奥の院、吉備社がある位置に社殿を建立。

●廣峯神社 宝篋印塔(国指定重要文化財)

高さ208cmの花崗岩製で、白幣山の洞窟の中にばらばらになって納められていたが、昭和15年頃、現在ある所に移築。国指定重要文化財。

●廣峯神社 本殿・拝殿(国指定重要文化財)

廣峯神社の本殿は室町中期の建物、拝殿は江戸時代に修理された建物であり、その規模は国内でも最大級と言われ、国指定重要文化財になっている。

●廣峯神社の恒例祭

廣峯神社の恒例祭り。1月元旦一歳旦祭。4月3日一御田植祭(市指定無形民俗文化財)。4月18日一祈穀祭(穂搦式・走馬式)(市指定無形民俗文化財)。11月15日一御柱祭。12月31日一年越しの大祓式。

●廣峯神社は京都の祇園社の本社

貞観11年(869)畿内外に疫病が大流行した。清和天皇の夢枕に「廣峯神社の御分霊を京都にお迎えして、祈禱せよ」とのお告げがあり、早速お祀りすると疫病は治まったとある。この時に廣峯神社の神を京都の祇園社に分霊した。

●不動滝

不動滝は修行場として開かれたもので行者堂より上流へ100m程入った所にある。さらに、その奥500mには妙見滝もあり、同じく修行場になっている。

●不動山善教寺

浄土真宗本願寺派の寺。1506年創建。1984年に西塩町より現在の西大寿台に移転してきた。

●御興塚古墳

北平野奥垣内にある。広嶺山麓の台地上に築かれた径15m、高さ3mの円墳で、南に開口する横穴式石室を有する古墳。この古墳は安土桃山時代から書物に載せられ、石棺は「神の乗る輿」と伝わる。

●陸上自衛隊姫路駐屯地

姫路駐屯地は、旧陸軍第10師団編成に伴い、明治30年に設立。幾多の改変を経て、現在では、第3特科隊、第3高射特科大隊等が駐屯し、概ね県下一円を防衛・警備及び広域隊区とし「地域と共にある」駐屯地として活動している。

11 水上地区

●大歳神社(大日)

祭神は稚産靈神・倉稲魂神。北条時頼が再興し、後に慶雲寺の鎮守となる。また、姫路城の鬼門として池田輝政が信仰していた。方広寺の鐘の鑄造を指揮した野島の鑄物師(いもじ)芥田五郎衛門が、支配役として奉仕した神社でもある。

●大歳神社(保城)

祭神は大天神。古来横手村に鎮座。山陽自動車道の増位山トンネル入口の上にある。保城の小字横手の氏宮。石鳥居、燈籠、手洗石など、江戸時代後期の石造品が多く残る。現社殿は平成5年10月に再建された。

●お通一花田橋

「花田橋」は、吉川英治「宮本武蔵」に登場する橋である。古の古道は深志野、小川、高木の松ヶ瀬、白国、書写へと通じていることと、「花田史誌」によると花田橋は「松ヶ瀬の渡し」がイメージされているようだ。

●勝松神社

祭神、金山彦命。もとは赤松政則建立の勝松寺という禅寺の鎮守として祀られたもので、昔は弁財天を祀っていたが、天正年間(別所の兵火)に寺は焼失し、以後勝松神社となった。唐人図をはじめ千支子給馬や排み絵馬が多く残る。

●河合寸翁「はぜ」の跡

江戸時代末期、河合寸翁は姫路藩の財政改革の一環として「はぜ」を市川の土手に植え、ろうをとり口ソクを専売しようとしていた。その名残りの木で、秋に紅葉する。

●佐野源左衛門の墓

鎌倉時代・謡曲の「鉢の木」に出てくる人物である。佐野は最明寺の普請奉行として尽力した。この功績に報いるために墓が建立されたという。昭和4年「姫路市街全図」にも見られ、明治時代の初期にはあったといわれている。

●水道局の取水口

船場川の大樋を少し下がったところにある。この水が姫路市民の飲料水となっている。

●船場川 大樋

往古の市川は、幾筋にも川が流れ今の船場川が本流であった。度重なる洪水被害に江戸時代の初期に、現在の市川筋が本流に切り替わった。船場川は農業用水、姫路城の中堀や外堀にも利用され、市川からの取水口として「樋門」が建設された。

●船場川 高瀬舟

姫路城主本多忠政が当時市川の主流であった船場川を改修し、飾磨津から現在の市川町あたりまでの高瀬舟による物資運搬の船運を開いた。保城や西中島に船着場が設けられ、大樋にある倉庫に高瀬舟に似た船が保存されている。

●大日地蔵(最明寺)

法道仙人の開基で、鎌倉時代北条時頼が再建したため、時頼の出家後の号から「最明寺」と称した。往古は大規模な境内であったが、戦火で焼失し現在の姿となる。市川川原刑場の刑死者を弔う供養塔や修因地蔵がある。

●日吉神社(野里北野町)

祭神は大己貴命・大山咋命。随願寺の鎮守として山王権現と称した。天正の兵火(別所長治の侵攻)で焼失。明治元年に「日吉神社」と改称した。小児の神様として近在郷に知れ渡っていた。

●法林寺

無量山法林寺は、真宗大谷派(浄土真宗東本願寺派)の寺院。了伝の開基で、創立は享禄5年(1532)と延宝2年(1674)の二説がある。親鸞上人を宗祖とし、ご本尊は阿弥陀如来立像の由緒ある寺院。

●薬師堂(西中島)

薬師堂は船場川のほとりにあり、建立は天保13年(1842)以前で、ご本尊は麻除け薬師坐像。毎年5月のお釈迦の日は(月遅れ)甘茶の接待もあり参拝者でにぎわう。

12 増位地区

●有明の峰 増位山

増位山は、平安時代、日本を代表する歌人が散策し、和歌を読んでおり「有明の峰」と呼ばれている。在業平や西行法師の和歌が残っている。構居(山城)があった。

●有明峰古墳

増位山東尾根ハイキングコース第1展望台にあり、石室内には発掘され空洞であるが、天井石が残っている。

●池田輝政供養塔

塔の形は仏教の五輪で、塔体に「池田輝政之塔慶長十八癸丑歲正月二十四日」と刻まれている。近くには句碑もある。

●大年社(白国)

祭神は、白国大歳明神。五穀豊穡により村民の幸せを守る神として祀られた。応神天皇の頃に今の場所の東に建立された。嵯峨天皇の頃、白国彈正左衛門が祭祀した。

●河合家の墓

酒井藩の老老・河合家の墓。河合寸翁は酒井忠道の家老として、産業振興、藩財政の立て直し等の他、仁寿山校を開塾し教育の推進等の功績が名高い。

●児島家の墓

児島家は紅屋の屋号で有名な姫路藩の豪商。当主・政光は、酒井藩主の「六人衆」である。

●佐伯神社

祭神は、当地(白国)の始祖「稻背入彦命」の曾孫の阿良津命。阿良津命は、播磨地方において初めて国造に任ぜられた。更に佐伯直の姓を賜った。当地方の政治を担当した豪族。

●榊原忠次の墓

榊原忠次は、歴代姫路城主のなかでも名君として秀で、藩民からも慕われていた。長子・政房が建立。長く見事な碑文があり、全文読破したら墓碑の下「亀」が動くと言われている。市指定史跡。

●榊原忠次墓所の唐門

姫路城主榊原忠次の墓所に享保16年(1731)に建立された正門。垂木鼻、拳鼻、棧唐戸、柱等の随所に楔金具の痕跡があり、きらびやかな建物であったことがうかがわれる。国指定重要文化財。

●榊原政邦の墓

姫路城主の墓。「増位山中で城が眺望できる所に葬るよう」という遺言によって、この地に建てられた。左に夫人、右に嫡室の墓がある。市指定史跡。

●実相院の墓所

姫路城主榊原政邦の側室で次の姫路城主榊原祐祐の生母の墓。「女性特有の病で悩んだので、同じ病で苦しむ人を救いたい」と遺言したことから、「婦人病」に靈験あらたかとして訪れる人が多い。「お姫様の墓」と呼ばれている。

●巡礼道の道標

「右、志よしや山」、「左、ほつけ山」と刻まれている。「志よしや山」は書写山、「ほつけ山」は法華山である。

●白国山・高松寺

寛元2年(1244)、白国政所の白国禅正左衛門宗直が創建。本尊は聖観世音菩薩。当地の支配者の更迭により寺の衰えもあったが、延宝4年(1676)、快山法師によって寺運が建て直された。

●白国神社

213年に創建された播磨四の宮の一つ。祭神は神吾田日津賣命。阿屠武命の妻・高雷媛がお産で苦しんだ時、神吾田日津賣命を祀り祈願したところ安産であったことから社殿を設けた。安産の神様として有名。

●白国梅林

江戸から明治時代にかけ増位山と広嶺山の谷合いにあった梅林。数千本の梅があり文人もよく訪れたが、昭和初期に伐採され今ではその面影はないが、松平棟山の「春山倚杖」「白国平野之花已旺」の漢詩紀行は有名。

●随願寺 開山堂

承応3年(1654)に建立。行基菩薩坐像(市指定文化財)を祀る。随願寺に現存する最古の建造物。国指定重要文化財。

●随願寺 経蔵

宝暦13年(1763)に建立。国指定重要文化財。

●随願寺 修正会追儺式

修正会は天下泰平・五穀豊穡を祈る仏教行事。追儺会は結願行事。本堂中陣で、薬師如来の化身の「空鬼」、御幣をもつ「子鬼」、毘沙門天の化身の「赤鬼」、不動明王の化身の「青鬼」が鬼踊りを踊る。毎年2月11日に行われている。

●随願寺 須弥壇の彫刻

本堂の須弥壇には、中国の「賢人」、「鳳凰」、「龍」、「迦陵頻伽」、「天女」等が極彩色で装飾されている。

●随願寺 鐘楼

享保3年(1718)に建立。国指定重要文化財。

●随願寺 念仏堂

正式名称は念仏三昧堂。榊原忠次が夫人を供養するために建立。松尾芭蕉の遺品の笠と蓑が保存されている。境内の手洗い石は石棺蓋。二基の句碑がある。

●随願寺 毘沙門天立像

平安時代に造られた木造の仏像。像の各部が調和し躍動的である。明治34年に旧国宝、昭和25年に国の重要文化財に指定された。収蔵庫に安置されており、特別の時に公開される。

●随願寺 本堂

今の本堂は1692年に姫路城主榊原忠次が再建。薬師如来坐像(国指定重要文化財)を本尊に祀る。天井画「天人」、「龍」、「鳳凰」は、狩野探幽(1602~1674)の筆といわれている。

●太子谷風羅堂跡

寛保3年(1743)、俳人井上寒瓜(井上千山の子)が、太子谷に建てた松尾芭蕉の遺品と芭蕉像を祀った堂の跡。寛政5年(1793)に堂は西の谷に移された。

●高須家の墓

姫路藩家老・高須家の墓。高須書山等の名がある。

●高浜信民の墓

姫路藩の儒家に生まれた高浜信民は、郷土史に詳しく、井上通泰、三上参次、辻善之助と共に播磨史談会の会長をつとめた。

●西尾根ハイキングコース

登山口は、大年社。春の広場、夏の広場、秋の広場を通り、蛇が池から随願寺までの約1.7kmのコース。

●芭蕉の墓塚

正徳3年(1713)、井上千山が京都の風羅坊から持ち帰った松尾芭蕉の遺品の朽ち破れた蓑を埋めた上に建立した芭蕉翁らの碑石。寛政5年(1793)、風羅堂の移設にあわせ、墓塚も風羅堂の傍に移された。

●東尾根ハイキングコース

登山口は、念仏堂を北に進んだ右側にいる。風羅堂跡から尾根伝いに北に行く、増位山三角点(259m)に着く。少し歩くと、そうめん滝との分岐点に有明峰古墳がある。榊原政邦の墓の横を通り随願寺までの約2.2kmのコース。

●増位山・随願寺

播磨天台六山の寺。聖徳太子の命により、高麗の僧・慧便の開基と伝わり、天平年間に、行基が中興し、山上に36坊がある大寺であった。1573年別所長治によって全山焼失したが天正14年(1586)に羽柴秀吉が再興した。

●松平家の墓

姫路藩年寄役・松平家の墓。松平孫三郎等一族の石碑がある。

13 安室地区

●稲田山善覚寺

赤松氏の後胤稲田備中守善教の三男主馬之介義信は、書写山麓に一万石を領していたが、故あって出家し、書写山で修行の後、滋賀県坂本に草庵を結んで仏の道に専念した。その後、本国に帰り、田寺村善覚寺を興したと伝えられる。

●北山の道標

山道を登ると北山古墳がある。(正・右)書写山 鹿谷道、(右)ひろみね、ほっけ山、(左)たつの むろつ、びぜん あばし、(背)安政六年未年三月吉日。

●北山の道標

山道を登ると北山古墳がある。(正)ほっけ山、ひろみね、(右)左よしやさん道、(左)すゞ やまみち、(背)安政三年丙辰年四月。

●光明山勝瑞寺

勝瑞寺の寺号は浄土真宗東本願寺の初代教如上人より賜ったものと伝わる。この寺の梵鐘は明応6年(1497)に姫路野里の鋳物師の藤原勝久・宗久が廣峯神社の鐘として鑄たもので、寛政6年(1794)に勝瑞寺に移した。

●四軒屋地蔵尊

寛保2年(1742)の飾西郡御立村明細帳に「鹿谷道」と「書写道」の別々に石地蔵があると記されている。この石地蔵の台座の正面に「左志よしや道、右かや道」ときざんであり往来みちの道標であったことがわかる。

●書写政所と田寺家の古木(市指定保存樹)

南北朝の動乱期、後醍醐天皇が流刑地隠岐から脱出、京都への帰途書写山へ行幸、その当時關所になっていた安室郷を書写山に寄進。この時から田寺家が書写政所と称したが、天正の頃西今宿へ移転。田寺家には樹齢数百年のカヤの大木がある。

●大日如来像

通称「大日さん」と呼ばれ弘法大師・行者神変大菩薩・大日如来・大日大聖不動明王の四体が祀られている。後記三体は高取山西南端(現唐立団地西上)にあった「長尾寺」に祀られていたという。

●田寺常夜灯

この灯籠は、日露戦争従軍者の献灯によるもので、側面に十一名の従軍者の氏名と大正三年初春建立とあり、正面には「真輝」と刻まれている。

●御立交通公園(御立公園)

昭和51年完成、面積は約2.4ha。園内には蒸気機関車C57-5号が展示されている。交通コーナーでは、各種交通標識をはじめ、信号機や踏切、横断歩道などを設置し、かつて幼児や児童らを対象に交通教室を開催していた。

●御立住吉神社

長保4年(1002)花山法皇が書写山へ行幸の時、船で飾磨港に着き、国司の小野道忠朝臣・播磨宿禰巨智延昌らが案内したが、途中で降雨が激しく当地に滞留になった。そのためにこの地を御館と称し、住吉大神を祀った。

●御立山と記念碑

「播磨国風土記」に、応神天皇がこの丘に立って地形を見られたところから「オオタチガカ」と名付けられ、御立山(通称前山)と呼ばれるようになったとある標高70mの独立丘。

●薬師堂と薬師如来像

薬師如来像は、高さ72.57cmの木造坐像で、郷土史研究家の故大貫繁次氏によると室町中期の作といわれる。この薬師如来は昔高取山西南端(現唐立団地西上)に長尾寺があってこの寺に祀られていたと

いう。

●安室村歌

明治42年につくられた。当時は安室小学校に校歌がなかったため、学校行事で歌われていた。歌詞には、村(安室、御立、辻井、田寺)の地名の由来などが歌われている。

●横関道標

横関橋東詰にある。書写山への順礼者のために建てられた道標で、道標頭部には両手を上げて南を向いた観音坐像が刻まれ、左手の指し示す下に「ほっけさん・ひろみね山」、右手の指し示す下に「よしや道」とある。

●六本松の道標

この道標の北正面には「左姫路宿屋町江二十五丁」右側には「右車崎六丁目道」左側には「從是書写山江二十丁」と刻まれており、南面には文久2年(1862)と記されている。古来より書写道・鹿谷道に通じている唯一の古道。

14 安室東地区

●大池・中池

大池の落ち口から郷内溝が通じ田寺、辻井、今宿の灌漑用水として利用されている。昔から干害時には水争いが起こり、一間宗五郎の墓の上には、水争いで亡くなった功勞者3名の墓が建っている。

●龍池跡

昭和55年、東今宿三丁目の丁田遺跡の発掘調査の時、幅20m、深さ2mの水路が発見された。龍池は昔、北今宿の稲作用水として利用されており、夢前川の旧水路跡である。現在は龍池公園となっている。

●一間宗五郎の墓

大正年代の中頃まで、六本の南寄りで道路の東側に武家屋敷風の一番変わった構えの建物があり、この家には一間宗五郎という博識多才の人が居て、多くの若者に読み書きをはじめ算術・生け花・舞・茶道等を教えていた。

●観音堂

辻井七丁目、歩道橋の東端にある。昭和の初めにバス道ができるまでは、現在地より南約50mのところにあった。「左よしや道、右さしのみち、寛政十戌年(1798)正月十七日」と書かれた観音坐像が祀られている。

●北山古墳

道標のある山道を100m程行くと左手に「北山古墳」と書いた木柱がある。2.3mの小高い土盛りがあり、横の穴から覗くことができる。1400～1500年前のものだと推定される。この古墳の東北山麓には多くの古墳跡が見られる。

●北山の道標

山道を登ると北山古墳がある。その途中に2基の道標があり、それぞれの面には、書写山、鹿谷道、ひろみね、ほっけ山、たつの、むろつ等の地名が方位面に刻まれている。いずれも安政時代に設置。

●光耀山西蓮寺

開基僧、了益上人は、もと武士であったが、飾磨で浄土真宗の講話を聞き、教義に深い感動を受け出家した。辻井、辻本家の祖先が道場を作り、天和3年(1683)了益上人を迎え、寺を開いた。

●高岡神社

高岡神社は、蛤山の高岳神社(延喜式内社)の分社として明治4年に当地の大谷口に遷宮し、田寺村の氏神として鎮座になった。したがって祭神は高岳神社と同じく、仲哀・応神天皇をはじめ八柱の神々が祀られている。

●辻井遺蹟

辻井廃寺跡地から少し東の田の中から2千年から1万年前の土器・石器が多数発見された。昭和15年、考古学者今里幾次が田の水口付近で約4千年前の仰臥屈葬の男性遺体を発見。この人骨は新聞にも報道され一躍この遺蹟が有名になった。

●辻井常夜燈(光輝)

田寺三丁目道標から古道を南へ、行矢神社の西を経て車崎に通じている旧書写巡礼道と、辻井から天満宮を経て山吹へ行く農道の交差点にある。明治31年に

作られ「光輝」の文字が常夜燈に刻まれている。

●辻井廃寺の礎石

白鳳時代の寺跡で、この石は大きな塔の中心基礎石であり、辻井藤木ノ田の中に残っている。昭和10年頃までは6間四方の草地であった。里道を農道に広げる時、草地の土を利用するため掘り起こした際発見された。

●東山観音堂

東山観音堂は、書写山圓教寺の分流と伝えられ、もとは現在の善覚寺の位置にあったが、善覚寺建立のため大永7年(1527)に東方の東山へ移築し、東光山観音と称して久しく村民尊崇の的となっていた。

●薬師堂

薬師如来像は高さ72.57cmの木造坐像。郷土史研究家の故大貫繁次氏によると室町中期の作といわれる。この像は昔高取山西南端(現唐立団地西上)にあった長尾寺に祀られていた。毎年4月8日れんげの花につつまれた法会が行われる。

●山崎山古墳と地蔵尊

昭和40年頃、市立姫路高校の北側、八丈岩山の西山麓で宅地造成工事を実施中、7基の横穴式石室が発見され、馬具・鉄刀・首飾などが出土した。工事中多くの人骨が出たので工事関係者及び土地の人々は、供養のために地蔵尊を建てた。

●山田荒神社

祭神は奥津彦命・奥津姫命で、火の神として地区の人々の厚い信仰がある。江戸時代後期、天保年間に灯明運動が始まってから約170年間、氏が当番制により毎晩、常夜燈の火をともし運動が現在も守り続けられている。

●山田古墳跡

御立東四丁目38番地(大池台バス停南東約30m)には、畠の中に古墳跡がある。残存する側石から、間口約3m 奥行約5mの横穴式石室であったろうと思われる。

●行矢神社

「播磨国風土記」に、八丈岩山に因達神(射楯神)がおられるから、この山の付近を因達里というところがある。南麓の矢落の人は、この神と南にある秩父山に祭られた兵主神(大汝命)の二神を行矢神社に祭った。

15 高岡地区

●市杵島姫神社

創立年代は明らかでない。素戔嗚尊と天照大神が天竺川で誓約をした時に化生した3神様の1人で鳥に齎す女神。安芸の国厳島神社の祭神は、市杵島姫命、田心姫命、湍津姫命が主神。

●今宿の牛市

神子岡山のふもと、旧山陽道の南側に牛市場があった。記録に出てくるのは明治16年。牛は主に鳥取・九州・四国の農家から集められ市はずこぶる賑わったが、昭和32年を頂点に衰退し、昭和45年頃に廃止された。

●今宿の古城と三味山構

播磨鑑に「今宿に古城有、構よろしきにや、今の姫路の城は今宿の古城の構をうつて、姫路今の大手先は今宿古城の大手先の如しと云」とある。東今宿の北よりに標高30mの東西に長い小丘があり、三味山と呼ばれている。

●江野(永野)

かつては、水量豊富で大井川に流れ、川魚の宝庫であった。現在は、埋め立てられている。

●圓山記念日本工芸美術館

ジャワ島中部の世界最大の仏教遺跡「ポロブドゥール」の研究者で、日本に遺跡を最初に紹介した故井尻進(号・圓山)が、晩年の一時期を過ごした姫路に、平成3年秋、新築開館。圓山の没後25周年・生誕100周年を記念するもの。

●大井川分水堰

明治9年から20年以上にわたった大井川水論和解の分水堰。

●大井の清水

かつては、西国街道を通る人々の喉を潤した。大井川の源流をなす西庄・土山・井の口・町ノ坪の灌漑用水として利用されていた。現在は埋め立てられ公園となっている。

●竈神社

一般に「こうじんさん」と呼ばれて親しまれている当社は、奥津彦神・奥津姫神の二柱の神様が奉祀されている。この二つの神は五穀をつかさどる神として崇められている。大年神の御子神でもあり、各家庭の竈の守護神である。

●上森

昔は底なし井戸といって、子どもたちも寄りつかなかった。現在は埋め立てられている。

●願成寺

船場本徳寺と同じ東本願寺(真宗大谷派)の寺。江戸中期より船場本徳寺の御守役として仕え、明治年間に現在の地に建てられた。薬師山より姫路城下を見わたせる寺として知られている。

●旧山陽道

西国街道・中国路とも呼ばれ江戸時代の主要街道の一つで五街道以外の脇街道ではあったが、重要性の高いものであった。姫路城下を西に進んで、夢前川を渡り青山へと向かう。今も古い町家が点在して、往時の街道筋の名残りをみせる。

●旧陸軍省射撃演習場跡

明治30年の「参大日記」に土地買収の記録があり、おそらくそれ以降につくられた旧陸軍省の射撃場である。終戦とともに廃止され、昭和22年に高丘中学校、同24年に関西電力姫路変電所などができた。

●後気(強気)

かつては土山・八荒寺方面の用水。現在は埋め立てられている。

●西源寺

東岡山西源寺は、天文2年(1533)雲正の開基とされる真宗大谷派の寺院で、船場本徳寺の末寺でもある。現在の本堂は明和申(1764～71)四世恵俊により改築された。また、撞鐘は明治11年八世慧日により新築された。

●西源寺の東山焼燈籠

東今宿の西源寺の境内にある全高225cmの東山焼燈籠。燈籠台部分上方に「法勝寺(六勝寺の一つ、白川法皇御願の寺)の執行役寛僧都自宮の燈籠・」と、燈籠の由来などが記されている。

●JR播磨高岡駅

JR姫新線で姫路駅から最初の駅。昭和5年9月に開業した当駅は鉄軌道としての高岡の玄関口の役割を担っていた。今では交通手段が自動車となり通勤・通学時を除いて乗客は少なく無人駅となっている。

●自照庵

東今宿三丁目に立地する尼寺である。由緒は不詳であるが、現在の建物は天正4年に建立されたものである。

●地藏堂

高岡村今宿(現東今宿)において山名四郎三郎が寺小屋を開き経営した。天保12年(1842)から明治5年まで、この地方の有力教育機関であった。明治初期学制施行までに師弟約千人が学んだといわれている。

●下森

用水は主に西庄・土山の用水。昔は洗濯場として賑わった。現在井戸がある。

●十二の長井戸(十二の井)

丸太で十二に仕切られていたのでこの名がついた。夏、子どもの遊び場で鯉・鮒の宝庫であった。現在は埋め立てられ高岡第1公園となっている。

●昌楽寺と救世観音

書写山園教寺別院の当寺は、寛和元年(985)に播磨国大掾巨智延昌が建立したといわれ、書写山園教寺の開祖性空上人の弟子感阿の作である釈迦如来が本尊であった。花山法皇が二度に渡って書写山に行幸された時、当寺に立ち寄っている。

●新井戸

現在も汲み上げられ、国道より南の用水に利用されている。

●助右衛門

現在は畑地となり痕跡もない。

●善福寺

永平寺を総本山とする曹洞宗の禪寺。慶長3年(1598)に池田輝政の代に家老中村備前守が建立。姫路城の大手門前にあり、武士の禪寺として栄えた。昭和20年の空襲により強制疎開で西尾町に、昭和28年に現在の地へ。

●高岡校区の出水

書写から下流には夢前川の旧河道が残っていて、御立・辻井・今宿・岡田・町ノ坪・玉手にかけて多くの湧水があった。残念ながら現在では都市化の進行で埋め立てられる出水や溢れる出水も多い。

●高岳神社

延喜式(10世紀)に記載された古社。「播磨国内鎮守大小明神記」には、太神二拾四社の中に高岳太神、播磨国内八所明神の郷の宮とあり、安室郷の総社神だった。初め、安室郷新在家八丈岩山「薨が巢」に鎮守されたが、蛤山に遷した。

●高岳神社道標

旧山陽道の西今宿三丁目の公園のすぐ東にある。正面に「式内高岳神社」、左に「北在五丁」、背面に「庚午開年(1870)十月 姫路藩庁」、右に村民30人の名が刻まれている。

●高岳神社社岩

高岳神社のすぐ北の山頂にある高さ10mにもおよぶ大岩。大岩の上の少しくぼんだ所にたまった水が潮の干満と同じように上下するという話が伝わる。また、この岩山やその周辺で蛤の化石が発見されたという。

●治山前井戸

長利田・東の口の農業用水。現在も汲み上げ利用されている。

●長久寺

西今宿にある浄土真宗本願寺派の寺院。

●出口

現在も汲み上げられ、北今宿の南の田の用水として利用されている。

●堂ノ後

昌楽寺東北に掘った井戸で水量も豊富で東今宿の東端を流れ、主に山陽道以南の田畑の用水に利用され、夏は子どもの遊び場であった。

●飛出地蔵と棕の木

承安時代(1170年代)小塩川(水尾川)は度々氾濫した。被害を防ぐため高土堤を造る工事で地蔵様が飛び出たため、飛出地蔵と名づけたと伝わる。堤の流出を防ぐため植えられたのが地蔵の傍らにある棕の木で、樹齢700余年にもなる。

●中畑の井戸

現在北今宿の村内周辺の畑灌漑用水として利用されている。

●名古山

校区の東端に横たわる標高35mの丘陵を総称して栗林山と呼ばれているが、その西端が名古山で、東端を御前山、中の峰を子鞠山という。以前名古山は名故胡山、那古山、名護山の字があてられていた。

●名古山仏舎利塔

名古山には明治時代に入り、日清・日露戦争の死者を葬る陸軍墓地がつくられ、現在でも墓地公園として利用されている。山上にはインドのネール首相から贈られた仏舎利を納める高さ38mの仏舎利塔が建てられている。

●名古山不動尊

京都醍醐寺の末寺で姫路不動講修験所という。今から約1350年前に役小角(えんのおず)が奈良県吉野にある大峯山山頂カ岳(1,719m)で修行したのが始まりとされ、現在、年に五回ほどの護摩供養が行われている。

●名古山弥生式遺跡

名古山東斜面から弥生時代中期末の竪穴式住居跡・土壇墓・壺棺墓等が発見された。中でも住居跡内から出土した装束文銅鐸の鋳型(砂型)は、わが国最初の出土例として学会に大きな反響を呼んだ。

●西今宿地藏堂と力石

観音堂の南に地藏さんがあり、その前に5個の力石がある。その一つに「明治七年二月 当村 八ツ頭勇太郎持之」と刻まれている。

●西今宿の道祖神

西今宿三丁目の旧山陽道南側にある公園の口に、「茶屋の地藏さん」と呼ばれる小祠があり、小さな地藏尊と道祖神が祀られている。この辺は江戸時代に茶屋や宿屋があり、外から来る疫神悪霊を防ぐ道祖神として祀ってきたようだ。

●蛤池

西今宿藤ヶ台、蛤山南麓に位置する。天保5年(1834)3月完成。今宿村(西宿、東宿)共有の池で昭和20年頃まで東今宿も取水していたが、その後、氷室池とともに水利権のみ西今宿に譲り、地権については現存する。

●東今宿薬師堂と力石

薬師増瑞光如来の略称である。また医王ともいわれ右手は施無畏印をつくり、左手は膝の上で薬壺を持つ像が多い。お堂脇には5個の力石がある。

●一つ井(一つの井戸)

昔は子どもの泳ぎ場や鯉や鮒などがたくさん泳いでいた。現在は埋め立てられ高岡第1公園となっている。

●姫路西消防署

西今宿の南、国道2号沿いに立地する。昭和56年に当地に建設されてから、手柄・飾・林田の各出張所を兼ね、所轄する。管内で火災が発生すると道沿いに置かれた大達磨が転び、市民に火災予防を啓発する。

●檜皮(琵琶田の可能性も有)

かつては大きな湧水であった。昔、田家隆盛のころ屋根葺き材の檜皮を浸すために掘ったものでその名とおり檜皮の名がついた。現在の高岡幼稚園あたりで今は何も無い。

●福円寺

真宗大谷派の寺院。開基の宗源法師は俗名中川安右衛門で豊後の浪士だった。寛永2年(1625)に当村に転住し、道場を建立し本山に本尊の下附を願ひ、享保2年(1717)宣如上人より方便法身尊形の下附があった。

●神子岡前髭題目塔と三角測量水準点

神子岡山南麓に、玉垣に囲まれて古びた石塔が建つ。それが題目塔で髭題目(髭題目ともいう)と呼ばれている。題目塔は花崗岩製で延宝9年(1681)の銘がある。江戸初期の古い塔である。入口すぐ右に水準点もある。

●神子岡山

「播磨国風土記」伊和里の条、十四丘のうち、鬮丘に比定されており、波丘に比定されている名古山、髭丘に比定されている薬師山、匣丘に比定されている鬮山(一説に船越山)などがあり、風土記地名説話の中心的な位置を占める。

●村中井戸

現在も汲み上げられ、国道より南の用水に利用されている。

●山吹墓地万霊塔

万霊塔は、万霊塔自体が仏教で有情と呼ばれているところの、この世の中における生命あるものことごとくの霊を宿らせ、この塔の回向することによって万霊を供養することを目的とし、寺院境内、墓地、路傍などに造立されている。

●夢前川

夢前川は夢前町山之内の霊峰雪彦山を源となす。菅生川は雪彦山の南に続く山から流れ、川西で合流し夢前川となる。明暦2年(1656)、姫路城主榊原忠次が洪水防止のため横間川に堰を築き流れをかせ菅生川に合流させた。

●夢前川旧河道と災害時市民開放井戸

高岡校区では夢前川旧河道が今も生きつづけている。自然に湧き出るものは少なくなつたが、地下水は未だに豊富である。現在でも各家庭では日常的に井戸水が使われている。災害時に近隣住民も使える「開放井戸」は50以上ある。

●よから井戸(よからい堂)

現在コンクリート製の蓋がされた井戸となっている。東今宿の墓地用水として汲み上げ利用されている。

16 高岡西地区

●国道2号

古くは西国街道、近世では山陽道、現在は国道2号と時代とともに街道の様相は変わるが重要性は変わらない。旧山陽道に沿って東西に通過する国道2号は交通量が多く、西今宿で東行き、国道2号と西行きの十二所線に別れる。

●下手野地蔵様

下手野町中央に鎮座する地蔵尊は、古くから町民の尊崇の中心で心のふるさとでもある。最初は下手野字宮ノ前40番地、当所地籍7坪実測地籍14坪と大変大きなものであった。昭和16年に来法寺から現在地に移転したと思われる。

●下手野常夜燈

旧山陽道が夢前川にさしかかる旧堤防上にある。ここに夢前川の渡し場があった。下手野村は姫路藩の助成宿場で、御船置場、一里番所、川会所などが設けられ、常夜燈の台石に刻まれている栝棟屋をはじめ9軒の宿屋があった。

●下手野道標

この道標は、下手野の旧山陽道から因幡道・龍野道へと分岐するところに建っている。明和4年(1767)、円光大師二十五霊場の一つである誕生寺に巡礼する者のために建てられ、今宿からつづいた宿場として発達した。

●正行寺

浄土真宗本願寺派の寺院。慶安5年(1652)8月24日良如上人より木仏を下附されたとある。文政3年(1820)、改築普請をしたい旨を大阪御着所宛に願い出て許可されたが、明治2年に降によりようやく施工して現在に至る。

●蛤山

蛤山は、播磨国五ノ宮であった高岳神社が鎮座、盤座としても名高い山である。高岳神社の御神体になっている大岩に蛤の化石があり、鬢櫛山に比定されている。また、鬢櫛山は、石材の産地としても知られ、「播磨産」によれば姫路城築城時の石材はこの山からも採ったという。

●鬢櫛山

「播磨国風土記」の伊和里の火明命にまつわる伝説に十四丘の一つに匣丘があり、鬢櫛山に比定されている。また、鬢櫛山は、石材の産地としても知られ、「播磨産」によれば姫路城築城時の石材はこの山からも採ったという。

●船越山

「播磨国風土記」にある匣丘(くしげおか)は船越山という説もある。梳匣(くしげ)は、古代の女性が櫛や髪飾りなどを入れた箱のことで、大汝命の船が難破して積荷の匣とよばれる化粧箱が落ちた所を匣丘と名づけたと伝わる。

●安室神社

明治12年飾磨郡神社明細帳によると、祭神は蛭子命(中世以降恵比寿として尊崇)。由緒、創立年月日は不詳。境内は483坪で夢見神社(祭神奥津姫命)と富貴神社(祭神倉稲魂命)の二柱があり、その規模は共に方3尺である。

●夢前川

夢前川は夢前町山之内の霊峰雪彦山を源となす。菅生川は雪彦山の南に続山から流れ、川西で合流し夢前川となる。明暦2年(1656)、姫路城主榊原忠次が洪水防止のため横関に堰を築き流れをかえ菅生川に合流させた。

●来法寺

法水山来法寺は、元和3年(1617)10月大圓により開基され、寛文年中(1660年頃)貞照院にしたがい東派に帰した真宗大谷派の寺院である。京都本願寺の末寺である。

17 荒川地区

●荒川神社

荒川神社山麓を齋川が流れていた頃、岡田に水を引く水口にあたる所が井ノ口と言われていた。祭礼日には鳥居道に町坪・中地・玉手・井ノ口の屋台が、北の参

道には岡田・西庄の屋台が入ってくる。狭い通りを屋台が通るのは壮観。

●荒川神社「小玉まつり」(秋祭り10月第3日曜日)

「例祭風流」は、市指定重要無形文化財。6台の屋台、7台の子供神輿が拝殿へ階段登り、お旅所への急坂を繰り出で押し上げる。馬場での練合は壮観で、「小玉を洗う如く」という拝殿からの眺めより「小玉祭り」の名がつけられた。

●大井川分水堰

西北に大井川の分水石、西庄と土山に流れが分かれる。水は田畑を潤し、町内堀治や道治いのせせらぎは住民の心を安らげる。

●大石橋記念石

荒川神社鳥居前の橋を大石橋といい、今の橋は三代目、昔は川幅もせまく大きな石がかかっていた。その石は今、神社階段右の記念石となり建っている。

●岡田北公園

古くから瀧川(すくいがわ)が流れ、湧水が豊富に自噴していた。北の湧水池は、昔子供たちの泳ぐ姿が見られた。今は、親水空間を生かした岡田北公園になっている。南の湧水池は枯涸し、チビツ広場になっている。

●木村興宗寺

木村氏はもと赤松氏の家来の豪族。英賀本徳寺と松原八正寺紛争の折、あつて「英賀本徳寺四ヶ道場」の一つとして興宗寺は起源する。英賀城攻めで戦火に遭い苔纏に移転、後に龜山本徳寺、船場本徳寺に帰参(東派)の寺院となる。

●玉出山善正寺

播磨の真宗寺院でも開創期を最も古くする寺院である。昭和62年に新しく本堂、山門が再建された。玉手周辺は大規模な区画整理も完成し、並木の通りや公園、新しい街づくりが広がっている。

●若清水

裏の里山の伏流水による清水なのか。播磨十水の「若の清水」が当地円正寺の境内にあるが、近頃開発の波が押し寄せ地下水脈も変わったのか、枯れることが多い。

●西庄地蔵石仏(ガチャガチャ地蔵)

南北朝時代の正平22年(1367)の建立、像高90cm。「善為法界眾生願主成西敬白」の刻銘あり。地蔵を西庄裏山の岩場から村中に移したところ、元の所に帰りたいとガチャガチャとゆれて音を出したので元に戻したと伝わる。

●船場本徳寺廟所

東のお山(東本願寺姫路別院本徳寺支坊)、姫路船場本徳寺の廟所である。船場本徳寺は城主本多忠政が寄進創建され、城主の庇護のもと大伽藍に発展した。城内にあった廟所が井ノ口に移され、御山廟所となった。

●善法山円正寺

空海が西庄の西の林間に坊舎建立、善導寺(善法寺)と称し、真言宗を奉じていたと伝わる。その後僧月定の頃、真宗寺院となる。河川改修等で現在地に移転。大正の焼失、再建したが、唐戸や円柱の柱等当時一級の棟梁の心がうかがえる。

●尊清水の地蔵尊

JR山陽本線南、県道水尾川橋の近くにこんこんと湧く清水があったが、河川改修による水位の低下等で、今は涸井となっている。荒川地区は、水に恵まれ、後期縄文遺跡や弥生遺跡が、西庄・堂田(岡田)・東川(玉手)等に見られる。

●玉手湧水

玉手の中央にある大歳神社の湧水。湧水広場を囲んで薬師堂、御蔵、西向地蔵、清水の洗濯場が並ぶ。水尾川には玉手橋、鷹見橋があり、姫路領主の鷹狩り場でもあった。

●中地地蔵

中地の地名は、湿地でもなく乾地でもなく中位の土地であったことに由来する。後ろには手柄山、前面は湿地の多い所であった。南北幹線開通により中地の地蔵さんも西に移された。

●中地天満宮

分離帯の中にある中地天満宮石碑、神様は東に移されて公園で遊ぶ子供達を見守っている。

●町坪五輪塔

南西部の田畔に五輪塔が見つかり、復元されている。天正8年(1580)英賀城合戦の際に討死した町坪弾四郎の埋骨立塔跡と思われる、今も供養の香花が続いている。

●付城山古墳

荒川地区にも古墳が多い。井ノ口、苔編池、苔編宮山、伯母ヶ谷古墳そして付城山群集古墳、この付近で農業を行っていた集団の頭の墓であろう。西苔編向山の山麓にあり、いずれも円墳、横穴式石室で開口され、遺物は残っていない。

●土山地蔵盆 土山水分地蔵石仏

水分地蔵と呼ばれ善宗寺の門前(新しい自治会館の向かい側)。明治30年大井川の水利をめぐる紛争解決を記念して建立されたもの。その記録等が内蔵されていると伝わる。

●土山八幡神社秋祭り

境内には保存樹「くすの木」が枝を広げる。例祭(百膳祭)では子供神輿が境内を華やかに巡る。昔はドンコ祭と言われ、夜には「仁輪加」といって素人役者が演ずる芝居が人気だった。また、神社南30mの場所に石の大鳥居があった。

●土山八幡神社大橋

土山は、荒川地区の最北、十二所線の南側に位置する。南の川筋には蒲葺が生え、流水湧水が豊富で、各所で洗濯する姿がみられた。今では昔の面影は各家に入る橋の多さから僅かに偲ばれる。

●苦道国主神社(秋祭り10月第2日曜日)

主神の苦道大神はこの地を開発し経営した地主神で、往古より鎮座されていた。お旅所からは播磨灘が一望でき、絶景である。秋の一日、苔編、西苔編の住民が集い、屋台を練り上げる。急坂、階段あり、眺めの良さを楽しまれている。

●苔編山を望む

県道、JR山陽本線より北側、山の縁に抱かれて竹やぶが民家にせまる中央部に興宗寺。その上石段を登って苦道国主神社の緑青の屋根が美しいそりを見せる。現在区画整理もすすみ、大変貌を遂げようとしている。

●東岡田・手柄マンション・第1・2県住

水尾川沿いに新しい住民のコミュニケーションが生まれている。

●佛日山法輪寺(秀吉ゆかりの湯沢山茶くれん寺)

寺の由来は平安時代にさかのぼり、江戸期に妙心寺派佛日山法輪寺となる。英賀城攻めの時、平侍の格好で立寄り茶を所望した秀吉に茶を出そうとせず、のちに正体を明かした秀吉が、湯沢山茶くれん寺と寺号を与えたと伝わる。

●水分地蔵

戦国時代には英賀城の出城だったといわれる町坪構居のなごりがあり、堀石も残る。また、町の中央部には湧水があり、地蔵様が水の中に安置され、花が絶えない。夏の盆踊りには会場まで運んで講が行われ、町民に崇拜されている。

●室街道常夜灯

室津から姫路城下に至る室街道が通じていた。そんなに広い道路と思えないが、大名行列も通ったと思われる。その面影が町坪西川の川筋(現在は暗渠)にあり、常夜灯籠が建っている。

●薬師山善宗寺

もと、「瑠璃光山薬師寺」と称し、今宿の薬師山上にあって、真言宗の寺院であった。文明年間(1469~87)に住僧祐玄が、蓮如上人の弟子善宗に師事し真宗に帰依、「薬師山善宗寺」の起源となった。

●四ッ池を望む

苔編山東に苔編池、高町池、玉手池、町坪池がある。散策、ハイキング等が楽しめる。

18 手柄地区

●飯田恵美酒神社

嘉吉元年(1441)、西宮神社から勧請したもの。

19 城陽地区

1 地域夢プランの歩み
（はじまりからこれまで）

2 地域夢プランのかたち
（取組の類型化）

3 地域夢プランのとなえ方
（検証と未来へのアプローチ）
（1）「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとなえ方
（検証と未来へのアプローチ）
（2）地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
（地区からの情報発信）
（1）地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
（地区からの情報発信）
（2）地域資源の概要

一龜山駅一飾磨駅一飾磨港駅。昭和 61 年 10 月 31 日廃線。

●小山遺跡

船場川の東に広がる縄文晩期から弥生時代にかけての遺跡。周辺には、橋詰、黒表、長越など多くの遺跡が連なる。

●三和(さんな)寺

臨済宗妙心寺派。薬師堂の本尊薬師如来坐像と十一面観音坐像は恵心(1673～81)僧都源信作と伝わる。作風からは鎌倉後期の作か。延宝の頃(1673～81)、綱干龍門寺の盤珪和尚の高弟祖什の再興。

●山陽中学校

昭和 22 年 4 月発足。本部を手柄小学校(亀山女学校跡地内)に、手柄・荒川・城陽の 3 小学校に分校を設ける。昭和 23 年 6 月、第 1 期工事が完了し、本部を現在地に移転。昭和 26 年 9 月、全生徒を本校に統合。

●親鸞聖人絵伝

絹本著色。四幅。永正元年(1504)、英賀本徳寺の常什物として、本願寺九世実如上人より下附されたもの。

●袖ぐみ地藏(手柄)

「播州名所巡覧図絵」や「播陽うつつ物語」などの書に見える。

●力石(栗山)

法円寺に、昔の若者が力を競った「力石」がある。「片手留」と刻字。栗山町公民館にも残る。法円寺の山門には、飾磨宮町の彫刻師・二代目松本義廣の唐獅子の彫刻がある。安田の浄円寺にも、彼の作品がある。

●手柄小学校

明治 6 年、東延末の法専坊に「飾術学校」の名で創立。明治 27 年から生矢神社境内にあり、昭和 20 年 7 月空襲のため焼失。亀山女学校跡地での仮寓の後、昭和 25 年現在地に移転。昭和 26 年全児童が新校舎へ。

●手柄山

標高約 50 米。三和山とも言う。大永年間(1521～28)には、三輪法泉が手柄山構居を置いた。江戸時代に、刀鍛冶が居住し、作刀した。手柄山氏家が著名。「播磨国刀匠顕彰碑」がある。

●手柄幼稚園

手柄村村長飯塚六朗の提唱で、明治 40 年に「幼稚園」発足。この後、手柄教育後援会長飯塚園治の発起で、昭和 17 年私立姫路市手柄幼稚園が発足。空襲により休園したが、戦後の昭和 22 年に再発足したもよう。

●頼田(ともだ)神社

安田の氏神。祭神は市杵島姫命。往時、頼田川の氾濫で、桑原村(西中島)から漂着した御神体を祀ったものという。

●姫路中央卸売市場

昭和 32 年 10 月 20 日、姫路市が設置者となり、全国で 15 番目の中央卸売市場として開設された。敷地面積 5 万 8,400㎡。

●法専坊(東延末)

蓮如上人の意を受け、英賀に本徳寺を創建した下間空善の隠居寺。播磨六坊の一つ。境内に「本州以西浄土真宗開教霊場」の碑文あり。明治 6 年、手柄小学校の前身の「飾術学校」が置かれた。初代校長は、同寺の住職、下間空澄師。

●沢沢

往時、「姫が淵」と呼ばれ、戦前までは「鯉の釜」と言い、鯉が多く泳ぎ、子供たちの水遊びの場であった。

●夜啼(よなき)地藏

応仁の頃、父を殺され、母を連れ去られた乳飲み児が夜な夜な母を恋しがって泣きやまなかったが、母の尊んでいた地藏に助けられ、乳を呑んだという。乳の導かない婦人の参詣者が多かった。

●生矢神社

主祭神は大己貴命(大国主命)。飯田、亀山、手柄、栗山の氏神。神功皇后の三韓出兵の際、麻生山から放った三本の矢の一つが落ちたところ。平清盛が飯島への往還の際、霊夢に感じ、「生屋大明神」の神号を奉る。

●慰霊塔(太平洋戦全国戦災都市空爆死没者慰霊塔)

昭和 31 年 10 月建立。不戦の誓いを込めて、剣を逆さまに突き立てた造形。

●大年神社(東延末)

延末三町の鎮守社。祭神は大年大神、君田大神他。延末村の豪農三輪嘉右衛門により、現在地に移転。境内に手柄村第九代村長・田中泰造翁(明治 44 年～昭和 11 年在職)の顕徳碑がある。

●青山神社

祭神は天照大神他。元禄 14 年(1701)9 月、姫路城主本多政武(忠国)が、姫路城の裏鬼門を守るため、社領八石を寄進して創建。元禄 14 年銘の水盤あり。青山は、「播磨国風土記」の「冑丘」にあたる。

●亀山女学校(霊亀高等小学校)跡

明治 22 年、手柄村初代村長飯塚六朗氏等の努力により霊亀高等小学校(私立)創立。校名は、亀山本徳寺の山号「霊亀山」にちなんだもの。元衆議院議長清瀬一郎氏も学んだ。その後、大正 13 年、亀山女学校創立。

●亀山本徳寺

蓮如上人開基。浄土真宗本願寺派。「亀山の御坊さん」の名で親しまれる。天正 8 年(1580)の羽柴秀吉の英賀攻略後、秀吉から三百石の寄進(寺領宛行)を得て、同 10 年に、英賀から亀山に移る。

●亀山本徳寺 大広間

書院造り。17 世紀前半の建立。平成 8 年、天井画が 275 年ぶりに、新しく寄進された。

●亀山本徳寺 鬼瓦

銘によれば、「永禄九年八月二十七日、三木宗大夫入道慶栄」の奉納。箱書には、「英賀御堂古瓦。天明六年六月依仰御蔵入」とある。今、大広間にある。

●亀山本徳寺 迦藍内建物十四棟

大玄関、大広間北殿、表書院、奥書院、内道場、鼓楼、茶所、蔵二棟、長屋及び雑庫二棟、米蔵、芝倉・北門・長屋扉、中の門が残る。姫路城から移築されたと伝わる鼓楼が最古の建物で、寺伝によれば、天正 8 年(1580)建立。

●亀山本徳寺 経堂

唐様。中央に八角輪藏を置く。享保 11 年(1726)の建立。

●亀山本徳寺 庫裡

切妻造り。延享 4 年(1747)建立。

●亀山本徳寺 大門

飾磨街道に向かって東向きに立つ。一間一戸四脚門。切妻造り本瓦葺き。宝永 6 年(1709)の建立。平成 12 年に大修理。

●亀山本徳寺 中宗堂

蓮如堂とも呼ばれる。本堂とともに、幕末に焼失したが、明治 31 年に再建。建築様式が珍しく、現存例が少なく、「造形の規範となるもの」として、国登録有形文化財となっている。

●亀山本徳寺 梵鐘

永禄 9 年(1566)、飾西郡飯屋村の三木宗大夫入道慶栄が母の十七回忌にあたり、英賀本徳寺の常住鐘として寄進したもの。作者は、芥田氏を中興し、播磨鑄物師惣管職にあたった野里の芥田五郎右衛門家久。

●亀山本徳寺 本堂

浄土真宗本願寺派。「御坊さん」の名で親しまれている。慶応 4 年(1868)に、火災により、本堂及び蓮如堂を焼失。西本願寺北集会所の建物を移築したのが現在の本堂(妻入りが珍しい)。柱には新撰組による刀傷が残る。

●旧飾磨港線跡

「飾磨港線」は通称で、播但線の一部。姫路一飾磨間 5.6km が明治 28 年 4 月 17 日に開業。亀山駅は同 30 年 12 月 1 日に開業。姫路駅一(一時、豆腐町駅)

●阿保遺跡

縄文末～弥生時代の土器や石鏃などの遺物と奈良～平安時代初めにかけての遺物・遺構が見つまっている。奈良から平安時代初めの遺物には須恵器の円面胡や役人の使用した石帯の飾りなど官制的なものが多く含まれていた。

●阿保神社

字宮前に鎮座。祭神は天照皇大神。「播州神社考」には祭神として「天照皇大神、品陀別命、天兒屋根命、伍堂社」が記されている。創建年代や由緒は不明。明治 7 年 2 月には村社に列せられている。昭和 47 年改築。

●阿保墓苑阿弥陀如来石仏(阿保乙)

阿保墓苑入口にある、丸彫りの阿弥陀如来(仏高 160cm)。蓮華座の正面には「南無阿弥陀仏」「総骨」と、背面には「天保二辛卯年三月建之」と「和泉町油屋嘉兵衛」「呉服町 馬場氏」など 8 名の建立者名が彫られている。

●宇賀神社

祭神は宇賀ノ魂神。名は昭和 4 年の大改修時に鳥居の扁額に挙げたもので、登記上は稻荷神社。「村翁夜話集」には「稻荷社 中阿保村氏神 村中持」とある。阿保(英保)の名は「播磨国風土記」にも見え、早くから開けた地域である。

●春日神社(豊沢)

「播磨鑑」によれば「八木春日」といい、神功皇后が麻生山に御座の時、大己貴命に告げて八木杉を生えさせた。寛和 2 年(986)、巨智延昌が勧請して祀ったと伝わる。「播州名所巡覧図絵」に「春日明神」として紹介されている。

●光徳寺

開基は善准。明応元年(1492)建立。播磨六坊之記録(宝暦 8 年・1758)などに由緒が記されているが、真偽は不明。元禄年間(1688～1704)に南町(飾磨津門)へ移り、伽藍建立。昭和 20 年の空襲で焼失。戦後阿保で再建。

●虚無僧塚と人身御供神社

北条天満宮から三宅八ノ宮の敷に住み、田畑を荒らした八ツ目イタチを虚無僧が退治したことにちなむ「オトウ」と称してくじで男女を決めて神に詣でる人身御供神社が明治末年まで残っていた。参道入口に虚無僧塚の石碑がある。

●三左衛門堀(現外堀川)

慶長年間、池田三左衛門輝政が、姫路城外堀と飾磨津を結ぶ運河として掘り進めたもの。未だだが輝政の名に因んで三左衛門堀と言われる。

●地藏石仏

薬師堂西の道端の祠に祀られている。丸彫りで坐像。弘化 4 年(1847)建立。蓮華座下の台座に「北条村念仏講中」「本願主 智誠尼」と彫られ、尼僧智誠を中心とする北条村の念仏講の人々が建立したものであることがわかる。

●浄専寺

浄土真宗本願寺派。慶長 11 年(1606)、専久によって開基。慶応 2 年(1866)火災で焼失。明治 6 年、延末村の浄福寺の本堂を買い受けて再建。昭和 20 年姫路大空襲で再び焼失するが、昭和 36 年に再建。

●庄田天満神社

祭神は菅原道真。本殿は一間社流造。「村翁夜話集」に神社名が記されている。明治 7 年に村社に列せられる。毎年 10 月第 2 土・日曜日には、秋季例祭が行われる。

●顕徳碑

戦災復興の顕彰碑。昭和 36 年建立。昭和 20 年の姫路大空襲で庄田も焼け野原と化したのが、町内会長を中心に町民一同が協力して、道路の改修や新設、共同浴場の改築、天満神社再建、浄専寺再建などに取り組んだ。

●南条大年神社

祭神は、穀物守護の大神。本殿は、一間社流造。「村翁夜話集」に「妙見大明神社霊八大白星」と記されている。明治初年、大年神社と改称。

●如意輪観音石仏

北条農区事務所北西に「如意輪観音石仏」2体が祀られている。1体には、正面に「文化二年 南無観音菩薩 丑正月建」、側面に「施主 当村中 観音講中」とある。もう1体には刻銘がない。

●刃の宮地蔵

「播磨鑑」によれば、刀匠三条小鍛冶宗近が宇佐八幡宮に向かう途中、夢で「神剣を松原神宮に奉納するよう」と神託を受け、神狐孫太郎と共に小剣を作り、松原神宮に奉納。宗近がここで果てたので、地蔵を安置して祀ったという。

●北条天満神社

祭神は菅原道真。由緒等是不明だが、池田輝政より高五石を寄進された墨印状や応仁2年(1468)に北条村が広峯神社領として寄進されていることから、神社の創建は古いと思われる。参道の烏居は寛文4年(1664)建立。

●法專坊(北条)

真宗大谷派。寛文8年(1668)、空全によって開基。亀山本徳寺の東本願寺派への改宗をめぐる紛争の時、西本願寺派に止まり当地に寺を建立。その後東本願寺派となる。

●薬師堂

地元では、「乳真い薬師」とも呼ばれ靈験あらたかな名刹として信仰を集めていた。昭和20年の戦災で焼失。同44年に有志によって再建。お堂の前には「豊公馬薬松跡」の石碑が建立されている。

20 曾左地区

●石原大三郎邸

明治5年7月戸長制実施。副戸長のち戸長となる。また県会議員にも当選。同22年5月市町村制実施。節磨部曾左村初代村長となる。連続4期その職にあり、地方自治の発展に尽くす。

●稲荷神社

この地区の守護神であるという。書写山麓の東坂本の集落をほぼ見渡せる地にあった。中央のムクヤツバキの常緑樹の下に小さな祠がある。昭和になってからは、7月15日に八王子神社の湯立祭の終了後、稲荷神社祭が行われている。

●醫王山安養寺(観音寺跡)

天禄元年(970)性空上人開基、本尊は薬師如来。花山法皇、後醍醐天皇も書写山行幸の際に一時滞在されたと伝わる。明治25年に、もと建雲山観音寺跡に村内にあった安養寺の薬師堂も合祀し、現在に至る。

●梅宮熊吉氏謝恩碑

節磨県時代の書山小学校第1回卒業。後に母校の第4代校長となる。また、田井稲荷社の社掌や日吉神社、八王子神社の社司など地元神社の神職も務めている。

●大森稲荷神社

祭神は倉稲魂大神。「田井の大森さん」と親しまれている。寛延の大水害まで、この社の周辺に田井の集落があったのが、古屋敷の字名の起こりであろう。境内のムクノキとエノキの古木は市の保存樹に指定されている。

●御車寄跡

花山法皇や後醍醐天皇が書写山行幸の際、車駕を駐蹕された屋敷跡。播州書写山一見記に「四辻田邊車屋敷ト号ス」とあり四面を瑞籬で囲んだ基壇が存在した。昭和10年東坂青年会が発起して駐蹕碑を建立した。

●川口木七郎邸

明治29年県議会議員当選以来、同35年から大正6年まで4期衆議院議員として県政・国政の中心に在った。明治33年のパリ万国博の兵庫県総代として渡欧。三十八銀行取締役を歴任するなど政治経済界でその名を馳せる。

●川治い桜並木(夢前川・菅生川川岸)

昭和40年代から曾左地区の東西を流れる2つの川岸に植えられた桜が、地域の人々の世話の甲斐あって、今では市内でも有数の桜並木に成長。花の時期には毎年大賑わいを見せている。

●県立大学姫路書写キャンパス

昭和45年4月に県立姫路工業大学として伊伝居から移転。平成17年度から県立大学の統合に伴い、姫路書写キャンパスとして工学部・工学研究科を設置して人材の育成と学問・研究の府として活動している。

●県立大学前板碑

床板峠崖壁面にある地藏尊の傍らに立っている。「釈迦如来」「薬師如来」「阿彌陀如来」それぞれの種子(しゅじ)と「康永四季四月」の記銘が刻まれている。

●西国橋

県道石倉・玉田線で、東坂と西坂の境の書写川に架かる小橋。西国巡礼に因んでつけられた橋名であろう。

●坂本城跡

平城で別名を堀之城または御構御所ともいう。城の規模は堀を含めて180m四方の大きさと考えられる。応永29年(1422)赤松満祐が播磨支配の拠点として築城。赤松山中心の時代、播磨支配の構居としていたとも考えられる。

●山王小路

横大道を通り、西坂本の集落に入ると、地藏堂があった。そこをまっすぐに書写山に向かって山王小路があり、日吉神社、西坂本登山道に通じている。東坂本の立丁筋と同様である。

●椎名麟三・旧家

明治44年10月1日東坂生まれ。本名大坪昇。戦後「深夜の酒宴」でデビュー。自伝的小説「自由の彼方で」や「美しい女」「永遠なる序章」は戦後文学の傑作とされる。晩年、故郷のミュージカル「姫山物語」を執筆・演出。

●紫雲山定願寺跡

応永33年(1426)書写山鎮増和尚の建立。嘉吉元年(1441)に起こった嘉吉の乱では、赤松満祐が足利直義の孫、冬氏を将軍に奉戴し定願寺に迎え「蘭原御所」と称した。本堂は加古川の念仏山教信寺に譲渡され現存する。

●書写山・圓教寺

康保3年(966)、性空上人が開いた天台宗の寺で、盛時は山上に170ほどの院や坊があり、天台宗三大道場の一つであった。天皇や貴族も訪れ、西国第27番の観音霊場でもあり重要文化財が多く、境内は史跡に指定されている。

●書写山ロープウェイ

昭和33年3月に開通。複線交走式索道で、3分50秒で最大71人を乗せて運行。標高371mの山上には西国第27番礼所の圓教寺、山上駅の近くには椎名麟三の文学碑があり、書は友人で「太陽の塔」作者の岡本太郎。

●書写の里・美術工芸館

書写山の東麓にある。竹林に囲まれてアーチを描く瓦屋根と朱の柱が美しい閑静なミュージアム。昔懐かしい郷土玩具、伝統工芸品のほか、六角出身で東大寺管長であった清水公照が制作した泥仏・書画・陶芸作品等を展示。

●菅生台フラワーロード

地域の人たちの手で造られ維持されている道端花壇。四季折々の草花が道行く人の心をなごませている。

●太子堂(大土堂)

山王社大山昨神の分神を迎え大山昨神の本地仏、薬師如来の名に因み薬師堂と称していた。のちに山王大師を合せ祀ったのを機に太子堂と改称された。ここでは毎年5月23日の山王祭に圓教寺僧侶による法儀が執行されている。

●立丁

立丁は村を構成する丁組織の一つである。書写山に向かう道筋に縦に連なる家々の結合した組織が立丁であり、中世に環濠集落を形成していた頃から見られる。神仏の祭祀・葬祭のため、今日まで維持されている。

●丹後道

書写山に詣でる参道は6本ある。「播州書写山一見記」に「置塩坂 東北二在り 置塩ヨリ登ル。丹後国成合(相)へ通ル巡礼坂ナリ」とあり、丹後道は通称置塩坂ともいう。いずれも性空上人に会って結縁するため踏み固められた山道。

●長涌山福泉寺跡

天神山麓に黄葉宗の寺院・長涌山福泉寺があった。

境内に、もと書写西坂の氏神である村社・天満宮と釈迦堂があった。元弘の初め赤松山中心の再建。近くには名水の湧く泉があり、羽柴秀吉が姫路在城の時、茶の湯に愛用したと伝わる。

●露天満宮

創建年不詳。慶長6年(1601)「池田輝政公御検地明細地図」と付箋のある絵図に、天満宮が書写山東麓に描かれている。明治4年4月の記録には、東坂本村氏神と記されている。祭神は菅原道真。

●天神山古墳

天神山南西尾根上に築造された全長約40mの前方後円墳。上下二段の石垣状の列石が後円部をめぐる。すでに盗掘され石室の石材が散乱している。

●天神山城跡

「赤松家播磨作城記」に「大河内越中守実泰が天文年中これを守る」、「天神山福泉寺縁起」に「此の山の峰に遠見の櫓を設けて四方を見給うに街道は此の山より十四五丁下で東国四国の軍勢の往来有々と見え云々」とある。

●天王道・横大道

天王道は、古くは広峯神社にその端を発し、白国・北平野を通り御立を経て、書写山麓坂本に出て床板を通り六角へ通じていた古い因幡道の一部。横大道は、姫路町から夢前川を経て書写山麓に至る姫路道から分かれた巡礼道。

●砥石坂

東坂本書写山参詣登山道で九丁あたりを砥石坂といひ書写山十景の一つで風光絶景。女人登山の境界として退火碑石があった。碑石は行方不明だが、台石は坂の中腹にある。武蔵坊弁慶が金属を研いで縫い針を作った話が伝わる。

●東洋大学附属姫路高校

120年以上の歴史を持つ東洋大学の附属高校として、昭和38年4月に開校。以後、「自立・友情・英知」を校訓として発展し、大学各学部への進学や部活動での全国大会制覇などの実績をあげている。

●八王子神社(書写)

書写山の性空上人が廣峯神社の分霊を書写山鉢ヶ坪に迎え王子権現と称した。祭神は素戔嗚尊と八柱御子神(五男三女神)。天正年間(1573～92)、神々は東坂の神籬(ひもろぎ)の空間に社殿を構え遷座した神社である。

●発宕山善福寺

天文元年(1532)順正の開基、本尊は阿弥陀如来。慶長6年(1601)慶長検地絵図には「字古屋敷」に「道場」が描かれ善福寺の前身であることが分かる。寛延元年(1748)の暴風雨で流失した田井村の集落移住とともに移転した。

●日吉神社(書写)

性空上人が比叡山の守護神・山王権現の分霊を迎えて書写山の鎮守とした。長和年間(1012～17)、この神々を慶雲上人が社を創建して奉斎、山王七社の神々の本地仏(三聖四菩薩)に倣ひ、三聖堂あるいは山王社と称した。

●福寿山圓蔵寺

寛和元年(985)圓正開基の古刹で、本尊は如意輪観世音菩薩、往古は大年神社と共同関係にあり、別当寺を務めたという。

●補陀落山如意輪寺

長保4年(1004)書写山開祖性空上人開基の古刹で、本尊は如意輪観世音菩薩半跏像。応永5年(1398)書写山は女人禁制となり、心空慈傳上人は同寺の傍らに女人堂を創始、女人巡礼の札所とした。

●傍示石

書写山嶺東坂本村と姫路藩領(西坂本村・田井村)との間で、夢前川河原の新開を禁止する東限に設けた石標。東坂・西坂・田井の立会いの検分が済まないとも、新開田の田植えは出来ないうしきたりがあった。現在も検分が実施されている。

●法華堂跡

西坂本南東で西国橋を少し下った四国道(巡礼道)の道端に法華堂(毘沙門堂)があったと伝わり、地域では俗に「ふるみや」「法華堂」と呼ばれている。その付近に大年神社が建立されていたが、後に日吉神社に合祀された。

●摩尼山寶聚寺跡(書写字川ノ丁)

古記録によると、坂本川ノ丁虚空蔵山南面にあり、茂

利寺と共に坂本の二大古刹と称された圓教寺末寺である。後に荒廃し詳細は不明だが、明治42年当寺の本尊虚空蔵菩薩は如意輪寺に合祀された。

●満願山茂利寺跡

天平年間(729～49)行基の開基した古刹。書写行幸の花山上皇も一泊されたという。明治42年、如意輪寺に合祀された。

●猿尾神社

西坂本の大年神社の氏子であった田井の村民が、明治8年一社を創建し、田井村の氏神とした。大年大神・大山咋大神・倉稲魂大神の三神を合わせ祀る。この神域は書写1番地となっている。

●無量壽山阿彌陀寺

長久2年(1041)書写字西ノ口に養養が開基。本尊は無量壽如来。応永5年(1398)兵火で焼失。室町幕府4代將軍足利義持が、赤松義則(則村の孫)に命じて小河玄助に再建させた。

●不焼地蔵堂

書写山蓮東院の地蔵尊が移され、弘治2年(1556)に建立。東坂本の大火に焼損を免れたという奇譚から、不焼地蔵と尊崇されている。堂の脇に常夜燈型の道標がある。

●山岡神社

山岡神社の祭神は宇迦之魂神で、植物の神、ことに稲の神とされる。京都伏見の山岡神社を勧請したといわれている。隣接地に日吉神社の御旅所があり子ども達の絶好の遊び場所であった。

●床坂

東道の六角と西坂間の峠。「播磨鑑」に「書写山西坂本村之西 いささ王鹿ノ頭也 只粟より沖の方への通ひ 今福中村姫路ノ地ナリに 鹿力坪有 休所坂本西坂本西ノ方云々」とある。床坂は鹿が壺に通う伊佐々王の休憩所だったという。

●夢前川書写井堰

西坂・田井・東坂の三ヶ村共用であるが、西坂・田井は姫路藩領、東坂は書写山領であるため、用水配分をめぐってしばしば激しい争論・訴訟を繰り返した歴史がある。特に、天保13年(1842)の水争いは有名。

21 白鳥地区

●齋神社

齋(いつき)神社は、実法寺と町田の氏神。「飾磨郡誌」によれば、昔播磨一の宮の伊和神社の分霊を総社に勧請した時、ここで休んだことから、後年に分霊を勧請して祀った。門は安志藩陣屋(安富町安志)の大手門といわれ明治初期に移築。

●大歳神社(飾西)

書写川東岸の山麓にある飾西の氏神。飾西宮山を鎮守の森として飾西の里と共に守られてきた。宝暦10年(1760)の石灯籠、文化10年(1813)の石鳥居などがある。平成12年全面改築。

●笠寺

播磨大様の巨智延昌は、寛和2年(986)と長保4年(1002)、花山法王の書写山御臨幸に供奉し、圓教寺の性空上人に深く帰依し、この地に当寺を建立した。当初、薬師堂は長池の所にあったが、江戸時代に現在地に移った。

●観音堂

黄檗宗の寺。境内の大師堂には四国八十八箇所の霊場の第1番・第44番・第88番の三体の地蔵を勧請して、お堂を造り祀る。また、実法寺廃寺跡といわれ、この辺り一帯に七堂伽藍の大師があったと言われていた。

●北向地蔵尊

年代は不詳であるが、因幡街道の石倉より飾西に至る峠道に、古くからこの地蔵尊が祀られていた。国道29号として拡幅された時、このお地蔵さまを池の側まで移転した。4月24日と8月24日に「地蔵祭り」を行っている。

●顕正院妙見堂

大歳神社の北にあり、妙見大菩薩を祀る。文政年間(1818～30)に飾西本陣の中山助太夫がこの寺を開き、息子が本堂を建立と伝わる。境内に寛政6年(1794)に建てた題目塔があり、助太夫が母の菩提

を申う為の墓石や代々の廟がある。

●荒神社

実法寺の地神で「竈(かまど)神社」と呼ばれ、火災を防ぐ神様として敬われてきた。拝殿に伊勢へ参宮した人達が明治36年に奉納した「七福神図」がある。社の裏に赤松氏の家臣川口三郎太夫と助四郎主従の五輪塔がある。

●飾西本陣

「飾西」は江戸時代初期ごろから、因幡街道の駅場(宿駅・宿場)として繁栄した。播磨地方を測量した伊能忠敬の一行が文化10年(1813)に飾西本陣並びに内海屋才助に止宿したことが「伊能日記」に残る。現在は、本陣門構えと書院一棟が残る。

●実法寺の四至

四至勝示ともいい、所領地域の東西南北の境界を示し、その四圍に石などで境界を限ったもの。西北は、六角村との境、書写川の地に、北東は宇東山の地にある。東南は、書写川を渡った字伊淨寺の地にあり、南西は現存しない。

●菖蒲山実法寺

菖蒲山の名は、実法寺一帯に菖蒲が生じていたことによる。慶長年間(1596～1615)の創建で、伯母山の麓に本尊の十一面観音を安置していたが、享保年間(1716～36)に現在地に移したという。この門前に発達した村であるので実法寺村といった。

●白鳥橋居跡

「播磨鑑」に「白鳥橋居」餘部郷ヲ領ス 領主ハ小國大炊助頼福 源頼光ノ男頼國ノ末也大永ノ比ハ小國播磨ト云とある。実法寺北西の橋に周囲に堀をめぐらした館があった。堀は埋められているが、今も古の姿を留める。

●水利疎通紀徳碑

江戸時代に新田を開発してできた川西新村は、灌漑用水が不足していたので、中島惣八と長谷川重次郎の二人が、2年の歳月をかけて明治2年に北の田井から水路を開いた。その徳を記念した顕彰碑である。

●田守神社

書写川を渡った東の山裾にある町田の氏神。町田は元一橋大納言の領地であったと言われ、「姫路町名考」によれば、一町の田があったのでこの名となった。嘉永5年(1852)の石燈籠に牛頭天王社・田守大明神の銘文がある。

●寺谷山真光寺

天文3年(1534)教順の開基にかかる浄土真宗本願寺派の寺院。当時は想(そう)道場として実法寺西部の寺谷にあったが、正保年間(1644～48)に現在地に移転。元禄5年(1692)本山より本尊を下付され、寺号を真光寺とした。

●道標(飾西)

白鳥小学校の西(飾西・町田 字界)にある。「右ひめぢ 左 書写山」と刻まれている。

●道標(町田)

白鳥小学校の北西(町田)にある。昭和4年造立。

●長池遺跡

長池の底から、旧石器時代の横割ぎ形のナイフ形石器など出土した。古くから農業用水として重要視された池である。現在はJR車両基地として変貌したが、上池・下池とあり、蓮池として夏になると見事な花が見られる。

●東山遺跡・高貴山遺跡

弥生時代中期の高貴性集落を代表する遺跡である。東山遺跡からは、弥生式土器の他に石斧や多量の石鏃が出土し、高貴山(鷹山)遺跡では、宇溝が確認されている。なお、高貴山には、くま鷹が今も生息しており、鷹山と呼ばれる。

●武大神社

川西の氏神で、かつては牛頭天王社とも言われていた。この村ができた頃、広峯神社から分霊を勧請したと言われており、現在の社殿は文政5年(1822)組頭直右衛門等が再建したもの。祭神は素戔嗚尊といわれている。

●弁天さん

池の中に鎮座し、御神体は秘仏とされ、厨子の中には龍神さんに従えられた観音様だと言い伝えられる。明治中期、村内各所の小さな神社を、齋神社境内に移した際、弁天様だけは池を離れ難く、現在地に留まる。

●夢前川改修記念碑(川西台)

書写川と夢前川の合流点にある石造のモニュメント、姫路市夢前川整備事業の記念碑「ゆめさき・無限への指標」である。この事業は、22年の歳月と83億円の巨費投じたわが国でも例をみない雄大な構想の開発事業だった。

22 青山地区

●浅陰沼

福岡神社北西の山麓はかつては沼であった。今は埋め立てられて児童公園の一部になっている。「播磨古跡便覧」(寛延3年)には「浅陰ノ沢」とある。柿本人麿の歌や伝説が残る。「浅陰の譚」は柿本人麿が植えたとの伝説あり。

●稲丘・福岡神社

稲丘は「播磨国風土記」の14の丘の一つ(稲牟礼丘)。祭神は豊受姫大神・射日崎明神とあり、射日崎明神は「日本三代実録」貞観10年(868)の条に見える国史見在神。当社より北方に祀られていたが、のちに福岡神社に合祀された。

●遠地ノ風鐘

この寺の鐘か、山麓北の堂山(遠山)の法灯寺の鐘か、青山の住民も青山八景をつくった姫路城主榊原忠次も野辺の風によってひびく鐘の音に、豊かな風情を感んだことであろう。

●「お陰参り図」絵馬

福岡神社の日本殿を転用した絵馬殿にある。伊勢参り一行や青山の遠景などが描かれる。文政13年(1830)奉納。県指定文化財。ほか延宝3年(1675)の神馬図、天明2年(1682)の境内図、同3年合戦図などがある。

●歌書ガ淵(青山八景一其の二)

福岡山の東山麓。夢前川を正面にうけ、突出した岩が川の氾濫を堰き止め、岩の下辺りは淵となり、この地を歌書ヶ淵という。和泉式部が書写山の性空上人を訪ね、青山に住み、岩に腰掛け歌を詠む。「腰掛け岩」[米洗い石]がある。

●義舎ノ夜雨(青山八景一其の五)

自然に恵まれた青山。江戸時代、幕府直轄領・一橋領で強い権力をもっていた村の庄屋跡。門前に碑がある。

●旧山陽道の道標(青山)

旧山陽道と東道724号の交わる角に在る。安政2年(1855)建立。高さ2.13mで市内最大級の道標。「右 因州・伯州・作州・雲州。左 備前・九州。東は姫路・大坂・京・江戸」とあり、さらに距離を表示。市指定文化財。

●旧山陽道街並と教専寺

青山を東西に旧山陽道が通る。街道沿の古い街並風景は、格子の縁や馬避けの跡などが途切れ途切れだが残っている。教専寺は、夢前川の西、旧山陽道沿にある。享保11年に青山の西山麓から現在地に移された。本堂は平成6年に焼失。

●教専寺

青山の西山麓にあったが、享保11年(1726)に現在地(旧山陽道沿い)に移された。本堂建立記念に植樹された「葉わけの松」は、旅人がふり返る「みかえりの松」と呼ばれた。本堂は平成5年焼失、3代目の松と碑が残る。

●黒田官兵衛古戦場跡

龍野城主赤松政秀が青山へ攻勢した時、黒田官兵衛が必死で守防した戦場跡。後方の池は「千石池」であるが、地元では「戦国池」と呼び、池底には戦死した屍の首が転がっていると恐れられた。現在は、ゴルフ場や宅地に。

●古道の道標(青山)

青山の古道の道標。「右 しよしゃ」[寛政七年巳卯二月]に(1795)建立。「しよしゃ」は西国霊場第27番札所書写山園教寺山麓一帯の村。ほか青山に「山陽道」の道標もある。

●桜山ダム(桜池)

桜池はダムで造られた人工湖。旧龍野街道はダム湖底にある。現新日鐵住金広畑工場用水用として昭和15年起工、昭和35年完成し現在に至る。堰堤350

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
取組の類型化

3 地域夢プランのとりえ
検証と未来へのアプローチ
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとりえ
検証と未来へのアプローチ
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(2) 地域資源一覧

m、頂中4m、高さ39m、周囲3.8km、最大水深30m、貯水量446万m³。

●山社晴嵐（青山八景一其の四）

稲岡神社境内坂道にある碑。ここは神さびまして、森厳の気みなざり宮居の様。

●季が奥疎雁（青山八景一其の六）

黒田官兵衛古戦場跡より西南に約300m、山陽道南沿に「季が奥疎雁」（青山八景一其の六）。かつて静まった山林で「雁」の舞姿に足を止めたという。

●宗全寺・遠地風鐘（青山八景一其の七）

稲岡神社から旧山陽道西。薬師堂内「宗全寺跡（五重の塔）」は嘉吉の乱（1441）のとき、播磨国守護となった山名宗全（持豊）が戦死した一族や家臣の菩薩を弔うため建立した寺であるという。

●龍野街道（桜峠）

旧古代山陽道で播州赤穂と青山を結ぶ。概ね山陽道に並行し、あたかも天下の往來を避けたかのような街道。別名「隠れ街道」、赤穂浪士の「隠密街道」。青山・中村・けやき坂・小宅・垣内・矢野・上部・赤穂で山里の街道面影が残る。

●どんどん

菅生川・青山川をへて小溝へ。石づくりの水路橋で水田に送る。水田に用なき時、落差ある青山川へ流れ落ちる時の「どんどん」と鳴る音から住民は愛称していた。巨大な擬灰岩をくり抜いて橋とした交叉水路。江戸期のかけ橋。

●南海漂船（青山八景一其の三）

稲岡山の頂上。神社西側より遊歩道がある。徒歩5、6分で東方に姫路城を望む。はるか南方彼方に瀬戸内海を望み、大小の船の白浪は寂しくもうつる。それが歌意である。

●錦戸春雪（青山八景一其の一）

姫路城主榊原忠次が、青山の風光明媚な地を八か所選り漢詩と和歌で詠んでいる（青山八景）。忠次が明暦元年（1655）以降に作った詩歌。錦戸はこの辺りの地名。田園一帯の春雪の風景を歌う。石碑は西へ約200m移動している。

●人丸神社

稲岡神社西の小丘にある神社で柿本人麻呂を祀る。本殿は方形造りの宝珠を載せた珍しい屋根である。坂下の立江地蔵尊は、四国第19番霊場立江寺の延命地藏菩薩「立江のお地藏さん」を祀る。旧山陽道筋にあったのを今の地に祀る。

●法灯寺（遠山の地藏さん）

青山北公民館の北にあり、今は「遠山の地藏さん」と呼ばれる。嘉吉2年（1442）太田垣氏が建立し、法光上人が開基の法灯寺の跡と伝えられる。本尊は大日如来で、以前は、各地から多量の参詣者があったという。

●矢落ちの森

天正4年（1576）「播磨府中めぐり」に、神功皇后伝説の3本の矢のうち、二の矢が「青山村の大石にあたり、神に祠り、射目崎の神というのか」とある。余部駅西側に「矢落ちの森」の石碑がある。明治時代の矢落ち、余部南小の跡地。

●夢前川（青山八景一其の八）

「播磨鑑」の紀貫之の歌に「ゆめさき川」とあり、ゆめさきの呼び名がロマンを呼ぶ。姫路城主榊原忠次が明暦元年（1655）に横間川に堰を築き、今宿方面に流れていた主流をかえたのが、現在の夢前川である。

23 峰相地区

●秋祭りと屋台

太古より、作物の豊穰と神への感謝や祈りの儀式が祭りとなって、庶民のねがいや工夫が加わり、今日のような形が編みだされた。年に一度は陽気な振る舞おうというのも祭りの主旨で、民衆の慰安でもあり娯楽でもある。

●岩崎橋跡

赤松氏の系図によると、室町時代大塚重太夫が構居していた。明応2年（1439）6月、香山橋主本庄次基との間に境界をめぐる争いがあったが、置塩城主赤松家の仲介で和平がなった。もともと構は置塩城の防備のために造られた。

●打越木もれ日の森

兵庫県が「ひょうご豊かな森作りプラン」に基づいて、平成8年3月、打越が所有する林野を整備した。散策路は北コースと南コースがある。

●打越の板碑

これは碑伝形の板碑で、死者の追善供養か、生前の逆供養のため建立したようである。頂部は山形に尖り、額部は前方に突き出て二条の横線が鉢巻き状に浮き彫りされ、額の真下に釈迦の種子（しゅじ）パワが刻んである。

●大国王神社

打越の氏神。播磨鑑に白鳥明神とみえ、祭神の大君神は日本武尊のことと記載。明治7年に大国王命を併せて祀り大国王神社と改称。平成13年に改築し本殿は、古代様式に則った神社形式の最古の様式の「大社造」の典型的な建物。

●大国王神社の元社殿

元社殿の棟木に、「天和式年（1682）十二月吉日棟梁播磨之住人工甚兵衛藤原安友作之」とある。安友は、寛文4年（1664）に建立した書写山仁王門の工匠で、虹梁の渦に刻んだ若葉は時代相応の意匠と言える。

●大谷古窯跡

大塚四天王寺が戦災で消滅し再建の際、創建当時の跡を発掘調査したところ、鋸歯縁複弁六葉蓮華文で飾られた鴟尾片が出土した。これと同種の鴟尾片が、すでに打越大谷窯跡付近から発見されている。

●大塚三郎右衛門の碑

岩崎山の東端に大塚氏の墓があって、傍らに三郎右衛門の功績を讃えた石碑がある。碑文には、特に弓芸に優れた三郎右衛門は深く浄土真宗に帰依し、本願寺の顕如上人を最も尊崇していたとある。

●大年神社（六角）

六角の氏神。大年の「年」は本来穀物の実りの意味で、四季を通じて一巡する期間をいう。大年神は、穀物特に稲の生育と成熟との靈驗を象徴した神。本城家四代の治良右衛門が慶長年間（1596～1615）に社殿を建立したと伝わる。

●奥山古窯跡群

この辺りを通称チャワン山といい、須恵器片が散乱していた。窯跡6基を発掘調査したところ、奈良時代の須恵器片が大量に出土。特殊なものとして、椀模・円面硯等貴重なものが多く、播磨国国衙直轄の官窯であったと想定される。

●御幸道

御幸道とは長保4年（1002）花山法皇が性空上人を訪ね、隠居所である夢前町の弥勒寺に行った時に通った道。西坂より床坂を越え、大年神社付近を通って刀出、北へ書写山山麓を通り、飛渡を渡って弥勒寺へと行幸した。

●刀出天神社

天正2年（1574）、西田家三代の庄屋九郎右衛門の頃、小山より掘り出された太刀一振りや置塩城主に献上、その代物として、束帯姿の石の坐像を授かる。これを御神体として古墳の上に社を造り、榎谷村を刀出村と改めた。

●刀出天神社古墳

天神社境内の改修により、入口付近の一部を取り壊しているが、片袖付きと思われる長い羨道をもつ横穴式単独古墳である。古墳の上に天神社があり、社の裏側に市指定の保存樹工ノキの大木がある。

●電神社

祭神は奥津彦命と奥津姫命で、荒神さんとして親しまれている。御霊代の箱書きに天保10年（1839）とある。祭神は新羅との戦いに敗れたので、坪田集落では鯉のぼりなど戦類は揚げない風習がある。7月27日・28日を祭日としている。

●冠神社

刀出の氏神。飾磨郡誌によると、祭神は飽咋之宇斯能大神とされているが、背後の山の腹に「冠岩」という烏帽子に似た巨岩を御神体として名付けた神社である。伝承によると、記紀神話の国土創造神である伊弉册命の冠であるとしている。

●旧峰相小学校跡

現在、白鳥幼稚園のあるところに、明治26年2月から33年6月まで旧峰相尋常小学校があった。当初は歴史にまつわる校名をつけるようにと「峰相」と名付

けた。その後、村名に変えて、後に余部尋常小学校と改称した。

●鶏足寺借坊跡

鶏足寺裏面の打越側には借坊跡と思われる石組が数カ所あり、地面を均した比較的広い敷地がある。借坊がここでも生活をしたものと思われる。峰相山の借坊跡には多数の井戸跡と思われる窪みがある。

●鶏足寺の火祭り

峰相山の宗徒は羽柴秀吉の中国攻めに抵抗したため、天正6年（1578）秀吉が小寺（黒田）官兵衛に命じ、鶏足寺を焼滅させた。昭和61年峰相山の東面中腹に鶏足寺が再建され、供養の火祭りを毎年8月10日に行う。

●家野三宝荒神宮

仏・法・僧の三宝を守る神、頭に宝冠を戴き三面六臂の怒りの相を示す。「村内一社、鎮座家野三宝荒神、寛永七年（1710）十二月勅請願主、伊兵衛・五郎兵衛、並びに小国源八郎、氏子中、社横四尺八寸、長二尺六寸」とある。

●香山

香山の地名は、書写山の開祖性空上人が法華会を開かれたとき、刀出・六角の地に紫雲がたなびき、瑞香が立ちのぼったので名付けられたといわれている。

●固寧倉（刀出）

姫路城主酒井忠道が飢饉や災害に備えて米や麦を蓄えた倉として設置。固寧とは書経の「備八惟し邦ノ本、本國ケレバ邦寧」による。扁額の揮毫は、藩主が幕府の儒者林大学頭述古に依頼し、その子権宇が書き櫂の板に彫刻したものだ。

●権頭六角公記恩碑

この碑は、明治33年、六角公の450回忌を記念して子孫の本城氏が建立した。碑には、始祖は赤松氏で、山名氏との戦いに破れ書写山に遁れていたが、やがて山を下り、荒地を拓いたとある。

●清水公照師

六角東道家の生れ、昭和50年大僧正華厳宗管長、東大寺住職第207世別当に就任。53年東大寺第208世管長に再任される。55年大仏殿昭和大修落慶法要を主宰勤修する。56年東大寺宝蔵院長となり遊受と自称する。

●白鳥遺跡

山陽自動車道建設時に縄文時代後期から弥生時代後期にかけての集落跡を発見。竪穴式住居跡が9棟、掘立柱建物跡7棟、その他土坑、溝などの遺跡が見つかり、土器、石鏃、石斧、炭化米など多くの遺物が出土した。

●白鳥構跡

嘉吉の乱に軍功があったといわれる小国頼福がいた構で、赤松満祐より餘部庄を与えられた。嘉吉元年（1441）9月、坂本城が幕府軍に攻め落とされ、頼福は、満祐に従い城山城で討ち死にした。

●白鳥明神跡

「播磨鑑」に、天文11年（1542）小国播磨守（現実法寺）の子孫が河内国より白鳥明神を勧請し穴師宮と称したとある。室町時代、置塩城主赤松政村の定めで5月5日に鶏合わせの神事があり有名と播磨国の神式中に記載されている。

●白鳥山古墳群

古墳時代後期（6～7世紀頃）の横穴式群集墳で、白鳥山南面の日当たりの良い池の辺りにある。明治初年白鳥新池を造る際、12基あったのを10基取り壊して堤防の石積みにも使用、今は2基しか残っていない。この辺りを通称塚ヶ谷という。

●白羽川栄次塚

相撲は古くからの伝統行事、村には角力取りがいて、朋友の追善（供養）角力や、合力（金品の施し）角力と称し、神社境内などで相撲興行をしていた。刀出村の白羽川栄次は、この界隈では名を馳せた力士で、角力を生業としていた。

●太陽公園と福祉施設

昭和55年、門口堅蔵氏が太陽公園を建設し、園内には幾つかの福祉施設、公園には、石の文化を結集した世界の石造物が園内一帯に配列され、万里の長城、日中友好記念碑、西安の兵馬俑坑や北京の天安門、太原の双塔寺などがある。

●谷口

六角村は、もと香山、後に谷口と称し、字限図は書写

字坂口・六角字上垣内。集落が書写山参道六角坂登り口付近にあって、室町時代の笠塔婆がある。

●地域営農の活性化

昭和61年、打越・毛野・石倉農区と姫路市農協が、五カ年計画で、新農業構造改善事業に取り組んだ。基盤整備の実施、基幹作物を営農組合が受託して、大型機械化による効率的な土地利用型農業を実践することになった。

●天王道

後醍醐天皇が配流地の隠岐島を脱出して京都に向かう途上、元弘3年(1333)5月の辺りの古道を通り書写山園教寺に逗留した。書写山行幸記によると、書写山衆徒80余騎が兵具を帯して出迎えたところ。

●飛渡

刀出橋の少し上流で、菅生川を渡った場所を今も飛渡(とびと)といっている。昭和51年の台風17号の洪水で土砂に埋もれていた平らな石3個が現れた。花山法皇が性空上人を訪ねて渡られた御幸道の飛渡石であると伝わる。

●白鳥台今昔

戦後まもなく、営農研究所が設置され、牧場には数百頭の乳牛が草を食み、池の辺りに山荘があった。昭和45年農場を閉鎖し、宅地開発が進められ、小学校区が白鳥であったので、白鳥タウンと称した。

●播磨一之宮旧址

六角村の由緒記に、以前ここに小高い森があつて鍛冶屋の森といっていた。往昔、穴栗郡神戸一之宮(伊和神社)から神霊を播磨国総社に遷宮したとき、この森で休息。村人達はその神徳を崇め、社を建てて分霊を祀ったという。

●布金山福乗寺

寺伝に、文明年間(1469～86)蓮如上人の高弟、空誓という僧が英賀に来て、その弟子となった善応が、本願寺第9世実如上人から開基仏を賜り、大永元年(1521)10月道場(後に寺となる)を創建したとあるが、岩崎構辺りの集落と思われる。

●古川開聖記念碑

刀出村の田藤佃郎は、才知に秀で、成人して青年会長、また、産業組合を設立するなど公益に尽くした。そして、郡会議員、参事会員姫路船場郵便局長の要職にあって手腕を発揮した。大正3年、氏の顕徳を讃え記念碑を建立した。

●寶光山専尊寺

寺記によると、書写山八王子神社の別当をしていた寶光院の春永法師は、蓮如上人に帰依して濁口(たにごち)に住み念仏行者となった。書写山にいた今川義元一族にゆかりのある僧玄瑞の子玄誠が元和(1615～24)の頃、現在地に道場を創った。

●美寿叉地蔵

平安時代の中頃、花山法皇が香山を通り、夢前町の弥勒寺に遊行した御幸道がある。その道筋に慶長年間(1596～1614)、大年神社が建立され、一之鳥居の傍らに安置されていた。昭和18年、現在地にお堂を建てて遷座した。

●緑台今昔

明治末期から昭和の初期にかけ、梶原氏が拓いた果樹園があつて、主に葡萄を栽培していた。昭和9年6月、折からの豪雪にみまわれ、果樹園は壊滅し廃園となった。山麓には古い窯跡があり古代の住居跡らしい石組みもある。

●峰相山と鶏足寺

打越・石倉・下伊勢・上伊勢にまたがる標高239.7mの山で、尾根伝いに近畿自然歩道が書写山・峰相山を経て林田方面へと通じている。鶏足寺は、新羅の王子の創建といわれ、奈良時代に隆盛を極め、鎌倉時代末期に衰微した。

●吉崎氏の墓碑

吉崎家の先祖は、大江氏を称し、播磨国佐用郡乃井野藩士の出で、蘆田氏を称していた。初代武正氏は、故あって乃井野藩を脱藩し、大阪で医学を修め江戸時代の後期に打越村に来て医業を開いた。

●六川

江戸時代中期、宝暦年間(1753～1761)刀出村と打越村とで刀出下代井堰からの取水をめぐり、打越村は大坂奉行所に提訴。宝暦11年(1761)打越村の敗訴に終わる。打越村主張の権利割合の六分が六川の名で残る。

●六角坂石造笠塔婆

書写山六角坂の登り口に笠塔婆がある。塔身1.6mにも及び、同時代の遺物としては、市内最大のものである。宝珠をのちに補っているのが不自然であるが、塔身形状や笠の曲線など室町時代前期の特徴をよく表している。市指定文化財。

24 太市地区

●石の鞍

石倉稲荷神社の入口西側にあり、播磨の名所古跡として古くから知られる。里人がこれを神と崇め祭った時代があり、岩鞍の社と題して「神の世の岩くらなれは今の世のぬかつき絶えぬ里の諸人」という古歌が「播磨鑑」にある。

●太市たけのこ祭り

4月中旬、太市小学校運動場で「たけのこ祭り」が開催される。朝掘りの灰汁の少ない生荀を買いに遠方からも多くの人々が来場する。生荀販売のほか、荀ご飯や荀の天ぷらの販売、水煮荀の丸かじりなどもある。

●太市の筍

「姿は京都の山城、味は姫路の太市・・・」と味は日本一の自慢の筍。冬場の伐採と土造りで人の手を入れるが、鉄分に富んだ粘土層の赤土が甘くて柔らかな筍を作る。明治初期から出荷。今では年間300トン近く出荷する大産地。

●邑智(大市)駅家

「延喜式」によると播磨国の古代山陽道沿いには七つの駅があり、その一つが邑智(大市)駅家。駅家では馬を飼ひ、役人の宿泊や馬の乗り継ぎに利用された。向山の古瓦出土地が邑智駅家跡と思われ、字名として「馬屋田」が残る。

●亀岩の伝説

岩全体が亀の甲羅に似ていることから名づけられた。亀岩のくぼみには、年中枯れずに水がたまっている。崇神天皇の時代、この岩に香稻が4本生え、天皇の命令により、稲種が全国に広まったと言われている。

●専光寺の石棺

鐘楼西にある刳抜(くりぬき)式家形石棺身(縦198cm、横95cm、深さ38cm)。「龍野志」古跡の項に「浄安寺西脇村山下寺跡有、峰相の末寺也、近頃里民石の手水鉢を地より掘り出す、今は村内専光寺の境内にあり」との記載がある。

●筍組合

太市では約530ヘクタールの竹藪がある。3月下旬から5月中旬までの間、竹藪を所有する組合員約300軒が、朝掘りした筍を出荷し、組合を通して店頭販売や市場に出荷する。水煮筍は缶詰にしている。

●谷の観音寺の麦藁絵馬

峯相山鶏足寺の別院、観音寺の12面の絵馬のうち、4面は珍しい麦藁絵馬。麦藁細工の盛んな城崎地方以外ではここでしか見ることができない。寛政8年(1796)4月18日の紀年銘のある「筍掘りの図」は、全体の構図と細工が素晴らしい。

●西脇の石仏

荒神社境内の小祠に安置。凝灰岩の舟形状石材に、蓮華座上に宝珠と鏡持を持つ仏高23cmの地藏立像が刻出されている。像容に向って左に「永正十年八月日」(1513)の紀年銘がある。チューリップ状の三弁の蓮華座が特徴。

●破笠神社 千燈祭

7月31日の千燈祭は、田植え後の育ちつつある稲が、害虫の被害もなく豊稔で、猛暑に負けることなく息災で過ごすことができるようにと、当時は貴重であった菜種油を土器に入れ、燈芯に火をつけ神前に供え、祈願したのが始まり。

●破笠神社 幸点燈祭

羽柴秀吉の意に従わなかった峯相山鶏足寺が焼き討ちされ、その時焼死した僧や氏子の供養を8月15日に行ったのが起源。松明に御神火を移し、音頭を歌いながら練り「エント!エント!」の掛声と共に松明で容赦なく叩き合う。

●破笠神社と割れ岩

祭神は、神功皇后・仲哀天皇・応神天皇。往古、神功皇后が麻生山から戦の勝利を祈願して放った3本の矢のうちの1本が太市郷西脇村の大磐を3つに破ったとされる。これを吉兆としてその矢を祭ったと伝えら

れている。

●峯相山鶏足寺

峯相山山頂南西斜面の数段の平坦面が鶏足寺跡と想定される。鶏足寺は神功皇后が連れ帰った新羅国の王子が草創したと伝えられている。天正6年(1578)羽柴秀吉に抗したために全山焼失し、その後再興されず廃寺となった。

25 林田地区

●因幡道しるべ

林田町六丸谷の因幡街道沿いに建つ。「道林寺 円福寺 たつの 道」など文字が読みとれる。また別の面には「道改修記念」とある。

●稲荷神社 クスノキ保存樹

林田町新町の稲荷神社境内にあるクスノキ。昭和49年に市の保存樹に指定。

●旧因幡街道(古い町並)

山陰へ通じる旧因幡街道に沿って発達した六丸谷は江戸時代に市場町が栄え、当時の町屋(商家)の面影が多く残る。

●敬業館

寛政6年(1794)7代藩主建部政賢が建てた藩校。土族の子弟は8歳になると必ず入学し、庶民も志願者には入学を許可した。9代藩主建部正和のとき、河野鉄兜が敬業館の教授となる。講堂は全国的に見ても貴重。市指定重要有形文化財。

●洪水親善の碑

西市場バス停から小道を西へ進み、T字路の突きあたり建つ。そこを右折すると道林寺に至る。

●河野鉄兜の碑

林田中学校の正門の脇に立つ。「河野鉄兜先生碑」と刻まれている。吉野の漢詩で知られる河野鉄兜は、藩校敬業館の教授であった。

●狐塚古墳

祝田神社西の山の中腹に横穴式古墳が2基ある。明治年間に発掘され、勾玉や菅玉など遺物が出土した。地元では狐塚と呼んでいる。

●済水寺

享保11年(1726)大庄屋の三木重郎右衛門が先祖の霊を祀るため田畑を寄付して建立した寺。はじめ自肯庵と称し、宝暦年間に済水寺と改称。臨濟宗妙心寺派。境内には、林田で死去した建部長教を祀る五輪塔がある。

●桜並木

林田川西岸の松山あたりにある桜の並木道。

●塩草神社

「播磨国風土記」に「塩水がたまり、海水と往来して満ちる時は、深さ三寸、牛馬がこのんで飲んで」と記載がある。祝田神社や八幡神社の秋祭の初めには、ここで塩播きの神事が行われる。

●そうめん濫觴の碑

江戸時代に揖保郡に素麺業が起こり、林田にも製造者がいた。この碑は、明治20年に揖東・揖西両郡素麺製造組合をつくり販路を広げた過程と、組合の頭取にもなり素麺業に功績があった澤野利正を讃えたもの。

●建部神社

初代林田藩主建部政長を祀る。参道には「旧林田藩卒」・「栄績社中」と書いた明治19年2月寄進の石灯笼がある。

●為家塚

林田グランド北にあり、高さ4尺、幅1尺八寸の大きさで、表に「為家塚」と刻んである。鎌倉時代の藤原為家の塚。

●道林寺

真言宗の寺で享保年間に順正の開祖。三方を山が囲む閑静な地で、林田八景の一つに数えられた。敬業館教授の河野鉄兜は、住職とは特に親しく交わり、死後ここに墓がつくられた。墓碑には「文宗先生之墓」と刻んである。

1 地域夢プランの歩み(はじまりからこれまで)
2 地域夢プランのかたち(取組の類型化)
3 地域夢プランのとなえ方(検証と未来へのアプローチ)
4 地域資源の全リスト(地区からの情報発信)

●西池(鴨池)と琵琶山

初代林田藩主建部政長が水利に苦しむ領民のため、高い位置にある田畑へ水を引く目的に築いたため池で鴨池とも呼ばれる。林田八景のひとつとして数えられ、鴨の飛来地としても有名。

●西池の碑・藤井市右衛門の碑

文化13年(1816)に建部政長の武功、西池築造の由来などの業績を記す碑が建つ。寛政4年(1792)の水飢饉時に藩命に背き付近4か村分の水源を確保して、死罪になった藤井市右衛門の碑が明治13年に建立。

●ニレの並木

「播磨国風土記」に「伊和大神がこの地を占めたとき、ニレの木を植えた」という神話がある。かつて林田川沿いにニレの並木になっていたと伝えられるが、今は林田川西岸の久保町あたりに数本しか残っていない。

●芭蕉句碑

薬師寺境内にあり、三角錐状をした安山岩の自然石でつくられている。表は「降ろすも 竹うゆる日は 裏と笠 はせを」、裏は「今もその しづくしとうや 時雨 衰 東都俊岱五世梅帝花魁」とある。

●長谷川家住宅・八重垣

長谷川栄雅が寛文6年(1666)に酒屋と木材商を開き、1690年に酒造りを始める。1839年に地頭から酒株を受領し、明治14年に蔵名となる「八重垣」が生まれる。山陰へ通じる旧因幡街道にあり、市の都市景観重要建物等に指定。

●祝田神社

寛治7年(1093)に林田が京都の賀茂別雷神社の社になった時、貴船神社の御神体を迎え、はじめの因造女命と共に祀り、「貴船社」又は「貴船大明神」と呼ばれる。明治16年、焼失からの再建時に旧社名の祝田神社(はふりだ)となる。

●林田(三ツ池)の里山

姫路市はやしだ交流センター南東に広がる広葉樹の森。広葉樹林に囲まれた美しい自然環境の中でハイキング、散策が楽しめるエリア。

●はやしだ交流センター 天然温泉ゆたりん

平成19年オープン、深さ1,338m、約2億1千万年前の堆積岩(丹波層群)の割れ目から湧き出す天然温泉。大浴場、露天風呂、薬湯、サウナなど内容は充実している。足湯、野菜直売所、お土産店、レストラン等内外施設も充実。

●林田大庄屋旧三木家住宅

三木家の祖は英賀城主三木氏と伝わる。英賀城落城後、林田の聖ヶ岡に居住し大庄屋をつとめる。3代目定久の時、現在地に移った。主屋は17世紀後半の建物とみられ、主屋、長屋門、土蔵等6棟が県指定重要有形文化財になっている。

●林田藩陣屋跡・聖ヶ岡

林田藩建部家は元和3年(1617)播磨国林田に封地を移し、聖ヶ岡に陣屋を構えた。建部家は江戸期の繁栄を経て、明治2年大政奉還まで、10代250年にわたって林田を治めた。平成24年に陣屋跡石碑建立。

●林田八幡神社

寛平5年(893)京都の石清水八幡宮から八幡の神を連れて創建したと伝わる。境内には、藩主政守(まさいえ)・政賢・政醇が奉納した灯笼が3つ並んでいる。社殿内には、「林田八景」など建部家ゆかりの品々が残されている。

●宝塔寺

享保年間、林田藩家老掛下助左衛門の寄進により、慈雲院日瑞上人が開基。日蓮宗の寺。宝暦9年(1759)に建部顕篤が重病になった時、住職が平癒祈願し快復したので高照山宝塔寺の寺号をもらう。それより建部家の祈願所と定められた。

●松山城跡

中世赤松時代の山城。不動橋の北東にある古妙見山の裾にあり、台上は平たく今も石垣が残っている。城主は備前赤松家の幕下衣笠長門守村氏であった。天正のころ羽柴秀吉軍に滅ぼされた。

●妙善寺

永正10年(1513)、新宮町に創建したが、享保15年(1730)に林田藩主の命により今の地に移った。真宗大谷派。境内に十王堂があるのは真宗寺院としては特異。堂内には「えんま大王」を中心に、十王像や

赤鬼・青鬼などを祀る。

●薬師寺

林田橋東側の上に見える寺。寛文11年(1671)澄元の開基。浄土宗である。尊王派の浪士として池田屋騒動で倒れた大高又五郎をはじめ旧藩士の墓が多い。

●山田廃寺の塔心礎

松山城の南ふもとの民家の庭に塔の心礎が保存されている。この塔心礎は、大正12~13年頃、池の修理中に堤防の中から見つかった。また多くの瓦や、径33cm以上もある太い丸柱も出土した。その文様から奈良時代のものと考えられる。

26 伊勢地区

●伊勢山・神座の窟

伊勢山は東側の本峰(標高478.6m)と、神座の窟がある西側の岩峰がある。神座の窟は、高さ55m、幅70mの天然岩窟。「播州名所巡覧図絵」にも記載され、不動明王・弘法大師・役行者の小さな石仏三体が安置されている。

●伊勢自然の里・環境学習センター

里山の自然豊かな環境を保全し、子どもから大人まで、様々な世代が楽しみながら環境の保全について学習できる場として、市が平成16年4月24日に開設した自然体験型の環境学習施設。

●伊勢茶屋・因幡街道

因幡街道が伊勢茶屋・追分・六九谷を南北に横断し、旅籠や立湯(休憩場)があった。鳥取藩主や山崎藩主の参勤交代記録に、伊勢茶屋の様子が記載されている。

●空木城跡

山頂に主郭とみられる削平地があり、「播州名所巡覧図絵」には、「岩屋赤松遠見城跡」とある。「播磨郡誌」には、嘉吉元年(1441)ごろ赤松の家臣小野七郎右衛門が居たとあり、天正のころ原田大炊助が居城し、秀吉に攻め滅ぼされたとも伝わる。

●上伊勢古墳

伊勢小学校の東方の竹藪斜面にある。玄室は奥行3.37m×幅2.17mの横穴式石室。天井石は一枚の大きな板石を用いている。

●白鬚神社

大堤字東山に1688年創立され、猿田彦命を祀る。境内には、寛政9年(1797)の御神灯や明治42年の開墾碑がある。

●多賀八幡神社

上伊勢宇追谷山麓にある。創立期は不詳。当初は八幡神社として菅田別尊(応神天皇)を祀るが、明治39年に豊受大神を祀る上伊勢宇湯屋谷の多賀神社を合祀。境内には1817年と1821年の石燈籠や1845年の狛犬がある。

●中世の石仏

大堤集落の北西に祀られている凝灰岩製の石仏。全長40cm、横幅30cmで、両手を合掌した形の地藏立像で、中世の石仏の様相である。

●傳久寺

真宗大谷派。大永2年(1522)頃、安芸国毛利氏一族の毛利元利が播磨に来て浄土真宗に帰依し、道順と号し、永禄元年(1558)下伊勢に寺を建立する。弘化3年(1846)に焼失し、安政3年(1856)に再建。

●道路元標

道路の起点・終点を示す標識で、「伊勢村道路元標」と刻まれる。大正9年4月兵庫県告示第225号により位置が定められ、同11年内務省令で公布施行される。

●伴善男の墓

下伊勢の大池北部に塚がある。伴氏の子孫で、応天門焼失の犯人として866年に伊豆に流罪、868年に没したという説が一般的であるが、「峰相記」では、天慶年間に播磨国に流罪となり、墓所は西川合にあると記載されている。

●榊神社

垂仁天皇のとき天から十二の幡が舞い降り、その一つ

が下伊勢の榊の枝にかかり、天照大神が現れ、皇主の葦原飯粒が十二碑の地に、天神7代・地神5代を祀る。その時、榊の大木を切った跡に天照大神を祀ったので榊神社と名づけた。

●法善寺

真宗大谷派。明応9年(1500)に大納言伴善男から16代目の孫、新左衛門尉忠長が本願寺実如より本尊と六字の名号を拝受し、草庵を構える。寛永13年(1636)に寺号を長福寺としたが、のち法善寺と改名。境内の薬師堂は字薬師山から移す。

●峰相山・亀岩

峰相山は「播磨国風土記」に記される稲種山であろうと比定される。峰相山は、西峰の風早峰と東峰の峰相山両山の総称で、神休山と伝えられる。風早峰の山頂には、御神体が宿る盤座として亀岩がある。

●峰相山・大黒岩

峰相山は「播磨国風土記」に記される稲種山であろうと比定される。峰相山は、西峰の風早峰と東峰の峰相山両山の総称で、神休山と伝えられる。峰相山南西の標高254mあたりに大黒像にみたてた大黒岩がある。

27 高浜地区

●大蔵神社(飾磨区上野田)

もと南条と上野田の氏神であった妙見大明神社を明治初年に大蔵神社に改めた。昭和57年の市川西区画整理に伴い、南条の大蔵神社移転改築の際に、その分霊を勧請し平成6年に上野田大蔵神社として祀ったもの。

●旧高浜村道路元標

道路の起点・終点を示す。大正9年飾磨郡内27か所に設置(縦0.3×横0.3×高さ1m)。高浜村の元標は野田川の東・森房明神北100mの所にある。下部に「<= 西龜山 東阿成 =>」と刻まれているが埋まり見えない。

●地藏堂(飾磨区三宅)

飾磨街道の東にある地藏堂。もと天満神社境内にあったが、江戸末に今の場所に移された。内部には地藏像、五輪塔や層塔の残欠がある。左端の水輪二個は「太平記」に登場する児島高德の墓と言われ、児島と高德の文字が残る。

●順正寺

浄土真宗本願寺派。元禄4年(1691)に本願寺派第14代寂如上人より開基佛として木像の尊像を授かり、海上山順正寺と公称したとみられる。明和3年(1766)に本堂伽藍を建立。昭和45年に再建され今日に至る。

●松林寺

真宗大谷派。もとは中島にあった天台系の寺院。真宗に改宗後、万治年間(1658~61)堂宇が焼失したので寛文13年(1673)現在地に移った。境内の手洗いは安政6年(1859)のものである。

●高浜総合公園

戦後間もなく都市計画決定されていた高浜中央公園が姫路市高浜東区画整理事業によって整備された。平成11年に開設、平成16年に現在のように整備され、供用面積は4ヘクタール、多目的広場、テニスコート、遊具がある。

●天満神社(飾磨区堀川町)

堀川町の氏神で祭神は菅原道真。天明期に恵美酒神社から菅原大神を勧請して祠が創建されたと思われる。大正10年に社殿を大改築、昭和7年に大鳥居が寄進される。昭和27年に「天満神社」の認証を県より受け、平成14年大改築。

●天満神社(飾磨区三宅)

飾磨区龜山・三宅の氏宮で、菅原道真を祀る。「飾磨郡誌」に郷土史家の説で、「播磨国風土記」の因達理のイダテの神を祀ったもので、後に菅原道真を祀ったため元の神名が消えたのではないかと記す。寛政7年(1795)の宮型燈籠がある。

●早川神社

速川社とも称し、阿成の氏神で兵主神(大己貴命)を祀る。市川の自然堤防上にあり、「播磨国風土記」の倭穴無神の神戸の所とみられる。その分霊を祀ったのが早川神社で、神名からこの地を「アナンシ」と呼び、江戸期に阿成となる。

●道しるべ地蔵

早川神社の東方・市川堤防下にある。安政年間(1854～60)には阿成の「渡し場」にあったが、昭和43年に現在の堂に移したという。「左かめやま、右ひめじ」の文字と上端部に仏像を彫っている。

●三宅遺跡

「播磨国風土記」の筋磨御宅(シカマミヤケ)に比定される遺跡。昭和45年の姫路バイパス工事で、大量の古瓦や土器類が出土(発掘調査は実施されず)。姫路バイパス姫路南ランプを中心に500m四方と推定されるが、大部分は消滅。

28 飾磨橋東地区

●有本芳水の生家

詩人・有本芳水は、明治19年に玉地で生まれ、早稲田大学を卒業後、雑誌「日本少年」を編集し、「ふる郷」「悲しき笛」「海の国」などの美しい詩集を発表して、大正時代の少年に大きな影響を与えた。

●恵美酒宮天満神社

漁場の神として戎の神を祀ったので恵美酒宮といわれ、後に天満宮を勧請してこの名称になる。京都の吉文字屋孫作の寄進による社前の石灯籠は、元禄11年のもの。狛犬は尾道の石工・尾屋勘十郎の製作(尾道形狛犬)で、天保15年のもの。

●恵美酒宮天満神社秋季例大祭

「恵美酒宮祭り」は「台場練り」と言われ有名。大屋台は80人余の練り子が昇るが、神前において神に屋台を奉納する時は、より優れた力の持主が80人余の練り子に代わり24人で台場を昇り、男の力強さを神に示す。

●大森源三翁紀功碑

大森源三は、文化8年(1811)三木勤兵衛(勤兵衛新田の干拓者)の二男として生まれ、大森家の養子に。天保10年(1839)より24年かけて「大森新田」(約40町歩)を開拓、没後、村民一同により紀功碑が建てられた。

●亀山本徳寺門前

本堂を焼失したとき、播州門徒の強い要請で京都から移築。「播州真宗年表」等によると、構造・床材、屋根瓦に至るまで、海路飾磨津に運ばれ、飾磨街道を経て亀山に運ばれた。2年に渡る工事を経て、明治6年に完成。

●小瀬

町の歴史は浅い。昭和30年代は、山陽電車沿いに戸建て住宅と新日鉄住宅等が混在。昭和50年代後半からマンションが建てられ、今では、世帯数430戸余になる。「よりよい環境、住みよい町づくり」をめざす。

●初代飾磨市長の銅像

岡上彦三は、明治13年8月大浜に誕生。明治45年の飾磨郡会議員を振出しに、飾磨町会議員、飾磨町長(昭和6年～同15年)を務めた。昭和15年「飾磨市」として市制施行後は、初代市長を務めた。

●大日堂

天満神社東隣にある。高さ約1.3m半肉彫の大日如来像を刻む。年代は不明であるが風化がかなり進んでいる。堂裏に五輪塔などの一部が多く集めてある。

●田中薬師堂

子供が誕生した年の地蔵盆(8月23日)に、子供の名を入れた地蔵尊提灯を成長・健康等を祈願して奉納。毎年、その提灯をお地蔵様の周りにつるす。夜7時から大玉数珠を囲み願を唱え数珠くぐりをする。鐘、太鼓を先頭に町内を一巡する。

●知宝寺

もとは、光明寺と称し、天台宗であった。寛和元年(985)花山法皇が書写山行幸の際に立ち寄ったので、当時は御幸堂とも言った。建永2年(1207)法然上人が土佐へ流される途中に立ち寄ったのをきっかけに、浄土宗になった。

●天満神社(飾磨区中島)

祭神は菅原道真。創建年代は不詳。飾磨の恵美酒宮より分霊を勧請したという。蓮浄寺門前にあったが、元禄7年(1694)再建を機に現在地に移る。「播州名所巡覧図絵」に「瀧の天神」という楼門・大鳥居あり」とあるが、現在楼門はない。

あるが、現在楼門はない。

●道標(東堀)

角柱型。嘉永元年(1848)の銘。(正面)「右 川口あほしむる津」、(左側)「左 ひめじ ひろみね やかそね 高砂」、(右側)「嘉永元年戊戌五月 東堀町」。

●中島天満神社「献湯祭」

創建年代は不明であるが、元禄7年(1694)に、蓮浄寺門前より現在地に移したとの記録がある。また、元禄8年(1695)の銘がある石造献灯が1基ある。献湯祭(湯立て)は7月12日に行われる。

●中島天満神社秋季例大祭

昭和29年までは、大屋台1台とだんじり1台で秋祭りを行っていた。昭和51年に小屋台と中屋台を新調し、古いだんじりと共に屋台を繰り出し秋祭りが復活。平成6年には大屋台を新調。

●三輪・白玉稻荷

春の初午と夏(7月14日)の例祭。戦前は、俄狂言や浪曲の演者を招き、賑やかに行っていた。戦局が進み、昭和15年からは神事のみとなる。現在は、校区内の祭り関係者を招き、模擬店、総踊りや福引を町内全員で行う。

●薬師寺(東光院)

草創年代は不詳、「飾磨薬師寺」と呼ばれ、七堂伽藍も完備していた頃もあった。後に、赤松氏より寺領200石等が寄進された。秀吉の信仰も厚く守護寺になった。正徳3年に恵賢が中興し、東光院と改めた。戦いで焼失後、昭和28年再建。

●蓮浄寺

「飾磨郡誌」によると浄土真宗本願寺派。永正14年(1517)開基。寺号を付したのは慶長2年(1597)とある。江戸時代に二度火災にあっている。

29 飾磨橋西地区

●赤レンガ造りの倉庫

明治9年に完成した官営生野山馬車道の旧飾磨津物揚場跡に残る倉庫。フランス人シスレーの設計で、約70万個のレンガを使用し、レンガの積み方はイギリス積みと言われる。日本初の高速道路とも言われる「銀の馬車道」の終着点。

●魚屋堀跡碑・尊王志士上陸地碑

魚屋(うおや)は岡上家の屋号。幕末「生野事件」を起こした志士平野国臣らがこの地に上陸した。門前の「魚屋堀」と呼んだ。堀の大部分は昭和6年の臨海道路築造の時に埋め立てられた。

●グリーンベルト完成記念碑

公害を防止するだけではなく、住みよい街をつくることはできないと考えた市は、昭和46年から工場が密集する地域にグリーンベルトを進める。広畑東地区から妻鹿地区まで約7kmに及ぶ。現在は、桜の名所となっている。

●地蔵尊(西細江)

近郊より提灯が数多く奉納されている。名称は不明。言い伝えによると、100年以上前から石仏2体が安置してあったらしい。その後、石仏が増え、祠も建ち、現在のように。門柱に明治44年細江村区長の銘が残る。

●高倉大明神

中細江公民館の横にあり、通称「高倉さん」として親しまれている。島田タバコ店横に祠があったが、明治28年細江804の溜め池の埋立地に移転。昭和46年拝殿を撤去し、跡地に公民館と社殿を再建。

●中島家

北前船の廻船問屋で、主屋の向こう側には土蔵が建ち並んでいたという。主屋は間口6間、奥行き6間半もある大型の町家である。外観は、2階に小さな虫籠窓を開け、1階には出格子を構えるなど、伝統的な形式が保存されている。

●浜の宮天満宮と秋季例大祭

境内の「えべっさん」は宮と須加の4ヶ所から移したと伝わる。漁業の神の夷神を祀ったものが祭神で、それに菅原道真の天神信仰が重なったと推察。「サイテパチョーサー」の掛け声で屋台を差上げる台場差しは市指定無形民俗文化財。

●姫路藩浦手番所跡

姫路藩が設置した番所で、飾磨津川口御番所とも呼ばれる。主な任務は、灯籠台管理、船舶検問、海難救助や飾磨米蔵、御茶屋の警備など。所在地は未確認だが、飾磨区須加の民家が、番所に併設された長屋の遺構と推定されている。

●藤田翁顕彰碑

弘化3年(1846)200石超の船が出入りできない飾磨津河口を改良して温保(港)が築かれることになり、大浜の肥料問屋・藤田祐右衛門維昌を中心に丸亀港を参考に6ヶ月で完成した。藤田はこの功績により、大年寄格となり苗字も許された。

●宮堀川緑道

宮堀川沿いに整備された遊歩道。水と戯れながらの散歩に最適。

30 津田地区

●石ヤ田遺跡(タデノ権現)

地元にタデノ権現として古くからの禁地を、中央大道路建設に伴い、市教育委員会が発掘した。遺構として掘立柱六棟、井戸、土壇17基、土器、磁器が出土。平安末期から鎌倉期の倉庫か住居跡と思われる。

●今在家の道標

「右 あほし道 正長九年十月吉日」とある。この道標より道が二本に分かれ、左に行くと、薬師堂、三味、五本松跡、真教寺へと通じる「上道」と呼ばれる道になる。右に行くこと網干に通じる街道で、細川地蔵、中浜橋へ通じる。

●延命地蔵

真福寺正門の北東に位置する地蔵坐像(設置年代は不明)で、現在の像は昭和12年地蔵堂と共に寄進されたもの。構の地蔵は延命地蔵で、北向きの地蔵は特に靈験があったかであると深く信仰される。

●粕谷新田

葎林新田南側で東西の堤防を造り、開拓された新田。粕谷利一が私財を投じ、葎林新田地先の遠浅の地を干拓した。天保元年(1830)竣工。明治38年まで一部塩田が残っていた。今の粕谷新町で、新日鉄電磁鋼板工場がある。

●構の道標

「どうひょう」、「みちしるべ」。街道沿にあり、方角、行先や距離を記す。道中の安全を祈り、仏を彫り込んだものもある。旧構北橋を西につきあつた三叉路の道標は、「左あがほ道、右かめやま道」と記している。大正6年建立。

●構の道標

真福寺東を南行した三叉路の道標は、「左かめやま道 右あがほ道」と記している。大正6年建立。

●構の道標

旧構北橋を西につきあつた三叉路と真福寺東を南行した三叉路の道標前を南行、西行した交差点の1基は、板状の石に「左かめ山道」と記している。

●亀の甲

思案橋北で船場川と分かれる、東流の運河「宮堀川」。船場川を堰き止め、宮堀川へ水を送るため、石で亀の甲型の堤「亀の甲」が造られた。大水の時は、この堤を越した水は船場川を南へ流れるよう造られていた。

●加茂遺跡

中央大道路建設時に、津田幼稚園東で市教育委員会が、2～3重の堀に囲まれた南北66m、東西100mの中世居館跡を発掘。建物、井戸、池など屋敷の様相、日常生活品、中国製品なども出土した。室町から安土桃山時代の構居跡。

●加茂榊塚

国の重文、北野天神縁起絵巻、津田本第一巻の裏書によれば菅公左遷の時、細江に上陸し、加茂社へ参詣され、社司宅に逗留。出発に際し、所持の杖を記念として突き刺したものが自生し、以後、逆木(榊)天神として信仰されたもの。

●加茂地蔵

明治20年に、飾川宇八郎氏が妙善寺裏の川の中で発見した。大上川のほとりに安置された。大正元年に

1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとなえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとなえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源の概要

大きい地藏尊、昭和56年に子安地藏尊を作って三尊佛とし、堂も改築。以後、川の地名も地藏川と伝わる。

●加茂明神社

当社は、もと荒川村岡田に赤松満祐が山城国岡田より勧請し、法輪寺辺に一町歩の社地があったが、洪水で現在地に流れてきたものという。しかしこの逆の異説もある。

●葉塚

葉塚(通称「おまつ」)は、船場川東の飯田字葉塚にあった。現在は船場川の付替えにより川の西側(構5丁目)にある。葉塚は葉野といわれ、道満屋敷のことであると記されている。道満とは、陰陽師(占師)芦屋道満のこと。

●五位田遺跡

構4丁目の遺跡で、平安時代末期(12世紀中期頃)から鎌倉時代初期(13世紀初期まで)の遺跡。遺構として、掘立柱建物6棟、土塙17、井戸1基、溝状遺構2本が出土していることから、集落跡もしくは倉庫址と考えられる。

●五本松

三昧地(東高長)にあった、幹が5本に分かれた松で、高さ約23m、周囲約5mと伝わる。広峯神社よりこの松を目印に今在家の位置が判ったと伝わるなど、遠方からの目印として重宝された。昭和14年松喰虫によって枯死。

●権現遺跡

飾磨区構5丁目(旧字権現)に所在する弥生時代から古墳時代初期までの複合遺跡。現状は、中央大路となっており、場所や出土物を説明する看板等はない。

●近藤新田

今在家南端(南部美化センター付近)で、塩田と呼ばれた。東は船場川に接し、昔の津田の細江で、琴弾の浦とも呼ばれた。文久年間に加東郡の近藤文蔵が、明治40年に大阪の榎谷清吉が干拓したが、暴風波で決壊し、養魚場等に利用された。

●桜の坪遺跡

水尾川改修工事に伴って、出土品が確認され、昭和45年に発掘調査が行われた。主な出土品は、弥生式土器、土師器、須恵器、サヌカイト。弥生時代後期から古墳時代前期のものと思われる。

●山電西飾磨駅

山陽電気鉄道網干線(飾磨駅～網干駅)の相対式2面2線のホームをもつ高架駅。山陽電車では珍しい高架駅で、網干線が単線であるために上下線が待ち合わせをする。

●思案橋(お旅)

明治中頃まではこの一帯は畑地で、船場川の「思案橋」は木製だった。思案橋西詰は津田天満神社のお旅所で、大正13年に菅公小憩伝説地の石碑が、昭和37年に道真公銅像が建立された。昭和46年、思案橋はコンクリート製になった。

●飾磨西中学校

昭和22年義務教育6・3制実施に伴い、新制の飾磨西中学校が創設される。校舎完成まで、仮校舎を英賀保小として、分教場を飾磨小に置いた。近年、区画整理により宅地化が進み、人口が増加し、市内でも大規模校に数えられる。

●真教寺

親鸞聖人の直弟子、導味が常陸国に建立した真教寺の十一代目住職導善が、今在家に至って定住し、宝国山真教寺を建立(弘治元年)。その後、寛文年間に道西により中興し文政3年(1820)八世諦翁が本堂を改築し現在に至る。

●真福寺

永正13年(1516)赤松氏の家臣治良頼善(後に誓俊)が、飾磨区山崎にあった浄土宗の寺を浄土真宗に改宗して、現在地の北西、字真福寺(しぶくじ)に建立。天文年間(1532～1554)に現在地へ移転。

●済川(大井川)

済川は、今宿の清水に源を発し、西庄の東より井ノ口の済丘の麓を南方に流れ英賀のすくい堂の所より海に注いでいた。「飾磨郡誌」大井川の架橋名に、済川北橋、済川南橋が残っている。

●関本稲荷

真福寺の北西、関氏の宅地の南西角にある。関本とは関氏本家のこと。もとは葉塚の地にあり、寛文間に関氏北の竹藪に移され、安政年間に現在の地に移

された。大正12年道路拡張に伴い、再建され現在に至る。

●船場川

保城で市川から分流し、姫路城西、船場を経て津田地区の東を流れる。往古は「津田の細江」と呼ばれた入り江を流れる川。船場の地名のとおり、飾磨の港から姫路城近くまで高瀬舟で物資を運ぶ水運の川として利用された。

●津田公民館

平成2年、姫路市で第30番目の市立公民館として開館。赤ちゃんからお年寄りまで、地域の拠点として「共に集い、触れ合い、学び合い」の場として活動している。

●津田小学校

明治24年今在家の明倫学校と構村の榮績学校が廃止され、津田尋常小が設置された。その後、高等科を併置、昭和8年津田村と飾磨町の合併時に、飾磨尋常高等小に合併。昭和47年飾磨小より分離、津田小が開校。

●津田天満神社

古来、大歳明神を祀っていたが、後に菅原道真を敬慕した里人が、菅公を主神として津田天満神社とし、現在に至る。藤原親泰奉納「北野天神縁起」三巻は、昭和34年国重要文化財の指定を受け、奈良国立博物館に寄託されている。

●津田天満神社旧御旅所と中地天神遺跡

天禄元年(970)円融天皇が、現在の地に津田天満神社を造営した。後に、その跡地(構と中地の境付近(中地ランプ南))は中地御旅天神となつたと伝わる。現在は、中地南公園内に移り「中地天満神社跡」の碑が中央大路にある。

●津田の片葉の葦

菅公の遺徳を慕い、葉が片方に寄つた葦で、加茂の小字としてJA兵庫西飾磨支店の周辺にヨシイが残っている。

●津田の細江

昔、須加の西から津田の東までは細い入り江になっていた。この入り江を「津田の細江」という。この津田の細江から水尾川の河口までの海岸は、菅原道真が休憩して琴を弾いたという伝説にちなみ、「琴の浦」と呼ばれていた。

●津田の穂蓼

蓼野町の語源となったもので、夏の土用の頃三伏に赤い穂を生じ、他所に移すと普通の蓼となるというもので、加茂公園と津田公民館で同種のを栽培している。

●細川地蔵

中浜橋東詰にあり、板状凝灰岩を舟形に彫り込み、蓮座上に地蔵立像を半肉彫りにしている。造立年代は不詳(室町時代か)。名前は細川から出たからとも、細川の橋を牛が渡らず、調べると裏に地蔵があったからとも言われている。

●妙善寺

播磨四人道場の一つ、永正9年(1512)津田牧水田村妙善寺への開基佛が伝来。伊藤美濃守長英の次男次郎が蓮如上人の教化をうけ善教と名乗り、後善教と改めて開祖となる。今の本堂は文化5年(1808)、十一世恵蔵の改築。

●薬師堂

今在家西高長に津田千軒の栄華を伝える明願寺という寺があったが、羽柴秀吉の英賀城攻略の際、焼失。信者が焼跡より明願寺の御本尊を探し出し、津田天満神社内に安置したが神仏同祀の禁止により、現在地に薬師堂を建立し、祀る。

●霞林新田(御坊新田)

大阪の人がよし(霞)の繁茂する荒地を見て、私財を投じて開墾したという。その後、鹿田となったが、当時の英賀組大庄屋河野新六氏が管理し、稲田にした。後に姫路の船場御坊に寄進されたので、一般には御坊新田と呼ばれた。

31 英賀保地区

●英賀瓦工の里 高町

旧高町村北部で瓦に適した良質の粘土が産出し、室

町～江戸期に英賀瓦工集団の瓦が生産された。東は京都の東・西本願寺、伏見城、醍醐寺、西は厳島神社などで使われた。地元では英賀神社や旧家に高町の職人銘の古瓦が多く残る。

●英賀城 本丸跡碑

英賀城は、嘉吉元年(1441)三木通近が入城して、三木氏10代、140年間、播磨地方における政治、文化、宗教の中心となり、寺内町を構成して栄華を極めたが、羽柴秀吉による城攻めにより落城した歴史が記されている。

●英賀城跡公園

この英賀城跡公園は、当時の英賀城の守りの要所であった岡芝口手前の清水池と野中口の中間に作られた記念の公園。天主台の基礎を思わせる石垣がある。公園内には英賀城野中口の石碑もある。

●英賀城の港跡と異地藏

かつて、ここがごみ捨て場となっていたのを熊谷氏が清め地藏尊を祀った。この地が村の翼の方角だったので、翼の地藏と呼ぶようになったと伝わる。地藏さんを中心として、英賀東側は田井ヶ浜・中浜側が英賀の港と呼ばれていた。

●英賀神社

英賀神社は英賀保校区の氏神で「播磨国風土記」にも記載がある由緒ある神社。英賀城主三木通近が領内の総氏神とあがめ、歴代城主が祭祀盛儀を尽くした歴史、および「銅鐘」[紙本著色天神縁起絵巻]等の重要文化財が残されている。

●英賀保駅一級都市基準点

英賀保駅には、姫路・飾磨・網干と共に一級都市基準点が設置されている。この基準点が地域の距離測定の基点になっている。国土調査法の地籍測量や都市計画事業(土地区画整理、道路建設など)で測量するときの基準点になる。

●英賀保公民館

地域の方々の様々な文化活動やコミュニティの場として、昭和61年に飾磨西公民館として開館した。その後、平成8年4月名称変更して英賀保公民館になる。現在、年間約23,000人の来館者がある。

●英賀保小学校

英賀保小学校は、明治5年学制発布をうけ開校。昭和15年飾磨市と合併し飾磨市立英賀保高等学校と改称。昭和16年英賀保国民学校と改称。昭和22年新学制公布により英賀保小学校と改称。

●英賀保連合公民館歌乃の清水碑

公民館(昭和45年建設)は、中浜・英賀東・英賀西・宮東・宮西の共有。所在地の英賀東町が管理。庭に「はりま十水の一 歌乃の清水」の石碑と、大正14年飾磨郡英賀「志かま」「あがほ駅。ひめじ」の道標が建つ。

●英賀本徳寺(英賀御坊)跡

城主三木一族、播磨一円の町衆が帰依の下、明応2年(1493)蓮如上人が開基、永正12年(1515)英賀本徳寺が落慶した。この頃、播磨の浄土真宗は隆盛を極めたが、天正8年(1580)秀吉の英賀城攻略にあり、寺基は亀山に移築。

●英賀明神

伏見稲荷大社、大阪住吉大社より、ご分霊をお迎えしたのが現在の稲荷神社で、「明神さん、住吉さん」と呼ばれ親しまれている。英賀西町、かんや町の里人が当番制で神社の護持運営に当たっている。御祭神は、保食神、住吉神。

●英賀薬師(旧法寿寺跡)

城主の一族、河野彦太郎の祖先園澄が、延宝9年(1681)に建立。亀山本徳寺西のお山にあった英賀城主三木家累代と家臣の墓をここに移す。鎌倉時代作と伝わる「薬師如来」数体が在り、英賀薬師と呼ばれている。昭和43年に再建された。

●市庭館跡

英賀城郭建物敷地、一族の各館の中で一番大きいのが市庭館(城主の館6代通規)で、敷地3,400坪、建物は本館、別館で2,017坪(東西120m 南北100m)あった。現在の英賀東藤輪氏畑付近にあったとのこと。

●大木之濠跡碑

英賀交差点にある。石碑には、「享徳三年(1454)英賀城主(4代通武)の時、山名氏による英賀城侵攻の風聞があり、大規模な築城に着手」と記されている。

●大澤家住宅

広い土間の曲がった梁の架構、整形四間を基本とする間取り、一定の差鴨居による部屋境の構成など、19世紀中頃の高い大工技術による造り。平成8年に母屋と納屋、蔵と板塀が市の都市景観重要建築物等に指定。

●春日神社

野杉の宮、野杉春日とも言い、建齋槍神・経津主神、天児屋根神、毘咩大神を祀る。地頭職吉川但馬守次郎が文治2年(1186)に勧請。山崎村民は永く氏神として奉仕。[播磨鑑]に大なる杉の木立に朱の社殿であったとある。

●龜山本徳寺廟所西山支坊

江戸中期「本願寺参り」が定着した。庶民は納骨の為安易に本山にお参りする事ができなかった。そこで、西本願寺分院で播磨の浄土真宗の拠点である龜山本徳寺が廟所として天和2年(1682)に創建。現在も「西のお山」と呼ばれている。

●教法寺

天保元年(1830)、英賀真宗本派説教場として建立。本堂改築時(昭和46年)より光琳山教法寺と称す。地藏菩薩と光琳の顕彰碑があり、その名を入れ光琳山と称す。本尊阿弥陀如来厨子裏に「明応元年英賀本徳寺より譲受けし物なり」とある。

●葉の井戸・大木清水碑

英賀葉師の一角に播磨十水の一である「大木の清水」と称する昔の清泉の跡が残る。

●琴平常夜灯と室津街道道標

町坪の敷山南より山崎山麓を経て夢前川に至る道。金毘羅参りの庶民が頻りに利用した街道。渡し場の在った夢前川左岸に常夜灯が設置された。山崎には金毘羅さんの分霊が祭られ、略式でこの灯籠に火を入れお参りした。

●西蓮寺

元和4年(1619)誓祐により英賀山科に真宗寺院として開基建立された。その後、大災害の為、宝暦8年(1758)現在の地、山崎に再建され、浄土真宗大谷派に属し、「本願念仏の教え」を広く説いている。平成17年本堂改築。

●芝ノ口より駒芝口への土塁跡

「英賀葉城」の北部は、湿田と豊富な湧水を利用して深い外堀が築造されていた。その土塁跡が残っている。

●高町 壇尻と梯子獅子

英賀神社の秋祭りは梯子獅子と壇尻が有名。この壇尻は禁裏御所彫り物師丸山新之丞の弟、大橋宗三郎昌信の作であることが判明。丸山一族は延宝年代(1675)から神社仏閣に素晴らしい作品を多く残している。現役壇尻では県内最古か。

●稚児ヶ淵井戸

昔、蒲田の僧伝密と稚児の白藤とが入水したところと伝わる。現在は、英賀保一帯を潤す農業用水の水源であり、昭和44年の姫路市夢前川整備事業の工事で、地下水(伏流水)の揚水動力ポンプが設置され活用されている。

●付城 英賀城出城

付城は昔は英賀城の出城であったとも伝わる。確かな文献はないが、「家の門」「城田」「中の城」など英賀城出城を思わせる字名が残る。また、羽柴秀吉の英賀城攻めで、ここに城を付けられたために付城になったとの説もある。

●苦編山

苦編山(標高168.5m)へは、山崎山から尾根づたいに登れば、頂上に近づくと岩場が現れ、岩場より英賀保が一望できる。現在は、快適なハイキングが楽しめるコースとして地域の人達に親しまれている。

●中浜地藏

大木道 薬師裏の小溝に橋板があり、「牛」が渡らず、不思議に思い、良き手懸りがなくと裏を窺うと「地藏尊」のお姿があり、村人は感動して今の地に祀る。「牛地藏」ともいわれる。

●明蓮寺

英賀城内に英賀本徳寺、末寺35ヶ寺があった。落城後は、秀吉の寺内町開放政策により各地に分散させられた。唯一、末寺で当寺だけが残された。夢前川河原にあった、英賀本徳寺跡碑が隣接する当寺境内に昭和13年頃移設された。

●山崎山(大鷹山)

山崎山は、室町時代から英賀城の砦があり、山崎聡右衛門広宗が守る構居があった。山崎構居は、天正8年(1580)羽柴秀吉の英賀城攻撃の時真っ先に攻められ落城、秀吉の英賀城攻略拠点となった。別名大鷹山と呼ばれる。

32 広畑地区

●西福寺

寛正5年(1464)開基。弘治年間(1555~1558)に高濱から本町へ移ったと伝わる。その後、真言宗から浄土真宗に改宗し、英賀本徳寺に属したが、寛文8年(1668)船場本徳寺に属し、昭和38年に現在地へ移る。

●自治会立広畑保育園

昭和42年に設立された全国でも珍しい自治会立の保育園。「地域の子どもは地域の手で育てよう」という考えが受け継がれ、現在も地域の子育て支援施設として自治会が運営している。

●司馬遼太郎ゆかりの地

広畑は司馬遼太郎の祖父・福田惣八の出身地であり、廣畑天満神社境内には司馬遼太郎の文字碑や、祖父福田惣八と父福田定足の玉垣が残されている。

●住本家住宅

建築は明治中期。主屋は二階建つし付き、屋根は本瓦葺で西側が入母屋造、東側は切妻造で元の納屋の屋根が続く。土間の上には越屋根が架けられ、二階部分は漆喰で塗籠められている。平成8年、市の都市景観重要建築物等に指定。

●蛸田地蔵尊

江戸時代に広畑の沖合で網を引いていた漁師が異様な獲物がかかったと思つて網を引き上げてみると石の地藏尊であった。時の庄屋が通称蛸田という場所に祀ったので、蛸田地蔵尊と呼ばれる。境内には保存樹のエノキがある。

●田中酒造場

田中家は天保6年(1835)に酒造業を始めたと伝わる。建物は母屋・増築部・奥屋敷・店・酒蔵二棟・内蔵からなり、江戸末期以降の建物をよく残している。平成8年に、市の都市景観重要建築物等に指定された。

●広畑公民館

平成12年に開館。「ほっとふれあい館」として親しまれ、地域の人々の生涯学習の拠点として「集う、学ぶ、結ぶ」活動を展開。

●廣畑天満神社

氏神は菅原大神・蛸子大神・春日大神。神社の源記は靈龜年間(715~716)に奉祀された廣辻神社に始まると伝わる。明治31年の龜山雲平撰の碑記によると、明治2年に京都の北野天満宮の分霊を勧請した。

●本町の道標

JA兵庫西広畑支店の北の道路端にある。花崗岩製で正面には「左 網干港室津 右 あばし駅」、側面には「明治十七年五月施主瀬尾孫次郎」と刻まれている。

●夢前川の桜並木

夢前川両岸のサイクリングロードに沿って、桜並木が続いている。春に桜が満開になると、河川敷は多くの見物客や花見客でにぎわう。

33 広畑第二地区

●京見会館

昭和16年に広畑製鐵所の迎賓館として建設。大型客船のキャビン模して造られたというリビンルームや洋風のダイニングルームなど洋室が配置されている。昭和51年5月19日皇太子ご夫妻(現天皇、皇后両陛下)がご宿泊された。

●郡境石

汐入川の改修時、小坂橋付近の川で発見された。2枚の長方形の板石からなり、先端部をV字状に「ぼめ郡境」を見通せるようになっている。石には「郡境」と大きく彫られ、下に「飾磨郡」「揖保郡」と刻まれている。

●国土地理院の地点

国土地理院が管理する基本基準点で、等級種別は二等水準点。広畑区小坂の菅原神社付近にある。

●御用米蔵跡

室津道の南、汐入川の東堤に建てられた2棟の土蔵。明治維新まで飾磨郡内における一橋領の年貢をここに納めた。舟で河口まで運び、大型船に積み替えて大坂難波や江戸浅草へ回送された。

●菅原神社

菅原道真を祀る。道真が九州に左遷される途中、天候が悪くなり船が進まず、英賀の田井ヶ浜に上陸した。この時、自作の木像が「我久」(高浜の浜辺の字名)という所に流れ着いていたのを祀ったと伝わる。

●菅原神社の力石

菅原神社の境内に3個の力石が保管されている。江戸時代から昭和初期まで津々浦々の集落で「力石」を用いた力くらべが行われていた。

●図書館広畑分館

平成6年に開館。敷地面積1,780㎡、建築面積1,409㎡、分館延床面積3,871㎡、広畑トレーニングルーム980㎡、鉄筋コンクリート造り。

●西保健センター

移転の際に、新たに保健福祉サービスセンターと障害者デイサービスセンターを併設。新施設は平成16年から業務を開始。

●広土地区画整理完了記念

広土地区画整理事業の完成を祝つて記念碑が建てられた。表碑には「姫路都市計画事業 広土地区画整理完了記念」と銘が記されている。

●広畑第二公民館

旧西保健センターの跡地に、単独館として、鉄筋コンクリート構造2階建て建設。山陽電鉄網干線の天満駅より、歌野橋線の県道に出でから東に徒歩8分の所にある。

●室津道

姫路城下より姫路藩の飛地で、古代より瀬戸内海の海上交通の重要な海路として繁栄した室津に至る街道。小坂にはその姿がよく残っている。

34 八幡地区

●犬塚

書写山園教寺の別院で慶雲山満乗寺(則直)という寺があった。この別院に人の言葉を聞き分け、書状を首に掛け、書写山との間を使っている賢い犬があり、この犬が病死したので村人たちが丁重に葬り、塚を作り、松を植えて弔った。

●大山咋神社

祭神は比叡山日吉神社と同じく大山咋命。大山咋命は大己貴命の大業を補佐し、治山・治水・開拓の神様と言われる。現在の鳥居は広畑沖の干拓が成功したのを感謝して奉納されたもので、拝殿は昭和56年に改築されたもの。

●蒲田神社

祭神の応神天皇が播磨を巡幸されたことがあり、後に人々がご駐蹕の跡に一字を建て聖徳を偲んだことが神社の起源とされる。貞享年間(1684頃)よりの絵馬が多く奉納されている。八幡の名称は、祭神の別名八幡大神より引用している。

●慶雲山満乗寺推定地

慶雲山満乗寺は書写山園教寺の別院であったが、戦国時代の兵乱で消滅したと伝わる。現在は則直字上の坊の字名が有って、当時の本尊と言われている石仏が専修寺境内にある。

●才天満神社

祭神は英賀媛大神・菅原道真で創建は極めて古いとされる。文政4年(1821)の狛犬・安政6年(1859)の鳥居と明治10年代の力石がある。また水論で係水のあった七ツ石があり、元は約500m北の農業用水の分水地点にあった。

●才の地藏尊

諸国巡拝の行者玄達が、天保2年(1831)から3年かけて建立。高さは3mの大型の地藏菩薩である。

1 地域夢プランの歩み
2 地域夢プランの類型化
3 地域夢プランのとりえ
4 地域資源の全リスト

石工は塩村村(現高砂市)庫本伊兵衛。毎年8月24日には地蔵盆が盛大に行われている。

●下野古墳群

この地には数十基の古墳群がある。後期古墳時代(6世紀)のもので、中には石室内に石棺が残っているものもある。また土の盛り上がった場所も数か所あり崩壊した古墳と思われる。

●白屋政所跡

平安時代末期、蒲田一円は後白河法皇の内親王殷富門院の所領であった。菅原道真の七代の孫、菅原有年が荘園の執事別当として、都からこの地へ赴任してきた。有年は西蒲田の地に政所を開き、白屋政所と称した。

●大庄屋飯塚家

蒲田組大庄屋の飯塚家は、天文15年(1546)飯塚六左衛門が余部庄左右両代官を務め、秀吉の中国攻めや英賀城攻略にも加担した。江戸時代初期から明治維新まで大庄屋を勤めた。土堀と石垣がマッチして美しい景観を見せている。

●高畑地蔵尊「出逢地蔵」

昔の地蔵堂は今の場所から南側にあった。松の大木があり、西国へ通じる街道の目印になっていた。「出逢いの松」と呼ばれていたが、昭和20年頃枯死した。また境内には戦国時代に戦場となったと思われ、戦死した武士の墓、五輪塔が多くある。

●稚児ヶ淵伝説の地

かつては、夢前川が蒲田を貫いて流れ、東の山並みに迫る所は深い淵になっていた、通称「ちがら淵」[稚児ヶ淵]と言う。蒲田にあった長谷山蒲田寺の僧が菅原白屋村(西蒲田)の娘と身を投げた悲しい伝説から、「稚児ヶ淵」と呼ばれた。

●泣き坂峠・才古墳群

才天満神社西側から揖保郡太子町原に至る峠で、秀吉の播磨平定の際、英賀城より落ち延びた城兵が焼ける城下を見て涙を流して別れを惜しんだと言う伝説がある。また、付近には後期古墳時代(6世紀)の古墳が多く、前方後円墳もある。

●西蒲田天満神社

永享年間(1429～41)祖神菅公を祀ったのが起源とされる。境内にはご神木である楠があり、市の保存樹に指定されている。明治21年菅野孫次郎奉納の算額給馬がある。昭和60年に社殿再建。

●西野山随応寺・才城跡

宗派は臨済宗妙心寺派。延宝5年(1677)薬師堂を井上弥兵衛一族が建立、その後綱干の盤掛師を請じて第1世とした。又、才城は随応寺付近にあったと思われる。飾磨郡誌には「才橋居領主は才伊三郎政直置塩赤松晴政の子」とある。

●姫路城石切り場跡

慶長6年(1601)姫路に入った池田輝政は姫路城築城に取りかかった。多くの石材を調達するため付近の山々より石を切り出した。西蒲田にあるこの場所は、下手野にある鬘櫛山等とともに石材を切り出した場所の一つである。

●摩尼宝山誓福寺

宗派は真宗大谷派。本尊は阿弥陀如来。元龜2年(1571)教上人が建立。300年後仏閣ごとごとく焼失の憂きめにあい再建、現在の本堂は昭和9年に建てられたもの。

●室津道道標・高札場跡

室津道は姫路城下の山陽道より分岐、町の坪～オ～小坂を経てたつの市室津までの道を指す。天保9年(1838)建立の道標があり「左あぼし、むろつ・右たつの、びぜん」と記される。また、旧屋敷蔵付付近には、高札場があったようだ。

●八幡小学校跡、八幡村役場跡

明治22年市町村制施行に伴い飾磨郡八幡村と称し、この地に村役場を設置した。また、役場と隣り合って八幡尋常小学校があった。明治26年9月20日に、近隣の学校を統合、校舎を新築開校し、この日を小学校の開校記念日とした。

●山所古墳・小養峠

後期古墳時代(6世紀)頃のもので、すでに半壊しているが規模が大きく、墳の内外から弥生式土器等が出土している。又、小養峠は古い時代の街道で峠を越えると荒川神社に通じている。

●夢前川洪水防護堤防

暴れ川として民衆に恐れられた夢前川。洪水より村を守った堤防が各所にあったが、校区内ではここにだけ残っている。

35 大津地区

●魚吹八幡神社の秋祭り(大平橋)

10月22日の本宮の朝8時頃、大津方面の屋台6台が大平橋付近で出立ちの練合せをする。また、宮からの帰りにも電飾された6台の屋台が、祭りの名残を惜しんで深夜まで練合せをするのが名物となっている。

●姪子神社

明治6年の記録に、大己貴尊・事代主尊(恵比須神社)394坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が開発された寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。

●大津公民館

昭和62年大津中学校区(大津・大津茂・南大津)の活動拠点として新設。以降、活発な活動を展開。東京書籍の「新しい社会」3年の教科書にも紹介されたことがある。県内外各地から多くの参観者がある。

●「大津賛歌」歌碑

平成8年の中核市指定、新市誕生50周年を記念して、「大津賛歌」を作成。作詞は中村暁子、作曲は山本勲。文化祭等には必ず全員で合唱する。

●大津茂川

二級河川大津茂川水系大津茂川。林田町大堤から瀬戸内海に至る。全長18,608m。

●回国地蔵

地蔵の台石に「日本回国」や「享保」の銘文が刻まれており、また、地蔵も同時に奉納されたとみられる前の石燈籠に「享保14年」の年号があることから、1729年に日本廻国の記念として奉納されたと考えられる。

●北向地蔵

明治後年までは旧武大神社境内の西端にあったが、神仏分離令で境内東側の空地に移され、さらに、昭和13年から始まった県道歌野線の道路敷設工事で現地に移された。昔から北向きで有名。

●旧新宮藩船着場跡碑(旧新宮藩役人詰所)

旧平松港北の荷上場であって、瓦葺中二階の建物。明治5年に作られた平松村戸籍簿によると、ここが1番地とされ、新宮池田家15代領主池田頼実名義であった。平成9年に不審火で全焼。今は道端に記念碑だけが残る。

●洪水碑(昭和)

昭和51年の大洪水によって、950戸のうち402戸が床上浸水、400戸が床下浸水するという未曾有の大被害を受けた。後代の人たちに知ってもらいため水位を表示している。

●洪水碑(明治)

この碑は、平成8年に竹内菊太郎さんの生家の旧居に自治会が建立。明治15年の台風で、平松村では大津茂川決壊や民家の倒壊、吉美村では大津茂川、西汐入川、沖防波堤の決壊など、村々の被害状況が記されている。

●汐入川

二級河川汐入川水系汐入川。大津区西土井から瀬戸内海に至る。全長3,380m。

●神明神社

明治6年の記録に、天照大神社128坪と記載がある。村前新田50町歩(現天神町・恵美酒町)が成立した寛永期(1624～1643)ごろには、既に建っていたと考えられる。神明とは天照大神の特称である。

●神明神社の力石

毎年、魚吹八幡神社秋季例祭宮宮の日(10月21日)に、江戸時代から続く「力持ち」が行われている。全国的にも珍しい伝統行事として、平成14年に市の無形民俗文化財に指定された。自治会で保存会を結成し、継続に努めている。

●須賀神社

魚吹八幡神社の記録に「兵庫懸播磨國揖保郡大津村

ノ内西土井村 宇居屋敷五拾六番地鎮座 無格社 須賀神社 祭神 素戔嗚尊」また、「明治四十年七月二十七日全村字荷山 無格社須賀神社ヲ合祀ス」とある。

●須賀神社の力石

境内に丸みを帯びた大きな石が2つあり、秋祭りなどでその石を持ち上げて力比べをしたと伝わる。この力石の散逸を防ぎ、後世に伝えるために、平成14年に保存場所を定め、石碑が建てられた。

●菅原神社(天神)跡碑

天満村の史料上の初見は、長享元年(1487)の「播磨国福井庄村名法文」である。天満村が天神社(菅原神社)を建立したが、明治39年の合併合により天神は神明に合祀されたため、その跡地に碑を建てた。

●説教場

説教場は明治31年に造られ、説教場前の石碑に建設の経緯が書かれている。昭和59年に今の姿に建て替えられ、仏事だけでなく、「日曜学校」、自治会をはじめ各種団体の会合の場所として広く活用されている。

●前大津公民館跡地(旧揖保郡大津村役場)

昭和37年の大津支所廃止に伴い市立大津公民館となる。以降、現公民館を設立するまで謡曲、華道並びに婦人会等の活動拠点となる。初代館長は立川栄之助氏。跡地の一部は現岡下消防団大津分団の拠点。

●大悲山仏心寺

明応9年(1500)に細川右京大夫勝元の子孫、細川安右衛門が出家して「了膳」となり開基したと伝わる。宝暦元年(1751)失火により焼失。宝暦8年本堂再建と棟札に墨書が残る。昭和62年に庫裏再建、平成10年に本堂再建。

●天満地蔵

現在の地蔵石像は明治32年に建立。元は旧郷藏前南向きであったものが、昭和47年の公民館建設により現在地に移り、東向き地蔵となった。本村では、地蔵盆を8月23日に行い、聖安寺住職の導師にて子どもらの読経がある。

●天満墓地

大津小学校の前身満教小学校(明治7年)教師村上東庵の墓、徴兵制実施後、初めて戦争(西南の役)犠牲者となった三木浅五郎の墓、明治15年の大洪水の犠牲者となった村の指導者福本運助の墓などがある。

●等覚山聖安寺

寺伝によると、文明9年(1477)に禅宗等覚寺として順正が開基と伝わる。明応2年(1493)真宗に転宗し、正徳3年(1713)聖安寺に改号。丸亀藩主高豊(備中守)・高矩(佐渡守)三代の位牌を安置する。

●長松地蔵

明治14年荒神社改築に際して境内東北に石造り地蔵尊が南向きに露天で祀られていた。明治40年に神仏分離令で村西の郷倉屋敷に約一間四方の屋根付で南向きに祀られる。毎年8月23日の地蔵盆には厄年の男女がお祭りを行う。

●西土井川

市普通河川汐入川水系西土井川。大津区西土井から汐入川に至る。全長1,124m。築切橋から西土井川と汐入川の合流点までは、河川敷公園(西土井川緑地)として整備されている。

●涅槃山仏性寺

永正5年(1508)に、ある村人が日照りから村を救うために原池の堰を切り、その罪に問われたが、この話を伝え聞いた仏光寺の門主により罪が許された。その後、この村人は上人に帰依し、草庵を建設し、今日に至る。

●播磨風土記の里 小山

奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に、「上笠岡」が記されている。これとは別に、むかし、弁慶が前と後の荷を「おこ」でかついでいた時、この地でおこが折れて荷が落ちた。それが箱山と小山という言い伝えも残る。

●平松村の歴史碑

平成18年に旧平松武大神社跡地に建立。正安元年(1299)の神護寺文書に、京都・神護寺領であった平松の樋守に年貢米を渡したと記されたことから、それ以前から村が形成され、農耕を行っていたことが伺い知れる。

●武大神社(荒神)跡碑

天満村の史料上の初見は、長享元年(1487)の「播磨

国福井庄村名注]である。天満村が荒神社(武大神社)を建立したが、明治39年の合祀令により荒神社は姦子に合祀されたため、その跡地に碑を建てた。

●武大神社(長松)

元禄年間に荒神社を長松村宇利から現在地に移し、明治14年に本殿・拜殿を新築。昭和天皇の御大典記念に本殿・拜殿を拡張し、広峯神社からご祭神として素戔嗚尊の神を勧請し、武大神社に改称。

●武大神社(平松)

明治政府の命により平松の荒神社は魚吹八幡神社を根社として、素戔嗚尊を祀る武大神社となった。大正天皇の御大典に際し、鳥居、手水舎を建立して神殿を整えた。本殿は平成5年に竣工した。

●保存樹 エノキ(西土井)

昭和47年に、六地藏のそばの大きなエノキを市の保存樹に指定。指定当時の資料では「樹齢100年から200年、樹高12m、幹周2.9m」[海岸線に生育している樹木のうちでは珍しい立派な樹形]と紹介されている。

●道しるべ(平松)

昭和2年に岡田孫治氏の10円寄付で建立された。県道の整備事業により現在地に移設されたが、以前の趣は失われてしまった。

●室海道道標(天満)

本村の道は東西約800mの細い道で、車力(荷車)の普及に伴って大正3年からの道路拡張工事も2.5mしかなかった。自治会では「室津道」の原型や呼称が消えるのを惜しみ平成9年に「道標」を建てた。

●室海道道標(長松)

かつて室津道は室海道と呼ばれ、長松地区室津道は、海岸の砂堆地の畑地に沿って東西に走り、長松から天満に通じていた。現在の道標は、大津中学校建設に伴い、平成7年に再建。

●室津道道標(西土井)

室津道は才の村、小坂の村、西土井の村を通り室津へ通じていた。小坂に通じる橋のたもとに建てていた道標は、橋の新築や道路の拡張のため撤去されたが、平成13年に石碑を建立。その際に「室津道」の名称を刻んだ。

●横堰跡碑

田圃に水を入れるために大津茂川を堰止め、その井堰を「横堰」と言うが、村人は「よこせん」と呼んでいた。碑は自治会が市のサイン事業第1号として平成9年に建立。上流には、この他7ヶ所井堰があったと伝わっている。

●六地藏

汐入川公園の東側に数基の墓石と並んで六地藏がある。享保14年(1729)の銘があり、市内では古い方である。保存樹「エノキ」のそばに佇む。

36 南大津地区

●大津村道路元標

大正8年、県により発せられた、県内の1町村に1個の道路元標を石碑として建立せよとの布達を受け、大正9年に、吉美村西宅地848番地の南道路大津1号の起点に大津村道路元標が建立された。

●勳兵衛神社(日吉神社内)(勳兵衛)

日吉神社の中にある勳兵衛神社は、三木勳兵衛・官次親子の業績をたたえたもの。社殿は、昭和33年に建立。

●勳兵衛新田大手田堤碑

天保13年(1842)に龍野藩主脇坂淡路守が幕府の命を受け、則直村の三木勳兵衛に大津茂川河口の干拓を命じた。勳兵衛は弘化元年に潮止めに成功し、嘉永2年稲妻を試作、同7年に本検地が行われた。勳兵衛を称えて石碑が建てられた。

●吉美村小字地名絵図(若宮八幡宮内)

明治7年頃の吉美村の小字地名を絵図にしたものである。

●吉美村船溜港跡地

吉美は、古くは「君ヶ浜村」といわれ、吉美村船溜港跡地記念碑から西へ70mありのところに吉美港が

あった。林田藩役人が常勤する蔵屋敷や藩主のお茶屋、回船問屋も多くあったが、今はその面影はない。

●君浦由来記(君ヶ浜公園内)

吉美村には、大津で最も古い地名由来記の君浦由来記が残っている。それによれば吉美村は古名を君浦と言ひ、明応元年(1492)、君箇濱と改名すると記されている。

●西照寺

光養山西照寺は明応元年(1492)に隆権法師によって開かれ、歴代住職、吉美村の門徒をはじめ、ご縁につながる方々の報謝によって守られているお寺である。本堂内には、蓮如上人六字名号、絵仏(方便身尊形)や木仏がある。

●汐入川井堰・門扉変遷の碑

江戸時代末に勳兵衛新田ができたときに、300m南に大門扉を設けて潮止めし、300m北に井堰を設けて灌漑に利用していた。昭和12年の日本製鐵広畑製鐵所の誘致や昭和49年のポンプ場の建設に伴い、ともに取り壊された。

●潮止め(勳兵衛)

新田開発にあたり、勳兵衛・官次父子は、従来の土堤と違い大量の石を積み重ねる石垣堤をつ造った。石は家島の石や天満村の古塩漬跡の石、吉美村の古塩漬跡の石も使われた。その後、近郷や他領から多くの人が参加し、新田開発は成功した。

●専徳寺

安政2年(1855)に開かれた専徳寺は、歴代住職、勳兵衛吉美村の門徒をはじめ、ご縁につながる方々の報謝によって守られている。本堂には、三木勳兵衛を祀る土像や、新田開発時に龍野藩の殿様よりいただいた一対の仁王像がある。

●跳橋構造式 大吉橋跡 記念碑

吉美村と大江島村を結ぶ大吉橋は、帆船や高瀬舟が大津茂川を行き来できるよう、橋の東半分を手動ウィンチで巻き上げる跳橋として昭和7年にかけられた。その後、昭和27年に新しい橋をかけるために取り壊された。

●林田藩船奉行所 御茶室 藩蔵屋敷跡地

吉美村は、林田藩建部家が元和3年(1617)から明治維新まで所領し、藩船奉行所、殿様御茶室、藩蔵屋敷があった。林田川、損保川、綱下川を行き交う高瀬舟が年貢米などを運び、吉美廻船が大坂、九州などへ回船した。

●日吉神社(勳兵衛)

三木勳兵衛親子によって開墾された勳兵衛一帯の、新しい村の鎮守として建立。春祭りが5月、秋の祭礼が10月に行われている。現在の社殿は、平成6年に再建されたもの。

●前新田跡碑

大津茂川河口の干拓は、三木勳兵衛の長男の官次が弟の元三郎と共に引き継いだ。安政4年の暴風で大手田堤がほとんど崩壊したが、翌年には完全に修復。文久元年に約60町歩の石垣堤防の前新田が完成した。これを称えて石碑が建てられた。

●松吉丸船鑑(若宮八幡宮内)

安政3年(1856)に造船された松吉丸は、大坂の林田藩蔵屋敷まで年貢米などを運んでいた。明治15年の台風で破綻したが、人命は救助されたことを八幡神のおかげと感謝し、鑑を海から引き上げ、若宮八幡神社に奉納されたと伝わる。

●南大津公民館

平成6年、南大津校区の地域ふれあいの拠点として新設された。広々とした庭園で、緑と四季の花に囲まれた公民館で、住民生涯学習の場として集い学ぶ交流広場、地域の人々の憩いの場として利用されている。

●れんこんづくり(勳兵衛)

南大津では、水はけの悪い土地を利用して、昔かられんこん栽培が行われている。良質のれんこんは、ほほ年間を通して収穫され、全国に向け出荷されている。また、小学校では「れんこん畑」を作り、地域の人々と一緒にれんこんを育てている。

●若宮八幡宮

吉美村が、元和3年(1617)林田藩建部家領になった頃、魚吹八幡神社の分霊をいただき創建されたので、若宮八幡神社と呼ばれていた。明治41年に吐崎明神社と釜屋の荒神社が合祀され、三神が祀られるようになった。

37 大津茂地区

●大津茂川

林田町大堰を源に、河口まで全長約18kmある。「播磨国風土記」に「伊勢川」に記されている川であると考えられる。昔から流れが止まったことがなく、また涸れたこともないという言い伝えが残る。

●大津茂川 横堰と田井潮止め水門

「よこせん」とは、元禄13年福井大池の水不足から池郷を脱退した3か村(田井・平松・吉美)が平松に造った塩害防止機能も有する灌漑用井関のことをいう。昭和51年の激甚災害による大津茂川大改修で、新たな潮止め水門が完成(昭和53年)。

●大津茂川田井潮止め水門

昭和51年の大津茂川の激甚災害で大改修が行われ、昭和53年「よこせん」に変わる潮止め水門が完成した。標高2.5mの農地や住環境防災に、干満時の水門管理が加わった。

●大津茂川の魚類・甲殻類

かつてフナ・コイ・ニゴイ・ナマズ・ウナギ・メダカなど多種多様な魚類やモズクガニなどの甲殻類が生息していた。現在はオコチバスやカムルチーなどの外来魚が増えている。樺村山付近では、かつての清流を取り戻しつつある。

●大津茂川横堰(よこせん)

元禄13年(1700)福井大池の水不足から、池郷を脱退した田井・平松・吉美の3か村は、その代替として大津茂川の最末の平松に灌漑用井関を造った。用水の確保と潮止め塩害防止の役割をして「よこせん」といわれた。

●春日神社

祭神は天照大神、天児屋根命、武甕槌命、経津主命で、豊穣・安全・縁結びの神として信仰を集めている。

●上笠岡・下笠岡・魚戸津・柵田

奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に見える地名で、勝原区山戸・熊見、大津区西土井・天満あたりに比定できそうである。「魚戸津」は大津茂川の河口地、「上笠岡」は西土井にある小丘と考えられている。

●田井屋台

現在の屋台は昭和31年に製作。擬宝珠に沿うように金の鯉が空に跳ね、屋根の前後の紋は田井をもじって鯛が波に跳ねている。担ぎ棒の吉野杉は無節でたわみがよく、練り子に均等に力がかかるように工夫されている。

●高河原池(たかごうらいけ)

西土井村境界の「はんさい川」源流で、すぐ下流の「大野池」とともに、豊富な伏流水の水源地になっている。現在、ショッピングセンター(イオン)の敷地になっているが、今でも天満の農業用水として役立っている。

●立川熊次郎生家

立川熊次郎は、明治11年に宮田村で生まれた。1930年代、大阪で活躍し「立川文庫」で一世を風靡した。「猿飛佐助」など懐かしい。平成16年に、姫路文学館で特別展が開催された。

●天満・長松村分水碑

明和4年(1767)天満・長松の両村に水論がおこり、天満805石、長松627石の村高に応じて福井大池と大津茂川の用水を分けるための堰と用水溝を設置。平成元年西汐入川改修で消失したため記念碑を建立。

●西汐入川

大津茂川の東側を流れる小河川。昭和51年、台風による大水害にみまわれ、改修工事が行われた。改修に伴う発掘調査によって、勝原小学校の北側に広がる丁・柳遺跡の実態が明らかになった。

●八才の池(命の泉)

明治時代の初め、「八才の池」と呼ばれるようになった。質・量ともすぐれ、長松の田を育てた。貴重な用水として、現在もその恵を受けている。

●武大神社

祭神は素戔嗚命・少彦名命・天水分命・国水分命。度重なる大津茂川の洪水で、明治以降3度移転、改修した。「水神さん」は他村に見られないもので、宇金保の竹藪に鎮座していたものを2回目の改修時に合祀

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで
2 地域夢プランのかたち
取組の類型化
3 地域夢プランのとなえ方
検証と未来へのアプローチ
1) 姫路市地域夢プランの概要
2) 地域資源を活用したまちづくりと展望
3 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
1) 地区ごとの主な地域資源
4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
1) 地域資源の概要

した。

●宮田古文書

慶長9年(1604)の「池田三左衛門殿慶長検地図」、安政3年(1856)の「宮田・宮内村水論図」をはじめ、絵図、古文書、航空写真等の貴重な史料が保管されている。

●宮田町内公共設備記念碑集合

橋の架け替え、河川改修、神社移転などに伴う記念碑が集められている。力石が3つある。

●宮田西川

慶長9年(1604)の絵図では「裏新田」に川が湾曲して入込み、低湿地が多かった。幕末に低湿地を6反まで減らし、浮華(ふけ)周辺はレンコン畑等に利用。浮華河岸は伏流水が湧く。仲吉橋付近では鯉や鮒が多く生息していた。

●宮田屋台

現在の屋台は3代目(平成5年製作)。「松に鷹」の紋を前後に、巴を左右に配置。高欄下に播州屋台唯一の若狭塗りを施してある。隅絞りは亀甲模様、鳳凰をあしらった、屋台に隙間が無いよう引締めている。2代目は書写の里・美術工芸館で展示。

●室津道

姫路藩の飛地で、重要な港として栄えた室津に通じる古道。「室街道」「室海道」とも呼ばれる浜街道。室津に停泊した朝鮮通信使の団を応接するために、姫路藩の役人たちが頻りに往来した。

●室津道の田井の土橋

大津茂川に架かる最終橋で、欄干もなく華奢な橋げたに土盛りをしただけの狭い橋だった。魚吹八幡神社秋季例祭には、宮田や大津の各村の屋台が通ったが、屋台の中棒だけで、冷や汗をかきながら軽業師のごとく運行したと伝わる。

38 網干地区

●網干川

昭和初期の網干川は、機帆船と呼ばれる焼き玉エンジンと起重機用マストのついた船が行き交い、石炭や醤油樽等を運んでいた。網干水門ができるまでは、大水の時増保川へ放流した。現在、8月上旬に網干川祭りとして火花大会を開催。

●魚吹八幡神社(津の宮)の秋季例祭

網干の地名は、津の宮の放生会で、氏子の漁師が放生を禁断して網を干したことに由来。今ではこの魚吹神社の秋祭りを網干まつりと称し、毎年10月21～22日に近郷25ヶ村が集まり、お旅提灯や権尻と屋台を出し合う。

●大江神社

稲荷・恵美酒・武大・春日・金比羅の各神社が合祀され、明治45年に今の神社名になった。玉垣には、文久2年(1862)の年号が刻まれている。

●海北山 薬師寺

海岸に漂着した崇徳上皇御念持仏の薬師如来を祀ったことに始まると伝わる。開基は僧侶翁で、海北山福祥寺と称した(1166年)。1675年に龍門寺四世永明和尚が薬師寺として再興。徳川将軍家13代の位牌も祀られている。

●勝海舟直筆の碑

網干町初代町長・加藤邦太郎の彰功碑が、船渡八幡神社の北に道を隔てて建てられている。この碑の題字が勝海舟の直筆によるもので、勝海舟の部下であった網干出身の赤松則良の功によるものとされる。

●加藤家

天領の蔵元であった加藤家は、身分は商人でありながら名字帯刀を許された。多くの古文書を遺し、中でも江戸時代の損保川の物産流通の資料は貴重なもので史編纂室に寄託されている。

●旧網干銀行本店

旧網干銀行は明治27年創業。大正末期に本店を現在地に移転し、煉瓦建て銅板葺きの洋風本館を建築。昭和40年神戸銀行時代に本館は銀行業務を終え、現在は婦人服飾タケダ。市の都市景観重要建築物等に指定。

●河野鉄兜生家と石碑

鉄兜は文政8年(1825)、網干垣内村に生誕。幼少のころから神童の称あり。弘化2年(1845)に損保郡伊津村で医業を開き、後に林田藩校敬業館の教授となる。また詩人として後に明治維新の花神といわれた。代表作は「吉野懐古」。

●善慶寺

明応元年(1492)の開基と伝わる。江戸中期に火災に遭い、本堂は正徳2年(1712)再建。本堂前には、安永10年(1781)の年号と鰻の瓦師の名を刻んだ鬼瓦がある。裏には阿弥陀坐像と並んで、三界萬靈等がある。

●ダイセル赤煉瓦造り発電所

ダイセル化学工業(株)の前身の日本セルロイド人造絹糸(株)が、ダイセル異人館と同時期に建設した石灰門橋の赤煉瓦造りの発電所。今は稼動していないが、巨大な煙突をもつボイラー棟と発電のための二階建ての棟が、直列に配されている。

●ダイセル異人館(赤屋根)

明治43年、ダイセル化学工業(株)の前身の日本セルロイド人造絹糸(株)の外国人技師の住宅として建設。意匠は19世紀イギリスのコテージに類似、外装等はアメリカのコロニアル・スタイルと共通点が多い。市の都市景観重要建築物等に指定。

●ダイセル異人館(緑壁)

赤屋根のダイセル異人館と同時期に外国人技師の住宅として建設された。住宅としての利用を終えた後は、図書館やクラブハウスとして利用された(現在はセルロイド資料館)。市の都市景観重要建築物等に指定。

●龍野藩の藩邸跡

網干小学校の校地の北半分は江戸時代に、龍野藩の藩邸があったところで、御茶屋と呼ばれ、藩主もしばしば訪れたと伝わる。今は、校庭の東端部に当時の井戸枠が保存されているほかは、藩邸の痕跡を示すものはない。

●長太郎石

網干音頭で「網干、垣内の長太郎さんは、馬に乗るとて馬から落ちて…」と謡われている長太郎さんの実在の年代や人物像は不明であるが、垣内に長太郎邸の礎石が路上に残っており、これを網干音頭の発祥地としている。

●稻香村舎 誠塾

慶応4年(1868)、河野鉄兜の弟・河野東馬が設立。東馬は勤皇の志士で、江戸城開城、新政府樹立に貢献したが、新政府の召出しに応じず網干に帰省。医業の傍、稻香村舎(呑香書屋)を建て、後に誠塾と改名し優秀な人材を育成した。

●船渡八幡神社(若宮)

余子浜の損保川堤を南へ歩くと船渡八幡神社(通称若宮さん)に至る。ここを神楽岡というのは、神功皇后が御船をこのあたりにつけ、御神楽を奏せられたためと伝わる。また、この地の南から東方へ、堀川と称する数十間の船溜があった。

39 網干西地区

●網干商工会館

大正13年6月に網干商工会が設立され、昭和15年に会館が建設された。当時、約350の商工業者が会員であった。現在は、網干商工同友会として、活動している。

●池田龍眠句碑(龍門寺境内)

網干出身で萩原井泉水主宰「日を浴びて」を発刊。この碑は昭和9年建立で、「木の葉ふる 堂の扉を 鎖しぬる 龍眠」と刻まれている。

●義徳院

盤珪国師生誕の地。境内に産湯を汲んだ井戸が伝わる。国師の父や兄の医業の道具等が遺る。国師は50回忌の元文5年(1740)に桜町天皇より「大法正眼国師」の号を特賜された。国師の禪は「不生禪」とい、禪の世界で注目を集める。

●京極家 網干陣屋

寛永年代(1624～44)より網干を領有していた京極家は、丸亀に移るにあたり損保郡の内28ヶ村をそのまま飛地領として領有。代官や奉行等を置き陣屋と称し、年貢の収納など政務を行った。陣屋門(再現)だ

けが当時の面影を残す。

●金刀比羅神社

大己貴命ほか数神を祀る。御神燈は天保14年(1843)のもの。水盤に讃岐の地名や船の名や船主名が刻まれている。

●西方寺

天文2年(1533)慶雲が開基、盤珪禅師の兄の寿延上人が中興。

●大覚寺

天福元年(1233)定翁隆禪上人が光接院として開基、後に弘治2年(1556)白鶴の靈驗により現在地に移転し、鶴立山大覚寺と称した。国重文の絹本著色の釈迦三尊像(3幅)十六羅漢像(16幅)がある。

●不徹寺

元禄元年(1688)創建。開基は嶺雲貞閑比丘尼(田捨女)。51歳の時に盤珪禅師の徳を慕って帰依した。江戸時代の女流俳人として有名。捨女の3回忌頃に現在地に移転。女坐禅堂があり、誰でも参加できる坐禅会が月に一度ある。

●山本家

大正3～7年に施工。土堀越しに見える3階建、黒壁塗りの望楼風の塔はひとさき高い。外観は通常の和風ではなく、上げ下げ窓や鏝戸など洋風の要素をミックスしたもので。市の都市景観重要建築物等に指定。

●龍門寺

寛文元年(1661)創建。開基は赤松円心の子、光則。嘉吉の乱で戦死後、廃寺しかけた龍門寺を盤珪国師が再興。国師の「不生禪」は大名に限らず庶民からも深い信仰を得た。毎年4月に行われる献茶会は直径約50cm超の大茶碗で有名。

40 旭陽地区

●赤松塚

高田安田公園の片隅にあり、戦国時代にあつたといわれる朝日山合戦の戦没者を供養した場所か。いつのころからか、鉄入れしたり耕したりすると病気が災難に遭うといわれ、改変されないままになっている。

●稻荷神社(津市場)

拜殿には元治2年(1865)「稻荷神社祭礼図」絵馬が掲げられており、江戸時代に盛大に行われていた火揚げの様子が描かれている。火揚げ(柱松)は、かつて稻荷河原とよんでいた神社西の津市場西公園で戦前まで行われていた。

●稻荷神社(津市場)の石造物

境内には嘉永元年(1848)の常夜燈や「雷村源兵衛五十二才」「力石 八斗」などと刻まれた力石が数個存在する。

●亥の子(津市場)

旧暦10月の亥の日に、亥の神が農業の守り役を終えて家に帰ってくるのを祝う行事。糞製ドーナツ形の輪を2つ重ねたインコ御輿を作り、中央部に大きな御幣、周りに金銀色紙を数十本立て、子どもの年長者と若い衆が担ぐ。

●宇須伎津

奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に見える地名で、地名の由来として「神功皇后」の説話が記されている。当時、損保川河口東岸にあった津と考えられ、奈良時代の損保川の流路や海岸線の位置を知る手がかりになる。

●魚吹の橋

東西約150m、南北約189mの範囲で、扇状の地形を囲むように堀跡と「門の口」「番屋」などの地名が残る。室町時代中期の「庶野日録」に、「播州の英賢、福井の中の津の宮城」とあり、15世紀末には築城されていた。

●魚吹八幡神社

祭神はオキナガタラシヒメ命、ホムタウケ命、タマヨリヒメ命。平安時代末期に石清水八幡宮の別宮となり、魚吹八幡神社と呼ばれるようになる。旧福井班の28ヶ村が氏子だったが、天保9年(1759)に6ヶ村が離れた。

中校区、網干中校区、大津中校区、広畑中校区と太子町の一部にあたる。

●福井屋台

昭和3～4年製作。前田熊次郎大工の作。黒檀・櫻を使った重厚で均整のとれた屋台。平成2年に改造し大太鼓を納めたことで、以前にも増して一段と響く太鼓と掛け声で重厚感あふれる屋台になった。

●船つなぎ岩

神功皇后がこの大岩に船を繋いだと伝わる。神功皇后は伝説上の人物だが、周辺には関係する伝承が多く残る。

●梵字型水路

福井荘の経営にあたった文覚上人が、少ない水を有効に活用するために考案したと言われている。福地河原(湧水)から下流の坂出・坂上・津市場まで水路を敷設した。現在もこの水路が利用されている。

●宮内川

宮内を流れ、大津茂川に合流する小河川で、かつて上流は「からけずの川」「五位ヶ瀬川」「竜門川」などと呼ばれていたと伝わる。水源は地の湧き水と雨水のため、水量は少ない。かつては各所に洗い場をつくって利用していた。

●山岡彦之助の紀恩碑

旧龍野藩士である山岡彦之助の功績を称えるために有志により建立された。山岡は明治7年、旭陽小学校の前身である日躰小学校の教員となり、38年間在職した。その間、旭陽村の子弟の教育に尽力した。

●和久遺跡

弥生時代後期～古墳時代初期の集落遺跡。これまでの発掘調査で100棟余りの竪穴住居跡、土坑や溝などが検出。大量の弥生土器も出土。大型の方形住居跡からは銅鏃(どうぞく)や水色をしたガラス製勾玉(まがたま)が出土。

●和久屋台

大正15年製作。和久屋台は伊勢調時代から長い年月受け継がれてきた。太鼓の台で30m余りを一直線に走り、静止するやいなや太鼓に合わせた屋台を一度腰の高さまで下げた後、一気に頭上に差し上げる。

41 勝原地区

●朝日谷獅子壇尻・獅子舞・綾子舞

獅子壇尻は、獅子舞や綾子の舞の舞台となる。獅子舞は14種類の舞で構成し、18～30歳の獅子団若衆が中心となり行う。その周囲を小学生の綾子が、中学生の笛とともに「綾子の舞」として獅子と遊ぶ子供の様子を表現する。

●朝日山

奈良時代に編纂された『播磨国風土記』に「大法(おのり)山」「勝部(すぐりべ)岡」と見え、応神天皇や渡来系氏族の説話が記されている。頂上付近には真言宗の大日寺があり、北東の尾根周辺には古墳群が存在する。

●愛宕神社

迦具土(カグツチ)神とスサノオ神を祭神として祀る。明応年間(1492～1500)の大火はつづの時、愛宕大権現に火揚げをして降雨を祈り、救われた村人たちがお礼として毎年火揚げをするようになったと伝わる。

●愛宕神社の火揚げ(朝日谷)

朝日谷の年中行事の一つで、8月15日の夜に行われる。かつては20m近い竿に籠をつけて行っていたが、現在はやや簡素化し、高い柱の先にワラを詰めたジョウゴ形の竹籠を結わえて建て、たいまつを投げ上げて火をつける。

●大田里

奈良時代に編纂された『播磨国風土記』に見える地名で、旧大田村を中心とする大津茂川流域にあたる考えられている。『播磨国風土記』には地名の由来として、渡来人移住の説話が記されている。

●大津茂川

林田町大堤を源に、河口まで全長約18km。『播磨国風土記』の「伊勢川」が大津茂川だと考えられる。流域には、丁・柳ヶ瀬遺跡をはじめ、多くの遺跡がある。昭和51年の台風被害を機に、大規模改修工事が行われた。

●西信寺(西の坊)

文治年間(1185～90)に、福井荘地頭吉川氏が信寂上人(法然の高弟)を朝日山の東麓に迎え、浄土宗播磨義が栄えた。坊舎は36坊ともいわれたが、戦火によって焼失し西の坊だけが残り、和久村に移されたと伝わる。

●坂出(さかで)遺跡(沼・高田遺跡)

かつて沼・高田遺跡とよばれていた遺跡。石器や縄文土器(縄文時代後期)・弥生土器(弥生時代前期)が出土し、竪穴住居が確認されている。現在、遺跡の範囲が北と東に広がることが判明し、坂出遺跡と呼ばれている。

●坂出屋台

平成9年に新調。屋台全体は屋台製作の名工、小林秋男の手によるもの。彫刻は独自の技法をもつ大西一生、飾り金具は「うっとり彫り」の第一人者の竹内雅泉、漆塗りは砂川仏壇店、太鼓は播州一の真田辰次郎が製作。

●坂上屋台

平成6年に新調。飾り屋台から脱皮し、やや練り屋台風に製作しているのが特徴。屋根を深くし、伊達綱が似合うよう屋根全体を大きく見せ、どっしりした感じに作られている。屋台の大きさを表す柱芯の大きさは2尺8寸。

●盛徳寺(文覚寺)

応保2年(1162)文覚上人の開基と伝わり、通称・文覚寺。上人没後に廃寺となったが、元禄期(1688～1704)に蒙山祖印禅師が中興し、寺号を盛徳寺と改めた。その後、再び廃寺となるが、明治29年に再中興。

●専稱寺(播磨道場跡)

蓮如上人直弟の祐全が文明年間(1469～87)に英賀に道場を開き、その後、播磨各地に「六坊三道場」を設け、その三道場の1つが潮音山専稱寺。潮の音に囲まれた念仏道場で、当時は下寺50余りを支配したと伝わる。

●高田遺跡

大津茂川流域にある遺跡で、平成3年、土地改良区画整理事業に伴い市教育委員会によって発掘調査が行われた。溝や土坑などが検出され、120個体あまりの弥生土器(弥生時代中期)が出土した。

●高田屋台

現在ある18台の屋台の中で最も古く、天保年間(1830～44)に製作された。屋根の下の狭間や高欄の彫り物は松本長五郎が手がけ、高田屋台の自慢とすところ。直径105cmもある大太鼓は魚吹一の自慢の音を響かせる。

●津市場北屋台

昔は出屋敷とよんでいた津市場北は、「津市場には屋台が二つある」という誇りをもって屋台を練り出していた。練り方は、昔から伝わる「ヨイサージャー」という掛け声で、ガブリながら練るのが特徴。

●津市場屋台

津市場は戦中・戦後の長い間、常に率先して屋台の練りだしを行っていた。昔は村が揖保川の河口にあったことから、村印は川の字を横にした横三本線にしたが、これを屋台の隅飾り、幕、金具などに多く取り入れている。

●角戸の石仏

鎌倉時代初期のものといわれる3体の石仏。花崗岩の半肉彫り坐像で、いずれも舟形光背をもつ。2体は阿弥陀像で、もう1体は不明。文覚上人を慕ってこの地に来た角戸三郎の菩提を弔うために造られたといわれている。

●徳寿院

創立年代不詳。真言宗高野山平等院の末寺。もとは魚吹八幡神社の社務を支配する神宮寺として境内の北西に建立されていた。本堂は18世紀前半に建立されたもので、内部に僧形八幡菩薩などを祀っている。

●播電鉄道軌道跡

明治42年に「齊崎～網干港」間に龍野電鉄として開通し、大正4年に新宮まで延長。大正13年に播電鉄道になり、昭和9年まで営業。軌道は現在の県道太子・御津線にあった。

●福井荘

平安末期に成立。平家領、後白河院領、高野山大塔領を経て神護寺領となり、文覚上人が着任、経営。範囲は宮内村など28か村におよび、余部区を除く朝日

●魚吹八幡神社の摂社敷島神社

本殿裏の摂社は、旧本殿を移したものとされ、記録にある正保2年(1645)建立の本殿とみられる。三間社流造で、小規模ながら細部の手法に古い様相が見られる。県指定文化財。

●魚吹八幡神社の絵馬

天保10年(1839)の虎図、天保11年(1840)の祭礼図、弘化4年(1847)の中国官女図など、江戸時代のものが残されている。

●魚吹八幡神社のお旅所

「西の馬場」ともいわれ、魚吹八幡神社の渡神殿がある。秋の祭礼には、各町から屋台18台、壇尻4台、獅子舞などが神輿を運んで勢揃いする。お旅所の北西隅には、「御手洗池」がある。また、お旅所の南には「塩掻場」がある。

●魚吹八幡神社の秋季例祭

10月21・22日に行う。宵宮は竹竿の先に高張提燈をつけた「お旅提燈」の打ち合いや練り合いなどを行う。本宮は境内で獅子舞、楼門前で壇尻芸などが演じられ、「チョーサ」の掛け声で行う屋台練りや、壇尻の綱練りは勇士。

●魚吹八幡神社の鐘楼

神龜2年(725)、朝臣魚養公が神鐘を鑄て鐘楼を建立したと伝わる。神社に鐘楼があるのは珍しい。2代目の鐘は寛永年間(1624～44)の鑄造で、現在使われている3代目は昭和27年に新調されたもの。

●魚吹八幡神社の石造物

参道口には大正3年の大鳥居、楼門前には文政4年(1821)の常夜燈や天保9年(1838)の道標。境内には慶安4年(1651)の燈籠、文化14年(1817)の狛犬、天保12年の百度石、天保13年の井戸枠・手洗石などがある。

●魚吹八幡神社の千灯祭

7月14・15日の両日に行われる。幣殿と舞殿の両側に6段燈架を数組設け、千にもおよぶ燈明をともし五穀豊穡を祈願する。

●魚吹八幡神社の千本突

拝殿前の左右に約3m四方の板敷を設け、除夜の鐘が鳴ると、十数名の子どもたちが約1.6mの棒で板敷を打ち壊して去っていく行事。かつては拝殿で行われていたが、明治30年ごろから現在の形になった。

●魚吹八幡神社の力石(さし石)

6個の力石が保管されている。うち1つに「垣内 佐一郎持」「新宮 如吉」「江戸力者 三ノ宮卯之助持」「浜田 祐三郎持」「津市場村 津田新七持」と刻まれ、もう1つには「マツオ」「奉納」「口久造」と刻まれている。

●魚吹八幡神社の武神祭

かつては鬼追だった。3月末～4月初めの日曜日、社家筋の者が執り行う。氏子22町が当番を決め、鏡餅と御神酒を桜と橘で飾り壇尻に乗せ、賑やかに運び、神前に供える。午後は童子2人の大神舞から始まる鬼踊と餅撒きを行う。

●魚吹八幡神社の保存樹

オガタマノキ(モクレン科)をはじめ、境内の森全体が保存樹に指定され、大切に守られている。

●魚吹八幡神社の本殿

三間社入母屋造で、18世紀の建築と考えられる。淡路の神社建築技術の系統を引く特異な本殿として注目されている。

●魚吹八幡神社の楼門

棟札や瓦銘から、貞享3年(1686)の建立と考えられる。三間一戸の入母屋造で、規模が大きく細部の手法にすぐれている。県指定文化財。

●延命地藏

正式名は「太子町天台宗斑鳩寺地藏堂」。天明年間(1781～89)に疫病が流行したとき、効験があったということで、信仰が広がった。現在の六角堂は、昭和11年に信者らによって再建、寄進された。

●送った(坂上)

弘化4年(1847)から始まったとされる虫除・雨乞いなどを祈願する農村行事。しばらく途絶えていたが、平成13年に復活。当時は、鐘・太鼓・松明を持ち、大津茂川に火のついた松明を投げ込んだと伝わる。毎年8月15日。

●大津茂川の魚類・甲殻類

かつてフナ・コイ・ニゴイ・ナマズ・ウナギ・メダカなど多種多様な魚類やモズクガニなどの甲殻類が生息していた。現在はオオクチバスやカムルチーなどの外来魚が増えている。檀特山付近では、かつての清流を取り戻しつつある。

●大家里（おおやけのさと）

奈良時代に編纂された『播磨国風土記』に見える地名で、勝原朝日谷から太子町にかけての地域にあたると考えられている。地名の由来として応神（おうじん）天皇巡行の説話と、後に「大宅里」と改められたことが記されている。

●春日神社（山戸）

アマテラス大神のほか、アマテラス率いる天孫族の武将であるタケミカヅチ命・フツナシ命・アマノコヤネ命の三神が祀られている。また、境内には八幡神社・稻荷神社・金刀羅神社も祀られている。

●春日神社の絵馬

弘化3年(1846)の「絵本太功記」、嘉永2年(1849)の「神馬図」、嘉永5年(1852)の「武者絵図」、安政6年(1859)の「春日神社境内図」など、江戸時代の絵馬が多く掲げられている。

●春日神社の石造物

境内には、嘉永元年(1848)の狛犬、嘉永2年(1849)の常夜燈、菊と流水の紋が入った安政(1854～60年)の手洗石など、江戸時代の石造物が多く残っている。

●勝原小学校道路路標

距離単位の変革に伴う大正8年公布の道路法に基づき、府県道・郡道の起点・終点に設置。設置当時は勝原村役場にあったが、現在は道を隔てた東側の勝原小学校に移設されている。

●勝原小学校保存樹

勝原小学校の校庭にクスノキの巨木があり、保存樹に指定されている。

●吉備神社

吉備武彦(キビノタケヒコ)命を祀る古社。イザナギ神社創建に用いた錐(さり)を納めて祀ったので錐神社とよばれていたが、後に吉備神社に変わったという伝承がある。境内には、天保3年(1832)の狛犬がある。

●吉備神社の絵馬

吉備神社拝殿には、伊勢参宮記念の絵馬や写真が数多く掲げられている。なかには、旅姿を写した明治42年の珍しい写真がある。また、天保14年(1843)の「竹に虎図」もある。

●吉備神社の石棺橋

もとは吉備神社の南約50mのところ、用水路の橋として冢形石棺の蓋石が架けてあった。形が似ているところから、硯橋とよばれていた。現在は境内に保存されている。

●京見山

標高216m。尾根道が整い、自然を観察しながらオヤ太子町原方面まで縦走することができる。古墳が数多く築かれ、また、江戸時代中期～大正期には、大坂(阪)堂島の米相場を中継する「旗振り通信」も行われたといわれている。

●熊見屋台

平成7年に新調された熊見屋台は、播州白浜で製作され、灘の迫力と重厚さを備えながら魚吹の伝統と心をしっかりと継承した屋台である。屋根を飾る大きな露盤は、朱雀、青龍、白虎、玄武の四神獣が彫り込まれている。

●西宝寺

欣願(幼名は西道)により開基。西道は若くして本山の教如上人に仕えた。正親町上皇に拝講したとき、院に仕えるよう言われたが、仏門から去りたい旨と一向宗の神髄を説いたところ、権大僧都に任じられ、西宝寺の勅号を賜った。

●下太田廃寺

講堂、金堂、南門、回廊、寺域を画する基壇などが確認され、東西115.5m、南北約111mの寺域と「四天王寺式」の伽藍配置であったと推定されている。創建は7世紀末ごろ。檀越は渡来系氏族と考えられている。塔跡は県指定史跡。

●下太田廃寺の薬師堂

薬師堂は昭和10年代に改築されたもので、付近は講堂に比定されている。旧薬師堂は棟札によって万延元年(1860)に建てられたことがわかる。武者絵図の絵馬や明治の礼拝姿を描いた小絵馬などが掲げられている。

●速達神社

祭神はスサノオ命と思われる。「建」「速」の字はともに神威を表し、出雲のヤマタノオロチ退治に代表される英雄としてのスサノオを想起させる。

●善徳寺

空専が開基。蓮如上人の法門にあった人で、後に英賀浦に草庵を開き、実如上人より善徳寺の号を賜る。慶長年間(1596～1615)に下太田に移り寺を建立。後に焼失したが、赤穂の永応寺本堂を移して再建。

●大善寺

かつて東光寺と号し、熊見の北山の峰にあったが火災で焼失。後に山籠りに草庵を建てたと伝わる。文化8年(1811)に現在地に移転し、慶応3年(1867)住職秀証のとき、東本願寺より大善寺の寺号を賜った。

●大日寺

朝日山の山頂にある真言宗の寺院で、「播磨鑑」は法道仙人(インドからの渡来僧)の開基と伝わる。また、本尊はインドから隨身してきたもので、家島の堂崎(観音崎)に安置されていたが、後に当寺に移されたと伝わる。

●大日寺・朝日山の合戦

天文～元龜にかけて周辺で、天文元年(1532)に斑鳩寺と大日寺、天文3年(1534)・元龜元年(1570)に龍野城主と太田城主との間で合戦があり、この戦いで大伽藍は全焼したが、本尊のみ運び出されたと伝わる。

●大日寺の石造物

境内の、赤松政秀(龍野城主)寄進と伝わる五智如来石仏をはじめ、石仏東側にあるものは十三重の古い石仏(今は11段のみ)。文化5年(1808)建立の結界石、施主や世話人の名が見える文化13年(1830)建立の石鳥居がある。

●檀特山

奈良時代に編纂された『播磨国風土記』に「大見山」と見え、応神天皇の説話が記されている。標高は165mで、山頂付近には弥生時代中期の遺跡が存在し、尾根筋には4基の前方後円墳を含む多くの古墳が築かれている。

●檀特山1号墳

墳長約52mの前方後円墳。南側は畑で削平され、墓石が散乱している。讃岐産の壺棺が知られている。3世紀後葉～4世紀前葉ごろに築造されたと考えられている。

●檀特山3号墳

墳長約36mの前方後円墳。前方部は細くバチ形に延び、墳裾に石列が観察できる。3世紀後葉～4世紀前葉ごろに築造されたと考えられている。

●檀特山遺跡

檀特山南東麓に存在する遺跡。弥生時代中期(紀元前後)の溝と奈良時代の庇(ひさし)付き掘立柱建物が検出されている。弥生土器のほか、分銅形(ふんどうがた)土製品が出土している。

●西汐入川の天満・長松村分水碑

明和4年(1767)天満・長松の両村に水論がおこり、天満805石、長松627石の村高に応じて福井大池と大津茂川の用水を分けるための堰と用水溝を設置。平成元年西汐入川改修で消失したため記念碑を建立。

●諏塚古墳

墳長約104mの前方後円墳で、墳丘は2段築成で墓石(ふきいし)が認められる。前方部は細くバチ形に延び、最古級の古墳であることを示している。かつて後円部の南に片奇った所で竪穴式石槨が見られた。国指定史跡。

●福正寺

天文21年(1552)玄順が開基。本尊の阿弥陀如来は本願寺より下付と伝わる。本堂正面の山号額「朝日山」は、龍野藩8代藩主で老中にもなった脇坂安重より贈られたもの。鐘楼は安政の大地震で南西方向に傾いている。

●夫婦地藏

舟形に整形された石に地藏像2体が刻まれ、室町時代末期の作と考えられている。1体は錫杖(しゃくじょう)と宝珠をもち、もう1体は合掌している。子どもを授けたい人にご利益があるといわれている。

●薬司神社

祭神はスナヒコ命とスサノオ命。由緒ははっきりしないながら、「宰相記」や「播磨鑑」の記録から、池上寺または齊茂寺という寺の鎮守社ではないかという説がある。

●山戸12号墳

墳長約20mの前方後円墳と見られる。後円部に横穴式石室が存在するが、崩壊・埋没して内部を観察することはできない。6世紀後葉ごろ築造されたと考えられる。

●山戸4号墳

墳長約30mの前方後円墳。後円部に方形の竪穴式石槨と石槨様の石組(副室)がある。竪穴式石槨の形状が讃岐のものに類似し、納められた大型の壺棺も讃岐で作られたとみられることから、讃岐地方との交流がうかがい知れる。

●丁・柳ヶ瀬遺跡

大津茂川と西汐入川に挟まれた微高地や自然堤防上に広がる複合遺跡。縄文式土器、弥生式土器、住居跡(古墳時代前期)、奈良時代の墨書土器(大伴)「掠垣」などの墨書銘がある、石器、木製品などが発掘されている。

●丁池

裏池ともよばれ、古くから農業用水として使われてきた。現在、北側が埋め立てられ、勝原小学校の第2グラウンドになっている。オニバスなどの稀少な水生植物が見られる。

●丁古墳公園(丁古墳群)

京見山から西に延びる二本の尾根上と谷内に、かつて100基余りの古墳が存在していたが、そのほとんどが消滅した。そのうち5基の古墳が「丁古墳公園」として保存され、石室内の冢形石棺を観察できるものもある。

●丁山頂古墳

墳丘の多くが流失し横穴式石室がむき出しになっているが、径15～20mの円墳と考えられる。石室内から須恵器のほか鉄鏃(てつぞく)、刀子(とうず)、耳環(じかん)などが出土。6世紀後葉ごろ築造されたと考えられる。

●丁薬司古墳

墳長約22mの前方後円墳。後円部に横穴式石室が開口して内部を観察することができる。6世紀中ごろ築造されたと考えられる。

●丁屋台

均整のとれた姿・形の、品位を感じさせる屋台。丁の特徴はかき手の姿で、豆絞りのはちまきを締め、白の半袖シャツ、左腕に魚吹八幡神社のお守りを巻き、紺色の締込み。この姿でなければ屋台を担ぐことができないとされている。

●丁山1号墳

墳長約28mの前方後円墳。後円部・前方部にそれぞれ横穴式石室をもつ特異な古墳。ともに開口していて内部を観察することができる。後円部の石室の方が少し早く築かれたと思われる。6世紀中ごろに築造されたと考えられる。

●若宮・松尾神社

熊見本村の若宮神社と出屋敷の松尾神社が、明治12年、熊見一村として現在地に合祀されたもの。祭神は、松尾神社がオオヤマクイ神とコノハナサクヤ姫で、若宮神社がオオヤマクイ神の子、ワカイカヅチ命。

42 余部地区

●揖保川

藤無山(波賀町)を源とする播磨四大河川の一つで、林田川など大小の支流を合わせて南流し、河口付近に三角州を形成する。延長約70km、流域面積約810km²。『播磨国風土記』には「宇頭川(うづがわ)」と記されている。

● 揖保川河川敷のキノコ

サルノコシカケ、キクラゲ、ウスバヒラタケ、ハタケシメジなどキノコを観察することができる。

● 揖保川の魚類・甲殻類

アユ・コイ・ウグイ・ニゴイ・チブ・ウナギ・ナマズ・フナなどの淡水魚、セイゴ・ハネ・ボラなどの汽水魚、モズクガニ・テナガエビなどの甲殻類が生息。最近はおオクチバス(ブラックバス)などの外来魚も増えている。

● 揖保川の下り筏

かつて木材輸送方法として筏が用いられていた。最盛期は昭和3～4年ごろで、昭和15年ごろになくなった。水量の多いときは、穴栗市の一宮を朝に出発して夕方には網干に到着したようだ。

● 揖保川の高瀬舟

元和7年(1621)、龍野孫兵衛が開いたといわれる。山崎町の出石から網干まで約68kmを運行。大正12年まで米、麦、木炭、薪、素麺、醤油などの農産物や特産物を下流へ、干魚や雑貨などを上流に運んでいた。

● 揖保川の野鳥

タカ、サギ、カモの仲間をはじめ多種多様な野鳥が飛来し、一年を通してバードウォッチングができる。

● 揖保川の横関

現在の横関ができたのは明治以降と考えられる。石積みなどの設置は、航空写真などから戦前であることがわかる。史料となる絵図を見ると、16世紀初頭には独立した中州があり、その両岸から取水していたことがわかる。

● 揖保川の流路の西遷

播磨平野は30～40万年前ごろから太子町付近を軸として、東は隆起し西は沈降し続けているといわれている。揖保川の流れは次第に西に変わり、奈良時代以降も度々流れが西に変化したことが地形や史料からうかがい知れる。

● 石海里

奈良時代に編纂された「播磨国風土記」に見える地名で、地名の由来として孝徳天皇と安曇氏の説話が記されている。太子町南から姫路市網干区・余部区、御津町にわたる揖保川下流域にあたると考えられている。

● 円通寺

もとは天台宗だったが、蓮如上人の教化により浄土真宗となり、現在の御津町中島に移り念仏の道場として栄えた。その後、今の地に移る。本堂北にある庭石の上の喚鐘には享保9年(1724)とあり、寄進の由来が印刻されている。

● 上河原の道標

旧国土交通省上余部出張所構内にある。嘉永7年(1854)に建てられ、世話人の名が刻まれている。

● 旧岩村家住宅

岩村家は上余部村の庄屋を勤めてきた。安政4年(1775)に建築され、敷地は769坪余りを占めていた。現在は林田町に移築され、レストランになっている。

● 教蓮寺

浄土真宗本願寺派の寺院で、開基は天文17年(1548)。顕如が蟠河川西方の蓮池を民衆とともに埋め立て、堂宇を建立し教蓮寺と称したとされている。鐘堂についての記録はないが、すでに百数十年が経過していると思われる。

● 荒神山

2個の力石があり、うち1つは「三十八ノ栄」と彫られている。

● 三神社

寛徳元年(1044)創建の伝承が残る。祭神はアマノコヤネ命・タケミナカタ命・ヤサカイリヒメ命の三神。江戸時代は諏訪神社と呼ばれていたが、明治になり改称したと考えられる。境内には山王社、荒神社などが祀られている。

● 三神社の石造物

境内には、安永4年(1775)・天保2年(1831)・天保12年・嘉永4年(1851)の常夜燈や慶応3年(1867)の狛犬がある。また、百度石と並んで、明治44年建立の千度石がある。

● 千本松跡

元禄年間(1688～1704)に、岩村源兵衛が水害を防ぐために揖保川堤防に松980本を植えたのが始まり。その後、堤防は決壊することがなくなり、村人に義民として称えられた。今は平成に植樹された数本が見られるのみ。

● 徳栄寺

浄土真宗本願寺派。「播磨国末寺帳」に、寛永3年(1626)玄益が創立、元禄11年恵教の時代に寺号と木仏免許を受けたとある。棟札から本堂が天明7年(1787)に再建されたことがわかる。黒田官兵衛ともゆかりがあるといわれる。

● 徳源寺

徳道上人が建立した徳源寺という真言宗の寺院であったと伝わる。後に、応仁の乱に敗れた源元明という武士が徳源寺に入り、源明と号し、空善(蓮如上人の高弟)に会って浄土真宗に改宗し、徳源寺とした。

● 二神社

祭神はイザナギ命・イザナミ命・タヂカラオ命。境内には大將軍神社と太古宮を祀る。「奉納 さし石 佐兵衛」と彫られた力石が保存されている。

● 二神社の力石(さし石)

境内には力石が置かれ、「奉納 さし石 佐兵衛」や「當村 芳五郎特」と彫られたものもある。

● 二神社の保存樹

境内にはムクノキ2本とエノキの巨木があり、保存樹に指定されている。

● 蟠河川

揖保川の分流で、文禄4年(1595)の絵図には「網干井」と記されている。元禄年間(1688～1704)には、岩村源兵衛によって蟠河尻門樋が創設された。

● 室津道の八枚橋

下余部と津市場出口の余子浜川に架かる橋で、室津道の通過点と考えられている。かつて、のべ石8枚が架かり、余子浜から余部に通う唯一の道だった。現在はその上をコンクリート舗装し、余子浜線77号の市道になっている。

● 室津道の八十の渡し

室津道の通過点と考えられている。下河原から中州、中川を経て御津町中島に上がったと考えられる。

● 八木家住宅

八木家は丸亀藩網干組大庄屋を勤めた。海鼠壁の長屋門が見事。かつて東から北面の道路は水路で、裏門の北には船着場があったといわれている。長屋門の西にはクスノキの巨木があり、保存樹に指定されている。

43 妻鹿地区

● 稲荷神社

妻鹿町内には、神宮寺境内の稲荷神社と榎稲荷大明神の2ヶ所の「稲荷社」がある。

● 魚市場跡

大正5年川原の寄村一帯を埋め立てて「妻鹿魚市場」を創設。第2次世界大戦に物価統制令がしかれて停滞したが、戦後妻鹿魚市場は復活した。昭和35年に姫路市中央卸売市場の開設と同時に閉鎖。

● 海岸線の護岸石垣

江戸中期ころから幕末にかけて次第に新田開発が進み農業も進展した。しかし、昭和35年に出光興産が製油所の建設を開始し、妻鹿沖の埋め立て工事が始まった。今は新田南端にあたる堤防の石垣の一部が昔の面影を残すのみである。

● 教念寺仏足石

天文3年(1534)創建、道宗の開基で、亀山本徳寺の末寺。貞享3年(1686)の梵鐘、昭和4年の銘がある仏足石がある。仏足石は足の長さ65cm、両足に輪相などを施した本格的なもの。

● 黒田職隆公廂所

地元で「チクセンさん」と呼ばれている凝灰岩製の五輪塔。天明4年(1874)福岡藩黒田家により築造。昭和52年妻鹿自治会が霊屋を改築。正面に「満善宗園大禅定門 天正十三西八月廿二日」の銘があり、

黒田官兵衛の父職隆の墓塔。

● 甲山・経塚

甲山・経塚は昭和45年2月5日当時の妻鹿青年団文化部長によって発見された後、地元久津理会のメンバーによって発掘された。発掘した所は、甲山の西方に立つ鉄塔付近である。

● 荒神社・三宝荒神

奥津彦命・奥津姫命を祀る。この荒神は、龜(かまど)の神さんのほかに子供の百日咳や喘息に御利益のある神といわれる。拝殿に「オコセ」の絵馬が奉納されている。手水鉢は石棺蓋。

● 国府山城跡

標高98mの甲山(荒神山、功山)にあり、別称に袴垂城・功山城など。天正8年(1580)羽柴秀吉に姫路城を渡した黒田官兵衛孝高は父職隆とともに移り住んだ。山麓の「妻鹿城址」の碑は昭和45年建立。

● 御幸岩神社

御幸岩神社は住吉神社の名で知られる。明治44年に本殿と拝殿を建立。神宮皇后が岩の上に立ち水路を眺めたという伝説から、神社前の海中にあり、干潮時に露出する岩を御幸岩とよんだ。今は埋め立てられ、その一部が東海公園にある。

● 固守倉(妻鹿)

文化6年(1809)の社倉法によって作られた義倉の一種。米、麦などを蓄えて不時の災害に備えた。入り妻造りの土蔵で「固守倉」の扁額がかけられている。弘化3年(1846)には姫路藩内に288ヶ所設置された。

● 金比羅

お社はなく、参拝灯とある文化6年(1809)の常夜灯を祀り、海上の安全を祈願した。妻鹿漁港の「目印」になった。

● 師範高等学校校庭の石棺

校内にかつて横穴式石室古墳があったが、校舎建築工事のため壊された。今は封土が流出した横穴式石室古墳が校舎の前庭にある。そばに小形のくり抜き式家型石棺の身部分が保存されている。

● 妻鹿漁港跡

河川漁港。村内を市川の支流(住吉川、前川、東川ともいう)が流れ、現在の東海町が漁港であった。漁港は昭和57年に埋め立てが完了し、白浜町の地先に移ったが、名称は妻鹿漁港としている。

● 妻鹿町史料館

「妻鹿町史料館」は、妻鹿漁港整備事業の終了に伴い、妻鹿町民からの町の郷土史料を残す施設建設の要望に応え、妻鹿連合自治会が建設。平成4年に完成。妻鹿屋台を飾った装飾品などの保管や展示を通して、祭り文化を伝承している。

● 元宮八幡神社

妻鹿の氏神。祭神は応神天皇。宮山の御旅山八幡神社がいつの頃から山下に遷され、山上に移るまで御旅山八幡神社の元宮であったとされる。昭和54年修復。玉垣などに三十八銀行妻鹿支店や力士のしこ名が見られる。

● 役場跡(現自治会館)

妻鹿は明治22年4月市制町村制施行により飾東郡妻鹿村となり、役場が置かれた。昭和2年の飾東郡妻鹿町役場など、その後幾度か名称変更。現在は妻鹿自治会館となり、内部は一部昔の面影を残す。

● 屋台蔵(妻鹿)

旧屋台蔵(明治28年建築)を平成23年に建替えた。蔵組み造りで屋根の瓦は本葺き、軒は漆喰仕上げ。俱釣の人物像が鯛を釣った鬼瓦、後ろの鏡(神)の鬼瓦などは旧屋台蔵を模している。

44 白浜地区

● 石手神社

宇佐崎地区東部にある石手神社は、四国八十八霊場の名刹、伊予国(愛媛県)松山の石手寺にちなみ名づけたものと言われる。祭神は孝靈天皇第三皇子(伊予皇子)。地元では、この石手神社を権現さんと呼び親しんできた。

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
取組の類型化

3 地域夢プランのとりえ
検証と未来へのアプローチ
(1) 姫路市地域夢プランの概要

3 地域夢プランのとりえ
検証と未来へのアプローチ
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(2) 地域資源の概要

●稲荷社

所在は白浜町甲(旧松原村大西ノ丁田中講)、山電トンネル白浜側より200m東の路切を南へ50m下ったところとあり、稲荷神社を有する。稲荷社の敷地は三間×二間で、東側は公道に面している。

●宇佐崎組大庄屋置塩家跡

宇佐崎旧道の西部にあった南向きで南北50m 東西100mの大きな屋敷。江戸時代姫路城主より灘7ヶ村を中心とした近郷15ヶ村を治める大庄屋に任命された有力者であり、宇佐崎塩田の開発及び発展に大きく貢献した。

●宇佐崎公民館及び屋台蔵

現公民館は、昭和50年3月16日に竣工されたものである。公民館には屋台蔵も併設され、旧屋台蔵は取り壊された。現屋台蔵は、屋台を台車に乗せたまま蔵入りできる。なお、公民館は平成22年3月大規模改修工事を施工。

●恵光山最勝寺

本寺は浄土真宗本願寺派で、本尊は、弥陀如来(曇雲作)。天文14年(1545)了善が開基。寺号を公称したのは元禄8年(1695)11月3日。現在の本堂は、宝暦9年(1759)8月11日の火災後、再建された。

●延命地蔵

戒浜の小島の沖の砂浜に流れついていた地蔵さんを持って帰り、延命地蔵と名付けて祀った。元は火の見櫓のそばの小祠に祀られていてお守りしていたが、今は宇佐崎公民館の正面東脇にある。大正4年建立。

●大年神社

天照大神の弟君といわれる素戔鳴尊をお祭りしており、命が、新羅から船材を持ち帰ったことから、植木の神様である。また、神鶴が五穀の種を運んできたことから、農業の神様でもある。

●大年神社(松原)

祭神は大年神で氏子はなし、所在は白浜町甲(旧松原村古西ノ丁)601番地の1。創立・公称等、年月不詳。地元ではこの境内を「おだいめん」と呼ぶ。例祭日は7月30日。

●観海講堂跡

亀山雲平は節宇と号し、姫路藩士時代は大目付、好古堂教授、藩主に学問を教える侍統等の要職を務めた。現白浜小学校の地に講堂と塾舎を建て「観海講堂」と称し、播磨一円の子弟の教育にあたった。

●旧塩田

宇佐崎、八木の南部の約102.8haは、昭和46年までは塩田で塩を生産していた。宇佐崎、八木の人々が主にその仕事に従事していたが、製塩方法が改革され、塩田は廃止。跡地は区画整理事業により、住宅や工場等に変貌。

●月松山淨照寺

所在は白浜町甲(旧松原村古西ノ丁)。天正元年(1573)了知がこの地に寺院を建立。現在の御堂(本堂)は、文化5年(1808)に7代了澄が浄照寺の門信徒や旧松原村の人々などの協力を得て、再建した。

●恋の浜城

現在の白浜の海岸は、中世の昔、「恋の浜」と呼ばれたこともあり、この地にあった城が「恋の浜城」といわれている。現在の山陽電鉄白浜の宮駅北東、宇佐崎と中村が隣接した所の「城ノ元」と呼ばれる小字が城跡と伝わる。

●光慧山妙覚寺

本寺は、浄土真宗本願寺派の寺で、天正6年(1578)に建立された。本尊は、阿弥陀如来。この妙覚寺の前にあった蓮池は、新田義貞が東に退く時に顔を洗った池として有名である。

●荒神社(松原)

所在は白浜町甲(旧松原村古西ノ丁)にある。瓦堂(かわらけ堂)の神事は松原八幡神社の神宮があげる祝詞により始まる。荒神社の境内には大きなムクの木がある。

●荒神社(おこじさん)(松原)

所在は白浜町甲(旧松原村中ノ丁)。荒神社の祭神は聖徳太子で、左手に玉を持ち、きつねに跨る。例祭日には当番6人で「奉納 亥年女　〇〇子」など書いた鈴の緒を奉納する。俗称はおこじさん。

●荒神社と地蔵堂

所在は白浜町甲(旧松原村古西ノ丁浜所)595番地

の1。祭神は奥津彦命・奥津姫命。荒神社と地蔵堂がある。境内には地蔵堂と井戸がある。この井戸はお荒神さんの井戸といい、荒神社や地蔵堂の必要に際して用いた。

●固守倉(中村)

江戸末期、飢饉のときの貧民救済に備えて穀物を貯えた倉庫。今では、中村、妻鹿、東山、野里、刀出などに残る。固守倉とは《妻は惟れ邦の本　本回ければ邦寧し》という書經の語から儒学者林述斎が選んで名づけた。

●金比羅宮

中村自治会が毎年7月の第一日曜日に例祭を実施している。特に航海安全の神様とされ、また、農業の神様としても信仰されていた。昭和10年頃には、魚介や青物野菜類、時には西瓜の市もたっていた。

●桜太刀自神社

所在は白浜町甲1849番地(旧松原村古西ノ丁)。祭神は木花咲耶媛命。祭神は子授け、安産の神様として昔から広く知られる。戦前、昭和17、18年頃までは灘中学校体育館の西側の山腹にあったが、現在地に移設された。

●地蔵堂(寺町講)

所在は白浜町甲(旧松原村大西ノ丁寺町講)にある地蔵堂で、年2回の地蔵祭(1月23日の初地蔵と8月23日の地蔵盆)がある。お堂の扉に年代もののサンゴらしきものが吊ってあるが、かなり古いもので、そのいわれは不明。

●地蔵堂(八体地蔵)

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。八体地蔵。昭和15年頃までは白灘、白吉稲荷社のすぐ西側に祀られていた。現在はその南方に遷して、周辺の住民(とくに女性)が平日の世話をする。

●釈迦堂

村人が釈迦堂と称しているお堂があり、釈迦弁尼仏と阿訶陀如来を祀る。それに別棟に地蔵菩薩がある。例祭として5月8日(以下新暦)お釈迦さまのお誕生日を祈念して甘茶がふるまわれる。8月23日は地蔵盆。

●白龍稲荷神社

所在は白浜町甲(旧松原村南ノ丁)。南ノ丁にはお社がなかったので昭和30年頃お社を建立し、昭和59年3月6日に社屋を建て替えた。例祭日は2月初午。

●白浜海水浴場

自然の海岸線が今でも残る貴重な海水浴場。良好な水質と遠浅の海で有名。夏には大勢の海水浴客でにぎわう。貴重な海浜植物も自生している。

●白吉地稲荷社、白瀧稲荷神社

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。両者は同一境内で別のお社で祀られ、年初(2月第1年の日)を例祭日とする。白吉稲荷社は旧大東マツチの社内地にあったが、大東マツチの移転に伴い現在地に移設された。

●住吉神社(松原)

所在は白浜町甲(旧松原村古西ノ丁中所)にあり中所の信仰対象として住吉神社を擁し、俗にカンヤブという。例祭日は7月30日。

●異地蔵

中村史料館の西側にある異向地蔵大菩薩。右手に錫杖、左手に宝珠を持つ舟形光背半肉彫りで、蓮華座の上に立つ地蔵立像である。異の方角を向いて立ておられるので、異地蔵と呼ばれている。

●道標(中村)

昔、中村の「といの上」の日参から、屋台蔵の前を通過して八幡さんに通ずる道を「往來」といい、国道250号のことを「新道」と言っていた。その「往來」に道標が建っていたが、現在は美土呂公園へ移設してある。

●中村公園

この地域の田圃は、今から1330年余り前、大化の改新以後、中大兄皇子(後の天智天皇)が、私有の屯倉を天皇に差し出したことから始まり、国家的耕地整理である条里制で行われた、わが国最古の由緒深い土地である。

●中村史料館

中村には古くから膨大な古文書、祭り用具、鬼会式用具などがあり、これらの保管場所に史料館を建設した。鉄筋コンクリート造り3階建で1階は村事務所、2階は祭り用具や鬼会式用具収納、3階は展示場となっている。

●中村屋台蔵

明治またはそれ以前に、現在の釈迦堂付近にあった旧家の土蔵を、現在地に移設したと伝わる。蔵本体の規模は間口2間、奥行4.5間9坪である。向拝屋根棟瓦部に、漆喰で竜頭、鬼面が造られている。

●西地蔵堂

所在は白浜町甲(旧松原村大西ノ丁)の西端、三叉路の南角に所在する。地区内に地蔵堂を有するので講の名称を地蔵講という。1月23日は初地蔵、8月23日は地蔵盆。昭和30年頃は夜店が並び、踊りなど賑やかだった。

●八幡神社(釈迦堂)(松原)

所在は白浜町甲(旧松原村中ノ丁)。往來に面して約12坪の境内を有する。八幡宮の表札があるが、住民はしゃか(釈迦)堂と呼ぶ。祭神は聖徳太子、大黒天神、恵比寿大神、釈迦牟尼仏の4体で、厨子に収められて祀られている。

●蛭子神社

木場港の西岸にある蓮葉山に鎮座する神社で恵美酒神社ともいう。創始は、天平宝字7年(763)といわれている。戦後、社殿が荒廃したが、宇佐崎の有志の永年の努力が実を結び、昭和59年に立派な社殿が完成。

●広畠(矢倉畠)

妻鹿と境を接する月坂の北側に位置し、灘のけんか祭りの10月15日には神輿、屋台の練り合わせが行われる。戦後の一時期まで食糧難の為、広畠は普段一面イモ畑で、祭当日前にイモをすべて引き抜き畑を整地して祭を行った。

●吹子(鞆)神社

所在地は白浜町甲733(旧松原村大西ノ丁天目講)。祭神は刀鍛冶の始祖とあがれた天目一箇神、またの名を天麻孛羅命という。鞆の祭りは全国的には12月8日だがここ吹子神社は天目講の総会日でもある12月7日。

●ほほえみ地蔵

6支部挙げての協賛を得て昭和59年に建立。町挙げて大々的な地蔵盆祭りを挙行。毎月23日の縁日には、世話人がお参りし御詠歌を挙げる。毎年8月13日には地蔵前広場で子供相撲と盆踊りを実施。

●松原山八正寺

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。神亀元年(724)に行基菩薩により開設。現在の八正寺は真言宗の普通の仏教寺院だが明治維新直後の神仏分離までは、松原八幡宮や社領の維持管理と祭礼行事が最も重要な任事であった。

●松原八幡宮(御旅山)

妻鹿の漁師久津理が松原八幡宮の御神体となる壺木を海中で発見し、松原の社殿ができるまで御神体を安置した仮殿であった。その後、御旅山麓の元宮八幡神社に遷されたが元禄7年(1694)に山上の現在地に社殿を再建したと伝わる。

●松原八幡神社

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。祭神は毘陀和気命(應神天皇)・息長足姫命(神功皇后)・比咩大神の三神。毎年10月14日・15日の秋季例祭は「灘のけんか祭り」とも呼ばれ、旧灘7か村の氏子が豪華な屋台を練り競う力強い祭りである。

●松原八幡神社秋季例大祭

日本でも有数の秋祭り。けんか祭として知られ、宵宮では各地区の7台の屋台が町内を一巡し、宮入りの後、楼門前で練り合わせを行う。本宮のクライマックスは、お旅山の練り場で、3基の神輿のぶつつけ合いや6村の豪快な屋台練り。

●松原村屋台蔵

所在は白浜町甲(旧松原村中ノ丁)。松原屋台が収められているのが屋台蔵。伊達綱、高欄掛、幕、衣装等が収められているの衣装蔵である。現在の屋台蔵、衣装蔵は昭和63年に新築された。

●神輿岩

所在地は白浜町甲(旧松原村大西ノ丁)海山西山麓(小山)。神功皇后が三韓出兵に行かれ、大きな手柄を立てられ、帰られる途中この港に立ち寄りされた。そしてこの港の3つの大岩を神輿岩と名付けられたと言い継がれている。

●美土呂公園

日本最古の条里制により整理された耕地のほぼ真ん

中に「美土呂」の地名がある。現代の区画整理により、美土呂を寺家 2 丁目と改称するにあたり、由緒ある美土呂の名称を残すため、この公園を「美土呂公園」とした。

●明徳地蔵

八正寺の東寄りに簡素な囲いと屋根の中に、縦138cm、横89cm、厚さ40cmの字型石棺蓋石に、高さ58cmの地蔵立像が彫られている。この像は、八正寺の庫裡の庭から掘り出されたとのこと。

●百合ノ崎地蔵

八支部に所在する地蔵尊で、百合ノ崎地蔵尊と称し、昭和12年5月に、宇佐崎東路切のそばに建立された。大正12年8月、山陽電鉄開通に伴い、踏切事故が頻発したため、その安全祈願の為に建立。

●立行山常住寺

本寺は日蓮宗で、本尊は、一塔両尊四菩薩。寛永15年(1638)一心院日蓮が開基。その後、享保16年(1731)8月13日に撞鐘を新鑄し、文化2年(1805)、15世の日長が本堂を改築して現在に至る。

45 八木地区

●岩神社

本殿の後ろに高さ4m程の岩がある。宝暦10年(1760)の「宇佐崎組 寺社明細帳」に、社名は「岩神」。社地「堂なし岩ばかり」と記され、岩がご神体であった。明治9年本殿を創建。明治12年「神社明細帳」に社名は岩神社とある。

●岩大神社

明治12年の「神社明細帳」に祭神大物主命とあり、昭和9年の「村勢一斑」に創建が永享4年(1432)とあるが定かでない。本殿内の神像に宝永6年(1709)の墨書がある。当初、屋台蔵の北側山裾に鎮座。大正末期に現在地に遷座。

●大歳神社(八木)

素戔嗚尊・奇稻田姫命を祀る。神社の創建は不明であるが、神像の台座に宝永6年(1709)再興と墨書されている。大歳神社の屋根には、出雲大社系の神社である榎木が3本、女神を祀る証として千木が大地に平行に削られている。

●紙烏居

夏祭りに、木庭神社の参道に紙烏居が立てられる。明治30年6月に、金比羅神社・塩竈神社の祭神を木庭神社に合祀した記念に、安原安五郎氏によって作られた。木庭神社では、昔、6月の晦日に夏越の祓が行われていた。

●木庭神社

十神を祀る特異な神社である。寛永16年(1639)木庭(場)村の長者三木宗榮が創建「姫御前宮木庭大明神」と称した。寛保元年(1741)三木宗榮から四代目の孫、三木寸斗魚泰によって木庭山の上に、ほぼ現状の姿で再興された。

●木庭山古墳

木庭山古墳は盛り土が流されているが円墳形式である。平成19年の学術調査により、1号墳は7世紀第2四半期、2号墳は6世紀第4四半期の築造という。誰を葬ったか不明。立地条件から海に関わりのある人物であろう。

●木場屋台蔵

明治24年屋台の大型化のため、屋台蔵が狭くなり隣接する土地に蔵を新築。平成7年に場所を変え新築した現屋台蔵は、旧八木小学校の跡地に建ち、灘地域では近代的な設備を備えている。

●木場霊園の六地藏

六地藏とは、平安時代中頃から信仰された六種の地藏菩薩のことである。六種とは人間が死んで生まれ変わるという六道の世界を担当する地藏様。木場霊園には三通りの六地藏があり、古いものは正徳5年(1715)の銘がある。

●慶徳寺

浄土真宗本願寺派。永禄3年(1560)梶原行部大夫により開基し、寛永7年(1630)寺号を公称。はじめは村の西外れの八家川沿いにあったが、寺地狭隘のため現在地に移転。移転年代は不明。慶応2年(1866)に本堂再建。

●高山稲荷神社

中西町は高山稲荷大明神と称す。高山稲荷神社は、京都市伏見区に鎮座する伏見稲荷神社。稲荷神社の祭神は、倉稲魂神・猿田彦命・大宮女命の三神であり、主神は五穀豊饒の神で俗に稲の魂とされる倉稲魂神である。

●西念寺

浄土真宗本願寺派臨江山西念寺。「佛磨部誌」に天正8年(1580)の開基、延宝3年(1675)木仏を申し受け寺号を公称。宝暦12年(1762)、大正4年と二度再建。樹齢約600年のビャクシンの古木がある(市保存樹)。

●小赤壁

小赤壁は地域の南端海岸線にあり、荒波に浸食され高さ40mの断崖が東西に約800m続く。約7000年前前、岐阜県から山口県にかけて大規模な火山活動が続き、降り積もった火山灰が数kmの厚さに堆積してできた岸壁海岸。

●正福寺

浄土真宗本願寺派清流山正福寺という。享禄4年(1531)摂州生玉庄大坂北町で開基。元和元年(1615)大坂夏の陣で焼き出され、木庭山麓に堂を建立したのが木場正福寺のはじまり。西の町に移り清水の道場と呼ばれていたが、その後、現在地に移転。

●袖もぎ地蔵

木場から福泊への峠道に小堂がある。内部に東向きに安置された石棺仏を袖もぎ地蔵という。字型石棺蓋石に地蔵立像が彫刻され、この地蔵の前で転んだ者は厄払いのため、着物の袖を供えなければ凶事があると伝承されている。

●波切不動明王

小赤壁に鎮座する波切不動明王は、昭和12年に建立された。波切りとは、波を静めることであり、波切不動明王とは波を静める呪力をもった不動明王である。船乗りの多かった大木庭の人達が海上安全を祈って建立した。

●西脇稲荷神社

西の町は西脇稲荷大明神と称す。西脇稲荷神社の本社は、京都市伏見区に鎮座する伏見稲荷神社。稲荷神社の祭神は、倉稲魂神・猿田彦命・大宮女命の三神であり、主神は五穀豊饒の神で俗に稲の魂とされる倉稲魂神である。

●二宮金次郎像(八木小学校)

八木小学校に二宮金次郎の銅像が建立されたのが昭和10年。同17年に「金属類回収令」により徴収され兵器に鋳造された。昭和34年、子どもの健全育成にと寄付された御影石の三代目の像が、変わらぬ姿で運動場に立っている。

●道しるべ

「道しるべ」とは、旅人の安全を願い、行く先、方向、距離などを示す案内役の目的で立てられた石碑である。八木校区には東の町にある大正14年と、八家駅前昭和3年に立てられた2石が現存。

●三つ橋

三つ橋はいつ頃架けられたのか明らかではないが、三つ橋の名が付けられたのは橋の形状からと思われる。架橋当時は八家川の川幅も広く、長い橋を架ける技術もなく、川の中に二つの島を築き、中継ぎとして三つの板橋を渡した。

●八家屋台蔵

いつ頃建設されたかは不明である。明治41年の記録に、これまで屋台蔵は北八家の持ち物であったが、明治41年に屋台の古い衣装を売却した金と、北八家・南八家で割った金を合わせて改築し、両八家の所有とした。

●ヨットハーバー

文政2年(1819)八家川河口の東西に波止が築かれ、8年後の文政10年(1827)には東波止の継ぎ波止工事が行われた。以後、木場港は隆盛期を迎えた。昭和49年に環境浄化と青少年の健全育成の場として河口に建設された。

46 糸引地区

●麻生山華厳寺

麻生山は、神仏習合の山である。麓には麻生八幡宮が鎮座し、山上には華厳寺が祀られ、明治維新まで

は、この寺は八幡宮の宮寺(奥の院)として信仰を集めた。今は無住の寺となり、わずかに麻生講の手によって維持されている。

●麻生八幡社

当社は、奥山集落の北にある麻生山(別名播磨小富士山)の南麓に位置し、かつては奥山、継、見野を信仰圏としていた。鎌倉時代には、この周辺は継荘と呼ばれ、石清水八幡宮の社領であったが、当神社はその鎮守として栄えた。

●稲荷神社(東山)

八家川右岸堤防のそば、大字西浜畑に位置する。祭神は稲倉魂命。前身は柿畔鎮守稲荷社。松原八幡神社の神職であった白矢氏が柿畔地区を開いて家を構え、鎮守として祀った神社。白矢氏が東山の庄屋構築家に託した。

●大年神社(兼田)

この社はもと北の山頂にあつたものを、現在の地に遷したものだ。明治初年に御神体の下調べをした際、観世音の木像が出てきたので、これを明徳寺に納め、新たに他所から神鏡を勧請して御神体とした。現在は兼田の氏神として祀る。

●大歳神社(北原)

当社の鎮座地は、北原集落西北部に位置する。祭神は猿田彦命。各種技芸上達の神としても知られ、スポーツ・芸能その他学芸などの上達の神である。例祭については、以前は6月に湯立行事があったが、今は行われていない。

●大歳神社(東山)

天正の頃に建立され、明暦3年(1657)に再興、寛政2年(1790)本殿復興造営、昭和15年本殿基壇造営、昭和6年拜殿上棟された。近年傷みが激しく、平成17年に改築工事が実施された。

●海久寺

山号は龍禪山(四海浪平らかにして龍の眠り穏やかなり)に由来。開基は不明。曹洞宗(景福寺末寺)。寛文2年(1662)の大火災後、月野南慶が、村の中央部から現在地に移築再建。本尊は宝冠釈迦如来坐像。

●兼田地蔵

兼田バス停のすぐ東側にあり、くりぬき石棺の棺身に、地蔵尊像が刻まれ、お堂の中に安置されている。銘文に「貞治4年(1365)8月24日」とある。

●河合家墓所

河合子翁は姫路藩家老として藩財政の再建に多くの功績を残している。姫路産木綿の江戸専売や新田開発、因寧倉の設置などがその成果としてよく知られている。後に、この墓所が河合家一族の墓所となり「河合家墓所」と呼ばれる。

●観音堂(兼田)

明治の初年、神体調べがあるということで、大年神社の下調べをすすと、観世音菩薩の木像坐像が御神体と祀られていることに気づき、観世音菩薩は明徳寺に預けた。その後、ここに観音堂がつくられ、観世音菩薩が安置された。

●観音堂(継)

本尊は木像で寛政12年(1800)に安置された。右に丸い石の頭の地蔵様が祀られている。毎月9日に御詠歌などのお勤めがあり、また、毎年8月9日に四万六千日会という観音祭が執り行われる。

●北大歳神社

通称大日山。祭神は木花咲夜姫命。子宝安産、山と火と酒の守神とされている。昭和7年大改修(松原神社の押印)、平成17年大改修。往時、東山から北へ通じる唯一の道であった古道沿いにある。

●北原八幡神社

当社の鎮座地は、北原集落の北の小高い山の南麓に位置する。明治7年2月に村社に列せられた。今の社殿は昭和11年に改築。拜殿前の狛犬は、一般的なものとは反対で、左が阿、右が吽の形である。

●興禅寺

山号は紫金山。開基は寛文元年(1661)、実伝(雲松寺開山の和尚)。黄葉宗(河間町雲松寺末寺)。大日山の南麓にあった観音堂境内(現在地)に、延享元年(1744)村の中央部から移ってきた。

●因寧倉(東山)

東山因寧倉は、間口2.5間、奥行5.5間の妻入り前庇付き建物で、内部は二間に仕切られている。北面中

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
取組の類型化

3 地域夢プランのとなえ方
検証と未来へのアプローチ
(1) 姫路市地域夢プランの概要
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(1) 地区ごとの主な地域資源
(2) 地域資源の概要

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
(1) 地区ごとの主な地域資源
(2) 地域資源の概要

央には片引き戸、西面には開き戸の出入口を設けている。扁額裏の墨書銘から天保14年(1843)に建てられた。

●再幸寺

山号は洛東山。天文13年(1544)5月25日、祐善(元は武士)法師が開基。浄土真宗本願寺派(龜山本徳寺末寺)。本尊の阿弥如来像(大坂石山合戦の功により本願寺から賜る)は近隣で最古である。

●紫雲山正光寺

本尊は木造立像の阿弥如来で、大仏師「康雲」作として記されているが、文化3年(1806)5月11日堂宇が罹災。本堂は文政11年(1828)に再建され、その後、約160年ぶりに大屋根等を修復し現在に至る。

●地神社(東山)

西ノ丁(字西屋敷)に位置する。地元では三長稻荷ともいう。安永4年(1775)に姫路藩へ村年貢減免願に出向いて処刑された福田屋與三太夫の霊を慰めるために村人が立てた小祠という言い伝えがある。

●仁寿山校跡

姫路藩家老として財政の再建に多くの功績を残した河合寸翁が文政4年(1821)に設立した私立の学問所が仁寿山校。仁寿山校は身分や旧習にとらわれない教育を目的とし、人材を育てた。今は山校跡には井戸と土塀跡を残すのみ。

●随光山明德寺

当寺は真宗大谷派に属し、本尊は阿弥如来像。江戸時代、姫路の某寺より順清が来寺し、現在に継承している。現在の本堂は文政9年(1826)に建てられたものである。

●住吉神社(継)

以前は麻生八幡社の末社で祭神は「上筒男神、中筒男神、下筒男神」の3神で、元来、海路の守り神。後の山は船橋山という。創建の由緒など詳しいことは明らかではないが、現在は毎年6月下旬の湯立て祭りだけになっている。

●継構居跡

継構居の領主は辰巳北左衛門と伝えられている。江戸時代中期の頃までは四方にめぐらした濠の形がよく残っていたと伝えられているが、明治の頃には屋敷裏の竹藪付近だけとなり、現在はほとんど分からなくなっている。

●東山焼窯跡

姫路焼、興禅寺焼ともいわれ、文政5年(1822)興禅寺東の山麓に窯を築き、有田系の磁法で、染付や青磁の徳利や皿・鉢などを焼いた。現在、窯跡は、畑に整地され、作業場の井戸跡と窯跡を示す標柱が建てられている。

●広海

東山・継・明田が接合する付近の八家川沿いに広がる汽水沼(海水と淡水の入り混じっている沼)で数百年前までは入海だった八家川流域の低地のうち、干拓が遅れたままわずかに残っている任時の入海の名残である。

●藤井の井戸

東山集落の地下水の水質は極度に悪かったため、集落の東にある向山先端部の岩盤から湧き出る清水に目を付け、ここに村民共有の「藤井の井戸」を構築して昭和30年頃までに飲料水として利用した。

●北陸山慶応寺

当寺は真宗大谷寺(東本願寺)にて、本尊は阿弥如来、開基は了心。本堂は正徳3年(1713)に建立し、後、文化8年(1811)に本堂を再建し、文政5年(1822)に庫裡を再建。以来、修復を重ねて現在に至る。

●掘止め

仁寿山校隆盛時に八家川の主流から仁寿山に向かって、小舟を通すための運河が計画されたことがあったが、結局未完成のままに終わっている。継集落中央部の南に舟溜りがあったが、現在は埋め立てられ、継公園となっている。

●村中地蔵尊

本尊は極彩色の木彫地蔵。村の中央部に位置していた海久寺とその南に隣接した興禅寺の跡地のうち、海久寺の境内地に建てられた。東西2間、南北3間の側壁のない吹抜構造の堂を、昭和45年に改築。

●屋台蔵(東山)

間口は約5m(2.8間)、奥行は約9m(5間)、棟高

は約6m。妻入り、観音開きの扉(昭和13年10月修繕、神戸・橋詰辨二郎)には鉄筋頭隠金具が付けられている。昭和51年改築。

●若宮神社(東山)

松原八幡神社の主祭神で「応神天皇」が祀られている。松原八幡は神社の境内に小宮戸が一社あるが、もう一社が東山にある当社である。昭和に入り火災により社殿は全焼し、現在は小さな社殿が建てられている。

47 的形地区

●海嶽寺

的形町内の寺院では最古、天平年間、僧・行基の開基と伝わる。中世に紀州・無及禪師が中興し、江戸時代に現在地に再興される。長い石段の上に鐘樓門がある。

●小赤壁

木庭山、姫御前山、燈籠地山の南側は、海に面して崖をなし、奇石巨岩が至る所に姿を見せ、絶景の自然美をもつ景勝地である。江戸時代、中国の赤壁に似ているということから頼山陽が「小赤壁」と命名した。

●青少年キャンプ場・マリンベルト

白浜と並ぶ海水浴場であり、夏は海水浴やキャンプとして市民に広く利用されている。特に夏は山の緑を背景に、まばゆい太陽のもとで青い海の見え方が一層引き立つ。

●善正寺

的形町内にある浄土真宗本願寺派の寺院。

●八幡神社(的形)

古代、的形の湊と呼ばれる入り江の真ん中の島が境内地。神功皇后の謝儀伝説によって八幡大神が奉祀された。湊神社と密接な関係にあり、お旅所として毎年10月14日の両社秋季例大祭には、盛大な御旅行行列が行われる。

●福園寺

本堂西側に、裏庭から出土したという石棺の身の部分があり、裏の竹やぶの中には大形の五輪塔の一部(火・水輪)が残っている。

●福泊神社

室町時代に建てられた神社で石垣が旧飾磨郡と印南郡の境界線であった。平成13年8月に市指定文化財になる。本殿には室町時代の建築技法とかが登り竜と下り竜、ひき蛙等珍しい彫刻が見られる。

●萬貫寺

境内に元禄時代に造られた庭がある。中央の築山には高さ117cmの立石があり、この庭の守護石になっている。また、心字池には石橋が2か所あり、その上部にも築山がある。三尊石を中心とした古代の石組みが見られる。

●湊神社

広い境内をもち、神殿、拜殿は山麓の小高い地にあり、その石段の坂道に万葉集の歌碑が立っている。毎年、10月13日・14日の秋祭りの豪華絢爛な屋台の練合せや神事などは見る人々を魅了する。

●ミニ西国三十三カ所霊場

福泊の福園寺裏山の森の中にあり、一番札所「那智山」から始まり、三十三番「谷汲寺」までと番外で「善光寺」もある。すべて石像で構成されている、ミニ霊場。

●八家地蔵

高さ1.9m、花崗岩製の精巧な造りで鎌倉時代の作。「播磨鑑」には多くの参拝者の様子が、また「木庭記」には昔、この像は木場にあったのを、乾元元年(1302)安藤運性が福泊港を築いた時に、この地に移したと記される。

●遊漁センター

遊漁センターは的形町の福泊地先にある。周辺の水深は5~7mで、海底は砂泥質で両側10mで底質改良を行っている。そして独自のヒューム管組み合わせ漁礁を45個設置し、安全で快適な海釣りを楽しむことができる。

●養泉寺

境内の本堂南側にある五輪塔は花崗岩製で、灯籠地山の山腹に埋れていたのを、江戸末期に掘り起こして移設した。ただし、最下部の基礎(地輪)だけ行方不明で、後世に追加された。本堂裏にも五輪塔がある。

48 大塩地区

●イヤガ古墳

イヤガ池の岸に沿う小道を入ると御獄神社の社殿と天大忠地蔵を奉った地蔵堂がある。社殿後に盛土があり、石組が露出している。もと横穴式の円墳であったとみられる。

●馬坂峠

その昔、馬の首を埋めたという由来がある。ノジギウの時期は最高で、岩と林のトンネルの向こうに見える町の風景も郷愁を誘う。

●大塩天満宮

祭神は菅原道真。都市計画道路大塩曾根線の建設計画に伴い、現在地に移転。10月14日・15日の秋季例大祭は、8頭の毛獅子によって道中舞と地舞が演じられる勇壮な獅子舞(県指定無形民俗文化財)が奉納されることで有名。

●大塩のじぎく保存園

大塩サービスセンターの南側にのじぎく保存園があり、毎年11月にのじぎく祭りが開催される。また、昔船をつなぎ止めた「もやい石」がある。

●梶原家住宅

大塩一の塩田主といわれた梶原家の住宅で、約2,000坪(6,600m²)の宅地に、1,500m²余の建物がある。現在の建物は江戸末期以降のもので、市の都市景観重要建築物等に指定されている。

●こしかけ岩

腰掛岩は、大塩の東から日笠山に登る所の「岩神社」にあり、菅原道真公がこの岩に腰をかけたから腰掛岩と呼ばれるようになったという伝承と、輿をこの岩に置いたからという言い伝えがある。

●清勝寺

播磨西国31番札所、開基は菅原道真と伝える。応永2年(1395)に季明禪師が再建、清勝寺と称した。本尊は聖観音菩薩。

●千葉村長頌徳碑

穴虫池と大塩のじぎくの里公園の間にあり、表面に「千葉村長頌徳碑」と刻まれている。

●日笠山のじぎく園

菅原道真公由来の「岩神社」から登る日笠山の南側斜面にのじぎくの育成地「日笠山のじぎく園」があり、秋(11月頃)には斜面一帯がのじぎくの花で真白になる。

●明泉寺

浄土真宗本願寺派の寺院だが、もとは天台宗で大養寺と称し、大乗神社付近にあった。元和元年(1615)に現地に移り、明泉寺と称す。裏庭に宝篋印塔の残欠(基礎)があり、「康応元年(1389)」の銘がある。

49 花田地区

●阿弥陀堂と石塔石仏

本尊の阿弥陀仏は木像の坐像勢至菩薩、観音菩薩の脇侍が祀られている。阿弥陀堂の横にたくさんの石塔石仏が並べてあるが、ほとんどが上原田廃寺にあった。

●石積山古墳群

昔の小川氏神天満宮を中心として、石積および業師緑山麓一帯に数多くの古墳があった。これを石積山古墳群という。石積山古墳群にある多くの古墳は開発で壊されたが、小川天満神社脇に石室の名残の巨石が残されている。

●石積山城(高木構居)

高木の東北の山頂に古城跡がある。飾磨郡誌には高木構居と見え、同誌水上村條下に石積山構居として出ている。これは同一異名の構居で、前山々頂の古城

跡を指すものである。現在は遺構として郭跡(削平地)をかすかに残すだけ。

●市川渡跡

渡し場は今の市川橋付近にあって、明治の初めまで渡船があった。「小川村明細帳」によると、常渡しが12人いたとある。

●上の茶屋跡

丹波道と但馬道の交差するこの地に「上の茶屋」があったと伝わる。

●大酒地蔵

加納原田字大酒に祀られている石造の地蔵立像。石像台石に「享保五(1720)庚子年十一月二十四日願主浄清、堅龍、広普」、石灯籠には「本願主明智、良因、良泰、宝曆九(1759)己巳二月十五日」と刻まれている。

●小川天満神社

小川天満神社は、小川の氏宮で、興国元年(1340)に勧請され、当初は小川字高岸にあったが、正保4年(1647)現在の地に移された。杉板に菅原道真の像を刻み御神体として祀っているため、別名杉板神社ともいう。

●小川渡跡(別名大川渡)

国道372号小川橋の下手にあって、大正の初めまで渡船場があった。

●鍛冶屋田跡

小川の田字に鍛冶屋田というところが残っている。鎌倉時代小川の刀匠国吉が住まいをし、刀を鍛えたところと伝わる。

●加納神社と行者堂

加納神社のご神体は地蔵尊。古宮愛宕社の本地仏が勝勝地蔵であることから、この地蔵の霊夢を感じて加納田の開発を遂げ、且つ溝筋を教示されたことから地蔵尊の像を彫み、これを加納大神として奉斎した。

●上原田の石仏

凝灰岩製で像の頭部は欠けているが、側面に永正11年(1514)の銘がある。上原田村明細帳に、「字仁王田156番に観音石仏壹体 高さ三尺七寸」とある石仏がこれで、昭和58年、工事に伴って現在地に移された。

●私里跡・小川里跡

里とは中古の行政区画のことである。「播磨国風土記」には、小川里と記載がある。29代欽明天皇の御代に皇族によりその地を私里と名付けた。後に41代持統天皇の時代になり朱鳥4年(689)に私里を小川里と改名された。

●旧花田村役場跡(旧花田公民館)

明治22年、町村制実施とともに、一本松、加納原田、勅旨、上原田、小川、高木の六ヶ村は、新に花田村を組織した。明治25年、新庁舎が建築され、昭和26年、モダン庁舎に改修した。現在は公園になっている。

●教福寺

浄土真宗本願寺派にして、山号は摂取山という。開基については、明応年間(1492～1501)蓮如の末弟教円による開基説と、慶長8年(1603)宗受による開基など諸説がある。

●御着渡跡

中世以前の山陽道は御着から深志野に出で、国分寺、加納原田、勅旨、小川、高木を経て松ヶ瀬にて市川を涉り中嶋、白国、大野峠、横関を経て書写坂本へ通じていた。この街道が天川を渡っていた所を御着渡という。

●固寧倉跡(上原田)

固寧倉は、飢饉の時の備蓄米を貯えておく義倉(社会ともいう)のことである。義倉を固寧倉というのは、河合寸翁の時、中国の「書経」という書物の「民は性れ邦の本、本固ければ邦寧し」という言葉から選ばれたと伝わる。

●子安地蔵

右手に鐺杖、左手に宝珠を持った立像である。姫路城主榊原式部大輔の姫君懐妊して霊夢を感じ、この尊像を祈念して安産し給うたとある。

●五霊天神社

一本松は、昔、市ノ郷の御霊天神社を氏神とした。御霊天神社の祭神は五霊天であった。少彦名神をはじめ須田彦命、神功皇后、応神天皇、大歳神の五神霊

を祀ったので五霊天神社という。現在、菅原道真を祭神として祀っている。

●在我の墓・地藏尊

一本松の墓地にある。在我は、一本松の五霊天神社の社僧で宮番をしながら、寺子屋を開き、死後、寛政元年(1789)に墓塚を建てて葬ったものと伝わる。すぐ右の地藏尊は、凝灰岩製で、室町時代後期のものと推定。

●巡礼道道標(佐良和)

石柱に地藏像を刻み、その下に「左にほつけ」「右にしょしゃ」と記してある。

●浄光寺

浄土真宗本願寺派に属する。山号は平等山である。阿弥如来を本尊としている。

●上古ノ山陽道跡

上古(古代)の山陽道は、御着から深志野に出で、国分寺、加納原田、勅旨、小川、高木を経て松ヶ瀬にて市川を渡り、中嶋、白国、大野峠、横関を経て書写坂本へ通じていた。

●小石塔

地藏坐像を中心に五輪塔や宝篋印塔の残欠が寄せ集められている。

●上代国道跡

新小川橋東側に位置し、旧花田村役場跡(旧花田公民館)西側辺りの道であったと伝わる。

●乗福寺跡

上原田字仁王田一帯で奈良時代に高麗の僧惠慈が開いた佛陀山乗福寺があったと伝わる。古瓦が出土、上原田廃寺跡と名づけるが、遺構は認められない。

●正樂寺(太閤井戸)

浄土真宗本願寺派にして、山号は無量山という。昭和20年の戦火で寺門と鐘楼を残して焼失した。今の本堂は昭和22年、大阪市某寺の古堂を移築し、庫裡は昭和26年に新築。名跡に秀吉の掘った太閤の井戸がある。

●神宮寺跡

神仏混淆の時代、神社に付属しておかれた寺のことを神宮寺という。明治元年神仏分離令が出され、廃仏毀釈が全国に広まり、神宮寺は廃絶または独立した。小川の神宮寺は廃寺となった。

●高乃木神社

「播磨国風土記」に「白なめし」の記述があるように、当地は、皮革産業で発展してきた。高木には聖神社、大將軍神社、天満神社があったが昭和39年に現在の地に合祀し、高乃木神社とした。聖神社は、高木白なめしの祖聖翁を祀る。

●丹波道道標(小川)

「右かみはらだ」「左しよしゃ」と記されている。

●超正寺

浄土真宗本願寺派。山号は応星山。文亀元年(1501)に佛陀山乗福寺の跡地の東南に一字を建立したのが始まりと伝わる。鐘楼は明治9年に糺社にあったものを譲り受けて移築したものである。

●勅旨大歳神社

もと字天川の宮田にあったが、元禄の頃、今の地に移した。野里の山王神社より分霊を勧進し三王大明神と称していたが、明治維新後、野里本社が日吉神社と改称したときに当社も大歳神社と改称した。

●勅使塚跡

字深田三番田反別寺反畝六歩の地を勅使垣内と呼び、勅使塚跡と伝わる。永享(1429～41)に園大納言が諸寺再興のため勅使として訪れ、当時小川の出屋敷といわれた十三軒田に止宿した館の跡と伝わる。ここが勅旨村発祥の地であろう。

●定額寺

定額寺の草創は奈良時代で、私寺として建立され、のち定額寺の一つに列せられたと伝わる。境内に石積山古墳より出土した石棺があり、それに刻まれた石仏は室町時代のもものと伝わる。

●溺死菩提碑

寛延2年(1749)姫路城下は、未曾有の大出水に襲われ被害は三町五反あまりに及んだ。城下の溺死者に対して後七回忌の宝暦5年(1755)にその菩提の

ため山脇に立てられた碑である。

●道標(高木の巡礼道)

西国三十三箇所を詣でる巡礼の人たちが多く通ったので巡礼道という。巡礼の人たちに道案内をしたのが巡礼道の道標で石柱に地藏像を刻み、その下に「右ひがしほつけ」「左しよしゃ」と記している。

●道標(国分寺)・下の茶屋跡

この地は有馬道と丹波道の交差点にあたるため、旅人の道案内と無事を祈り、上部に地藏像を彫り込んだ道標がある。この地に下の茶屋があったと伝わる。

●花田井(別名:花田湯(はなだゆ))

市川に井堰をつくり分流し、高木、小川、勅旨、上原田、加納原田、豊国、深志野、国分寺、御着などの耕地を養っている。天保元年(1830)に保城山麓に新しい樋門を作り現在に至る。校区の花田は花田井からつけられた。

●聖宮(聖神社)

昔、里人が聖翁と尊称する翁について熟皮の技術を磨き、その指示に依りつくり出したのが播州蘇牟の始まり。翁の死後、祠を建て聖大明神と崇めて翁の徳を偲んだ。高乃木神社に合祀されたため、今はその跡地を残すのみである。

●本覚寺

浄土宗、山号は金龍山である。姫路市坂田町正法寺の系列として、萬治2年(1659)創建された。元の本尊は阿弥如来であったが、現在の本尊は釈迦如来であり、宗派は真言宗に改宗された。

●松ヶ瀬渡跡

高木北方の市川筋に、松ヶ瀬という浅瀬があった。今では、松ヶ瀬の位置を的確に確定することは難しいが、花田井の下手辺りであったと伝わる。

●弥陀三尊種子板碑

高さ約1.5mの砂岩製の弥陀三尊種子板碑である。中央の梵字は、阿弥如来のキリコ、両脇の梵字は、脇侍である勢至菩薩のサツ、観世音菩薩のサと刻まれている。いずれも南北朝時代のものではないかと伝わる。

●薬師堂跡

明治5年、村地図に十王屋敷の東隣に「ヤクシ」と墨書した一画がある。これが薬師堂の古跡である。堂宇あり名工の手に成る薬師木像が安置されてあったと伝わるが、炎上後廃堂となった。

●八つ塚

享禄3年(1530)庄山城の落城で、赤松氏の残党が塚の近くで死にそれを弔うために八基の塚を立てた。現在はその一基が残っている。

●若宮神社

奈良時代に草創された乗福寺の鎮守若宮大権現の遺祠と伝わる。

50 別所地区

●天川中学校遺跡

昭和25年4月1日当時の兵庫県印南郡別所村と阿弥陀村が学校組合立の天川中学校を創立。昭和50年3月31日天川中学校は解消し、姫路市立東中学校と高砂市立鹿島中学校に引き継がれた。

●安養寺

本尊は阿弥如来、曹洞宗で姫路景福寺の末寺。「姫路城史」に天正7年(1579)、羽柴秀吉は御着城攻めに際し、別所村安養寺と民家に放火。このとき安養寺宗徒も御着城に立て籠もったとある。

●石灯籠と宮の堀

元宮址(跡) 近くの宮の口丁(「みやのくちちよ」:宮の入り口)にある堀留を「宮の堀」(「みやのほり」)と通称され、その溝の側に常夜籠が一基建っている。宝永6年(1709)11月吉日銘有り。

●一願寿福地藏尊石棺片

小林集落東端にある公園の地藏堂に3体の地藏石仏が祀られている。地藏坐像は、高さ1.42m、正面に「奉書写大乗妙典 寛保四年(1744)正月廿四日」の銘があり、他の1対は凝灰岩製で舟形光背を持つ一石彫成の地藏立像。

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで
2 地域夢プランのかたち
取組の類型化
3 地域夢プランのつらえ方
検証と未来へのアプローチ
姫路市地域夢プランの概要
4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
地域資源を活用したまちづくりと展望
5 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
地域資源の活用

●イチョウ (保存樹) 市指定番号65-2 福乗寺

まだ若々しく、樹勢もあるイチョウ。秋には、たくさんの銀杏が実る。推定樹齢 200 年、樹高 19 m、幹周 1.8 m。

●お稲荷さん (佐土)

建立年は不明。小さな社とその大きさに適した数基の朱塗りの鳥居がある。社の近くにはムクノ樹の大木が 5 本あり、昭和 40 年代までは、「初午の日」に社前の広場で「子ども相撲」の年中行事もされていた。

●桶居山

佐土新の北、飾東町夕陽ヶ丘の南にあり、標高 247.56 m。地元では、おけすけ山とよび桶伏山・桶据山・桶助山などの別名がある。米の取引相場の通信に旗振山として知られた。

●お地藏さん (佐土)

旧佐土公民館 (現自治会倉庫) の西側にある。地藏さんの手水鉢は、南山 (現鉄工団地南側の山) にあった石棺を使っていると伝えられている。正面の石造線香立てには、明治 41 年 7 月建之と刻まれている。

●オニバス

オニバスは、日本の水生植物の中で一番大きな約 2 m の葉をつける一年草で、全国で 100 箇所程度しか生息が確認されない希少な植物。8 月～ 10 月花が咲き、花弁は紫色。北宿の瀬戸池等で見ることができると。

●鹿島道

鹿島道は山越えの鹿島神社参道で、別所高校前に登山口がある。高校の南、横池の東に道標が立てられており、「左かしま道」とある。高さ 53 cm、花崗岩製で田中宗八と施刻されている。

●加茂神社

祭神は別雷神 (わけいかづちがみ)。享保の大飢饉の年 (1724)、9 月 9 日に火災に遭ったが、唯一御神鏡が残っていたので、40 年後の 9 月上賀茂神社より別雷大神を御迎し、再興したと賽銭箱の裏面に記されている。

●義人 井上重右衛門

義人井上重右衛門は天保の頃、暴政を続けていた庄屋に対し、憤然として立ち上がった。重右衛門は姫路藩の奉行所に幾度も直訴し、庄屋などの所業は明らかとなった。明治 10 年弟子たちが真禪寺の山門右手に雙五翁之墓を建立。

●北宿獅子舞

別所地区の毛獅子では「最も古い舞いの形態」を今に伝えている。境内四方に笹を立て、縄を張り、その中でそれぞれの舞いを一回りする独特の「地舞」が特徴であり、山野を駆け巡るような「躍動感」あふれる獅子舞。

●くすのき (保存樹) 市指定番号35 安養寺

住宅地の一角に悠々と、その樹形を現しているおおらかな名木。推定樹齢 200 ～ 300 年、樹高 12 m、幹周 2.3 m。

●くすのき (保存樹) 市指定番号66 水野宅

平凡で落ち着いた姿を見せる高木。民家の屋根にとけこんだ佇まいが、懐かしい景色を作り出している。推定樹齢 300 ～ 400 年、樹高 18 m、幹周 4.3 m。

●郡境の溝 (佐土と御着の境)

家具町西端にある大村池の西を南へ流れる細い溝があり、国道 2 号、旧山陽道を越え南下をしている。この細い溝が、印南郡に属した佐土村と飾磨郡に属した御着村とを別ける郡境だったと云われている。

●小林獅子舞 (県指定重要無形民俗文化財)

大塩の獅子舞発祥の地で、力強く勇壮な荒獅子舞が特徴の大塩の獅子舞だが、小林丁の獅子舞は、荒獅子舞のほかヒョットコ・オカメ・猿など「絡み役」(通称ツリコ) が面白い仕種を見せる優美でユーモラスな舞いを併せ持つ。

●賽の神 (佐土)

特に道路の分岐点を守り、悪霊を退け災厄を防ぐ大きな力を持つ神として尊崇されている。この神は中央に祀られている盃状穴の彫られた板石で、大変珍しい。

●賽の神 (別所西)

別所西の旧山陽道沿いの家の片隅にひっそりと石を積み重ねた状態の神が祀られている。

●塞の神

佐土集落西寄りの旧山陽道「たかじよの坂」の中間付近に、一間四方 (約 1.8 m× 1.8 m) の大きさに玉垣に囲まれた数個の自然石と小祀 (祀られた石)、その後方に宝篋印塔の一部と思われる石材が祀られている。

●さかみぞ

別所・佐土歩道橋の交差点道路下に佐土新から南の天川へ合流する川。別所西と佐土との境の溝とされた。昔は東側の土手にススキや雌竹が繁茂し、川の両側に水田が広がり、佐土側には寺池と呼ばれた小さな池もあった。

●佐突駅屋跡

佐突駅家は賈古 (加古川) と、草上 (姫路) の中間に設置された駅家。別所町の北宿遺跡が佐突駅家跡と見られる。別所小学校に、北宿遺跡出土の古瓦・珠文帯均正唐草文軒平瓦が保管され、「別所村北宿廃寺」字櫃」の箱書きがある。

●佐土獅子舞

佐土の獅子は雄雌 2 体の獅子で、2 体が並び、祭りの幕開けとして「氏舞」を奉納する。現在、子ども会が獅子舞を継続しているが、「八島」舞いを、子どもが頭を持って舞い、父親が後舞いをする親子舞いとして披露する。

●白髭神社

天正元年 (1573) 三木城主別所長治が増位山の僧、安芸法印を攻め寺堂を焼いたその時、増位山の鎮守であった当社も、佐土字北出口に移されたが、後に現在の大村山麓 (家具町北側) に移され祀られている。

●真禪寺石棺仏

八王山真禪寺は、臨済宗妙心寺派。本尊は観世音菩薩。本堂前の庭園に東面して石棺仏が立っており、高さ 1.08 m、幅 87 cm。古墳の家型石棺の石に阿弥陀坐像を刻んでいる。

●南山についての言伝え

佐土墓地東側に南山の半分の高さに満たない「火山」と呼ばれる山があった。昔、山頂付近に佐土の東方や西方への、通信手段の一つとして、狼煙 (のろし) を掲げる場所があったため、そう呼ばれていたらしい。

●旗振り信号跡

姫路市の東端、高砂市との境界線上に位置する大平山 (標高 194 m) は、地元で「おへちやま」とよばれ、明治 27 年ごろから大正 6 年まで、頂上に大阪堂島と兵庫の米相場を姫路地区に伝達する旗振り信号所が置かれていた。

●ビャクシン (保存樹) 市指定番号65 福乗寺

まるで一幅の絵を見るような、美しい姿は人工的すらある。自然のおもしろさだ。推定樹齢 300 ～ 400 年、樹高 12 m、幹周 2 m。

●日吉神社 (別所)

もと山王権現、天照大神、牛頭天王、薬師如来を合祀していたが、明治初年の神仏分離により、江州日吉神社より大山祇神を勧請、雨神として知られる。参道入口の常夜灯は、明治 20 年に雨乞い開願によって建立されたもの。

●福乗寺

播磨国の真宗三道場の一つとして建てられた。姫路城主池田輝政の大谷派に対する迫害のため、一時、但馬国出石町 (現在の豊岡市出石町) に逃避していたが、元和 9 年 (1623) に現在の場所に帰り、福乗寺として再建。

●仏心寺 石造五輪塔

仏心寺裏の墓地にあり凝灰岩製。火輪 (笠石) と風輪 (受花) の一部が欠け、空輪 (宝珠) は後補である。各輪の四面に四門の梵字を記し、書体は端正な篆研彫り、地輪 (基礎) は、やや下膨れで安定感がある。鎌倉時代の作。県指定重要文化財。

●別所構居跡発掘現場

区画整理事業にともなう発掘作業により、別所構居が再確認される。鎌倉時代から江戸時代初期までのものが中心で、土師器皿・瀬戸美濃焼皿・備前焼埴鉢などが出土。発掘調査後、埋め戻され市街地となっている。

●別所西獅子舞 (市指定重要無形民俗文化財)

獅子舞の奉納は五穀豊穡と子孫繁栄を願うもので、威風堂々たる雄獅子とやさしく気品のある雌獅子からなる野獅子である。雄獅子は総じて首曲に陶醉して舞い、雌獅子は総じて花と戯れたり、蝶に誘われて静かに舞う。

●別所東獅子舞

獅子舞を奉納する目的は、五穀豊穡と子孫繁栄を祈願して行うもので、威風堂々たる雄獅子とやさしく気品のある雌獅子との二頭の獅子をもって行われる。別所東の獅子舞は全九曲、内五曲は釣りが獅子を操る。

●別所村道路元標

表面に別所村道路元標と施刻、高さ 65 cm、25 cm 角。姫路市内には、亡失も含めて 41 本の道路元標が設置されており、別所村道路元標の位置については、印南郡別所村別所東上代 1635 地先地番となっている。

●弁慶地蔵

別所の旧山陽道沿いにあり、別名泡子地蔵と呼ばれる。本尊は、凝灰岩質の板石を掘りくぼめ、地藏坐像を陽刻し「天文二年 (1535) 乙未八月廿六日」ほかの銘文がある。かつて子宝地蔵として参拝者も多かった。

●三ツ塚古墳

市立東中学校前庭に保存されている横穴式石室古墳。玄室の長さ 4 m、高さ 2.5 m の円墳で、古墳時代後期 (6 世紀) になるとこのような小古墳が多数作られるようになり、村の有力者やその家族が葬られた。

●宮わき古墳

山神社のすぐそばに横穴式石室古墳が二基ある。1 号墳は、石室の全長約 7 m、無袖式で封土は流失し、天井石が落下している。2 号墳は、石室の全長約 9 m、無袖式で保存度は 1 号墳より良好である。

●元宮

天正元年 (1573)、増位山の鎮守であった当社が、佐土字北出口に移され、後に現在の大村山麓 (家具町北側) に移されたが、往時に移された社 (元宮址) の場所として今も祀られている。“宮の堀”の西側に位置する。

●森の神さん (猿田彦神社「さるたひこじんじや」)

小さな社殿と本社殿の西北隅に「盃状穴」のある板石と家型の石造物が祀られている。昔、社殿の南東位置には、村内の名水「森の水」と云われた井戸があり、重宝がられたとも伝えられるが、現在では痕跡も確認できない。

●山神社

佐土新集落の奥、桶居山の南西麓にあり、祭神は大山祇神。境内と玉垣に接して二基の古墳があり、いずれも横穴式石室古墳。境内の開村三百年記念碑は、明暦元年 (1655) 姫路城主榊原忠次によって開村された歴史を刻む。

●六騎塚

建武 3 年、児島高德の父範長主従 6 人が自害した跡と伝えられる。北宿の旧山陽道北側に碑が建っている。正面に「備後守児嶋君墓」裏に「嘉永三年庚戌年 (1850) 五月十九日 佐和田清左衛門範一建之」と彫られている。

51 御国野地区

●天川橋 (虹の橋)

天川橋は御着の天川に架けられていたもので、文政 11 年 (1828) 姫路藩の築造で総橋石 5 本の橋脚によって支えられ、全長 26.6 m、幅 4.45 m、高さは 5 m。現在は姫路市立東出張所裏に移設保存されている。

●一里塚

旧山陽道、一里塚跡。西御着の工場横に立っている。

●延命寺の板碑

本堂の西北隅に板石碑があって上部正面に阿弥陀如来をあらわす梵字が刻まれており、左に「貞和元年」(1345)、右に西年仏らしい文字がかすかに見える。庶民はりっぱな仏像を作るかわりに、板碑を作って拜んでいた。

30年。発掘調査され、鏡・刀剣・玉などが出土した。国指定史跡。

52 四郷地区

●麻生山
麻生山は、標高172mで、山頂には役行者(えんのぎょうじや)を祀る華嚴寺(けごんじ)がある。別名に鞆男山(あしおやま)、醜男山(しこうやま)、ゆすりの山、播磨小富士山。

●阿保古墳群
麻生山と仁寿山の間の谷間に点在する、6世紀から7世紀にかけての横穴式石室を持つ群集墳。早くから盗掘を受け、『飾磨郡誌』には、24〜25基の古墳の残存が記されている。別名、阿保の百穴(百塚)ともいう。

●印鐸神社
印鐸神社は、八重山山中腹の山脇宇宮山にあり、祭神は神功皇后(じんぐうこうごう)、竹内宿禰(たけうちのみこと)、大己貴命(おおなむちのみこと)の三座である。古代、国府の近くに置かれた。

●浦茂平公徳碑
元取山山麓の墓地入り口から西に登り、南に曲ると右手に石碑が4基並んでおり、その一番右手にあるのが浦茂平の公徳碑である。四郷町の発展に寄与した宮本源三郎氏や大矢光太郎氏にも大きな影響を与えた。

●江戸時代の山陽道
山陽道は、かつては西国街道とも呼ばれ、古代は京と太宰府を結びつづいた国道1号だった。近世に入ると、街道は江戸が中心となり、山陽道は脇街道となりましたが、西国大名の参勤交代で賑わっていた。

●大年神社(本郷)
四郷町本郷を氏子区域とする鎮守社。本殿は一間社流造で、18世紀前期の建造。村の鎮守社として標準的なつくりで、価値も高い。

●大年神社(見野西)
四郷町見野にある鎮守社。本殿は一間社隅木入春日造で、享保13年(1728)の棟札が残っている。小集落の神社の本殿としては、18世紀初頭の古い時期の本殿がほぼ完存する重要な事例でもある。

●春日神社
武蔵権命(たけみかつちのみこと)を祀る坂元の氏宮。拝殿から舞殿への扉の上に5枚の小絵馬があり、子どもの月代(顔を剃刀で剃る)嫌いが治るようにと、明治6年に奉納された月代図小絵馬がある。

●国主社
国主社は、東阿保の氏宮で、英保国主神を祀っており、一般には国王社と呼ばれ、山道の石碑も国王社となっている。石造品は、拝殿前広場に天保14年(1843)の手水鉢、広場下に文政10年(1827)の常夜燈がある。

●坂元山古墳群
宮山古墳の西方の坂元山尾根上に、6基の竪穴式石室、南裾に4基の横穴式石室を持つ古墳が点在している。

●饒万津亀山道道標
神明社前から印鐸神社山道を登ると、石階段手前左手に脇道があり、その入り口に饒万津亀山道の道標がある。道標の作製年代は不明。

●四郷村道路元標
道路元標は、路線の起点、終点又は経過地を表示する標識で、表面に市町村名を記載したものであり、旧姫路市には四郷村、栗山村など37か所に設置された。四郷村の道路元標は、見野バス停前生け垣の中にある。

●新羅神社
新羅神社は、明田の氏宮で、祭神は息長足姫命(おきながたらしひめのみこと)、菅田別命(ほんだわけのみこと)、足伴彦命(あしなひこのみこと)の三座。現在の社殿は明治時代のもの。元禄時代の灯籠も残っている。

二ノ丸。二ノ丸の発掘調査では建物の礎石や日用品が出土。国道南の家並みもとは城内であった。国道の北には濠や土壘が残っている。

●御着本陣跡
御着の旧山陽道を東へ進むと、なかほどに「御着宿本陣跡」の標識がたてられている。御着本陣は、天川家が勤め、敷地約2,100坪、本屋の部屋数30室、そのうち畳敷きが26室で、建坪約130坪の平屋建と伝えられている。

●小寺大明神
御着城本丸跡にあり、三代の城主(小寺政隆公・則職公・政職公)と当時の戦死者を祀る。同じく東隣に開運繁栄の神である当勝稻荷社(まさかついなりしや)がある。同所公園内に城主供養の墓と天川政隆氏の歌碑がある。

●大日さんの石棺仏
本堂前に南面して2基の石棺仏が建てられている。大永7年(1527)の銘がある。向かって左側は、現高1.43m、幅96cm。石棺の蓋石に四角の輪郭を彫る。右側の1基は、現高1.16m、幅77cm、像高46cmで凝灰岩製。

●壇場山古墳
全長約143m、5世紀前半の前方後円墳で、南南東に後円部を、北北西に前方部を向け、くびれ部の西側に造り出しが認められる。周囲には陪塚の第1、第2古墳がある。西播磨最大の古墳で国指定史跡。

●天満神社(国分寺)
創立年代は不詳。平成11年9月に文化庁による史跡壇場山古墳の整備事業に伴い、この地に御新築遷座した。元々村の鎮守は大年神社であり、その後天神信仰の流布により、天満神社が祀られたものと思われる。

●西御着総合センター皮革資料室(西御着総合センター内)
平成17年、西御着総合センター内に皮革資料室が設けられた。昔の貴重な道具類や皮製品がところせましと展示されている。皮革は昔から多くの人々に使用され、現在においても多くの分野で利用されている。

●西の宮
深志野北西部の山の腹に建っている大歳神社。毎年10月の祭りの時に奉納舞が行われている。創建時期等については不詳。

●陪塚(ばいちょう)
第二古墳と書いた石柱が立っているが、壇場山古墳の陪塚である。中心部に石棺の側石が見えている。

●播磨国分寺
国分寺は、奈良時代聖武天皇の詔により、国毎60ヶ所に設置することが、定められた官寺。国分寺は方二町(一辺200m)の範囲が寺域で現在、国指定史跡となっている。現在の国分寺の境内には県指定の宝篋印塔などがある。

●東の宮
深志野のほぼ中心部にある大歳神社で、住民の憩いの場となっている。毎年10月の祭りの時はたくさんの住民がこの場に集まり、奉納舞も行われている。創建時期等については不詳。

●深志野獅子舞
深志野の獅子は、雌獅子だが、舞い方が大変激しいため、獅子を舞う年齢が他の地域より少し若くなっている。獅子舞は、10種類あり、10月の祭りで奉納舞を行う。現在、獅子舞保存会がとりおこなっている。

●宝篋印塔(国分寺)
現在の国分寺の本堂東側の境内にひっそりと建っている。花崗岩製で、基礎の四面は変形花頭曲線をもつ格狭間様に輪郭をとり、内に開蓮華文が浮彫りしてある。室町時代のもので、石材が完全に揃っている。県指定文化財。

●明治天皇御休所の碑
延命寺の南側、門の前に建っている。明治18年、当時まだ鉄道がなく、山陽道を通って山陽方面を巡幸された天皇が、この延命寺で休まれた。この碑は昭和10年に建てたもので、寺の境内にも、記念碑がある。

●山之越古墳
第三古墳と書かれた石柱が立つ。一辺約50mの方墳で、周囲に濠もめぐっていたようである。盛り土が削られているが、頂上に大石棺が見えている。明治

●大えのき(市指定保存樹) 指定番号36 先祖橋側
大きく枝を張った姿の良さ、樹齢の古さは市内有数のエノキである。樹高はやや低い。推定樹齢300〜400年、樹高13m、幹周3.1m。

●思出川のホテル
天川の支流思出川では、毎年6月には、ホテルが見られ、幻想的な世界を堪能できる。

●旧有馬道の道標(国分寺)
旧有馬道沿いにひっそりと「北たじま、西ひめじ」と刻まれた道標がある。有馬道は姫路から真東へ裏六甲の谷間を通って京へ行く近道であった。また、昭和の初期にはバスも通っていた。

●旧山陽道御着の町並み
山陽道は、西国街道・中国路とも呼ばれ江戸時代の主要街道のひとつで、五街道以外の脇街道ではあったが、往還筋に本陣の天川家があり、重要性の高いものであった。今もまだ当時の面影が残っている。

●くすのき(市指定保存樹) 指定番号37 御着大歳神社
大歳神社は境内にはクスノキが多く、指定樹はその中の1本。幹が途中で複雑な形に分かれているが、樹勢は盛ん。推定樹齢100〜200年、樹高14m、幹周2.5m。

●黒田家廟所
福岡城主黒田家の先祖を祀っている。周りを囲んでいる石垣は高砂市の龜山石。黒田家は重隆が御着城主小寺氏につかえ、職隆一孝高と続いたが、孝高(如水)が秀吉、家康につかえてその子孫は福岡城主となった。市指定史跡。

●庚申堂
猿田彦の神を祀っている。毎年8月に神事を行っている。

●国分寺構居跡
国分寺構居については不明の部分が多い。現在、構跡と見られる地点は、道路によって分断されて盛土して宅地となっているが、堀跡水田は環濠状に接続し、付近から布目瓦が採集されている。

●国分寺参道
昔の国分寺への参道で現在の幅員約2m。奥で横断しているのが、山陽本線(JR神戸線)。上空から見ると、国分寺の正面に続いているのがよくわかる。

●国分寺台地遺跡
弥生時代中期から後期にかけての遺跡で、壺・甕・高坏・石鎌・石槍・石包丁・石斧などが採取されている。近年、この台地上に道路が築造されて住宅地となっており、PC工法という特殊な工法で道路下に遺跡を保存。

●国分寺塔跡
現在の御国野町国分寺に、整然と残る礎石は、ここに塔が建立されていたことを伝えている。礎石が今もそろうて残っており、1200年前をしのぶことのできる数少ない遺跡の一つ。

●国分尼寺参考地
播磨国分尼寺の所在地については江戸時代の地誌「播磨万宝智恵袋」に、「国分寺村に、今国分尼寺の旧跡あり」と記載があり、その考証は、かなりの数にのぼっている。碑のそばの大きな石は、この付近から出た寺の礎石。

●御着大歳神社と絵馬
拝殿に、明治・大正・昭和の絵馬がたくさんあり、歴史絵巻を見るようである。当社の遺物としては、門前にある天満神社の鳥居には寛文十三年九月の文字が彫られていて、当時はこの鳥居が当社の鳥居であったようである。

●御着獅子舞
御着の獅子舞は、470年ほど前、小寺政隆公が御着に築城し、氏神様をお祀りした頃より奉納されていたようで、代々村の若者によって受け継がれてきた。一時は舞い手がなくなりましたが、昭和45年、獅子舞保存会が作られた。

●御着城址
戦国時代、赤松氏の一族、小寺政隆の築城とされる。御着城址公園内・東出張所あたりが本丸で、その東が

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
取組の類型化

3 地域夢プランのつくり方
検証と未来へのアプローチ
姫路市地域夢プランの概要

4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信

5 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
地域資源活用したまちづくりと展望

6 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
地域資源活用したまちづくりと展望

●神明社

祭神は、天照大神(あまてらすおおみかみ)、豊受大神(とよけのおおみかみ)の二座で、境内社に手置帆負命(たおきほおひのみこと)と市杵嶋姫命(いちぢしまひめのみこと)を祀っている。

●瑞岩院石仏

瑞岩院の正式名称は、黄檗宗松光山瑞岩寺といい、縁起は、宝永年間(1704～1711)に泰州全士が山脇八方山に一字を建立したことに始まる。前庭には、一石丸彫りの阿弥陀如来坐像があり、台座に延享元年(1744)の銘がある。

●溺死者菩提碑

寛延2年(1749)7月3日、姫路地方は大雨に襲われ市川は決壊し、船場地区を中心に大きな被害をもたらした。山脇の溺死者菩提碑は、七回忌(宝暦5年1755年)に、船場吉田町の八右衛門らが施主となり建立。

●東蔵坊墓

飜方津亀山道(しかまつかめやまみち)の道標から脇道に100m余り入った所にある。石組みの上に板状の石の表面を削った石碑が東蔵坊の墓。

●中鈴山古墳

中鈴山(二子山)の尾根上に古墳時代後期(6世紀)の円墳がある。詳しいことは不明の古墳だが、箱式石棺が確認されている。

●長塚古墳

見野集落の東、水田の中にある前方後円墳(平成7年の調査)。石室は、前方部と後円部で、いずれも東西を軸とし、東に羨道を有する横穴式石室である。須恵器(すえき)や銅鏡などのほか、管玉、ガラス玉などの装身具も出土している。

●日本廻国供養塔

日本廻国供養塔は一般に廻国塔と呼ばれ、山脇の廻国塔は、明和4年(1767)に上州殿橋(前橋)笠町の休心が姫路の石屋藤八に造らせたもので、凝灰岩製の廻国塔の上に、砂岩の観音像を置いている。

●八幡神社

八幡神社は東阿保光寺・新田の氏宮で、品陀別命(ほんだわけのみこと)を祀っている。拝殿正面に八幡宮の額があり、右手に新田の氏子によって奉納された2枚の絵馬が掲げられている。

●火山古墳群

見野から本郷の山すそに多くの古墳が点在する。本郷の北部の古墳は工場用地の造成の際、残念ながら取り壊された。

●本郷窯跡

本郷の信号の東付近から、奈良時代の六葉の蓮弁をもつ鎧瓦をはじめ多くの古瓦が出土した。かつては本郷窯寺といわれていたが、その瓦は播磨国系系の瓦であるため、近年では本郷窯跡といわれるようになっていた。

●孫太夫墓

孫太夫は、見野の人で、姫路藩土金澤徳之進の従僕として勤めていた。その誠実さから土分にとりたてられ、城主に許可を得て用水に困っている四郷の農民に、山脇の山の麓から見野に井溝を敷設した。

●松原井と石堰

阿保橋の北にある井堰からの用水を松原井といい、寛延3年(1750)の「松原村明細帳」を見ると、兼田、北原、奥山、継、東山、宇佐崎、中村、松原の八か村3,996石余りの用水で、井堰は70間あったとある。

●見野古墳群

見野和光公園を中心に、古墳時代後期の横穴式石室を持つ20基の古墳が点在する。そのうち2基の古墳は大変珍しく、1つの封土に二つの石室を持つもの、もう一つは天井石が5mもある巨石であるため「姫路の石舞台」とも呼ばれている。

●見野廃寺跡

四郷町見野字二階堂にある薬師堂を中心に、白鳳期の寺院があり、薬師堂境内には当時の布目瓦が散在し、寺跡であったことが分かる。また、四五四塚の記載が見られる所から、円形柱座孔を持つ塔心礎が発掘された。

●宮山古墳

宮山古墳は5世紀後半の古墳で、直径約30m、竪穴式石室を持つ円墳。昭和44年、48年の2回の発

急発掘調査で、3つの埋葬施設が確認され、県指定史跡となった。平成17年、埋蔵文化財センターが隣接地にオープン。

●御幸通りと御幸橋

陸軍大演習が終わった後、明治天皇は元取山から旧山陽道に入り、御着駅から帰された。そのため、元取山から旧山陽道につなぐ道を、御幸通りといい、御幸通りが四郷井と交差する橋を御幸橋という。

●明治天皇駐蹕碑

明治36年、日露間は険悪なムードで、ロシアとの戦いを想定した陸軍大演習が播磨平野を中心に行われた。その際、明治天皇が元取山で統監されたことを記念して立てられた駐蹕碑。

●八重鉾山構居

八重鉾山の北端・頂上部に削平地があり、市川よりに少し下がった所に二カ所の平地がある。八重鉾山構居は、「飾磨郡誌」によると、山名宗全が赤松氏を討したとき、安達五郎太夫を置いたのが始まりである。

●山脇道標

山脇の道標は安政6年(1859)に造られ、旧山陽道が山脇に入り、バス道と交差する東南の角にある。正面には、「右やかしぞう是れより一り」、左側面に「右ヒメジ左 神戸 安政六年 正月吉日 国□□□□」と刻む。

53 谷内地区

●小原と熊野神社

室町時代より播磨国飾磨郡小原村として登場。京都八瀬小原(大原)の住民が移り住んだのが村の起こりと言われ、地名も「小原」にしたと伝わる。熊野神社には、元文元年(1736)と宝暦10年(1760)の石鳥居などがある。

●春日神社(八重畑)

祭神は天津児屋根命などの神々となっているが、旧幕のころは若王子神社だったと伝わる。境内には、魃毒被害田の減税を嘆願した河本弥信の碑など、先人の顕彰碑がある。

●苔の清水・苔の地蔵(山崎)

国道372号山崎バス停から天川を渡り、自転車専用道を南下すると、山麓にお堂があり、右脇に清水が湧いている。この清水は苔の清水と呼ばれ、播磨十水の一つといわれた。また、お堂には3体の石仏があり、苔の地蔵と呼ばれてきた。

●巡礼道(丹波街道)

法華山一乗寺から書写山園教寺に通じる巡礼道で、大釜から八重畑稚子端を通り、山崎の橋を渡り天川に沿って豊国へ、市川松ヶ瀬を渡って保城に通じる道という。八重畑には合羽屋・紅屋などの巡礼宿があった。

●道標(小原)

小原バス停から国道372号を600mほど北東へ行くと、右に折れる小道がある。この角に2基の道標があり、「石ほつけ 左たんば」と刻まれている。ここが丹波道で、ここに交差する小道が巡礼道の間道であったことを示している。

●道標(小原新)

地区の入口に建てられている。「左 法花山 右 ひめじ」とある。

●八王子神社(山崎)

山崎集落北の山麓にあり、古くは八王子若王子権現と呼ばれ、八王子神、若王子神などを祭神とする。明治元年に姫路城から移築されたと伝わる高麗門形式の門があったが、老朽化が著しく倒壊のおそれがあり、平成23年に撤去された。

●八幡神社(大釜)

品陀別命(応神天皇)が祭神。安永3年(1714)の石鳥居、天保6年(1835)の手水鉢。参道口に「覺園大徳堂」とある元禄11年(1698)の墓がある。

●姫ヶ塚五輪塔(小原)

小原バス停から国道372号を600mほど北東に、右に折れる小道があり、その先に榎枝池がある。堰堤の下に「姫ヶ塚」と呼ばれる五輪塔があり、礎石に「志趣者為自他法界平等利益也」の銘文と建武4年(1337)の年号を刻む。

●ホテルの里(雑郷川〜大釜新)

平成2年、天川の支流、雑郷川の整備がなされた。谷内小学校とPTAがホテルの乱舞するふる里づくりに取り組んだ。卵から幼虫への飼育には、全児童が参加し、5月には川に放流、6月には蛍の飛び交う里を復活した。

●萬燈山

昔より多くの人々に親しまれ、谷内地区のほぼ真中にそびえる穏やかで優しい山容の山。山麓の春日神社に地元出身の詩人岡本俱伎羅がこの山を詠んだ句碑がある。谷内小学校の校歌にも歌われている。

●八重畑山跡

天川の支流、八重畑川に沿って北上すると金池がある。この池の東西山麓一帯が、八重畑山(長谷山山、有乳山山、別名太閤山山)の跡である。銀・銅・亜鉛・スズを採掘していたが、大正時代に中止、廃山になった。

●八重畑の廻国塔

天川の左岸、谷内公民館の南の山麓に建てられている。正面に「大乗妙典日本廻国供養塔 六十六部天下和順 日月清明」とあり、嘉永元年(1848)願主当村伊左工門の銘文がある。

54 谷外地区

●牛の足形(庄)

大歳神社の東側の凝灰岩に牛の足跡らしき窪みがある。聖武天皇の命で諸国に国分寺が建立された際、近くの火の山から一頭の霊牛が現れ、国分寺造営の膨大な材木を全て運んだという伝説があり、その足跡はその霊牛のもので伝わる。

●大歳神社(佐良和)

創建の時期は不明。姫路城主の本多美濃守忠政が、その子忠刻に男子出生を祈願し、当社に社領二石を寄進して、祈られたと伝えられている。特殊神事として、数え歳二歳になった子どもの氏子入りの儀式が行われている。

●大歳神社(庄)

はじめは庄の西の方、上原田に近い所にあったが、元禄年間(1688～1704)に今の地に移した。祭神は素戔嗚尊の子、大歳神向胸神宇迦之御魂神、子御年神等と共に穀物守護の神が祀られている。

●春日野古墳群(飾磨古墳群)

城山中学校の北の山麓などに12の古墳が散在している。1号墳は特色ある石室構造をもっており、2号墳は、播磨では最大級の円墳であることが確認され、金メッキを施した銅製の馬具の一部などが発見されている。

●春日野神社(春日野)

社伝によれば、長暦元年(1037)に春日四所大明神をこの地に祀ったと伝わる。奈良時代に書かれた「播磨国風土記」小川原の条に「射日前」の名があり、これは塩崎の小学射日前のことであると伝わる。絵馬「四農耕田」がある。

●北向きの地蔵さん(塩崎)

村の南、迎山の麓の公園の南にある地蔵立像。右手に鏡杖、左手に宝珠を持った地蔵。宝永4年(1707)の銘文がある。村に向かって北を向いているのは、村を見守ってくれるようにとの願いだと伝わる。

●子安地蔵(佐良和)

佐良和の地蔵堂に南面して建てられている。古墳時代の石の棺桶の一部とみられる板石に地蔵を浅く彫っている。正平18年(1363)、600年以上前に造られた古い地蔵であり、「子安地蔵」として安産を願って信仰されてきた。

●歳徳神社(佐良和)

戦で足に重傷を負った武将がこの地で死に臨んだ際、「歩行不自由なる者何人によらず、一切我れを守護せん」と遺言したと伝わる。以来、足腰に病気になる者が参詣し、4月の第一日曜日(春祭)に、柴灯大護摩が焚かれる。

●巡礼道(丹波街道)

法華山一乗寺から書写山園教寺に通じる巡礼道で、大釜から八重畑を通り、山崎の橋を渡り天川に沿って豊国へ、石橋山の麓を通り、市川松ヶ瀬を渡って保城に通じる道という。庄には萬屋・大黒屋などの巡礼宿があった。

● 出買 (でがい)、新鮮で旬な魚

地元では「れんがい」と呼ぶ。坊勢港の魚の仲買人(4業者)の台船に、漁から帰った漁船が横付けし魚を卸す。姫サバ、高級食材のシタピラメ、シャコ、イカ、穴子、カワハギ、シラス、イカナゴなど新鮮な魚が、1年中水揚げされる。

● 島内一周道路

坊勢島には、約1時間で歩ける島内一周道路が整備されている。自然あふれる坊勢島では、四季折々の海や漁港の風景を眺めながら、のんびりとしたウォーキングを楽しむことができる。

● 長井港

奈座港を過ぎて、さらに歩くと長井港が見えてくる。この港に坊勢漁業協同組合事務所がある。

● 奈座港

坊勢島内には大きく分けて3つの漁港があり、定期船発着場に最も近い港が奈座港。

● 波の化石

昭和34年に三笠宮崇仁殿下を名誉団長とした家島群島総合学術調査団が坊勢島西ノ浦海岸より発見。約2億年前の波跡を示している。現在は、坊勢中学校校庭にて保管。

● 西ノ浦港

定期船発着場から島の反対側に位置する漁港。西ノ浦港湾内には、日本一長い浮桟橋が設置され、全長は130mある。

● 坊勢の仏閣等

島の主要な産業は漁業や海運業。常に危険と隣り合わせの仕事のため、安全祈願の信仰心が島の人々に深く根付いている。

● ぼうぜパーロンフェスタ、大漁旗

毎年8月第1土曜日に開催される。京阪神や関東から、約1,500人が参加する。競漕の最後には、坊勢島の3港対抗戦があり、地元漁師の熱い戦いが繰り広げられる。青い空に舞う大漁旗は豪華で美しい。

● 路地

島内一周道路を外れて路地に入ると島独特の狭い路地があり、島を訪れた人は巨大迷路に迷い込んだような錯覚をするという。また、坊勢島を訪れた人にとっては、新鮮であり、また何処か懐かしい。

● ワカメ、ヒジキの生息地

全国規模の藻場調査(「自然環境保全基礎調査浅海域生態系調査(藻場)」)の調査地。全国129カ所のうちの1つ。藻場は、沿岸域の一次生産を担うばかりでなく、多様な海洋生物に生育や養育、産卵の場を提供している。

61 置塩地区

● 置塩城跡【国指定史跡】

夢前川の東岸、標高370m。本丸・二の丸・三の丸をはじめ幾多の曲輪、石垣、土塁などの城郭遺構が残る。東西約600m、南北約400mにわたって広がる播磨最大級の山城跡。後醍醐赤松氏を再興した赤松政則が築城したと伝える。

● 置塩山法界寺

書写山園教寺の末寺。性空上人の開基と伝わる。享保7年(1722)に薬師堂に改築され、昭和46年に現在地に再建された。本尊は薬師如来、脇侍に日光・月光菩薩を安置し、別に十二神将を祀っている。

● 北野神社

1000年ごろ巨智延昌により創建されたと伝わる。1700年に再建され、菅原道真公が祀られている。境内には、武蔵坊弁慶の母の墓と伝えられる石仏があり、「この墓石を削って飲むと霊驗あらたかなり」との伝承がある。

● 旧城下町・町村

置塩城があった頃、町村は小塩町とよばれ、城下町として栄えていた。その名残りとして横大道筋、武家小路という地名や多くの商店の屋号が残っている。5代城主、赤松則房が戦わずして羽柴秀吉に服し、置塩城は解体された。

● 鞍掛山城跡

宮置バス停の北西から南東にそびえる連山の頂上(標高320m)が城跡である。置塩城の北方と西方を防護するために築かれたもので、頂上には6カ所の城跡がある。

● 三宝山浄安寺

置塩城3代城主赤松晴政が赤松家の菩提寺として建立したと伝える。現本堂は慶応2年(1866)の再建。境内に「永正15年(1518)」銘の宝篋印塔があり、2代目城主赤松義興の供養塔といわれている。

● 清水山窯跡

多数の須恵器や布目瓦の破片が出土し、登窯の一部も発見され窯跡であることが確認された。

● 書写吹石仏

自然の石を彫りくぼめ、中肉彫りをした地藏菩薩半伽像である。この石仏は、かつて夢前川に流出していたところを村人が発見し、ここに祀ったとされ、「掘り上げた地藏」とも呼ばれている。

● 長福山松安寺跡墓石群

松安寺は赤松義祐が菩提寺として創建。建物は昭和50年に倒壊した。五輪塔は石より義祐・晴政・晴政の妹となっている。地藏像は義祐によってつくられたといわれ、優れた像として評価が高い。

● 富田山性海寺

性海寺は壹亀年間に徳道上人が開基したとされる天台宗寺院。歴代置塩城主の信仰が厚く、本尊十一面観音は、高さ1.8mもあり、胎内には赤松政則の持仏が納められているという。本堂前には幹まわり、2.07mのみごとな五葉松がある。

● 番城山城跡

標高217mの山城で、置塩城を守る南の砦として築かれ、山頂から姫路方面を望むことができる。頂上には三カ所の城跡がある。その城跡からは、石垣の一部や瓦片も出土している。

● 櫃倉神社(夢前町宮置)

祭神は豊受姫命、大年大神、若年大神。1340年の創建と伝える。置塩城5代城主赤松則房が天正5年(1577)に羽柴秀吉に服して開城の時、本丸跡にあった守護神は当社と奈田の柏森神社、香寺町恒屋の櫃倉神社の三所に分祀。

● 水室池

天保13年(1842)、姫路城主酒井忠学の時、夢前町玉田、安室六か村の灌がい水源として完成した大池。周囲は約4kmあり、当時としては姫路藩でも屈指の大池であったが、現在は灌がい用としては利用されていない。

62 古知地区

● 天御酒神社

祭神木花咲耶姫。古知の庄、杉之内、塩田、荒神山地区の氏神。寛文2年(1662)の創建と伝えられる。神殿は明治30年の改築で、安産の神として参拝者が多い。秋の大祭は屋台練りが盛大に行われる。

● 一乗山蓮華寺

天台宗、愛宕山麓の東面に建つ本堂は舞台造。本尊の地藏菩薩は石仏で高さ11cm。岩座に腰掛けた半伽像で秘仏とされている。梵鐘は宝暦4年(1754)に鑄造され、太平洋戦争の際に供出されたが、終戦のため返還された。

● 上岡遺跡

昭和52年の農業基盤整備事業に伴う発掘調査で弥生後期の円形竪穴住居跡1棟、奈良時代の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物跡3棟が発見された。また、縄文早期の石織や土器片も多く発見された。古代巨智里の中心地であったと言われている。

● 梅谷遺跡石剣出土地

昭和38年奈田村火葬場整備作業中に発見。弥生期の石造技術を知る貴重なもの。

● 置塩神社

寛延2年(1749)、姫路藩領では厳しい年貢の取り立てに対し、置塩郷の農民たちは滑の甚兵衛を先頭に塩田の利兵衛、又坂の与次右衛門らと共に立ち上がった。この時、処刑された指導者たちを祀るため、昭和29年に創建された。

● 春日山光瑞寺

浄土真宗本願寺派。本尊阿弥陀如来。武田信玄の武将高坂弾正昌信の三男四郎兵衛昌房が龜山本徳寺よりこの地に来て草庵を開いたことに始まるとされる。その子浄念が元和8年(1622)光瑞寺と称した。現本堂は寛政10年(1798)に再建されたもの。

● 柏森神社

祭神は大山津見命。置塩城5代城主赤松則房が中国攻めの羽柴秀吉軍に服して、天正8年(1580)開城。その際、城の守護神の一つ選り祀ったと伝えられている。現社殿は春日造の小社で天正12年に改築されたものである。

● 義民塩田の利兵衛塚

塩田の利兵衛は姫路城主の悪政に苦しむ農民たちの先頭に立って、滑の甚兵衛、又坂の与次右衛門らと共に百姓一揆を起こした。罪を問われて獄門刑に処せられたが、義拳が今なお多くの人々に賞賛されている。

● 義民滑の甚兵衛塚

滑の甚兵衛は、姫路城主の悪政に苦しむ農民たちの先頭に立って、百姓一揆の中心人物として行動した。罪を問われて獄門刑に処せられたが、塩田の利兵衛、又坂の与次右衛門と共にその義拳が今なお多くの人々に賞賛されている。

● 清瀬一郎氏生家

明治17年7月にこの地に誕生。たいへんな勤勉家で京都大学を卒業後イギリスへ留学。その後、法学博士となり、弁護士会長にもなる。1920年より衆議院議員の職に40年余り。その間、文部大臣、衆議院議長として活躍。

● 光専寺

真宗大谷派中谷山光専寺は、天正3年(1575)釋智光師の開基とされ、寛文8年(1668)龜山本徳寺より寺号を付与されたが、同年船場本徳寺に転属した。(平成4年修復工事記念碑より)

● 古知之庄石仏

高さ1.6mの自然石に、蓮台の上に錫杖を持った48cmの地藏菩薩像が刻まれている。室町幕府4代将軍足利義持の頃、相次ぐ飢饉や悪疫の流行により人々が苦しんだ時代につくられたものと思われる。

● 塩田温泉郷

塩田温泉の歴史はとても古く、発見されたのは奈良時代と推定される。湯治場としての歴史も、少なくとも300年近くは遡ることができる。江戸時代の元文期(1736～41年)には湯治に利用されたという記録が残る。

● どんどこが淵壑穴

滝状になった水路にできた大穴。深さは土砂に埋もれ不明。岩にあいた小穴に、不断の流水や小石が流入し長年のかきまぜによって段々大きくなったもの。

● 法恩寺跡墓石群

古知之庄法恩寺は置塩神社南山麓にあったが、昭和40年の水害で流出。残った墓石群の右端に県指定文化財である石造無縫塔がある。背面に「開山塔」、側面に「永和四年(1378)」とある。室町時代の石造美術として貴重な文化財である。

● 山川神社

古知之庄村の南端山裾に自然石の石灯籠がある。そこから参道を50mほど登り、石の鳥居をくぐり、石段を登りつめた所に境内がある。その一段高い所に鞘堂の小社がある。村内の五小社を合祀祀っている。万治2年(1659)建立。

63 前之庄地区

● 神元(かみのもと)神社の大杉

目通り周囲5.6m、樹高42.3mの大樹で、樹齢は約350年と推定され、御神木として崇められている。神元神社は、須佐雄神(すさのおのかみ)、高皇産靈神(たかむすびのかみ)、神皇産靈神(かみむすびのかみ)を祀る。

● 三枝草碑群

南北朝時代の1386年に造られた。高さ1.89m、幅は底辺で50cm、厚さ25cmの石の上部を彫りくぼめ、蓮華座の上に右手に錫杖、左手に宝珠を持った高さ48cmの地藏菩薩立像を中肉彫りにしている。

●浄蓮寺

浄土真宗本願寺派。永正 13 年 (1516) 道円の開基。天和 3 年 (1683) に木仏を下付された。はじめ本願寺派であったが、寛文年中 (1661 ~ 73) に、一時、大谷派に属し、その後、本願寺派に復帰したと伝わる。

●善照寺

真宗大谷派。はじめ天台宗の道場があり、15 世紀中頃に浄土真宗の道場ができたと伝わる。了道の開基。東隣山麓の田畑に代官屋敷と呼ばれている所がある。

●尊念寺

真宗大谷派。「飾磨郡誌」によると、天和 3 年 (1683) 養源の開基。元文 3 年 (1738) 3 世円了が本堂を建立。文政 2 年 (1819) 7 世了源が改築したのが現在の本堂。

●通宝山弥勒寺

圓教寺開基の性空上人が長保 2 年 (1000) に建立した草庵が始まり。現本堂は、天授 6 年 (1380) 赤松義則によって再建。本堂と本堂内の弥勒仏・両脇持仏は国指定文化財。夢前七福神一番札所として、高さ 5 m の布袋が平成 6 年に造立。

●どんどこが淵窪穴 (ふちおうけつ)

高長から流れ出た水が 2m の滝となり、水の力によって長径 8.5m、短径 5.3m の長円形で、深さ約 3m の大穴が二つあいている。「底は岡村の穴淵とつながっている」、「かっぱが棲んでいる」という言い伝えがある。

●東荒木七曲り用水

水不足に悩まされた荒木の人は、奥に新池を造り、七曲りの道に沿って長さ 1km 余りの用水路を造った。新池の水は山腹をほぼ等高線に沿って山の尾や谷を回って流れ、山を越えて北山の貯水池に入り、そこから田へ水を送る。

●ゆめさきの森公園

県の「自然活用型野外 CSR 事業」の 4 番目の公園として平成 15 年に開園。面積は、通宝寺池を中心とした約 180 ha で、農地、集落、ため池、樹林が一体となった昔ながらの里山の公園。ここでは、里山を学び楽しむ活動が行われている。

●要九郎池・フレンデ

油押の大池。昔この池を築く時、要九郎という力自慢の男がいて、池づくりに従事し、大いに力をつくしたという。現在この池の一部を埋め立ててふれあいの館「フレンデ」が建てられている。

●夜泣き地蔵

清水峠の頂上近くにある地蔵さん。ここの湧き水を赤ん坊に飲ませると、夜泣きが治ると伝えられ「夜泣き地蔵」と呼ばれている。いつも新しいお花と水がお供えしており、線香の煙が絶えない。

66 上菅地区

●上上古墳

泉証寺の東の山に、古墳時代後期の古墳がある。直径 15m の横穴式石室だが、南正面の羨道入口が土砂で埋まり、墳丘は崩れてなくなり玄室が上から良く見える。また、近辺には 2・3・4 号と 3 基の横穴式小規模円墳がある。

●岡本太郎作「若い泉」

昭和 49 年 10 月、新しい町作りのシンボルとして製作したアルミ製モニュメント。バースタウン入り口のロータリーに設置している。万博公園の「太陽の塔」とまるで兄弟のように似ている。

●落岩神社

大昔、天から落ちてきた石を神体として祀ったのが当社の始まりで、後に今の地に宮居を建て氏神とした。石が落ちた所には、「石が坪」祠を建てて祀り、「宮の元」と言われた。その地名は、今も残っている。

●護持川・菅生川の蛭

古瀬畑やバースタウン入口を流れる川で、毎年 6 月には、たくさんの蛭が乱舞する美しい光景が見られる。この蛭を見るために訪れる人も多い。

●固守倉 (塚本)

庄屋、富豪、志のある者等の寄付により、米・麦・粉などの穀類を蓄積して凶作や災害等に備えた倉庫。江戸時代、姫路藩により多くの場所に作られたが、現在

●真楽寺

高野山真言宗の末寺で、播州夢前七福神霊場の第三番の札所。大永元年に覚尊上人が創建。入口には馬頭観音を祀る若宮社があり、護摩堂に雪彦山護国寺筆頭鎮護寺本尊大日如来を祀っている。

●菅生川

全長 22.9km、山之内小畑より流れ出て、菅生ダム (明神湖) を経て青山で本流夢前川に合流。菅生川上流では、夏には鮎狩りを楽しむ人たちが賑わい、秋は菅生ダム (明神湖) 周辺で、色とりどりのもみじが紅葉する。

●雪彦山

日本百景並びに日本三彦山の一つである雪彦山は、銚立山 (ほこたてやま) (662m)、洞が岳 (ほらがだけ) (884m)、三辻山 (みつじやま) (915m) の三山を総称したもので、一般的に洞が岳を雪彦山と呼ぶ。

●僧屋敷の滝

昔、この滝の近くに修行小屋があり、いつでも僧や行者の姿が見られたので僧屋敷と呼ばれ、それが滝の名になった。落差 45メートルの滝は雄大で、特に秋の紅葉は絶景である。

●妙見堂石段

大正 12 年 4 月に竣工したもので、5 段に区切られ、全長は 84m で 247 段あり、一番下の石段は長さ 36m で 111 段と最も長い。妙見堂石段の側には雄大な大イチョウがある。

●山之内小学校 (閉校)

学制が公布された翌年の明治 6 年に学塾が創設され、明治 15 年に夢前小学校山之内分校に改称。その後、何度かの改称を経て、昭和 22 年に山之内小学校となったが、平成 22 年 3 月に 134 年の歴史に幕を下ろし、閉校した。

●夢前川

鹿谷中学校区北端の雪彦山にその源を発し全長 39.8km。紀貫之が「現 (うつつ) にはさらにもいはず播磨がた夢前川に流れてもあはん」と詠んだ。上流では、春は河畔での花見、夏は清流での川遊びや鮎狩りを楽しむ人で賑わう。

65 菅生地区

●大歳神社 (寺)

もともと北方の山地にあったが、参拝に不便なので昭和 33 年に現地に転移し新築。祭神は大年神で五穀豊饒祈願の神として信仰されている。明治 44 年に天神社 (寺字前田 祭神菅原道真) を合祀した。

●花山法皇御奥屋鋪跡

花山法皇御休息の地と伝わる。「花山法皇御奥屋鋪」と刻んだ、高さ約 30cm の一石五輪塔がある。

●杵築神社

祭神は、大国主命、野見宿禰、菅原道真など。古くは多気明神と言われ、今は「竹の宮」とも呼ばれている。古くから糞 (こと) 相撲と呼ばれる喧嘩相撲で広く知られ、「荒浪」「一つ石」「岩崎九兵衛」という力士の墓が現存する。

●小坪山古墳

小坪自治会館の東山の比較的緩やかな尾根にあり、小規模の横穴式石室の埋葬施設を持つ円墳で、古墳時代の後期に造られたとされる。現在は、盛り土は崩れ落ち、廓の上壁の石も持ち去られ、玄室の左右と北側の積み石も失われている。

●清水山窯跡・供養碑

右側より多数の須恵器や布目瓦の破片が出土し、登り窯の一部も発見され、窯跡であることが確認されている。左側の小高い所に建立されている供養碑は、正面に「南無妙法蓮華經 日蓮大菩薩」と刻まれている。

●若王子神社

祭神は伊弉册神。慶長年間 (1596 ~ 1615) の建立。現本殿は一間社春造りで建築意匠が優れた社殿として市指定文化財となっている。石の鳥居は昭和 2 年 (1927) の建立、手洗鉢は昭和 3 年に奉納。大杉は市指定天然記念物。

●佐野邸

正徳元年 (1711)、姫路城主榊原氏の新田開発の求めに応じて、この地に移り住んだ佐野玄意正春の住宅。長屋門、母屋、土蔵、庭園などから当時の庄屋クラスの豪農の生活ぶりを今に伝える。市指定文化財。

●新庄のさくら並木

夢前川の上流の新庄地区の畔には、数百本のソメイヨシノが植えられており、満開時には兩岸を覆うように咲き誇り、清流夢前川の川面に映しだされる景観は大変美しい。

●天神社

菅原道真、須佐雄神、大年神が祀られ、近世まで加谷 (鹿谷) 天満宮または前之庄天満宮と呼ばれた。もとは、当社の西にある小天神と言う小山にあった天神山城の守護神として祀られていた。

●万丈寺山鹿寺跡

昭和 47 年、寺の礎石十数個と布目瓦 (ぬのめがわら) が発見され、礎石には自然石に直径 60cm の円形造り出式のものも数個あった。出土の布目瓦は布目も荒い。専門家は、白鳳時代 (645 ~ 709) の鹿寺跡と推定。

●百丈山臨濟寺

南北朝時代の 1379 年、播磨の守護赤松義則に招かれた別峯 (べっぼう) 国師が開山した禅宗臨濟寺派の寺院で、現本堂は姫路城主松平直恒 (なおのり) が延宝 3 年 (1675) に再建したものの。

●松之本道標

「右たじま道、たんご道、なれあい二十四里」と刻んだ道標。ここは書写山から成相山 (なりあいさん) へ向かう旧道の三枝草への三叉路の要地にあたる。移動している道標が多い中、旧来そのままに存在する貴重なもの。

●円山神社

本殿は、三間社流造 (さんげんしゃやなげづくり) で銅板葺、細部手法が特に優れた古建築として、播磨地方の代表的本殿であるといわれる。高欄の宝珠には延宝 2 年 (1674) 甲寅 (きのえとら) 6 月吉日と彫り込んである。

●明神山 (みょうじんさん)

標高 668m の明神山は、古くから「播磨富士」と呼ばれる。頂上からの展望は 360 度遮るものがなく、晴たの日は瀬戸内海が一望でき明石海峡大橋も見える。山麓には、逆さ富士で有名な岩屋池があり神秘的な明神山の姿を写す。

●夢前川

鹿谷中学校区北端の雪彦山にその源を発し全長 39.8km。紀貫之が「現 (うつつ) にはさらにもいはず播磨がた夢前川に流れてもあはん」と詠んだ。上流では、春は河畔での花見、夏は清流での川遊びや鮎狩りを楽しむ人で賑わう。

●夢さき夢のさと農業公園

貸し農園や果樹園、レストランなどの総合施設として平成 4 年にオープンし、平成 6 年にはコテージ村、平成 10 年にはハイキングコースが整備され、レストランでは、地鶏料理や地元産そば粉を使った「夢そば」が好評。

64 山之内地区

●賀野神社

雪彦山の洞が岳の岩峰群を望む山の中腹に鎮座。伝承では応神天皇が社殿を建立して、伊弉諾、伊弉册の二神を祀ったという。境内入口に鋳造製の牛と馬が奉納されており、農業や家畜の守護神として知られた神社である。

●鹿谷山薬上寺 (薬師堂)

和銅年間 (708 ~ 714) 行基菩薩の開基と伝えられ、眼の薬師を祀る民間信仰の霊場として歴史を刻んできた。山門は廃寺となった雪彦山金剛鎮護寺より移築されたもの。

●生福寺

高野山真言宗の末寺で、本尊は地藏菩薩。正保元年 (1644) に僧坊上人が創建。平成 2 年に各諸菩薩を祀っている寺が集まり発足した播州夢前七福神霊場の第四番の札所。

では、ほとんど残っていない。菅野地区では戸倉と塚本に残る。

●泉証寺

真宗大谷派。はじめ天台宗長興寺があったが、文明5年(1473)第10世法円の時浄土真宗に改宗したと伝わる。寛永8年(1631)に現在地に移り、寺号を泉証寺と改めた。

●千体地蔵

県道沿いの堂の中に安置され、板石は、高さ1.1m、幅87cm、厚さ10cm。板石の中央より少し上に、高さ51cmの地藏菩薩像を中肉彫りし、これを囲んで高さ4cm、幅1cmの小さな地藏像が20段に千体刻まれている。市指定文化財。

●二百余神社・狛犬

寛和2年(986)、巨智延昌が多聞寺(本誓寺の前身)の鎮守社として創建。後醍醐天皇が隠岐島より還幸の途中、多聞寺で護摩を修せられ、鎮守社に二百余の神々を合祀し、二百余社と称するようになったという。狛犬は、県指定文化財。

●本誓寺

寛和2年(986)巨智延昌が鍋倉山辺に建立した多聞寺を、後に後醍醐天皇が寺号を瑞雲山護持寺と改め、地名も鍋倉から護持村になったと伝わる。25代住職恵門が寺を真言宗から浄土真宗に改宗し、寺号は瑞雲山本誓寺となる。

●薬師堂(護持)

二百余神社のすぐ西の少し高い所にある。薬師如来と大日如来を祀る。薬師仏は多聞寺(現・本誓寺)に祀られていたものと伝わり、室町時代の作と推定される。この堂は神仏混合の名残。

●龍泉庵

本尊は薬師如来。天保11年(1840)の本条氏伝によると、山の開墾時に石薬師二像を見つけ、庵を建立し安置したとある。庵の東に一石一宇の経塚があり、嘉永7年(1854)と刻まれた大乗妙典塔を建てている。

67 訪野地区

●あざみふれあい喫茶

ふれあいの場づくりをしたいとの思いからボランティアグループによって平成14年に立ち上げられた。あざみ市民センターで毎月第4日曜日に開かれている。スタッフはすべてボランティアで10数名が活動している。

●訪野ひだまり広場(県民交流広場)

地域交流コミュニティづくりを目的として平成19年に立ち上げられて、戸倉公民館で開かれている。地域住民の親睦と教養を高め、さらに健康に留意し、生き甲斐や助け合いの心や誰もが安心して暮らせる地域をつくっていくとするもの。

●圓明寺

天台宗。本尊は薬師如来。天禄元年(970)性空上人の開基と伝わる。現在地より600mほど北東の訪野谷の山上にあったが衰微。のち一心上人が再興し、やがて修験道場となり播磨学院院となった。大正12年に現在地に移築。

●神元神社

第21代雄略天皇の時に創立と伝わる。祭神は伊邪那岐尊・伊邪那美尊・国常立命。川内内神・神元大明神・神元三社大明神とも呼ばれた。随神門は変形の八脚門で、本殿とともに文化元年(1804)の再建。

●若一神社

野畑村の氏神であったが、野畑が神元神社の氏子に合併してから神元神社を奥の宮、若一神社を口の宮と称し神元神社の摂社となった。

●若一神社境内 農村舞台

農村では作物の収穫が天候や災害に左右されることが多く、農業の神の御心を休めるため、氏神の祭礼行事として歌舞・演劇などを行うのに建てられた。一方、当時の農民唯一の娯楽としての役割もこの舞台で果たしたようだ。

●正覚寺

天台宗。本尊は阿弥陀如来。「飾磨郡誌」には、長保4年(1002)性空上人の開基とある。はじめ堂山の山

上にあったが、焼失して平地に移築し、後に現在地に移ったと伝わる。

●菅生ダム

菅生川の上流で明神山の麓にある。昭和40年の水害で菅生川沿いの地域が大きな被害を受けたため、治水事業として昭和49年にダム建設に着工し、昭和53年に完成。新緑や紅葉期の景観が美しい。

●水尾山補陀落寺

性空上人の開基で、上人自ら十一面観音像を彫り、本堂に安置したと伝える天台宗寺院。天禄2年(971)、寺号を補陀落寺と称したという。観音堂は、県指定文化財。水尾山一帯は、県の自然環境保全地区に指定されている。

●四辻道標

道標には「右 ひめじ 左 京道」とある。因幡(鳥取県)美作(岡山県)から大阪、京都に通ずる山街道の一角に旅の安全を祈念して建立したのであろう。道路状況の変化で何時の頃か現在の場所に移されたものと考えられる。

68 中寺地区

●秋祭り

香寺町内の各所では、毎年10月に豊作を祝う秋祭りが一斉に行われ、代々受け継がれてきた伝統行事の数々が神社に奉納される。各地区で屋台が出される。

●愛宕信仰

山上にある凝灰岩の石碑(縦95cm横42cm)に文政元年(1818)7月24日銘が記され、石碑表面の中央上部に地藏菩薩、左下に不動明王、右下に毘沙門天が浮き彫りされている。祭礼は、毎年8月24日に、山上広場で行う。

●荒木の郷

農村総合整備事業として平成13年10月から14年3月にかけて整備された。グランドゴルフ・球技の練習・バーベキュー・ボーイスカウト活動訓練など多種多様に利用されている。

●的部屋

的部屋は、「播磨国風土記」で、5世紀ごろ弓矢などの武器を製作した的部が居住していたと伝わる所である。付近の上境遺跡では、平成3年坪堀調査の際、竪穴式住居跡から焼けた木や、弥生時代中期後葉のかめ、高坏、鉢が発掘された。

●岩部の樽かき

昔、大雨により、市川が氾濫した際、竜のごとき大蛇が大水害から身をもって村を守ったと伝わり、その大蛇に感謝を捧げるため、大蛇祭(大將祭り)として氏神さんに参るようになった。これが現在に続く樽かきの始まりである。

●岩部の渡し

岩部自治会に保存されている明和5年(1768)の「岩部村横渡し由来」によると、享保の中頃(1730年頃)に横渡し用の許可を取ったことが分り、以来馬橋の宿場と渡し場周辺の繁栄が続いてきたと伝わっている。

●大年神社(土師)

向山、高座と遷座の後、現在の場所になった。郷社で13社の末社を持っている。参道の石灯籠で、古い物は、宝暦4年(1754)安政6年(1859)建立の物がある。鳥居からの参道に大年橋(太鼓橋)が掛かっている。

●片山古墳

標高81mの尾根上に築かれた全長約30m、後円部径約20m、後円部の高さ約3mの前方後円墳。築造は6世紀中頃とみられている。昭和48年に県指定史跡となった。

●休養センター香寺荘

JR溝口駅から西へ車で約5分のところにある温泉を備えた宿泊施設である。温泉には「おきなの湯(男湯)」「かぐや姫の湯(女湯)」があり、竹林を望む露天風呂・瓊湯・葉草風呂・遠赤外線サウナなど5種類の湯が楽しめる。

●こうでら健康の森

県で初の、ヴィタパルコースをモデルとした森林内の「健康増進コース」を設置。簡単な運動器具を用い

た体操とランニングによる身体トレーニングを組み合わせた森林スポーツが楽しめる。山間コース2,100m(3,200歩)。

●コスモス祭り、菜の花祭り

集落が中心となりコスモスを育て、コスモス祭りを開催。会場にはフリーマーケットや青空野菜市、手づくりコーナーなどが並び、会場に咲くコスモスは自由に持ち帰ることができる。香寺町内全域で、開催地を毎年変えている。

●珊瑚樹(地域の樹木)

珊瑚樹は、葉の光沢があり、真緑色を呈し、公害にも強く成長も旺盛で広く親しまれている。住民のオアシスとして繁茂することが期待されて、香寺町木として選ばれた(昭和46年6月18日選定)。

●空をかついで

平成2年度の体育大会からクラスで取り組む演技種目を考え、兄弟学級が力を合わせてパトンとなる日本手拭いを定首に括り、横一列に並び隣同士で肩を組み、リーダーの笛の合図と共に、40人41脚で約30mを走る競技。

●太子例祭(お太子さん)

お太子さんは、太子室内で毎年聖徳太子命日、2月22日(近年は、2月第4土曜日)に行われる。近隣の曹洞宗派寺院僧侶による般若心経600巻の転読供養法要を中心に、景品があたる福引等を行う祭りである。

●竹取の郷

小高い丘の上に位置し、約3,000㎡の芝生広場を中心とした公園である。竹取の湯香寺荘が隣接している。

●棚原山

恒屋地区西方にある山で、中央の最高峰は標高401.3mである。棚原山の云われは東の市川水系より観ると山が棚の様に重なり合っていることから付けられたと伝わる。

●棚原山出湧寺跡

香寺町恒屋の西方、棚原山の中腹にある室町時代の寺跡である。山の中腹には、縦幅120m、横幅170mの檜ばやしがあり、これが棚原山出湧寺跡だと伝わる。

●恒屋雅楽

北恒屋に、江戸時代の楽譜が残されていることから、地域の人々によって伝承されてきたことがわかり、現在では、お寺の法要、神社の祭典、落成式、棟上式など多方面にわたり演奏している。市指定無形民俗文化財。

●恒屋城跡(ほか7箇所)

赤松氏の家臣恒屋氏の居城で、長禄2年(1458)頃築かれたという。恒屋城は、前城200m、後城は236mとされ、特に西斜面には長さ6~12mの堅堀が何本も掘られている。堅堀が残る城跡は、山城研究において貴重な史跡である。

●中村温泉城山荘

中村温泉の源泉が発見されたのは、明治19年9月のこと。質の良い鉱泉は、明治28年に開かれたシカゴ万博で世界有数の鉱泉と認定された。昭和6年、温泉旅館が開業され、昭和48年より船津町の小林氏が、経営を引継がれた。

●中村薬師堂

本尊の薬師如来坐像は寄木造で鎌倉中期の作と伝わる。市指定文化財。堂の横に大日如来を乗せた廻国塔や地蔵、聖観音など5基の石造物が立っている。なお、堂宇は、平成13年6月に新築された。

●土師獅子舞

土師大年神社の秋祭り(奉納)されている。祭礼当日は、氏神、大年神社と山王神社で舞い清めた後、集落全戸を廻って荒神祓いを舞う。現在、13種の演目が発承されている。市指定無形民俗文化財。

●櫃倉踊りと播州音頭

8月最後の土曜夜、踊りと呼ばれる播州地方最後の盆踊りが境内で行われる。かつて初盆の家を巡り、庭先で踊った盆踊りが変化し、地域の不安であった水不足の祈願を兼ねて踊られるようになった。北恒屋播州音頭は市指定無形民俗文化財。

●櫃倉神社(香寺町恒屋)

櫃倉神社は応神天皇(仁徳天皇の父)の時代西暦300年代の終わり頃、棚原明神の東方面の参拝口と

して、祠が造られたのが始まりと伝わり、享保15年(1731)に現代地に建立したと言われている。

●平戸つつじ(地域の花)

長崎県平戸で遣唐使以来のつつじと国産種の自然交雑した大葉大輪性のつつじの総称。親しみやすいなど、町民の花としてふさわしいことを理由に香寺町花として選ばれた(昭和50年4月16日選定)。

●溝口廃寺跡

円覚寺境内の南側に、大伽藍があったことをうかがわせる。心礎3m×2mの播磨最大級の塔礎石群がある。奈良時代前期(白鳳期)の瓦も採取され、聖徳太子大塔跡として知られる。昭和49年、県指定史跡となる。

●南恒屋ふれあい農園

農村集落環境の中で、広く都市生活者及び近隣の新興住宅団地の生活者等に、農業の楽しさ・大切さを体験してもらうため、香寺町が開設した小区画の貸農園である。

69 香呂地区

●相坂トンネル

相坂村から谷山新村へ行くには現在のトンネルの南側の山を越える険しい山道しかなく、通行の難所であった。大正10年、トンネルが完成。長さ76mのアーチ型トンネルはレンガで築かれ、町内では数少ない近代化遺産である。

●秋祭り(香寺事務所広場)

香呂地区内の各所では、毎年10月に豊作を祝う秋祭りが一斉に行われ、代々受け継がれてきた伝統行事の数々が神社に奉納される。本宮には各地区の屋台が集合し、勇壮に練るさまは豪快そのもの。

●犬飼伊勢山五輪塔のいわれ

天正元年(1573)正月7日から8日にわたる久畑太郎久芳方の与力近郷78家が犬飼の伊勢山へ押し寄せ、伊勢山忠右衛門重健方の与力近郷103家と刀乱する騒動があったことを示すものと伝わる。

●犬飼川すそまつり

矢田部川、茶川、相坂川の三川交流地点において、大昔より、祠をまつり、毎年7月30日の夜、村人(氏子)による当番制で祭礼をしている。五穀豊穡、家内安全、無病息災と川の神様への感謝をささげ祈るものである。

●犬飼獅子舞(神明神社)

伝承や天明2年(1782)の犬飼村寺社明細帳写し、大鼓の経歴などによると、犬飼獅子舞は天明以前のもので推測される。獅子の舞いは16種、うち歌舞、剣舞、四方舞の3種の舞は、人身御供伝説を偲ぶ神楽と言えられる。

●犬飼人身御供

「播磨鑑」に人身御供の伝説を記し、その中で「犬を飼いし故によりて沢村を改め今に犬飼村と号す」と記載され、犬飼の名の由来とされる。神明神社地内に犬塚、ヒビ塚なるものが現存している。

●犬飼ふれあい朝市直売所

平成17年11月、犬飼公民館広場でオープンした営農組合員による朝市。毎週日曜に営業し、農産物・農産物加工品・山菜類等の販売を通じた村おこしや特産品づくり、健康づくりを目的としている。

●犬塚のいわれ

「播磨鑑」によると、伊勢の御師の伴の犬が大猿に咬みつき殺したことから、この犬を敬い犬塚を立てたとはいえられている。神社入口鳥居の後ろにヒビ塚もある。

●馬すべりの大岩

「播磨鑑」によると、「伊勢山麓に、伊勢大神、神馬にて飛来せられたるにより、馬蹄の跡あり」とありしが、明治30年頃、石切り出したるにより今は無くなり、須加院口へ行く道の山すその大石に馬蹄の跡が刻まれていたと伝わる。

●大護摩供養(香呂薬師堂)

およそ60年前から2月3日に薬師堂に於いて行者(山伏)7~8人を招いて厄除けの大護摩供養を行っている。信徒総代、厄年の者が準備をして、薬師堂内で内護摩供養を行い、前の広場で大護摩(外護摩)を

焚く。

●鬼追い

八徳山八葉寺では、播磨天台六ヶ寺の伝統行事である鬼追いが、1月7日播州路のトップをきって行われる(市指定文化財)。青鬼は不動明王の化身、赤鬼は毘沙門天の化身で、現在用いている鬼の面は元禄時代のもので伝わる。

●金跡寺

寺関係古文書によれば、金跡寺は臨済宗妙心寺派で台番832、寺班八等三級の寺と記されている。金跡寺の始まりは、内陣にある歴代住職の位牌から300年前後の歴史を持つ寺と推測できる。庚申祀りが有名である。

●香寺総合公園スポーツセンター

野球場やテニスコート、剣道場・柔道場・トレーニング室などを完備した武道館などがあるスポーツセンター。芝生広場は各種リクリエーションに利用され、駐車場(約170台収容)も完備されている。

●香寺夏祭り

毎年8月上旬、香寺総合公園スポーツセンター芝生広場において、開催される祭り。やぐらのまわりで、「香寺音頭」や「炭坑節」に合わせて、盆踊りが行われる。花火の打ち上げもある。

●香寺民俗資料館

JR香呂駅から南東に江戸末期の豪商宅を移築した建物は「ひょうご住宅百選」にも選ばれた。館内には元館長の島津彌太郎氏が近畿一円から収集した様々な民具(暮らしの道具や器具)が展示されている。

●香呂の西向き地蔵(道標)

この道標地蔵は凝灰石を使用し、上部に地蔵の坐像を半円彫りにし、下部に「右 いゆわべ左志んまち」と二行の陰刻がある。平成11年7月に香寺町指定文化財に指定された。

●コスモス祭り

集落が中心となりコスモスを育て、コスモス祭りを開催。会場にはフリーマーケットや青空野菜市、手づくりコーナーなどが並び、会場に咲くコスモスは自由に持ち帰ることができる。香寺町内全域で、開催地を毎年変えている。

●珊瑚樹(地域の樹木)

珊瑚樹は、葉の光沢があり、真緑色を呈し、公害にも強く成長も旺盛で広く親しまれている。住民のオアシスとして繁茂することが期待されて、香寺町木として選ばれた(昭和46年6月18日選定)。

●蛇穴神社

祭神は市杵島姫命で、使いの海の生物にちなんだ給馬が多く奉納されている。蛸が袴をつけた給馬は非常にユニークで、明治から大正の頃のもので伝わる。市指定文化財。

●高野神社

段丘末端部に位置し、「播磨国風土記」に書かれた高野の社で「此の野、他野より高し」が納得できる。社殿が焼失して古文書を有しないが、一本造りの神像は鎌倉時代の作ではないかと推察される。

●田野ふれあい直売所

平成15年11月に遊休農地の解消、村おこし、特産品づくりなどを目的に農産物・農産加工品・花・山菜類等を販売している直売所である。

●中屋天満神社

祭神は菅原道真。現本殿・幣殿の建造は石造りの改築芳名板に昭和5年9月とある。本殿、幣殿、拝殿の3棟造りで、拝殿正面左右両側には、外側から明治40年に建立された8段に積み上げられた石灯籠や明治36年に建立された狛犬がある。

●西奥の大樫とゴインさん

矢田部村の西奥に大樫があり、昔から樫(けやき)を切るでゴインさんの祟りがあるといえられている。ゴインは、グヒン(狗賈)が訛ったものと考えられ、天狗信仰のあった西奥の大樫として伝わる。

●西の城山にあった矢田部城跡

城山は後藤屋敷の西方およそ600m、標高250mの山頂にある。後藤行重が興国6年(1345)に築いた砦で、後藤頼康・行重父子は建武中興の前後30年足らずで行重の地を開墾し、行重の名田を自衛するために矢田部城を築いたと伝わる。

●日本玩具博物館

白壁土蔵造りの6棟の建物の中に、日本の郷土玩具、駄菓子屋の玩具、世界150カ国の玩具約8万点が収集され、常設展の他、1号館と6号館の2つの建物で季節ごとに特別展が催されている。

●八徳山八葉寺

天平年間、行基によって開基せられ、平安末期、寂心が七堂伽藍を整備した播磨天台六ヶ寺の一つ。書写山園教寺の性空上人、寂心へ贈られたと伝わる沐浴の湯釜(市指定)、厨子(県指定)など多くの文化財がある。

●羽部神社

羽部神社は従前に羽部社、又は羽部大明神と呼称していたと伝わる。現在は、神社がある宮山、羽部山を取り巻いて遊歩道が巡らされ、香寺総合公園スポーツセンターとともに、市民の憩いの場となっている。

●平戸つつじ(地域の花)

長崎県平戸で遣唐使以来のつつじと国産種の自然交雑した大葉大輪性のつつじの総称。親しみやすいなど、町民の花としてふさわしいことを理由に香寺町花として選ばれた(昭和50年4月16日選定)。

●広瀬北薬師堂

国道312号沿いにあり、広瀬の「おやくさん」として祀られている。ご本尊、薬師如来は右手の薬指は天を指し、左手は手のひらを上に向け薬壺を乗せている。平成15年に数メートル東へ移転し、現在の薬師堂が新築された。

●法花堂二号墳

田野地区から犬飼地区に及び地域の山裾の丘陵地界隈に数基の古墳や横穴式石室が点在している。そのうち2号墳は昭和58年に偶然発見され、甲冑、鉄刀、鉄鍬などの多数の鉄製品が出土している。

●矢田部の後藤屋敷と後藤墓

昭和4年刊行された香呂村史には、後藤屋敷は、矢田部村の中央に、また、後藤墓についても、矢田部村の中央に長さ4間、横4間の塚墓があったと伝えられている。

●矢田部のコトノ著

コトノ著の神事民俗は、青年団の行事として毎年正月3日前後に行われていた。外から妖怪(魔もの)が入らないようにする為だと伝わっていたが、戦争中の食糧事情の悪化と若者の徴兵で中絶し、その後、復活することはなかった。

70 香呂南地区

●秋祭り

香寺町内の各所では、毎年10月に豊作を祝う秋祭りが一斉に行われ、代々受け継がれてきた伝統行事の数々が神社に奉納される。各地区で屋台が出される。

●紙屋敷跡

姫路藩の財政再建のため文政2年(1819)河合寸翁に招かれた宮辻弥次兵衛が紙漉きを行い、藩札や木綿札の製造で寸翁を助けた。近隣の山中に雁皮・楮、三稜が残っているのは、このとき製紙原料として奨励されたため。

●キリシタン燈籠(常福寺)

常福寺に、池泉式の庭園があり、鐘楼燈籠が配置されている。燈籠羊部分が十字架に見立てられるので、キリシタン燈籠と呼ばれている。

●樺の木

田川神社のケヤキは、本殿の裏手に2本あり、大きい方は推定樹齢600年とされ、幹の周囲約6m、背丈はおおよそ30mを越す。ケヤキは雌雄同株、二レ科の落葉樹で、早春に若葉とともに淡い黄緑色の花をつける。

●コスモス祭り、菜の花祭り

集落が中心となりコスモスを育て、コスモス祭りを開催。会場にはフリーマーケットや青空野菜市、手づくりコーナーなどが並び、会場に咲くコスモスは自由に持ち帰ることができる。香寺町内全域で、開催地を毎年変えている。

●珊瑚樹(地域の樹木)

珊瑚樹は、葉の光沢があり、真緑色を呈し、公害にも強く成長も旺盛で広く親しまれている。住民のオアシ

1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで
2 地域夢プランのかたち
取組の類型化
3 地域夢プランのとなえ方
検証と未来へのアプローチ
1) 姫路市地域夢プランの概要
2) 地域資源を活用したまちづくりと展望
3 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
1) 地区ごとの主な地域資源
2) 地域資源の概要
4 地域資源の全リスト
地区からの情報発信
1) 地区ごとの主な地域資源
2) 地域資源の概要

スとして繁茂することが期待されて、香寺町木として選ばれた(昭和46年6月18日選定)。

●親王塚

この塚は後醍醐天皇第三皇子護良親王御子陸良親王の塚と伝えられている。この塚により付近の地を親王塚垣内、略して親王垣内と言ったが、明治以降は新野と改められた。しかし土地の人は今なお「シンノウ」と呼んでいる。

●瑞雲山常福寺

元禄13年(1700)、隠元禪師の弟子実伝が、平安時代に建てられた極楽寺の跡に再興した黄檗宗の寺院。中国風の楼門が美しく、キリシタン灯籠や江戸時代に出土した土製の阿弥陀坐像など貴重な文化財が残っている。

●田川神社

この地区の水田を潤す須加院川をあがめて建立され、式内社として広く信仰を集めてきた。社殿後方には、推定樹齢550年の大ケヤキ(市指定天然記念物)を初め、広い境内には多数の古木が見られる。

●八幡神社(香寺町須加院)

神崎郡誌に「応神天皇の車駕播磨国に神崎郡行幸あせられた時、的部里鎌金山を経て当社鎮座地に御駐蹕の事あり。後人其地に社殿を建て天皇を奉祀した」とある。当初の社殿は現在の神殿の南にあったと推察される。

●播磨極楽寺瓦経塚

常福寺の辺りは、平安時代には播磨極楽寺が繁栄していた。僧神恵によって天養元年(1144)に経塚が築かれており、寛政11年(1799)に経塚遺物として土製阿弥陀如来坐像や土製地藏菩薩坐像などを発掘。国指定重要文化財。

●毘沙門天王堂

「播磨国風土記」に出てくる「石座の神山」で、神の座と信じられた磐座。石仏立像は、御身丈2尺5寸。毘沙門天王堂は、天保15年(1844)、方二尺の堂を建立、明治42年に現在の堂に安置。

●平戸つつじ(地域の花)

長崎県平戸で遣唐使以来のつつじと国産種の自然交雑した大葉大輪性のつつじの総称。親しみやすいなど、町民の花としてふさわしいことを理由に香寺町花として選ばれた(昭和50年4月16日選定)。

●細倉大池

須加院の奥地の山間にあるため池。明治時代の改修記念碑があり、碑文から当時いかに優れた改修工事が行われたかが読み取れる。

●磨崖題目碑

仁豊野用水完成の寛文元年(1661)から20年ほど後の天和元年(1681)に、日蓮没後400年を記念して作られたといわれ、天曆2年(1752)に整備。

●宮ノ前古墳

常福寺に隣接する八幡神社の東方丘陵に、東向きで開口している。横穴式石室で、墳丘は残されていないが、香寺町内に存在する横穴式石室としては最大規模のものである。

●蓮香翁寿碑

蓮香(鷲野慧通)は田野で寺子屋を開き、遠近から学ぶ者400人を数えたと伝わる。その功績を称え、地藏堂の境内に門弟が還暦の祝いに立てた。

71 安富南地区

●あじさい公園

安富地域推奨の花、あじさいがたくさん植えられており、6月中旬から美しい花が咲き梅雨空を華やかに彩る。公園内の池にはシュレーゲルアオガエルやモリアオガエルが生息している。

●安志加茂神社

京都賀茂別雷神社(上賀茂神社)の狂園、安志庄の総社として建立された神社で、境内には安志稲荷、新池の中に弁天堂を祀る。境内の杉の大木が落雷を受けて下さるため、加茂の氏子には雷が落ちないといわれている。

●安志藩陣屋跡遺跡等

享保2年(1717)豊前中津より安志に移封された小笠原氏は現安富中学校の所に陣屋を構えた。その表門は長野の真光寺の山門として、また大手門は姫路市実法寺の齋神社の山門として現存している。

●安志姫神社

「播磨国風土記」の、安師の里の地名起源説話にある「安師比売(アノシメ)神」を祀る。安師比売は、大和の穴師座兵主神と同系の神と思われ、比売が伊弉の大神に対抗できたのは、大和の力が背景にあったためかと思われる。

●お万の滝

国道29号沿いの塩野と狭戸の境に小さな滝があります。塩野の美貌の娘「お万」が狭戸赴任中の若い武士と恋に落ちたが結ばれず、世をはかなんだ娘はこの淵に身を投げ短い一生を終えたと伝わっている。

●開善寺廃寺

旧藩主小笠原氏の氏寺で、稲垣子華や安志藩家老等の墓がある。小笠原氏の先祖で、信濃国守護であった貞宗が信州飯田に建立した開善寺は現在も立派な寺として残っている。

●鐘架け松禪寺跡

塩野の西から川戸峠に連なる峰の山頂に廃寺跡があり、山頂の平坦部には今でも礎石が整然と残っている。秀吉の中国地方平定時に焼き打ちされたと伝わるが、この寺の鐘を架けた松の大木が昭和23年まで残っていた。

●原種農場

正式な名称は兵庫県立農林水産技術総合センター。稲や麦などの主要農作物の原種の保存、生産、配布、調査、研究等をしている。

●今念寺五重石塔(県指定文化財)

今念寺にある凝灰岩製石塔。相輪を欠いており、現存部の高さは1.91mで鎌倉時代の作とされている。銘のある石造層塔としては県下最古で背面に「弘安三年(1280)庚辰二月日願主沙弥成仏」と刻む。県指定文化財。

●昭和の水害の碑

昭和13年7月の豪雨で永久橋を守ろうとした瀬川の人が三坂川に流れ尊い犠牲となった。また、同24年9月にも三坂、瀬川、狭戸に集中豪雨があり三坂川が氾濫し山崩れ100箇所以上の大災害があった。

●天神のムクの木(県指定天然記念物)

天満神社の根回り約10.5m、樹高18.6m樹齢約600年といわれるこのムクの木は、老木の風格を備え、見事に整った樹形は県下有数の巨木として価値が高いもの。県指定天然記念物。

●林田川の桜並木と菜の花

林田川の堤防沿いに植えられた約200本の桜並木と、土手を埋め尽くすように咲く弘法大師ゆかりの花は4月上旬が見頃。春の暖かい日差しの中で満開となり、花見を楽しむ多くの人々が賑わう。

●原田帰鳥塚句碑

安政4年(1857)俳句同好会恩恵社中が建立。礎石には若くして去った帰鳥を悼んだ漢詩が刻まれている。この句碑は、かつて原田家所有の山にあったが、後に現在地の植木野墓地に移されたそう。

●藩主小笠原氏の墓碑

安志藩主小笠原氏の2代長達、5代長武は安志で没したので、菩提寺法性寺墓地に埋葬されている。元の墓所が中国道にかかったため少し移転している。

●弁慶の投げた大岩

平安末期書写山にいた弁慶が植木野に立ち寄った時、村人の願いで向山で邪魔になっていた大岩を大石原に投げたとの伝説がある。大岩は周囲が8m、高さ2mで、持ち上げた時の弁慶の指の跡が残っているという。

●木造不動明王立像他絵画2幅

【国指定重要文化財】本尊不動明王立像は平安時代末期の檜一木造りで、承安元年(1171)に旧安志藩主小笠原氏の遠祖の加賀美遠光が高倉天皇から拝領。小野篁作と伝わる。小笠原氏の祈願所であった光久寺本堂は平成21年に焼失した。国指定重要文化財。

●山崎断層系暮坂峠断層

三坂、植木野、塩野を山崎断層系の暮坂峠断層が通

ている。三坂峠には断層が擦れ合った筋が水平に付いている。昭和59年のM5.6の山崎地震の震源は植木野だった。

●山崎断層系安富断層

山崎断層は安富地域を横断している。三森から安志を走っている中国自動車道は安富断層上を通過していることになる。京都大学等が長期にわたって地殻変動の観測を継続中。安志西峠にはその破砕帯が覗いている。

●六角古墳

7世紀半ばに造られたと思われる対角長約7mの小規模の六角形の古墳。平成3年の発掘で日本で初めて墳丘が六角形であることが確認された。当時一帯を支配していた豪族山部三馬かその一族が被葬者ではないかといわれている。県指定史跡。

72 安富北地区

●大落しの岩場

関のカニワ溪谷の入口にあり、鋭くそそり立つ岩壁はシカやイノシシなどの獣でも寄せ付けられないほどの険しさがあることから、この名が付けられた。景観には定評があるが、特に、秋の紅葉時の景観は評価が高い。

●大かつらの木

関の東カニワ溪谷の巨岩・大小の岩石・土砂で埋まった谷沿いにあり、上方と下方(間隔約40m)にほぼ同じ大きさの木が2本生えている。巨通り直径で9.5～9.8mある。岩石の土地に似合わず、順調に生育を続けている。

●奥播磨ふるさとかかしの里

関の生活エリアに、山村の情景に合った「かかし」が随所に配置されており、訪れる人々に癒しと和みを与えている。このかかしを観るために近畿一円から人々が訪れるようになり、地域の活性化にも大きく貢献している。

●グリーンステーション鹿ヶ壺

食堂・大広間・バーベキュー棟などが利用できる鹿ヶ壺山荘。周辺にコテージ・オートキャンプ場をはじめ、キャンプ場・観光的広場がある。また、近くには醤油蔵を移築したふれあいの館があり、コンサート・展示ルームとして利用できる。

●鹿ヶ壺

県指定の名勝で、溪谷の岩床が長い歳月を経てできた罅穴が十数個連なる。「鹿ヶ壺」の名称は、最上流の罅穴が鹿の寝姿に似ていることから由来する。水深が深いものには「底なし壺」等、いずれの罅穴にも名称がつけられている。

●末広のアンモナイトとフズリナ

昭和28年の林道工事の際、アンモナイト(外殻)が発見された。京都大学の調査では、アンモナイトは発見されず、フズリナ化石が新たに発見された。この辺りが海底から隆起して形成されたことを証明する貴重な歴史の証人となっている。

●関の万灯

安富町関に古くから伝わる万灯は、平素、山から採ってきた「こえ松」を細断し、長めに切った竹の先に束にして括り付け、予め川堤に作っておいた棚に立てて点火するものであるが、万灯の数も多く、その夜景が神秘的、且つ壮麗である。

●千畳平

「千畳平」の名のとおり、山(雪彦山)の中腹(標高約600m)に開けた平坦地で、遠くまで見渡せ、四季折々の景色が楽しめる。また、雪彦山へのハイキングコース内にあり、鹿ヶ壺・三ヶ谷の滝への遊歩道も整備されている。

●千年家(旧古井家住宅)

【国指定重要文化財】室町末期築と推定される、入母屋造り、茅葺き屋根の農家。神戸の箱木家住宅と共に、最古の中世農家建築と認められている。床下には亀石という大きな岩が、厄除けとして祀られている。国指定重要文化財。

●柗原天満神社の社叢

常緑広葉樹に被われた社叢は、植物生態学上一次林の残存林として評価されている。スダシイ・榊・アラカシ等で高木層を形成しているが、スダシイが優先する林田川最上流域のシイ林で、西播磨域では数少ない典型的なシイ林である。

●富栖鉱山並びに周辺景観

市内唯一の本格的な金鉱採掘鉱山で、掘削延長は約16km超。現在は休鉱し、坑道は閉鎖中だが、発生するラドンを利用した日本唯一の免疫ホルミンス坑道がある。モリアオガエル、オオルリなどの生息もみられ、自然豊かな環境が残る。

●三ヶ谷の滝

谷川沿いの遊歩道を登ると正面に見えてくる落差約20mの滝。横に長く切り立った岩盤に白く水が流れ落ちる様は優美で、訪れる人に一時の安らぎを与えている。また、滝の中ほどには、雨乞いをしたといわれる不動明王が祀られている。

●水尾神社の社叢

厩元元年建立、17世紀再建の水尾神社の社叢には、県指定天然記念物の大スギをはじめ、アラカン・アサダ等の大木が自生しており、ヒメボタル・ヒメハルゼミも生息し、接続する水尾公園にも貴重な水生生物が水棲するなど自然の宝庫である。

●皆河薬師堂

薬師堂には薬師如来坐像の他に、焼失した裏山の寺院跡から掘り出されたと伝えられ、拳相記にも「安志ノ掘出ノ毘沙門」と記述がある30 餘余の仏像が祀られている。また、近くの善照寺には見る人を魅了する「正福寺桜」がある。

●矢倉神社の社叢

皆河の矢倉神社には、西播地域では珍しいツクバネガシガ林を形成している。社叢としてはアラカン・榎・樺などの常緑広葉樹が優占し、ケヤキ・イロハモミジなどの落葉樹を交える照葉樹林で形成している貴重な自然遺産でもある。

●安富ダム

昭和61年に完成した重力式コンクリートダムで、堤体の高さ約50m、長さ約145m、総貯水量295万m³の規模を持つ、洪水調節を主目的としたダム。周囲を山で囲まれ、湖面も美しく、四季折々の修景を楽しみながら外周を散策できる。

●湯ノ山

皆河早柏地区の林田川対岸に湯ノ山という地名がある。横約3m、縦約2mの石積みみの池があり、いつも清水をたたえている。この水は昔から諸病に効く薬湯と言われ、近くの住民が入浴用に汲んで帰ったことから地名を湯ノ山と言うようになった。

地域資源情報(概要・所在地・写真など)は、
「姫路わが街ガイド」ホームページからも知ることができます。

「姫路わが街ガイド」ホームページURL

■ パソコンからの場合

<http://www2.wagamachi-guide.com/himeji/>

■ 携帯電話・スマートフォンからの場合

<http://wagmap.jp/himeji/>

あるいはQRコードから



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の概要

3 地域夢プランのとらえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源情報

姫路市地域夢プラン大全集

～夢つづく 未来への路みちガイド～

平成25年(2013年)3月

発行・編集／姫路市

〒670-8501 兵庫県姫路市安田四丁目1番地

TEL (079)221-2111(代表)

URL <http://www.city.himeji.lg.jp>